外部から本機にアクセスする機能についてのご注意

外部から本機にアクセスする機能をお使いになる場合には、ネットワーク上の意図せぬ第三者からアクセスされる可能性がありますので、管理者設定メニューの「パスワード」ページですべてのパスワードを設定してください。

© 2013 Sony Corporation

SONY

4-260-400-**01** (1)

ビデオ コミュニケーション システム

取扱説明書（バージョン 2.7）

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

IPELA

PCS-G50

MEMORY STICK ™

© 2005 Sony Corporation

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

11 ～ 14 ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

長期間、安全にお使いいただくために、定期点検をすることをおすすめします。
点検の内容や費用については、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

・煙が出たら
・異常な音、においがしたら
・内部に水、異物が入ったら
・製品を落としたりキャビネットを破損したときは

↓

❶ 電源を切る。
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ 買い上げ店またはソニーのサービス窓口に連絡する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



目次

警告 11
注意 12
電池についての安全上のご注意 14
本機の性能を維持するために 14

1章　設置と準備

この取扱説明書の使いかた 15
本機の特長 16
システムの構成 19
　基本システムを構成する機器 19
　別売り機器の一覧 21
システムの構成例 24
　構成例（LAN 接続） 24
　構成例（ISDN 接続） 25
　構成例－多地点会議システム（LAN 接続） 26
　構成例－多地点会議システム（ISDN 接続） 27
　構成例－多地点会議システム（LAN と ISDN 接続） 28
　構成例－多地点データ会議システム（LAN 接続） 29
　構成例－多地点データ会議システム（ISDN 接続） 30
　構成例－多地点データ会議システム（LAN と ISDN 接続） 31
　構成例（エコーキャンセリングマイクを使用した接続） 33
システムの接続 34
　接続例（LAN 接続） 35
　接続例（ISDN 接続） 36
　カメラユニット PCSA-CG70 を三脚に取り付ける 37
システムの準備 38
　受光ユニットを取り付ける 38
　リモコンに乾電池を入れる 39
　モニター用テレビの電源をコミュニケーションターミナルと連動させる 42
電源を入れる / 切る 43
　電源を入れる 43
　スタンバイモードについて 45
　システム（ビデオコミュニケーションシステム）をスタンバイ状態にする 45

電源を切る 47
モニター用テレビの音量を調節する 47
ヘルプを表示する 48
コミュニケーションターミナルのバージョンとオプションを表示する ...48
設置直後の設定－初期設定ウィザード 49
メニューの基本操作 53
メニューを操作する 53
メニューの基本構成 55
文字や数字を入力する 58

2章　登録と設定 － 管理者用

システムを設定する 61
設定メニュー（管理者用）を表示する 61
発信設定メニュー 63
着信設定メニュー 64
通信モード設定メニュー 65
ステータス表示 69
音声設定メニュー 71
映像設定メニュー 73
一般設定メニュー 74
管理者用設定メニュー 80
LAN 設定メニュー 87
ISDN 設定メニュー 92
機器情報 94
暗号化設定メニュー 95
SIP 設定メニュー 96
共有アドレス帳設定メニュー 97
会議の相手を登録する－アドレス帳 98
新しい相手を登録する 98
アドレス帳を修正する 101
アドレス帳の設定をコピーする 101
登録した相手を削除する 102
プライベートアドレス帳を作成する 102
共有アドレス帳を使用する 105

ネットワーク構成ごとの設定方法 107
LAN（DHCP を介しての接続）..... 107
LAN（ルーターを介しての接続）..... 108
LAN（ゲートキーパーを介しての接続）..... 109
LAN（NAT 環境での接続）..... 110
LAN（H.460 を使用したファイアウォール越えでの接続）..... 111
LAN（PPPoE による接続）..... 113
ISDN による接続 115

3 章　日常の会議

自分側から会議を始める 116
電源を入れる 116
ランチャーメニューの見かた 118
相手を呼び出す 122
相手から会議に呼び出される 133
相手から呼び出される 133
会議を終了する 135
音声を調節する 136
受信音量を調節する 136
音声の送信を一時的にカットする－マイクミュート機能 136
着信時の音声の送信をカットする－着信時マイクオフ 137
送信する映像と音声の時間差を調整する－リップシンク機能 137
エコーを軽減する－エコーキャンセラー 138
カメラを調節する 140
操作するカメラを決める 140
アングルとズームを調節する 141
フォーカスと画像の明るさを調整する 143
アングルとズームの設定をプリセット登録する 145
プリセットしたアングルとズームの設定を呼び出す 147
カメラ映像を静止画にして送信する 149
静止画メニューから送信する 149
通信中サブメニューから送信する 150
相手側から静止画を受信する 152
映像と音声を切り換える 153
相手側と自分側の映像を切り換える 153

入力される映像を切り換える 153
モニターに表示される映像を切り換える 155
相手側に送る音声を切り換える 156
通信中に回線の状況を確認する 156
自分側の映像を子画面に表示する－ピクチャーインピクチャー 157

4章　いろいろな機器を使った会議

“メモリースティック”の静止画を会議に使う 159
“メモリースティック”の静止画を表示する 159
“メモリースティック”の静止画を送信する 162
“メモリースティック”をフォーマットする 163
“メモリースティック”についてのご注意 165
外部機器の映像を静止画にして送信する 168
ドキュメントスタンドからの映像を静止画として送信する－オブジェクト送信 168
外部カメラや外部機器からの映像を静止画として送信する 169
静止画を“メモリースティック”に保存する 172
静止画メニューから保存する 172
メモリースティックメニューから保存する 173
通信中サブメニューから保存する 174
通信中に使える便利なメニュー－通信中サブメニュー 176
会議をストリーミング配信する 178
会議をレコーディングする 180
複数のモニターを使う 183
モニターを 2 台使う－デュアルモニター 183
モニターを 3 台使う－トリプルモニター 187
複数のマイクを使う 191
コミュニケーショントランスデューサー（CTE）を使う 193
エコーキャンセリングマイクを使う 195
セカンドカメラを使う 199
会議の音声を録音する 200
外部映像機器からの映像・音声を会議に使う 201
音声のみの会議をする－ボイスミーティング 202
トーン信号で相手のシステムを制御する－ DTMF の送信 203

NetMeeting を使ってデータ会議をする－ T.120 データ会議 204
外部から本機にアクセスする 207
Web ブラウザを使用する 207
Telnet を使用する 207
ネットワークカメラと接続する 208
ネットワークカメラとの接続方法 209

5章　データソリューションボックスを使ったデータ会議

データソリューションボックスへの接続例 215
コミュニケーショントランスデューサー CTE-600
（現在は販売されていません。）を接続する 217
接続機器の映像・音声を会議に使う 218
会議前の設定 218
会議中の操作 218
モニターやプロジェクターに映像を出力する 224
モニター 1 台だけに出力するとき 224
2 台のモニターに出力するとき 225
3台のモニターに出力するとき 225

6章　ホワイトボードを使った会議

ホワイトボードの接続例 228
mimio Xi を取り付ける 229
ホワイトボードを使った会議をする 230

7章　暗号化会議

暗号化会議の準備 235
暗号化会議を始める 237

8章　多地点会議

多地点会議の接続例 240
LAN 接続の場合（最大 6 地点） 240
LAN カスケード接続の場合（最大 10 地点） 241
ISDN 接続の場合 242

LAN と ISDN 両方の場合 244
LAN カスケードと ISDN 接続の場合 245
MCU ソフトウェアをインストールする 246
MCU ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認するには 247
多地点会議の設定をする 248
通信設定メニュー 248
多地点会議の相手をマルチポイント接続リストに登録する 249
多地点会議を始める 253
相手を呼び出す 253
相手から呼び出しを受ける 258
画面制御を行う 259
放送モードの種類 259
放送モードと画面表示 261
放送モードを切り換える 262
サブモニターに表示される映像を切り換える 263
他の端末から送信要求を受ける 264
多地点会議を終了する 265
二次端末の取り扱い 267
外部 MCU と接続する 268
議長制御をする 268
マルチポイントの属性表 271

9章　SIPを使った会議

SIP を使った会議をするための接続例 274
2 地点間の接続例 274
多地点会議の接続例 275
SIP を使った会議の準備 277
SIP ソフトウェアをインストールする 277
SIP の設定をする 279
会議の相手をアドレス帳に登録する 281
SIP を使った会議を始める 282
相手を呼び出す 282
相手から呼び出される 285
通話を保留する 285

通話を転送する 287
会議を終了する 289

10 章 Web 機能

Web ページへのアクセス方法 291
認証ページの入力方法 292
機能ボタンの選択 294
[Controller] ページの使用方法 296
Controller 画面 296
Commander 画面 297
[Dial/Disconnect] ページの使用方法 298
2 地点間の会議の場合 298
多地点会議の場合 299
[Phone Book] ページの使用方法 300
Phone Book 編集画面 301
Phone Book 新規登録画面 302
[Setup] ページの使用方法 303
Send Message 画面 305
Reset 画面 306
[Info] ページの使用方法 307
Cause Code 一覧画面 308
Call Log 画面 309
[Monitor] ページの使用方法 310
[Streaming] ページの使用方法 311

付録

各部の名称と働き 313
コミュニケーションターミナル PCS-PG50 313
カメラユニット PCSA-CG70 315
リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70 316
ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り） 319
ISDN ユニット PCSA-B768S（別売り） 320
ISDN ユニット PCSA-PRI（日本国内では発売されていません。） 321
データソリューションボックス PCSA-DSB1S（別売り） 322

目次

インジケーター一覧 323
メッセージ一覧 326
故障かな？ 339
仕様 344
　コミュニケーションターミナル PCS-PG50 344
　カメラユニット PCSA-CG70 346
　マイクロホン PCS-A1 346
　リモコン PCSA-RG1 346
　リモコン PCS-RG70 346
　AC アダプター VGP-AC19V45 346
　AC アダプター VGP-AC19V15 347
　マイクロホン PCSA-A3（別売り） 347
　マイクロホン PCSA-A7P4（別売り） 347
　ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り） 348
　ISDN ユニット PCSA-B768S（別売り） 348
　ISDN ユニット PCSA-PRI（日本国内では発売されていません。） 348
　データソリューションボックス PCSA-DSB1S（別売り） 348
　H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（別売り） 349
　H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（別売り） 349
　RGB 入出力仕様 351
　端子のピン配列 353
　別売り機器の端子のピン配列 356
　PCS-PG50 使用ポート番号一覧 357
ミーティングスペースのレイアウト 360
CCD 特有の現象 361
保証書とアフターサービス 362
　保証書 362
　アフターサービス 362
用語解説 362
メニューの構成 367

“IPELA”および IPELA は、ソニー株式会社の商標です。

⚠警告





下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

AC 電源コードや DC 電源接続コードを傷つけない



AC 電源コードや DC 電源接続コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

- コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、コードが傷んだら、ソニーのサービス窓口に交換をご依頼ください。

雨のあたる場所や、油煙、湯気、ほこりの多い場所には置かない



火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意

下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

不安定な場所に設置しない


禁止

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

通気孔をふさがない


禁止

通気孔をふさぐと、本機内部に熱がこもり、発煙、発火などが起こり、やけどの原因になることがあります。

接続の際は電源を切る


注意

電源を入れたままで電源コードや接続ケーブルを接続すると、感電や故障の原因になることがあります。

付属の AC アダプターや電源コード、接続コードを使う


指示

付属の AC アダプターや電源コード、接続コードを使わないと、感電や故障の原因になることがあります。

付属の AC アダプターは指定された製品以外には使用しない


禁止

指定された製品以外に使用すると、故障の原因になることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない


ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

ぬれた手で AC アダプターにさわらない


ぬれ手禁止

感電の原因となることがあります。

分解や改造をしない


分解禁止

火災や感電、けがの原因となることがあります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご依頼ください。

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く


プラグをコンセントから抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させるときは電源コード、接続コードを抜く


指示

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

⚠注意

下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

直射日光に当たる場所、熱器具の近くには置かない



変形したり、故障したりするだけでなく、レンズの特性により火災の原因となります。特に窓際に置くときなどはご注意ください。

内部に水や異物を入れない



水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください

電源コードや接続ケーブルに足を引っかけない



電源コードや接続ケーブルは、足に引っかけると本機の落下や転倒などによりけがの原因となることがあります。
十分注意して接続・配置してください。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

・火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
・充電しない。
・指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

・＋と－の向きを正しく入れる。
・電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。
・新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

本機を廃棄する場合は、内蔵の電池を小型化学廃棄物として処理する必要がありますので、ソニーのサービス窓口にご相談ください。

本機の性能を維持するために

取り扱い上のご注意

使用・保管場所

次のような場所での使用および保管は避けてください。
・極端に寒いところや暑いところ。
・湿気、ほこりの多いところ。
・激しく振動するところ。
・強い磁気を発生するものの近く。
・強力な電波を発生する機器やラジオの送信所の近く。
・雑音が多いところ。

お手入れ

キャビネットやパネルの汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふきとってください。
汚れがひどいときは、中性洗剤溶液を少し含ませた布で汚れをふきとり、乾いた布で仕上げてください。アルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤など、揮発性のものをかけると、変質したり塗装がはげたりすることがあります。

レーザービームについてのご注意

レーザービームは CCD 撮像素子に損傷を与えることがあります。レーザービームを使用した撮影環境では、CCD 撮像素子表面にレーザービームが照射されないように充分注意してください。

1 章
設置と準備

この取扱説明書の使いかた

各章には以下の内容を記載しています。必要に応じてお読みください。

1 章　設置と準備

システムの構成や接続、設置のしかたをはじめ、電源の入れかたやメニューの基本操作など、はじめてお使いになる前に必要な情報を記載しています。システムの全体を把握するためにお読みください。

2 章　登録と設定－管理者用

本機のメニューを使った登録や設定をすべて説明しています。システムを管理する方がお読みください。

3 章　日常の会議

日常の会議をするための基本的な操作や設定を記載しています。この章を読むだけで、会議を始めるところから終わるところまでがわかります。会議を行う方がお読みください。

4章　いろいろな機器を使った会議

別売りの機器やレコーディングなどの機能を使った様々な会議のしかたを紹介しています。

5 章　データソリューションボックスを使ったデータ会議

別売りのデータソリューションボックスを使い、コンピューターなど外部機器のデータを会議に使う方法を説明しています。

6 章　ホワイトボードを使った会議

別売りの mimio Xi* を使って、ホワイトボードの内容を送受信して会議に使用する方法を説明しています。

* mimio Xi® は米国 Virtual Ink Corporation の登録商標です。
mimio Xi は Virtual Ink Corporation の商標です。

7 章　暗号化会議

映像、音声、データソリューションボックスに接続したコンピューターのデータを暗号化して会議を行う方法を説明しています。

8 章　多地点会議

多地点での同時会議の開催のしかたを説明しています。
本機を多地点会議装置として使うときは、別売りの MCU ソフトウェアが必要です。

9 章　SIP を使った会議

SIP を使用し、IP 電話などと接続した会議を行う方法を説明しています。
SIP による会議を行うには、別売りの SIP ソフトウェアが必要です。

10 章　Web 機能

Web 経由で本機の操作、設定をする方法を説明しています。

付録

システムの各機器の各部の名称やメッセージ一覧、故障かな？、主な仕様、用語集などを記載しています。困ったときにお読みください。

本機の特長

ビデオコミュニケーションシステム PCS-G50 は、離れたところにいるグループを LAN（ローカルエリアネットワーク）や ISDN（デジタル公衆通信網）で結び、映像と音声を送受信することにより、相手側と同席しているかのように会議ができるテレビ会議システムです。

世界標準方式を採用

WTSC（世界電気通信標準化会議）が定めた ITU-T 勧告に準拠、日本国内だけでなく、海外とも簡単に接続することができます。

データ会議に対応

別売りのデータソリューションボックス PCSA-DSB1S を使用することにより、コンピューターのデータを会議に使ったり、プロジェクターで会議の様子やデータを表示できます。

高速、高画質の送受信が可能

LAN の使用帯域は、最大 4096 Kbps まで対応しています。また、ISDN 回線の場合、別売りの ISDN ユニット PCSA-B384S を使うと最大で ISDN3 回線、6B チャンネル、PCSA-B768S を使うと、最大で ISDN6 回線、12B チャンネル（PRI を使うと最大で 1 回線、23B チャンネル（T1/J1）30B チャンネル（E1））の使用が可能です。

幅広い映像圧縮方式・音声圧縮方式に対応

映像圧縮方式は、H.264、H.263 4CIF、H.263、H.261、MPEG4、インターレース SIF（H.264/H.263）方式に対応、音声圧縮方式 は、MPEG4 Audio、G.722.1、G.722、G.729、G.728、G723.1、G.711 方式に対応しています。

ネットワークの状態に応じて最適化できる QoS（Quality of Service）機能搭載

パケット再送要求機能、最適レート制御機能および前方誤り訂正機能を搭載。ネットワークの状況に応じてこれらの機能をハイブリッドに使用し、常に高品質な通信を確保できます。

簡単設定・簡単操作

モニター画面に操作案内用のヘルプメニューが表示されます。また、会議の出席者が日常的に使うメニューは、管理者が設定するメニューと分けて表示されます。
UPnP (Universal Plug and Play) に対応しており、NAT 設定を自動で行うことができます。

多地点会議に対応

別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（LAN 用）、H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（ISDN 用）をインストールすると、多地点間でのテレビ会議を行うことができます。
PCSA-M3G50 と PCSA-M0G50 を両方インストールすると、LAN と ISDN 接続が混在した多地点会議も可能です。

メモリースティックスロットを装備

コミュニケーションターミナルにはメモリースティックスロットを装備しているため、デジタルスチルカメラなどで撮影した静止画を簡単に会議に使用することができます。

会議のレコーディング

会議の映像と音声を“メモリースティック”にレコーディングし、会議後にコンピューターで見ることができます。

会議のストリーミング

会議の映像と音声をストリーミングできます。これにより、会議に参加していない人でも、コンピューターを使って Web 上で会議を見ることができます。
映像と音声を配信するか、音声のみを配信するかを選べます。

トリプルモニターシステム

モニターを３台使用すると、相手側の映像、自分側の映像、コンピューターからの画像やホワイトボードの画像など、さまざまな組合せで同時に表示させることができます。

暗号化会議に対応

本機は、ITU-T で規定された H.233、H.234、H.235 に準拠した標準暗号化方式と、独自の暗号化方式に対応しており、機密性の高い会議を行うことが可能です。
LAN 接続であれば、多地点間でも、カスケード接続の場合でも暗号化会議が可能です。標準方式の場合は、ISDN 接続でも、LAN と ISDN が混在している接続でも暗号化会議が可能です。

エコーキャンセリングマイク

別売りのマイクロホン PCSA-A7 は、高音質で、マイクをカスケード接続しても音質劣化がありません。PCSA-A7 は、ひとつのポートに 40 個までカスケード接続できます。

SIP 対応

別売りの SIP ソフトウェア PCSA-SP1 をインストールすると、IP 電話などの端末と SIP（Session Initiation Protocol）を使った会議ができます。SIP ソフトウェアとともに別売りの MCU ソフトウェアをインストールすれば、多地点会議ができます。

ネットワークカメラとの接続が可能

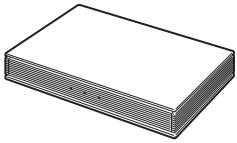
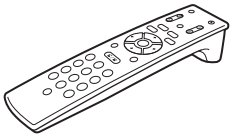
本機では、ネットワーク上にあるソニー製ネットワークカメラとの接続が行えます。これらのネットワークカメラと接続することで、本機からネットワークカメラの映像を見たり、本機とネットワークカメラで音声を送受信したりできます。IP、ISDN など種別の異なる接続が混在した多地点会議でも使用できます。

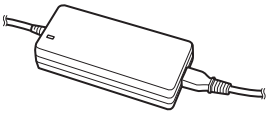
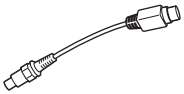
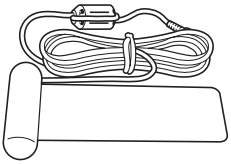
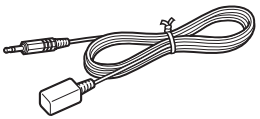
システムの構成

PCS-G50 は、テレビ会議をするために必要な基本システムと、より充実した会議を行うための別売り機器で構成されます。

基本システムを構成する機器

ビデオコミュニケーションシステム PCS-G50 は、PCS-G50 テレビ会議システムの中心をなす基本システムです。ビデオコミュニケーションシステム PCS-G50 は以下の機器で構成されています。

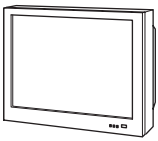
機器	説明
コミュニケーションターミナル PCS-PG50 	映像、音声信号を処理して送受信するコーデック部、音声のエコーをカットするエコーキャンセラーおよび通信回線とのインターフェース部、システム制御部からなります。
カメラユニット PCSA-CG70 	会議を撮影するカメラです。
リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70 	コミュニケーションターミナルとカメラを操作します。 **ご注意** イラストは PCSA-RG1 です。PCS-RG70 をご使用の場合、PCSA-RG1 と同じ名称のボタンについては従来同様の操作が可能です。

機器	説明
AC アダプター VGP-AC19V45 または VGP-AC19V15 	コミュニケーションターミナルに電源を供給します。
マイクロホン PCS-A1 	どの方向からの音でも拾える無指向性のマイクです。静かな部屋での会議におすすめします。
映像変換コード 	ミニ DIN7 ピン端子とピン端子を変換するためのコードです。
IR リピーター 	モニター用テレビの電源をコミュニケーションターミナルと連動させます。
受光ユニット 	コミュニケーションターミナルに接続し、リモコンの信号を受信します。 受信はカメラユニットでもできますが、受光ユニットを接続するとこちらが優先されます。

別売り機器の一覧

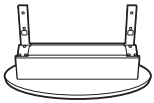
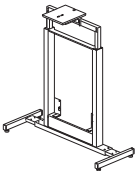
テレビ

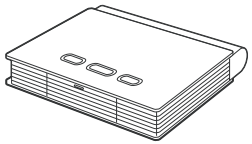
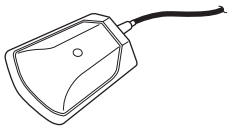
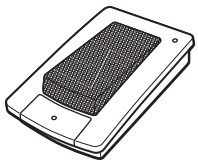
会議を行うには、映像モニター用のテレビが必要です。

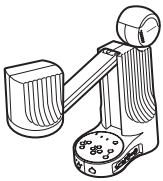
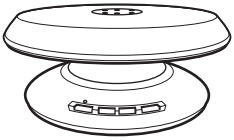
機器	説明
映像モニター用テレビ、プロジェクターなど 	映像モニター、スピーカーとして使用します。

専用別売り機器

会議を充実させるために、以下の別売り機器が用意されています。

機器	説明
スタンド PCSA-STMG70 	コミュニケーションターミナルを立てて設置できるスタンドです。
カメラスタンド PCSA-STCG70 	カメラユニット用のスタンドです。
カメラスタンド PCSA-STG50 	薄型モニター使用時、コミュニケーションターミナルとカメラユニットを設置できるスタンドです。

機器	説明
ISDN ユニット PCSA-B384S 	ISDN 回線に接続します。最大 3 回線、6B チャンネルでの接続が可能です。
ISDN ユニット PCSA-B768S 	ISDN 回線に接続します。最大 6 回線、12B チャンネルでの接続が可能です。
ISDN ユニット PCSA-PRI 	PRI 回線インターフェースで ISDN 回線に接続できます。 (日本国内では発売されていません。)
データソリューションボックス PCSA-DSB1S 	コンピューターやプロジェクターを接続して、データ会議ができます。
マイクロホン PCSA-A3 	指向性のマイクです。 マイクに向き合った人の音声だけを拾いたい場合におすすめします。
マイクロホン PCSA-A7 	狭指向性のマイクです。 エコーキャンセラーを内蔵しており、高音質です。また、音質劣化なしに多数のマイクをカスケード接続できます。マイクを多数使用する場合におすすめします。

機器	説明
ドキュメントスタンド PCS-DS150 	書画用カメラです。赤外線映像伝送機能を使って、撮影した画像をコミュニケーションターミナルにワイヤレスで送信することができます。 (現在は販売されていません。)
コミュニケーション トランスデューサー CTE-600 	マイクとスピーカーが一体化されたユニットです。 話している人の方位を自動的に検出してマイクを選択するため、雑音の少ない明瞭な音声が集音できます。また、全方位スピーカーの搭載により、鮮明な音声を均等に伝えることができます。 (現在は販売されていません。)
H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50	LAN を使って多地点会議をするためのソフトウェアです。
H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50	ISDN 回線を使って多地点会議をするためのソフトウェアです。
SIP ソフトウェア PCSA-SP1	SIP を使った会議をするためのソフトウェアです。

システムの構成例

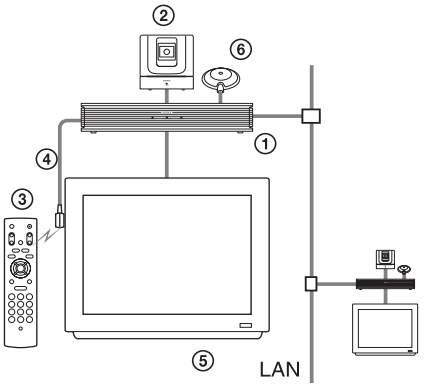
PCS-G50 テレビ会議システムは、基本システムと別売り機器の組み合わせにより、さまざまなシステムを構成できます。ここでは、代表的な例をあげて、システムの構成に必要な機器とそのシステムでどんなことができるかを説明します。

構成例（LAN 接続）

このシステムでできること

- LAN を介した 2 地点間のテレビ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。

システム構成図



① コミュニケーションターミナル PCS-PG50
② カメラユニット PCSA-CG70
③ リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70
④ 受光ユニット
⑤ モニター用テレビ（別売り）
⑥ マイクロホン PCS-A1

（この図は、PCSA-RG1 を使用した構成例です。）

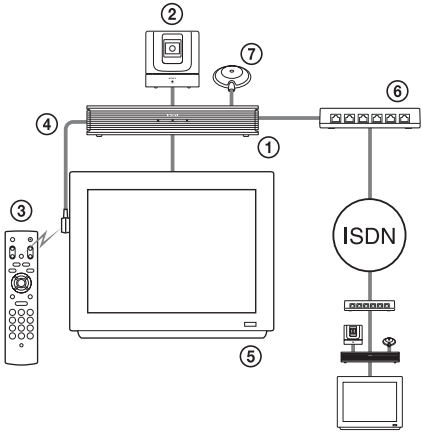
構成例（ISDN 接続）

ISDN 回線に接続するには、専用別売り機器の ISDN ユニット PCSA-B384S、PCSA-B768S または PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）が必要です。

このシステムでできること

- ISDN 回線を介した 2 地点間のテレビ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。
- PCSA-B384S 使用時は ISDN 回線を最大 3 回線、PCSA-B768S 使用時は最大 6 回線、PCSA-PRI 使用時は 1 回線で接続して高速・高画質の会議ができます。

システム構成図



① コミュニケーションターミナル PCS-PG50
② カメラユニット PCSA-CG70
③ リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70
④ 受光ユニット
⑤ モニター用テレビ（別売り）
⑥ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）、PCSA-B768S（別売り）または PCSA-PRI（別売り）
⑦ マイクロホン PCS-A1

（この図は、PCSA-RG1、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

ISDN の回線数と B チャンネルについて

本機は、PCSA-B384S を介して最大 3 回線（6B チャンネル）、PCSA-B768S を介して最大 6 回線（12B チャンネル）、PCSA-PRI を介して 1 回線（23B チャンネル（T1/J1）、30B チャンネル（E1））の ISDN 回線を使用することができます。同一の通信に使うチャンネル数が多い程、高速・高画質の通信ができます。

ご注意

ISDN ユニットのポートは、番号が若い順に使用してください。
○：1、2、3 ・・・
×：1、5、2 ・・・

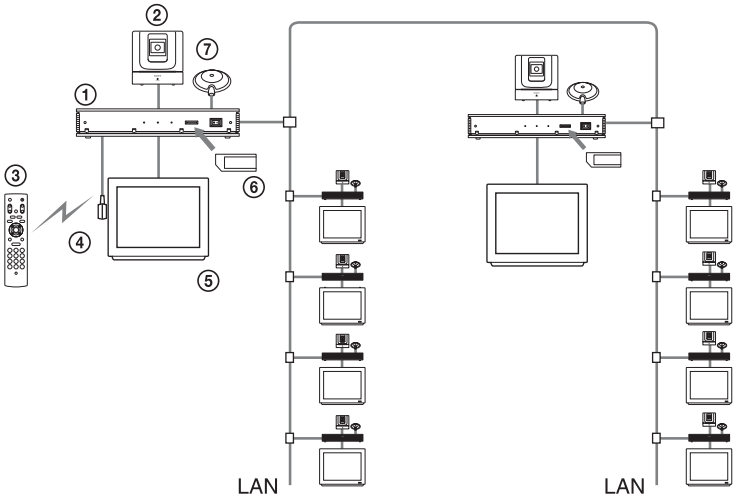
構成例ー多地点会議システム（LAN 接続）

別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 が必要です。

このシステムでできること

- LAN を介した最大 10 地点間のテレビ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。
- 2 台目のモニターやプロジェクターに静止画を表示できます。
- 外部マイクを最大 2 本接続して多人数の発言を拾うことができます。

システム構成図



① コミュニケーションターミナル PCS-PG50
② カメラユニット PCSA-CG70
③ リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70
④ 受光ユニット
⑤ モニター用テレビ（別売り）
⑥ H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（別売り）
⑦ マイクロホン PCS-A1

（この図は、PCSA-RG1 を使用した構成例です。）

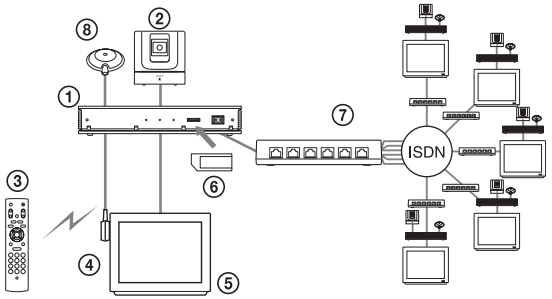
構成例ー多地点会議システム（ISDN 接続）

専用別売り機器の ISDN ユニット PCSA-B384S、PCSA-B768S または PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）と別売りの H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50 が必要です。

このシステムでできること

- ISDN 回線を介した最大 6 地点間のテレビ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。
- 2 台目のモニターやプロジェクターに静止画を表示できます。
- 外部マイクを最大 2 本接続して多人数の発言を拾うことができます。

システム構成図



① コミュニケーションターミナル PCS-PG50

② カメラユニット PCSA-CG70

③ リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70

④ 受光ユニット

⑤ モニター用テレビ（別売り）

⑥ H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（別売り）

⑦ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）、PCSA-B768S（別売り）または PCSA-PRI（別売り）

⑧ マイクロホン PCS-A1

（この図は、PCSA-RG1、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

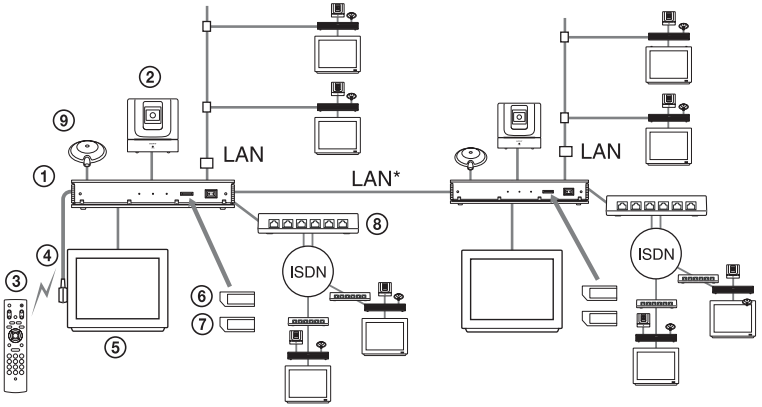
構成例ー多地点会議システム（LAN と ISDN 接続）

別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 と H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50 を本機にインストールすることにより、LAN および ISDN 回線が混在した多地点会議が可能です。MCU ソフトウェアをインストールした 2 台のコミュニケーションターミナルは LAN を介して接続します。

このシステムでできること

- LAN および ISDN 回線を介した最大 10 地点間のテレビ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。
- 2 台目のモニターやプロジェクターに静止画を表示できます。
- 外部マイクを最大 2 本接続して多人数の発言を拾うことができます。

システム構成図



① コミュニケーションターミナル PCS-PG50
② カメラユニット PCSA-CG70
③ リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70
④ 受光ユニット
⑤ モニター用テレビ（別売り）
⑥ H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（別売り）
⑦ H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（別売り）
⑧ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）、PCSA-B768S（別売り）または PCSA-PRI（別売り）
⑨ マイクロホン PCS-A1

＊ MCU ソフトウェアをインストールした 2 台のコミュニケーションターミナルは必ず LAN を介して接続してください。

（この図は、PCSA-RG1、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

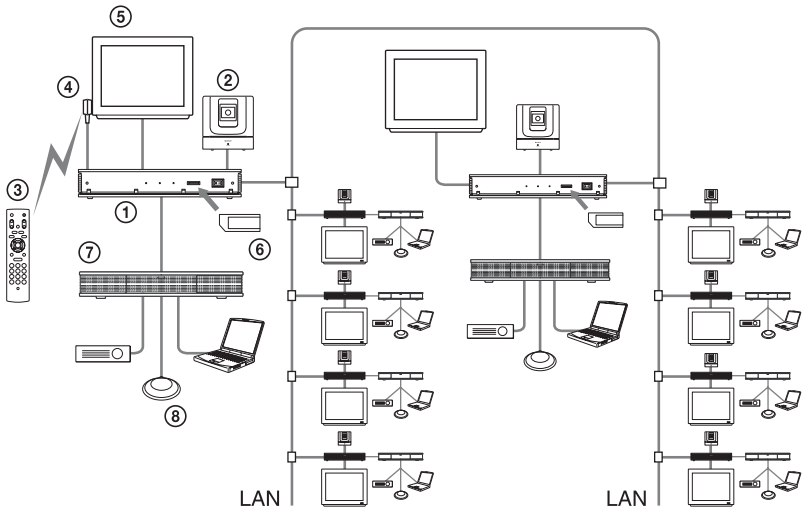
構成例－多地点データ会議システム（LAN 接続）

専用別売り機器のデータソリューションボックス PCSA-DSB1S と別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 が必要です。

このシステムでできること

- LAN を介した最大 10 地点間のテレビ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。
- コンピューターや外部機器のデータを会議に使用できます。
- 2 台目のモニターやプロジェクターなどのディスプレイ機器に静止画やコンピューターのデータを表示できます。
- データソリューションボックスに外部マイクを最大 5 本接続して、多人数の発言を拾うことができます。

システム構成図



① コミュニケーションターミナル PCS-PG50
② カメラユニット PCSA-CG70
③ リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70
④ 受光ユニット
⑤ モニター用テレビ（別売り）
⑥ H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（別売り）
⑦ データソリューションボックス PCSA-DSB1S（別売り）
⑧ マイクロホン PCS-A1

（この図は、PCSA-RG1 を使用した構成例です。）

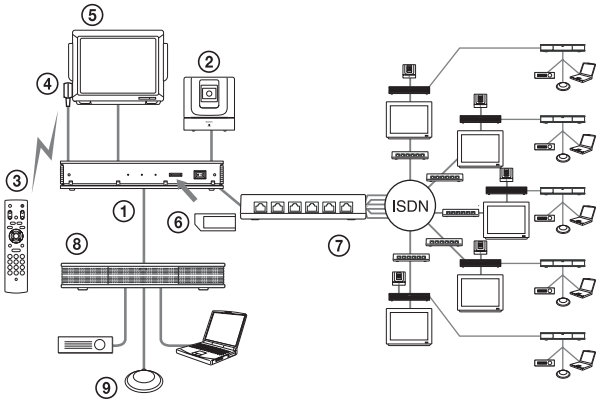
構成例ー多地点データ会議システム（ISDN 接続）

専用別売り機器の ISDN ユニット PCSA-B384S、PCSA-B768S、または PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）、データソリューションボックス PCSA-DSB1S と別売りの H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50 が必要です。

このシステムでできること

- ISDN 回線を介した最大 6 地点間のテレビ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。
- コンピューターや外部機器のデータを会議に使用できます。
- 2 台目のモニターやプロジェクターなどのディスプレイ機器に静止画やコンピューターのデータを表示できます。
- データソリューションボックスに外部マイクを最大 5 本接続して、多人数の発言を拾うことができます。

システム構成図



① コミュニケーションターミナル PCS-PG50

② カメラユニット PCSA-CG70

③ リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70

④ 受光ユニット

⑤ モニター用テレビ（別売り）

⑥ H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（別売り）

⑦ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）、PCSA-B768S（別売り）または PCSA-PRI（別売り）

⑧ データソリューションボックス PCSA-DSB1S（別売り）

⑨ マイクロホン PCS-A1

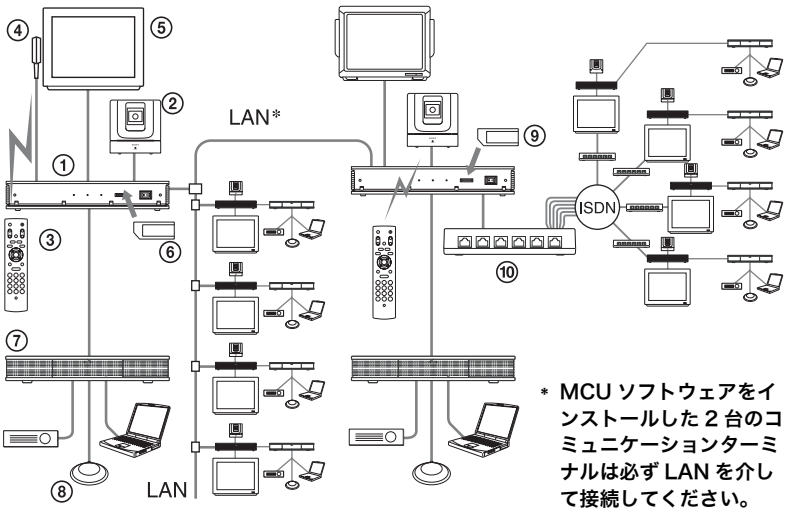
（この図は、PCSA-RG1、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

構成例ー多地点データ会議システム（LAN と ISDN 接続）

別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 と H.320 MCU ソフトウェア PCS-M0G50 を本機にインストールし、別売りのデータソリューションボックス PCSA-DSB1S と別売りの ISDN ユニット PCSA-B384S、PCSA-B768S または PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）を使用することにより、LAN および ISDN 回線が混在した多地点データ会議が可能です。MCU ソフトウェアをインストールした 2 台のコミュニケーションターミナルは LAN を介して接続します。

このシステムでできること

- LAN および ISDN 回線を介した最大 10 地点間のテレビ会議ができます。
- “メモリースティック”に入れた静止画を会議に使用できます。
- コンピューターや外部機器のデータを会議に使用できます。
- 2 台目のモニターやプロジェクターなどのディスプレイ機器に静止画やコンピューターのデータを表示できます。
- データソリューションボックスに外部マイクを最大 5 本接続して、多人数の発言を拾うことができます。



* MCU ソフトウェアをインストールした 2 台のコミュニケーションターミナルは必ず LAN を介して接続してください。

（この図は、PCSA-RG1、PCSA-B768S を使用した構成例です。）

① コミュニケーションターミナル PCS-PG50

② カメラユニット PCSA-CG70

③ リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70

④ 受光ユニット

⑤ モニター用テレビ（別売り）

⑥ H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（別売り）

⑦ データソリューションボックス PCSA-DSB1S（別売り）

⑧ マイクロホン PCS-A1

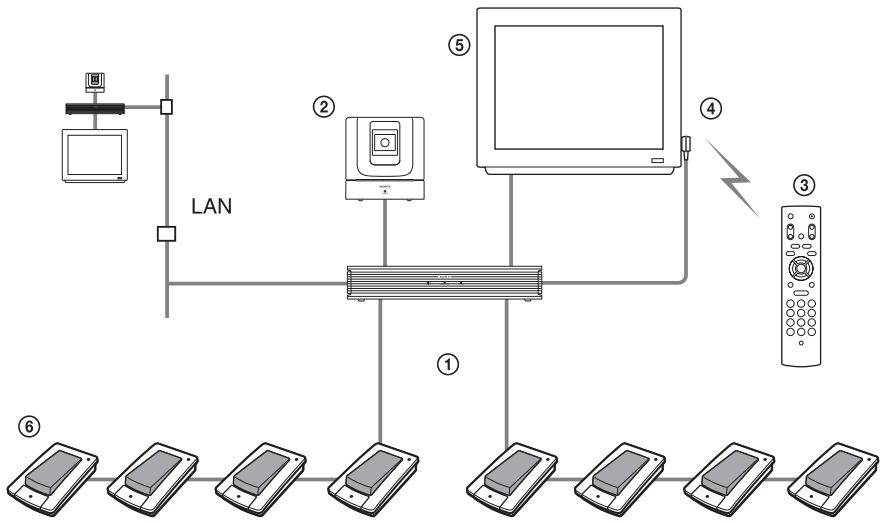
⑨ H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（別売り）

⑩ ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）、PCSA-B768S（別売り）または PCSA-PRI（別売り）

構成例（エコーキャンセリングマイクを使用した接続）

このシステムでできること

- マイクロホン PCSA-A7 は、1 つの EC-MIC 端子に 40 個までカスケード接続できます。高音質で、多数接続しても音質劣化がないので、多人数での会議に対応できます。
- 会議中にマイクを追加できます。



① コミュニケーションターミナル PCS-PG50
② カメラユニット PCSA-CG70
③ リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70
④ 受光ユニット
⑤ モニター用テレビ（別売り）
⑥ マイクロホン PCSA-A7（PCSA-A7P4：4個パック、別売り）

（この図は、PCSA-RG1 を使用した構成例です。）

ご注意

- 参加者とマイクの間隔が 50 cm 程度になるように設置してください。
- スピーカーを使用する場合は、マイクの前方に設置しないでください。

◆エコーキャンセリングマイクについては「エコーキャンセリングマイクを使う」（195 ページ）をご覧ください。

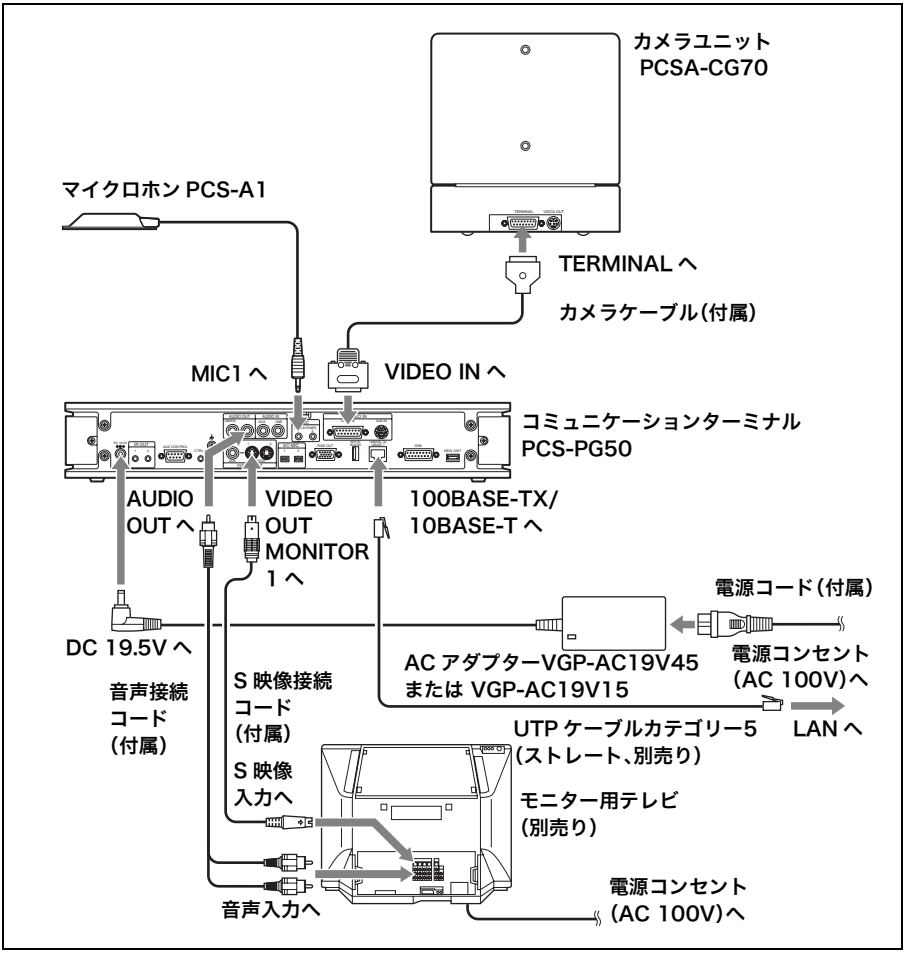
システムの接続

ここでは、代表的なシステムの接続のしかたを説明します。

⚠注意

- 接続するときは、必ず各機器の電源を切ってから行ってください。
- カメラユニットやコミュニケーションターミナル、ISDN ユニットが壊れますので、電源を入れたままカメラケーブルやインターフェースケーブルを抜き差ししないでください。
- 安全のために、100BASE-TX/10BASE-T 端子を過電圧が加わるおそれのあるネットワークなどに接続しないでください。
- ISDN ユニットを初めてコミュニケーションターミナルに接続して使用するとき、コミュニケーションターミナルが自動的に ISDN ユニットのソフトウェアをバージョンアップすることがあります。画面にバージョンアップ中のメッセージが表示されている間は故障の原因となりますので、絶対に電源を切らないでください。

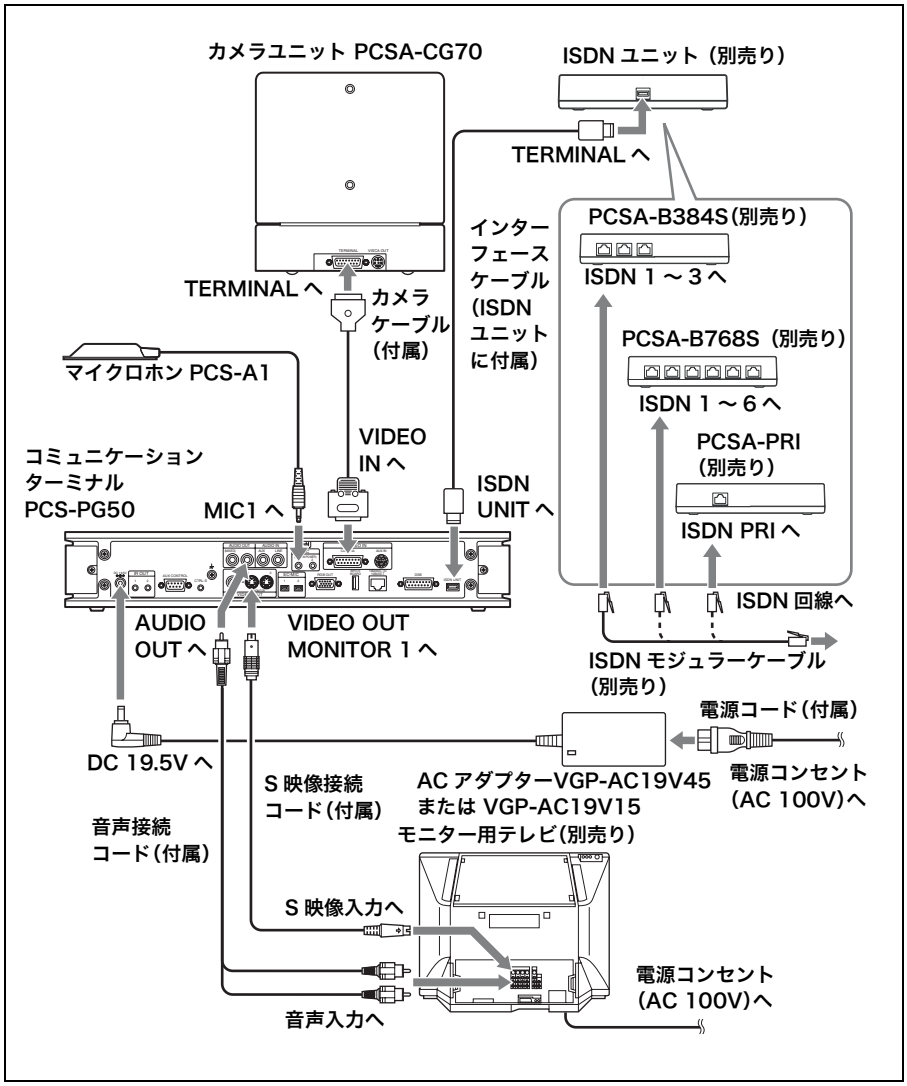
接続例（LAN 接続）



ご注意

- **AUDIO OUT(MIXED)端子は、議事録として会議の音声を録音するときなどに使用します。通常の会議では使用しません。**
- モニター用テレビは、コミュニケーションターミナルの RGB OUT 端子、またはデータソリューションボックスの RGB OUT 端子にも接続することができます。

接続例（ISDN 接続）


カメラユニット PCSA-CG70
ISDN ユニット（別売り）
TERMINAL へ
インター
フェース
ケーブル
(ISDN
ユニット
に付属)
PCSA-B384S(別売り)
ISDN 1 ～ 3 へ
TERMINAL へ
カメラ
ケーブル
(付属)
PCSA-B768S（別売り）
ISDN 1 ～ 6 へ
マイクロホン PCS-A1
VIDEO
IN へ
PCSA-PRI
(別売り)
コミュニケーション
ターミナル
PCS-PG50
MIC1 へ
ISDN
UNIT へ
ISDN PRI へ
ISDN 回線へ
AUDIO
OUT へ
VIDEO OUT
MONITOR 1 へ
ISDN モジュラーケーブル
(別売り)
電源コード(付属)
DC 19.5V へ
S 映像接続
コード(付属)
AC アダプターVGP-AC19V45
または VGP-AC19V15
電源コンセント
(AC 100V)へ
音声接続
コード(付属)
モニター用テレビ(別売り)
S 映像入力へ
電源コンセント
(AC 100V)へ
音声入力へ

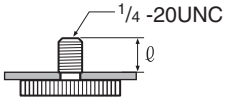
ご注意

- **AUDIO OUT(MIXED)端子は、議事録として会議の音声を録音するときなどに使用します。通常の会議では使用しません。**
- モニター用テレビは、コミュニケーションターミナルの RGB OUT 端子、またはデータソリューションボックスの RGB OUT 端子にも接続することができます。

カメラユニット PCSA-CG70 を三脚に取り付ける

三脚に取り付けるには

底面の三脚取り付け用ネジ穴に三脚を取り付けます。
三脚は、段差のない平面に取り付け、手でしっかり締め付けてください。
三脚取り付け用のネジは、次の規格のものを使用してください。



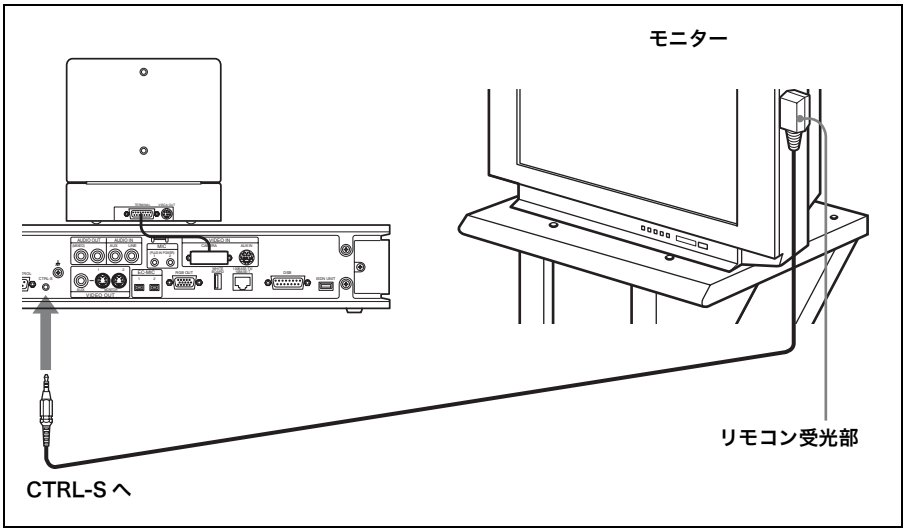
ℓ = 4.5 ～ 6 mm
ℓ = 0.18 ～ 0.24 インチ

システムの準備

受光ユニットを取り付ける

このテレビ会議システムのほとんどの操作は、付属のリモコンを使って行うことができます。リモコンを使うには、リモコンを付属の受光ユニットまたはカメラユニットのリモコン受光部に向けて操作します。受光ユニットは、コミュニケーションターミナルの CTRL-S 端子に接続します。受光ユニットは、付属の固定テープ(面ファスナー)でモニターなどに固定することができます。

◆カメラユニットの接続のしかたは、「システムの接続」(34 ページ)をご覧ください。



ご注意

- 受光ユニットのリモコン受光部には、R マークがついています。このリモコン受光部が布などで覆われないようご注意ください。
- テレビ会議室でインバータータイプや明るさ調整機能付きの蛍光灯を使用していると、リモコンの感度が低下することがあります。リモコンで正しく操作できないときは、受光ユニットのリモコン受光部に付属のフィルターを取り付けるか、受光ユニットの位置を変えて蛍光灯の光が直接当たらないようにしてください。

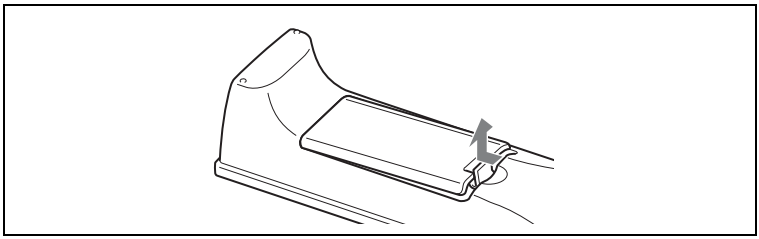
- 受光ユニットとカメラユニットの受光部は、同時に使用することはできません。受光ユニットを接続している場合は、カメラユニットの受光部は無効になります。
- 受光ユニットを使用しない場合は、接続したカメラにリモコンを向けて操作してください。

リモコンに乾電池を入れる

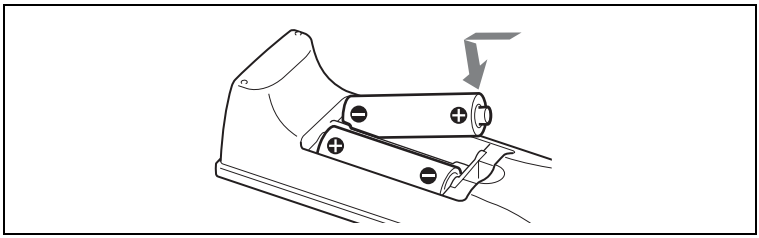
ビデオコミュニケーションシステムでは、会議の操作のほとんどを付属のリモコンで行います。ここでは、リモコンへの電池の入れかたを説明します。

PCSA-RG1

1 電池ぶたを取りはずす。



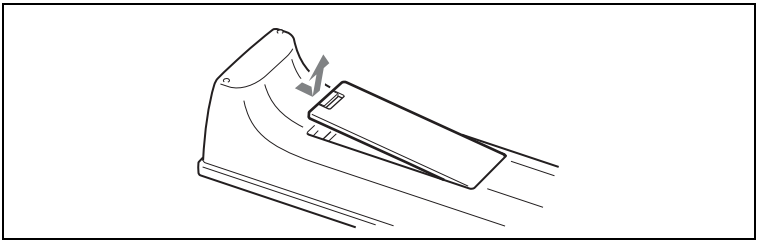
2 単3形乾電池（付属）を2本、⊕ ⊖ の向きを正しく入れる。



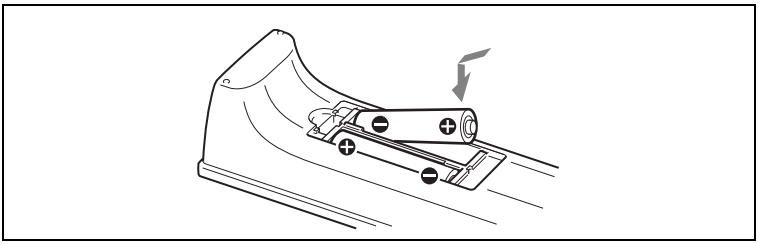
3 電池ぶたを取り付ける。

PCS-RG70

1 電池ぶたを取りはずす。



2 単 4 形乾電池（付属）を 2 本、⊕ ⊖ の向きを正しく入れる。



3 電池ぶたを取り付ける。

⚠注意

リモコンに乾電池を入れるときは、⊖ 極側から入れてください。⊕ 極側から乱暴に入れようとすると、乾電池の絶縁被膜が破れてショートすることがあります。

⚠注意

乾電池の寿命

リモコンで操作ができなくなったら、乾電池の寿命です。2 本とも新しい乾電池と交換してください。

⚠注意

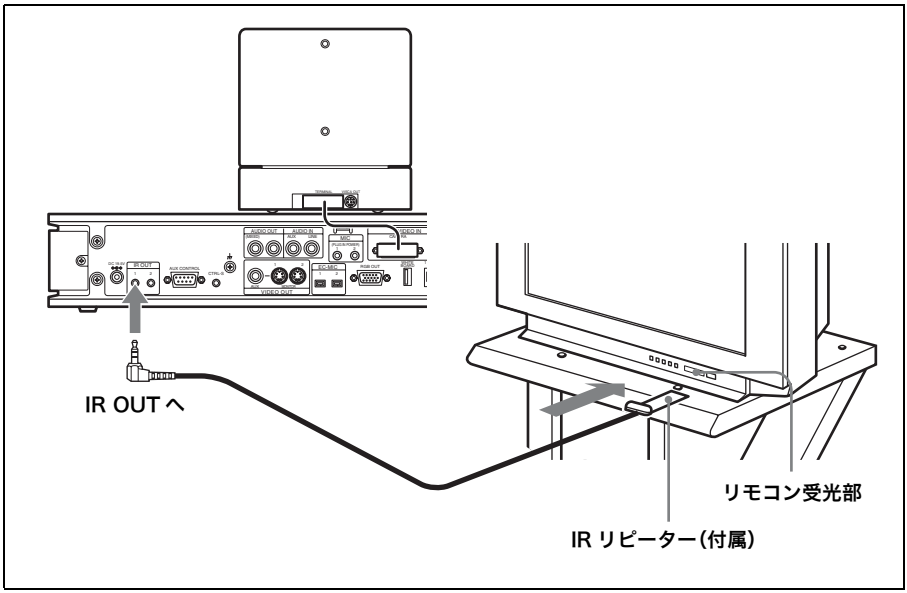
乾電池についてのご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破裂のおそれがあります。次のことは必ずお守りください。

- ⊕ と ⊖ の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 長い間乾電池を使わないときは、取り出しておいてください。
- 液もれが起こったときは、電池入れについた液をよく拭きとってから新しい乾電池を入れてください。

モニター用テレビの電源をコミュニケーションターミナルと連動させる

ソニー製のモニター用テレビをご使用の場合、付属の IR リピーターをモニター用テレビのリモコン受光部の下に設置してください。本機に付属のリモコンの I/⏻ ボタンを押したとき、コミュニケーションターミナルの電源と連動してモニター用テレビの電源も入またはスタンバイになります。



ご注意

I/⏻ ボタンを押してもモニター用テレビの電源が入らないときは、一般設定メニューの「IR リピーターモード」の設定を変更してみてください。

◆「IR リピーターモード」の設定については、「一般設定メニュー」(76 ページ)をご覧ください。

電源を入れる / 切る

ここでは、コミュニケーションターミナルの電源を入れる手順や切る手順など、電源に関する説明をします。

電源を入れる

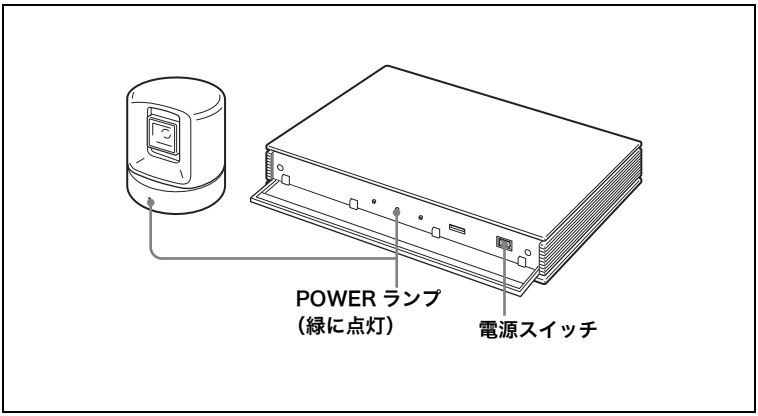
コミュニケーションターミナルの電源を入れる手順は以下のとおりです。

1 モニター用テレビの電源を入れる。

ソニー製モニター用テレビのリモコン受光部に IR リピーターを設置している場合は、モニター用テレビをスタンバイ状態にします。（コミュニケーションターミナルの電源を入れると、モニター用テレビの電源が入ります。）

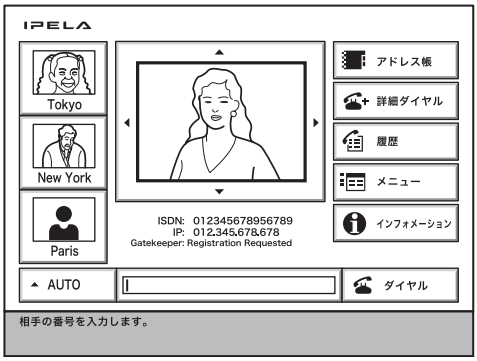
2 会議で使用するその他の機器の電源を入れる。

3 コミュニケーションターミナルの前面パネルを開けて、右側の電源スイッチをオン（I 側）にする。



コミュニケーションターミナルの電源が入ります。
コミュニケーションターミナル前面の 3 つのランプとカメラの POWER ランプがいったんすべて点灯し、その後、POWER ランプだけが緑色に点灯します。
モニター用テレビにはランチャーメニューが表示され、自分側のカメラが写している映像も表示されます。

ランチャーメニュー



ご注意

- 電源が入ると、カメラが動作テストを行います。指を挟まないようにしてください。
- カメラが移動中に無理に動きをさえぎると、カメラの動きが止まり、カメラ出力が出なくなります。この場合は、コミュニケーションターミナルの電源を入れ直してください。
- 設置後に初めて電源を入れたときは、自己診断が終了すると、初期設定用のウィザードが表示されます。ウィザードに従って設定を行ってください。

  ◆ウィザードを使った設定については、「設置直後の設定－初期設定ウィザード」(49 ページ)をご覧ください。
- データソリューションボックスや ISDN ユニットなど別売りの専用機器を初めてコミュニケーションターミナルに接続して使用するとき、コミュニケーションターミナルが接続した機器のソフトウェアを自動的にバージョンアップすることがあります。モニター画面にバージョンアップ中のメッセージが表示されている間は故障の原因となりますので、絶対に電源を切らないでください。また、バージョンアップ中に停電などでシステムの電源がオフになった場合も正常に動作しないことがあります。電源がオフになり、再び電源が入ったあと、データソリューションボックスや ISDN ユニットなどが認識されない場合は、サービス窓口にご連絡ください。

ステータス表示

PPPoE の認証状況、UPnP の登録状況、DHCP からの IP アドレスの取得状況、ゲートキーパーへの登録状況、SIP サーバーへの登録状況が表示されます。表示されるのは、登録中とエラーが発生したときだけで、登録に成功したときは表示されません。

ご注意

- 複数の動作状況が同時に表示されることはありません。PPPoE の認証状況、DHCP からの IP アドレスの取得状況、UPnP の登録状況、ゲートキーパーへの登録状況、SIP サーバーへの登録状況の順に優先的に表示されます。
- 一般設定メニューの「メニュー画面」—「番号表示」を「表示しない」に設定している場合は、表示されません。

◆ステータス表示について詳しくは、「ステータス表示」(121 ページ)をご覧ください。

◆「番号表示」の設定については、「一般設定メニュー」(74 ページ)をご覧ください。

スタンバイモードについて

一般設定メニューの「機器設定」—「スタンバイモード」を「オン」に設定している場合は、一定時間コミュニケーションターミナルを操作しないと、コミュニケーションターミナルは節電のため、スタンバイモードに入ります。スタンバイモードに入ると、コミュニケーションターミナルの POWER ランプはオレンジ色に点灯します。
完全に電源を切らずスタンバイ状態にしておくと、リモコンのボタンで電源を入れることができます。
相手から呼び出しを受けると、スタンバイモードは解除されます。

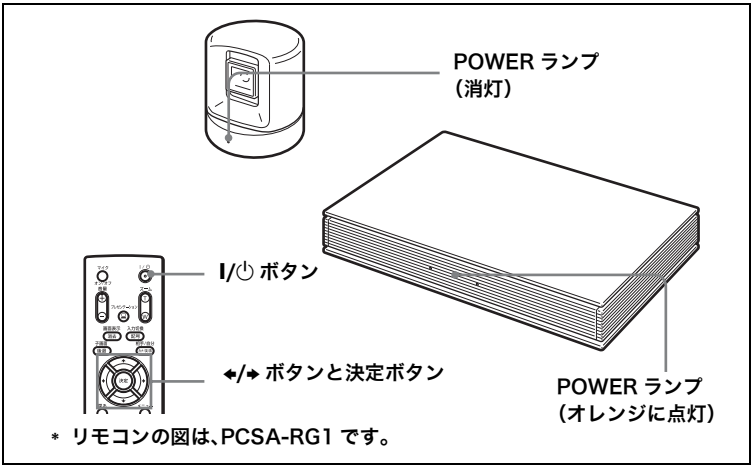
ご注意

- カメラの POWER ランプは、スタンバイモードに入ると消えます。
- ソニー製モニター用テレビのリモコン受光部に IR リピーターを設置している場合は、スタンバイモードに入るとモニター用テレビがスタンバイ状態になります。

システム（ビデオコミュニケーションシステム）をスタンバイ状態にする

1 ランチャーメニューを表示し、リモコンの I/⏻ ボタンを押す。
モニター画面に「電源を切りますか？」という確認のメッセージが表示されます。

2 リモコンの←または→ボタンを押して「OK」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの I/⏻ ボタンを押す。



システム（ビデオコミュニケーションシステム）がスタンバイ状態になり、コミュニケーションターミナルの POWER ランプがオレンジ色に点灯します。カメラの POWER ランプは消えます。
ソニー製モニター用テレビのリモコン受光部に IR リピーターを設置している場合は、コミュニケーションターミナルと連動してスタンバイ状態になります。

ご注意

受光ユニットを使用しない場合で、コミュニケーションターミナルとカメラを離して設置しているときは、カメラの方にリモコンを向けてボタンを押してください。

スタンバイ状態にするのを中止するには

手順 2 でリモコンの ← または → ボタンを押して「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

スタンバイモードを解除するには

リモコンのボタンを押してください。

スタンバイモードに入るまでの時間を設定するには

一般設定メニューの「機器設定」－「スタンバイ時間」でスタンバイモードに入るまでの時間（1 ～ 99 分）を設定してください。スタンバイモードにしたくないときは、一般設定メニューの「機器設定」－「スタンバイモード」を「オフ」に設定してください。

◆「スタンバイモード」と「スタンバイ時間」の設定については、「一般設定メニュー」（74 ページ）をご覧ください。

電源を切る

1 システムをスタンバイ状態にする。

2 コミュニケーションターミナルの前面パネルを開けて、右側の電源スイッチをオフ（O 側）にする。

3 会議で使用したその他の機器の電源を切る。

ご注意

長期間システムを使わないときは、電源スイッチをオフにしてください。ただし、電源スイッチがオフになっていると、会議をする相手から呼び出しが受けられません。

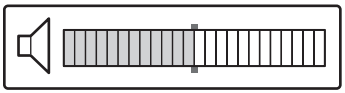
モニター用テレビの音量を調節する

音量の調節のしかたは、システムの設置時と会議中とで異なります。システムの設置時にはモニター用テレビ側、会議中にはコミュニケーションターミナル側で音量の調節を行います。

システム設置時の音量調節

コミュニケーションターミナル側で主音量を調節してから、モニター用テレビ側で音量調節してください。

1 リモコンの音量＋/－ボタンを押して、音量調節バーが真ん中になるようにする。



2 モニター用テレビの音量を相手の声がよく聞きとれる音量に調節する。

モニター用テレビの画質について

モニター用テレビの画質（ピクチャー、色あい、色の濃さ、明るさ、シャープネス）は、モニター用テレビ側で調節してください。

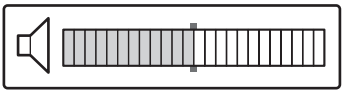
◆画質の調整については、モニター用テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

接続しているモニター用テレビのサラウンド機能などは使用しないでください。コミュニケーションターミナルのエコーキャンセラーが正しく動作しなくなり、音がおかしくなります。

会議中の音量調節

会議中は、リモコンの音量＋ / －ボタンを押して、コミュニケーションターミナル側で音量を調節してください。



ヘルプを表示する

リモコンのヘルプボタンを押すと、操作案内用のバルーンヘルプまたはヘルプ画面が表示されます。

ヒント

文字や数字を入力するときに表示されるバルーンヘルプを表示させないようにすることもできます。
メニューボタンを押してメニューを表示させ、一般設定メニューの「メニュー画面」－「文字入力ヘルプ表示」を「オフ」に設定してください。
(77 ページ)

コミュニケーションターミナルのバージョンとオプションを表示する

コミュニケーションターミナルのバージョンや接続されている専用別売り機器のバージョン、使用しているソフトウェアオプションなどを機器情報で確認できます。

◆機器情報について詳しくは、「機器情報」(94 ページ)をご覧ください。

設置直後の設定ー初期設定ウィザード

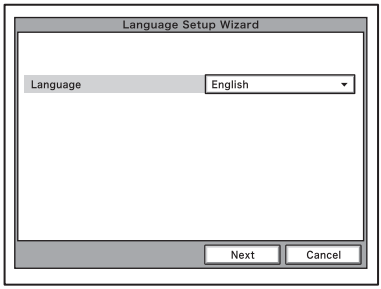
設置後に初めて電源を入れたときは、自己診断が終わると、初期設定用のウィザードが表示されます。ウィザードに従って登録を行ってください。ここで設定した項目は、あとでメニュー画面を使って変更することもできます。

ご注意

システムを設置後に ISDN ユニット PCSA-B384S、PCSA-B768S または PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）を新たに取り付けた場合にも初期設定用ウィザードが表示されます。この場合も登録を行ってください。

1 リモコンの ↑/↓ ボタンを押してメニューやメッセージに表示する言語を選ぶ。

Language: English（英語）または French（フランス語）、German（ドイツ語）、Japanese（日本語）、Spanish（スペイン語）、Italian（イタリア語）、Simplified Chinese(中国語（簡体字）)、Portuguese（ポルトガル語）、Traditional Chinese（中国語（繁体字））、Korean（韓国語）、Dutch（オランダ語）、Swedish（スウェーデン語）、Norwegian（ノルウェー語）、Danish（デンマーク語）、Finnish（フィンランド語）、Polish（ポーランド語）、Russian（ロシア語）、Arabic（アラビア語）、Thai（タイ語）、Turkish（トルコ語）、Welsh（ウェールズ語）から選ぶことができます。



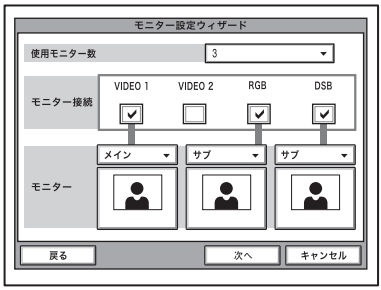
2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「Next」を選び、決定ボタンを押す。

モニター設定ウィザードが表示されます。

3 信号を出力するモニターを設定する。

ご注意

設定したモニター以外にはメニュー画面が表示されなくなりますのでご注意ください。



使用モニター数

本機に接続して使用するモニターの数を選びます。

1：1 台使用します。

2：2 台使用します。

3：3 台使用します。

モニター接続

どの出力端子に接続した機器を使うか選びます。

VIDEO 1：VIDEO 1 端子に接続している機器を選びます。

VIDEO 2：VIDEO 2 端子に接続している機器を選びます。

RGB：RGB OUT 端子に接続している機器を選びます。

DSB：データソリューションボックスの RGB OUT 端子に接続している機器を選びます。

モニター

その出力端子に接続した機器をメインモニターとして使うかサブモニターとして使うかを選びます。

メイン：メインモニターとして使います。

サブ：サブモニターとして使います。

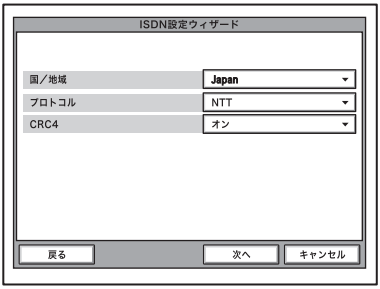
◆詳しくは、「モニターやプロジェクターに映像を出力する」（224 ページ）をご覧ください。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「次へ」を選び、決定ボタンを押す。

ISDN ユニット PCSA-B384S、PCSA-B768S または PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）が接続されている場合、ISDN 設定ウィザードが表示されます。

ISDN ユニットが接続されていない場合は LAN 設定ウィザードが表示されます。手順 11 へ進んでください。

5 ISDN回線を使用する国/地域/プロトコルを設定する。



国 / 地域

本機を使用する国や地域を選ぶ。日本国内で使用する場合は、「Japan」を選んでください。

プロトコル

使用する ISDN 回線のプロトコルを選ぶ。日本国内で使用する場合は、「NTT」を選んでください。

CRC4

CRC4 を有効にするかどうかを選択します。通常はオンで使用してください。

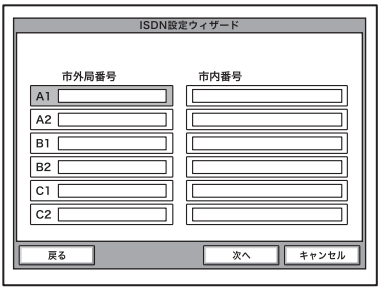
ご注意

「CRC4」は、PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）を使用している場合に表示されます。

6 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「次へ」を選び、決定ボタンを押す。

7 本機が使用する ISDN 回線の電話番号を入力する。

1 回線のときは A1 と A2 に同じ番号を入力してください。



市外局番号

市外局番号を入力する。

市外局番号の最初の「0」は入力しないでください。

市内局番

回線番号を入力する。

ヒント

空欄を選択し、リモコンの決定ボタンを押すと、1 つ上の欄の項目の設定内容がコピーされます。

ご注意

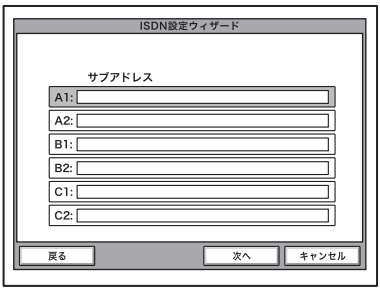
- ISDN ユニット PCSA-B384S 使用時に ISDN 回線を 2 または 3 回線接続するときは、B1 ～ C2 欄にも電話番号を入力してください。
- ISDN ユニット PCSA-B768S 使用時に ISDN 回線を 2 ～ 6 回線接続するときは、B1 ～ F2 欄にも入力してください。D1 ～ F2 欄は、「次へ」を選び、決定ボタンを押すと表示されます。
- PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）使用時は Ch1 ～ Ch23（T1/J1）、Ch1 ～ Ch30（E1）が表示されます。使用するチャンネル数に応じて電話番号を入力してください。

8 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「次へ」を選び、決定ボタンを押す。

9 サブアドレスを入力する。

サブアドレスは数字のみ有効です。

1 回線のときは A1 と A2 に同じ番号を入力してください。



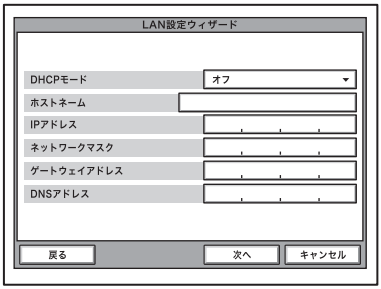
ご注意

- ISDN ユニット PCSA-B384S 使用時に ISDN 回線を 2 または 3 回線接続するときは、B1 ～ C2 欄にもサブアドレスを入力してください。
- ISDN ユニット PCSA-B768S 使用時に ISDN 回線を 2 ～ 6 回線接続するときは、B1 ～ F2 欄にも入力してください。D1 ～ F2 欄は、「次へ」を選び、決定ボタンを押すと表示されます。

• PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）使用時はＣｈ1～Ｃｈ23（T1/J1）、Ｃｈ1～Ｃｈ30（E1）が表示されます。使用するチャンネル数に応じて電話番号を入力してください。

10 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「次へ」を選び、決定ボタンを押す。

11 LAN に関する下記の項目を設定する。

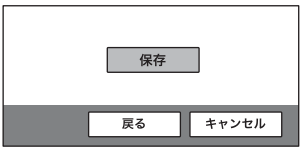


DHCP モード
DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト構成プロトコル）を設定します。
オート : IP アドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを自動的に取得します。
オフ : DHCP を「オフ」に設定します。「オフ」にしたときは、IP アドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを入力してください。
ホストネーム
ホストネームを 30 文字以内で入力します。
IP アドレス
本機の IP アドレスを入力します。
ネットワークマスク
ネットワークマスクを入力します。
ゲートウェイアドレス
デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。
DNS アドレス
DNS（Domain Name System）サーバーアドレスを入力します。

ヒント

「DHCP モード」を「オート」に設定しているときは、自動取得した IP アドレスをランチャーメニュー（118 ページ）やインフォメーションメニュー（119 ページ）で確認することができます。
LAN に関する設定の方法がわからない場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。

12 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。



設定が保存されます。

設定を中止するには
リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

ひとつ前のウィザードに戻るには
リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「戻る」を選び、決定ボタンを押してください。

メニューの基本操作

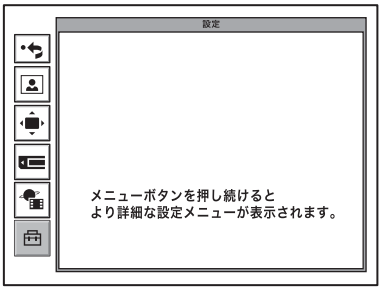
本機では、モニター画面に表示されるメニューを使って各種調整や設定を行います。ここではメニューの基本的な操作のしかたと表示されるメニューの種類を簡単に説明します。

メニューを操作する

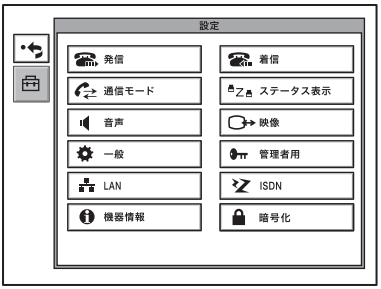
設定メニューを例にして、メニューの基本操作を説明します。

1 リモコンのメニューボタンを押す。または、↑/↓/←/→ ボタンでランチャーメニューの「メニュー」を選び、決定ボタンを押す。

設定メニューが表示されます。

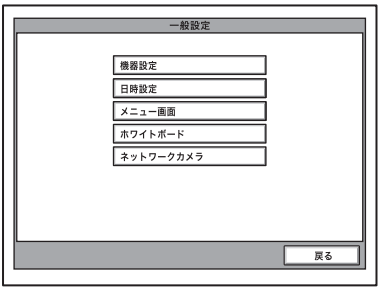


2 リモコンのメニューボタンをしばらく押しつづける。
設定メニュー（管理者用）が表示されます。



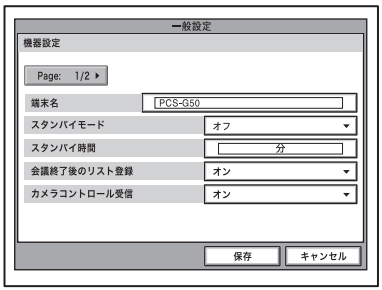
3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで設定したいメニューを選び、決定ボタンを押す。

選んだ設定メニューが表示されます。



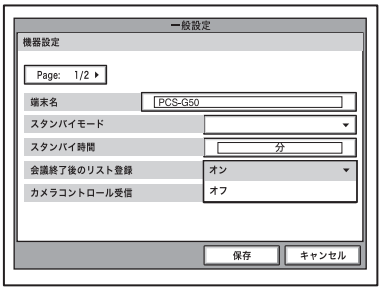
4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで設定したいメニューを選び、決定ボタンを押す。

選んだ設定メニューが表示されます。



5 ↓または↑ボタンを押して設定したい項目を選び、決定ボタンを押す。

一覧から選ぶ項目の場合は、選んだ項目の設定項目が表示されます。

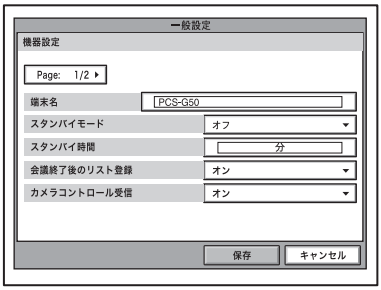


6 ↓または↑ボタンを押して設定したい項目を選び、決定ボタンを押す。

ご注意

文字の入力が必要な項目では、リモコンのボタンを押して入力し、決定ボタンを押します。

7 ↓ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。



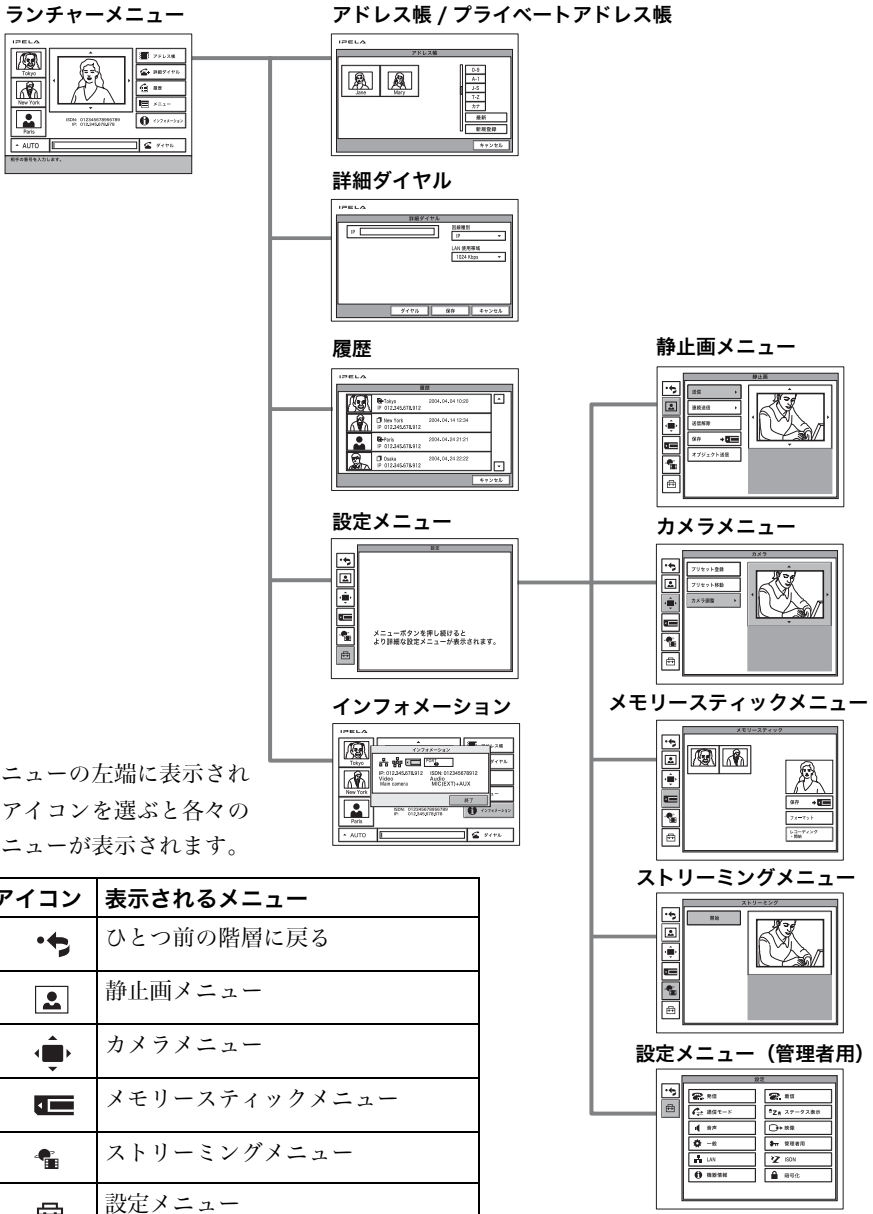
これで、新しい設定が保存され、前の画面に戻ります。

ひとつ前の階層に戻るには

リモコンの「戻る」ボタンを押してください。

メニューの基本構成

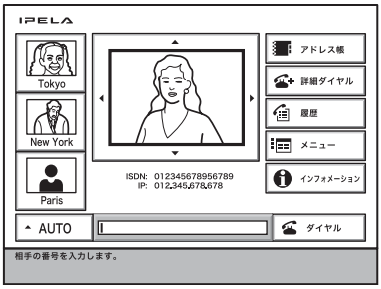
本機のメニューは以下のように構成されています。
より詳しい構成については、367 ページ「メニューの構成」をご覧ください。



メニューの左端に表示されるアイコンを選ぶと各々のメニューが表示されます。

アイコン	表示されるメニュー
	ひとつ前の階層に戻る
	静止画メニュー
	カメラメニュー
	メモリースティックメニュー
	ストリーミングメニュー
	設定メニュー

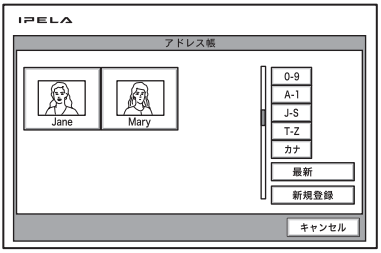
ランチャーメニュー



電源を入れたときや、通信中でないときに表示されるメニューです。

◆ランチャーメニューについて詳しくは、118 ページをご覧ください。

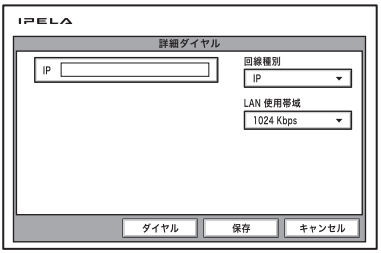
アドレス帳



会議をする相手を登録したり、会議を始めるときに登録した相手を選んだりするときに使います。
ランチャーメニューの「アドレス帳」を選ぶと表示されます。

◆アドレス帳メニューについて詳しくは、82、122 ～ 132 ページをご覧ください。

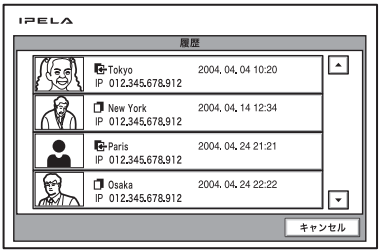
詳細ダイヤル



アドレス帳に登録されていない相手と会議するときに使います。
ランチャーメニューの「詳細ダイヤル」を選んだり、リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押すと表示されます。

◆詳細ダイヤルメニューについて詳しくは、122 ～ 128 ページをご覧ください。

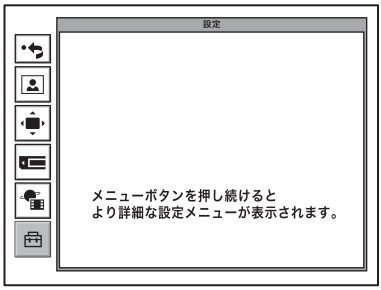
履歴



会議の履歴を新しい順に表示します。
ランチャーメニューの「履歴」を選ぶと表示されます。

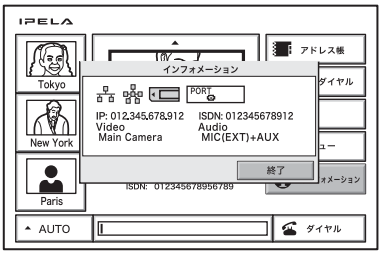
◆履歴メニューについて詳しくは、128 ページをご覧ください。

設定メニュー



ランチャーメニューの「メニュー」を選んだり、リモコンのメニューボタンを押すと表示されます。

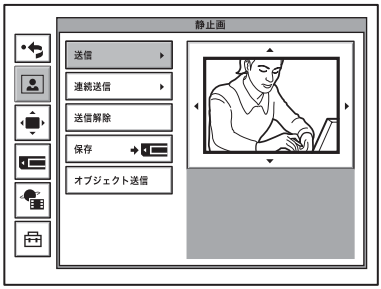
インフォメーション



コミュニケーションターミナルの設定状況を表示します。ランチャーメニューの「インフォメーション」を選ぶと表示されます。

◆インフォメーションメニューについて詳しくは、119 ～ 122 ページをご覧ください。

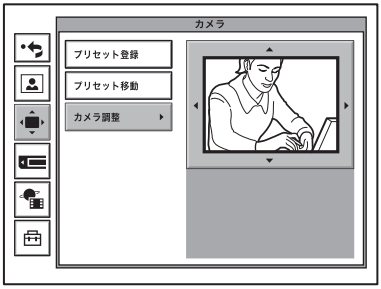
静止画メニュー



静止画を操作するときに使います。ランチャーメニューの「メニュー」を選び、表示される を選ぶと表示されます。

◆静止画メニューについて詳しくは、149 ～ 152、168 ～ 175 ページをご覧ください。

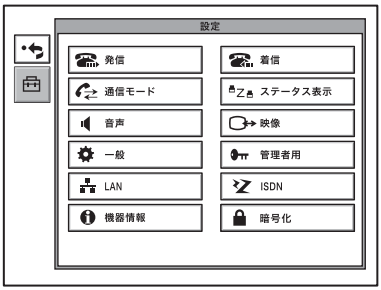
カメラメニュー



カメラのアングル調節やズームをするときに使います。
ランチャーメニューの「メニュー」を選び、表示される を選ぶと表示されます。

◆カメラメニューについて詳しくは、140 ～ 148 ページをご覧ください。

設定メニュー（管理者用）



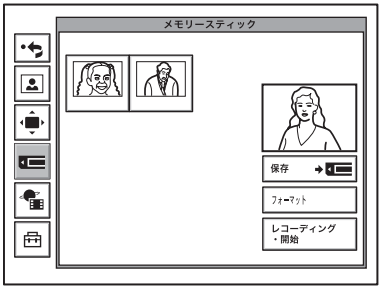
管理者がシステムの詳細を設定します。設定メニューを表示しているとき、リモコンのメニューボタンをしばらく押し続けると表示されます。

ヒント

設定メニュー表示中や通信中画面のときに数字ボタンの 9 を 2 回押しても表示されます。

◆設定メニュー（管理者用）について詳しくは、61 ～ 98 ページをご覧ください。

メモリースティックメニュー



“メモリースティック”を使用するときに使います。“メモリースティック”を挿入していないと表示されません。ランチャーメニューの「メニュー」を選び、表示される を選ぶと表示されます。

◆メモリースティックメニューについて詳しくは、159 ～ 166、172 ～ 175 ページをご覧ください。

ストリーミングメニュー



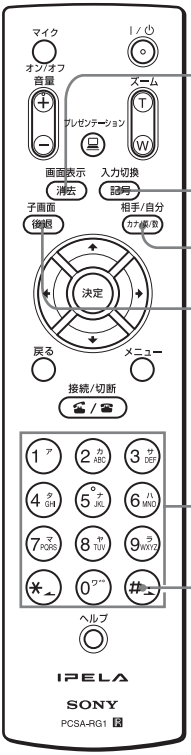
会議をストリーミング配信するときに使用します。ランチャーメニューの「メニュー」を選び、表示される を選ぶと表示されます。

◆ストリーミングメニューについて詳しくは、(178 ページ) をご覧ください。

文字や数字を入力する

リモコンを使ってメニュー上に文字や数字などを入力する方法を説明します。

PCSA-RG1



画面表示（消去）

入力切換（記号）

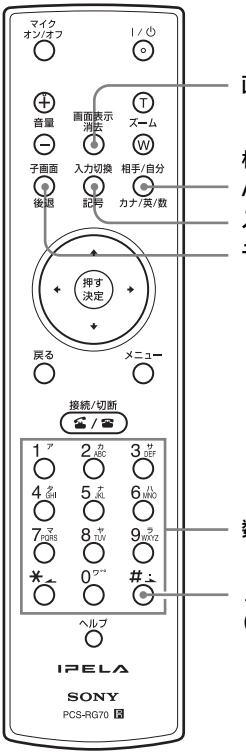
相手 / 自分（カナ / 英 / 数）

子画面（後退）

数字ボタン

#.
（ドット）ボタン

PCS-RG70



文字や数字を入力するには

1 相手 / 自分（カナ / 英 / 数）ボタンを繰り返し押して入力モードを切り換える。

2 数字ボタンを押して、文字や数字を入力する。

カナのとき：ボタンを繰り返し押すと、ボタンに表示された行のカタカナ文字が選べます。

英のとき：ボタンを繰り返し押すと、ボタンに表示されたアルファベットが選べます。

数のとき：ボタンに表示された数字が選べます。

記号を入力するには

入力切換（記号）ボタンを繰り返し押して、入力したい記号を選びます。

「ー」と「゛」、「゜」の記号は 0 ボタンを押しても入力できます。

また、入力モードが「英」のときは 0 ボタンを繰り返し押して記号を入力することもできます。

IP アドレス入力時にドットを入力するには

➡ ボタン、または#. ボタンを押します。

入力をまちがえたら

リモコンの子画面（後退）ボタンを押します。最後に入力した文字や数字、記号が消えます。

1 行分の文字をまとめて消すには

消したい欄にカーソルを移動し、リモコンの画面表示（消去）ボタンを押します。1 行分の文字が消えます。

ヒント

リモコンのヘルプボタンを押してバルーンヘルプやヘルプ画面を表示させているとき、文字や数字を入力するときに表示されるバルーンヘルプだけを表示させないようにすることができます。

一般設定メニューの「メニュー画面」－「文字入力ヘルプ表示」を「オフ」に設定してください。(77 ページ)

2章 登録と設定 ー 管理者用

この章では、システムの管理者が行う登録と設定の全般について説明しています。管理者の方がお読みください。

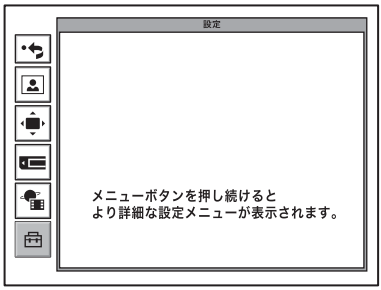
システムを設定する

会議をする前に、設定メニュー（管理者用）を使って自分側の端末の情報をあらかじめ設定しておいてください。ここでは、設定メニュー（管理者用）の表示のしかたと、どんなメニューがあるかを紹介します。

設定メニュー（管理者用）を表示する

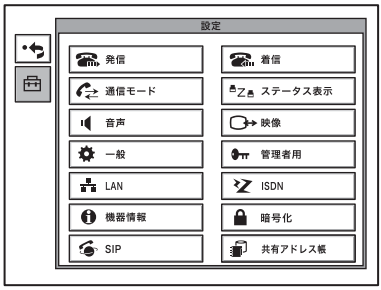
1 リモコンのメニューボタンを押す。または、↑/↓/←/→ ボタンでランチャーメニューの「メニュー」を選び、決定ボタンを押す。

設定メニューが表示されます。



2 リモコンのメニューボタンをしばらく押し続ける。

設定メニュー（管理者用）が表示されます。



ヒント

設定メニュー（管理者用）は、設定メニューまたは通信中画面のときリモコンの数字ボタンの 9 を 2 回押しても表示できます。

設定メニュー（管理者用）から選べるメニュー

各項目を選ぶと次のメニューを表示できます。

発信：発信設定メニュー（63 ページ）

着信：着信設定メニュー（64 ページ）

通信モード：通信モード設定メニュー（65 ページ）

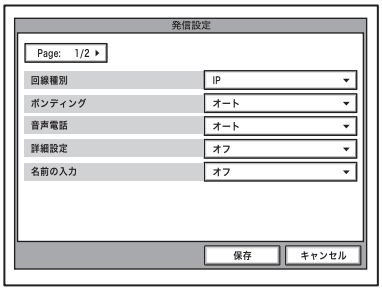
ステータス表示 : ステータス表示（69 ページ）
音声 : 音声設定メニュー（71 ページ）
映像 : 映像設定メニュー（73 ページ）
一般 : 一般設定メニュー（74 ページ）
管理者用 : 管理者用設定メニュー（80 ページ）
LAN: LAN 設定メニュー（87 ページ）
ISDN: ISDN 設定メニュー（92 ページ）
機器情報 : 機器情報（94 ページ）
暗号化 : 暗号化設定メニュー（95 ページ）
SIP: SIP 設定メニュー（96 ページ）
共有アドレス帳 : 共有アドレス帳設定メニュー（97 ページ）

ご注意

- SIP 設定メニューは、別売りの SIP ソフトウェア PCSA-SP1 をインストールしているときのみ表示されます。
- 共有アドレス帳設定メニューは、管理者用設定メニューの「共有アドレス帳」を「オン」に設定しているときのみ表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで設定したいメニューを選び、決定ボタンを押す。

選んだ設定メニューが表示されます。



4 各設定項目を設定する。

◆各設定項目については、61 ページ～95 ページの各メニューのページをご覧ください。

5 設定が終わったら、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

設定が保存され、設定メニュー（管理者用）に戻ります。

設定を中止するには

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。または、リモコンの戻るボタンを押してください。

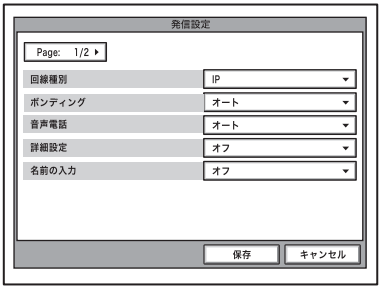
表示したメニューのページを切り換えるには

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで Page、または設定項目の欄を選び、次のページへ進むときは → ボタン、前のページへ戻るときは ← ボタンを押してください。

発信設定メニュー

発信時の属性などを設定します。

1 ページ目（Page 1/2）



回線種別

通常使用する回線インターフェースを選びます。

IP: LAN を使ってテレビ会議システムと接続する場合。

ISDN: ISDN 回線でテレビ会議システムと接続する場合。

音声電話 : ISDN 回線で音声のみの電話と接続する場合。（ボイスミーティング）

SIP: SIP を使って IP 電話などと接続する場合。

ボンディング

複数の ISDN 回線を使用するとき、1 回線にダイヤルするだけで残りの回線も接続できる BONDING*（ボンディング）接続を行うかどうかを選びます。

* BONDING（Bandwidth on Demand Interoperability Group）は THE BONDING CONSORTIUM の登録商標です。

オート : 着信側でボンディング接続が可能なとき、自動的にボンディング接続に切り換えます。

オン : 常にボンディング接続する場合。

音声電話

ボイスミーティングのとき、電話と通信する音声圧縮方式を選びます。

オート : 自動的に選ぶ場合。

G.711μ-law: G.711μ-law に準拠した圧縮方式を選ぶ場合。

G.711A-law: G.711A-law に準拠した圧縮方式を選ぶ場合。

詳細設定

発信設定メニューの設定をダイヤルリスト 1 件ごとに行うかどうかを選びます。

オン : ダイヤルリストごとに発信設定を行う場合。アドレス帳のリスト編集メニューの「詳細設定」を選ぶと、発信設定メニューが表示されます。

オフ : 発信設定メニューの設定をダイヤルリスト全件に適用する場合。

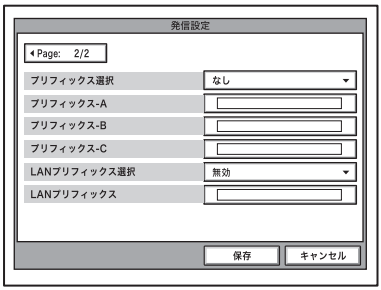
名前の入力

通信を始める前に、使用者の名前を通信ログに記録するかどうかを選びます。

オン : 使用者の名前を記録する場合。発信するたびに名前入力用のメニューが表示されます。

オフ : 使用者の名前を記録しない場合。

2 ページ目（Page 2/2）



プリフィックス選択

通常使用するプリフィックス（回線番号の前につける発信番号）の設定を選びます。

なし：プリフィックスを使用しない場合。

プリフィックス -A: 発信設定メニュー 2 ページ目の「プリフィックス -A」で設定したプリフィックスを使用する場合。

プリフィックス -B: 発信設定メニュー 2 ページ目の「プリフィックス -B」で設定したプリフィックスを使用する場合。

プリフィックス -C: 発信設定メニュー 2 ページ目の「プリフィックス -C」で設定したプリフィックスを使用する場合。

プリフィックス -A

「プリフィックス選択」を「プリフィックス -A」にしたとき、この欄に登録されたプリフィックス（発信番号）が回線番号の前に付加されてダイヤルされます。

プリフィックス -B

「プリフィックス選択」を「プリフィックス -B」にしたとき、この欄に登録されたプリフィックス（発信番号）が回線番号の前に付加されてダイヤルされます。

プリフィックス -C

「プリフィックス選択」を「プリフィックス -C」にしたとき、この欄に登録されたプリフィックス（発信番号）が回線番号の前に付加されてダイヤルされます。

ご注意

0（ゼロ）発信の場合は、「0」と入力してください。

LAN プリフィックス選択

LAN プリフィックス選択 LAN プリフィックスを有効にするか無効にするか選びます。

有効：LAN プリフィックスを有効にします。

無効：LAN プリフィックスを無効にします。

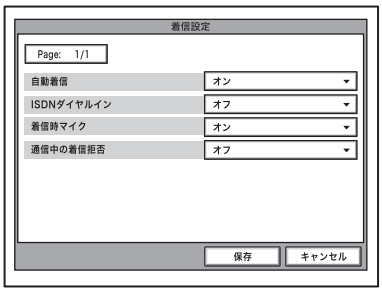
LAN プリフィックス

LAN 接続のときに、この欄に入力した内容が IP アドレスの前に付加されます。LAN プリフィックス選択の設定で使用するかしないかを選択します。

着信設定メニュー

着信時の設定をします。

1 ページ目（Page 1/1）



自動着信

自動着信するかどうかを選びます。

オン：自動着信するとき。相手から呼び出しを受けると、自動的に回線がつながります。

オフ：手動着信するとき。相手から呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴ります。「応答しますか？」のメッセージ画面で「OK」を選ぶと、回線がつながります。

ISDN ダイヤルイン

複数加入者番号を使用しているかどうかを選びます。

オン：複数加入者番号を使用しているとき。

オフ：複数加入者番号を使用していないとき。

着信時マイク

相手から呼び出しを受けたとき、相手にこちらの音声を送信するかどうかを選びます。

オン：着信時、こちらの音声を送信する場合。

オフ：着信時、こちらの音声を送信しない場合。

通信中の着信拒否

会議中に他の端末からの呼び出しを受けたときに、接続するかどうかを選びます。

オン：接続しない場合。

オフ：接続する場合。

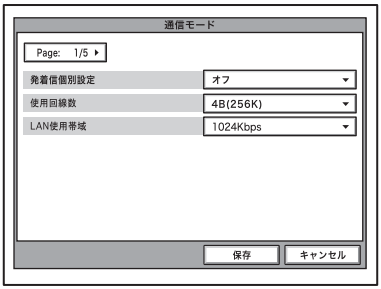
通信モード設定メニュー

通信モードの設定をします。

ご注意

通信モード設定メニューのページは、「発着信個別設定」の設定や MCU ソフトウェア（246 ページ）をインストールしているか、いないかにより変化します。

1 ページ目（Page 1/5）



発着信個別設定

発信時と着信時、多地点会議時の設定を個別にするかどうか選びます。

オン：発信時と着信時、多地点会議時で、それぞれ異なる設定をします。

オフ：同じ設定で通信します。

使用回線数

ボンディングで使用する ISDN 回線のチャンネル数を選びます。

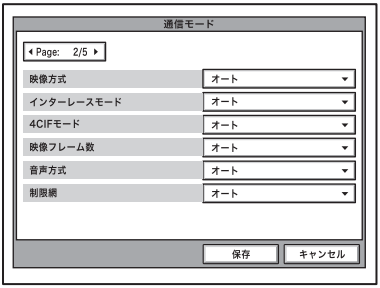
通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、多地点会議時、それぞれ異なった設定ができます。

LAN 使用帯域

LAN を使って通信するときの帯域幅を選択します。

通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、多地点会議時、それぞれ異なった設定ができます。

2 ページ目（Page 2/5）



映像方式

送受信する映像の圧縮方式を選びます。
通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、多地点会議時、それぞれ異なった設定ができます。

オート：相手の映像方式に合わせる場合。

H.264：H.264 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

MPEG4：MPEG4 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.263+: H.263+ に準拠した圧縮方式を使用する場合。

H.261: H.261 に準拠した圧縮方式を使用する場合（静止画伝送（Annex D）を行う場合）。

SIP ビデオなし：SIP 接続時に、映像なし、音声のみで使用する場合。

インターレースモード

映像方式をインターレース SIF モードにするかしないか選びます。

オート：相手の映像形式に合わせます。

オン：SIF モードにします。

オフ：SIF モードにしません。

4CIF モード

映像方式を 4CIF モードにするかしないか選びます。
通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、多地点会議時、それぞれ異なった設定ができます。

オート：相手の映像形式に合わせます。

オン：4CIF モードにします。

オフ：4CIF モードにしません。

映像フレーム数

送受信する映像のフレーム数を選びます。
通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、多地点会議時、それぞれ異なった設定ができます。

オート： 自動的にフレーム数が切り替わります。

15fps: CIF フォーマット映像を最大 15 フレーム / 秒で送信する場合。

30fps: CIF フォーマット映像を最大 30 フレーム / 秒で送信する場合。

音声方式

音声の圧縮方式を選びます。
通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、多地点会議時、それぞれ異なった設定ができます。

オート：相手の音声方式に合わせる場合。

MPEG4 Audio：MPEG4 AAC に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.722.1: G.722.1 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.722: G.722 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

G.729: G.729 に準拠した圧縮方式を使用する場合。
G.728: G.728 に準拠した圧縮方式を使用する場合。
G.723.1: G.723.1 に準拠した圧縮方式を使用する場合。
G.711: G.711 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

ご注意

相手側のテレビ会議システムが本機で選んだ音声方式をサポートしていない場合は、自動的に G.711 方式に切り換わります。

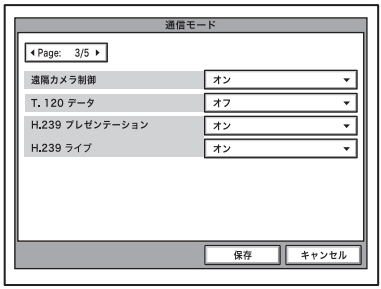
制限網

ISDN 通信網速度を選びます。
通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、多地点会議時、それぞれ異なった設定ができます。
オート : 通常の ISDN 回線を使用して、相手と接続する場合。
56K: ISDN 回線の通信速度が 56 Kbps の国や地域と接続する場合。

ご注意

出荷時の設定では ISDN 回線に 64 Kbps で接続するようになっています。通常はこの設定でお使いいただけますが、アメリカなど一部の国、地域によっては、ISDN の通信速度として 64 Kbps と 56 Kbps の 2 種類が使用されています。このような国、地域の相手と 64 Kbps で会議を開始しようとするとうまくつながらないことがあります。
この場合は、「制限網」を「56K」に切り換えてください。

3 ページ目（Page 3/5）



遠隔カメラ制御

自分側と相手側でお互いのカメラを操作するかどうかを選びます。
通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、それぞれ異なった設定ができます。
オン : 双方のカメラを操作したい場合。通常はオンにしておきます。
オフ : 相手側のカメラを操作しない場合。

T.120 データ

NetMeeting を使って T.120 に準拠したデータ会議を行うかどうかを選びます。(ISDN 接続の場合)
通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、それぞれ異なった設定ができます。
オン : T.120 に準拠したデータ会議を行う場合。
オフ : データ会議を行わない場合。

◆T.120 に準拠したデータ会議について詳しくは、「NetMeeting を使ってデータ会議をする－ T.120 データ会議」（204 ページ）をご覧ください。

H.239 プレゼンテーション

H.239 プレゼンテーションに準拠したプレゼンテーションモードまたはデュアルビデオ機能を使用するかどうかを選びます。

通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、それぞれ異なった設定ができます。

オン：H.239 プレゼンテーション に準拠したプレゼンテーションモードまたはデュアルビデオ機能を使用する場合。

オフ：H.239 プレゼンテーション に準拠したプレゼンテーションモードまたはデュアルビデオ機能を使用しない場合。

H.239 ライブ

H.239 ライブ に準拠したデュアルビデオ機能を使用するかどうかを選びます。

通信モードメニューの「発着信個別設定」を「オン」にしてあるときは、発信時や着信時、それぞれ異なった設定ができます。

H.239 プレゼンテーションが「オフ」の場合は、選択できません。

オン：H.239 ライブに準拠したデュアルビデオ機能を使用する場合。

オフ：H.239 ライブに準拠したデュアルビデオ機能を使用しない場合。

4 ページ目（Page 4/5）



H.239 レート割合

本機で H.239 プレゼンテーション送信をする際は、カメラ映像と H.239 プレゼンテーションデータで送信に使用する帯域幅を分け合っています。この項目では、全帯域幅のうち、H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する帯域の割合を選びます。

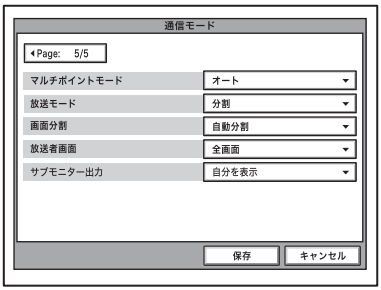
1/3：全帯域幅のうち、1/3 を H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する場合。

1/2：全帯域幅のうち、1/2 を H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する場合。

2/3：全帯域幅のうち、2/3 を H.239 プレゼンテーションデータの送信に使用する場合。

5 ページ目（Page 5/5）

このページは MCU ソフトウェアをインストール（246 ページ）している場合のみ表示されます。



マルチポイントモード

多地点接続会議を行うかどうかを選びます。

オート：1 対 1 の会議から多地点の会議へと、自動的に移行します。

オン：常に多地点会議を行います。

放送モード

放送モードを選びます。

分割：接続している各端末の映像が分割された画面に映ります。

音声検出：会議に参加しているすべての端末の中で音量の一番大きい端末を検出し、その端末の映像を他のすべての端末へ自動的に送信します。

画面分割

多地点会議中に自分側の映像と接続している端末の映像を 1 台のモニターに分割して表示します。分割する方法を選びます。

自動分割：接続している端末数が 2 か 3 のときは 4 分割で、接続している端末数が 4 か 5 のときは 6 分割で表示します。

6 分割固定：接続している端末の数に関わりなく 6 分割で表示します。

ご注意

接続している端末数が 1 の場合は、設定にかかわらず、全画面表示になります。

放送者画面

多地点接続会議で放送している端末のモニター表示方法を選びます。

全画面：全画面表示する場合。

自動分割：接続している端末数が 2 か 3 のときは 4 分割で、接続している端末数が 4 か 5 のときは 6 分割で表示します。

6 分割固定：接続している端末の数に関わりなく 6 分割で表示します。

ご注意

接続している端末数が 1 の場合は、設定にかかわらず、全画面表示になります。

サブモニター出力

複数のモニターを接続している場合に、多地点会議中にサブモニターに表示させる映像を選びます。

自分を表示：サブモニターに自分側のカメラ映像を表示させる場合。

話者を表示：サブモニターに話者のカメラ映像を表示させる場合。

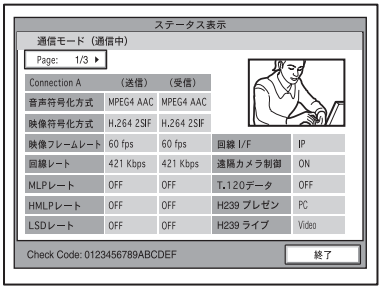
ステータス表示

通信中は現在の通信状態、非通信時は前回通信時の通信状態を表示します。使用している回線インターフェースに応じ、ISDN 回線状態、LAN 回線状態、LAN 通信状態も表示されます。

1 ページ目（Page 1/3）

通信モード

接続されている地点ごとに 1 ページずつ表示されます。
接続地点は左上に Connection A、B、C などと表示されます。
送信欄と受信欄に分かれている項目では（送信）欄には、自分側が設定している状態が、（受信）欄には自分側が受信している状態が表示されます。



音声符号化方式

現在の音声符号化方式を表示します。

映像符号化方式

現在の映像符号化方式を表示します。

ご注意

実際の通信に使用される音声符号化方式と映像符号化方式は、接続先のテレビ会議システムの状態により、本機で設定した方式と異なる場合があります。

映像フレームレート

動画のフレームレートをリアルタイムで表示します。

回線レート

接続されている回線の数と通信中の伝送レートをリアルタイムで表示します。

MLP レート

MLP のデータ伝送レートを表示します。

HMLP レート

HMLP のデータ伝送レートを表示します。

LSD レート

LSD（Low Speed Data）のデータ伝送レートを表示します。

回線 I/F

使用している回線インターフェースを表示します。

遠隔カメラ制御

双方のカメラを操作できる状態になっているかどうかを表示します。

T.120 データ

T.120 データ会議を行える状態になっているかどうかを表示します。

H239 プレゼン

H.239 プレゼンテーションが使える状態になっているかどうかを表示します。

H239 ライブ

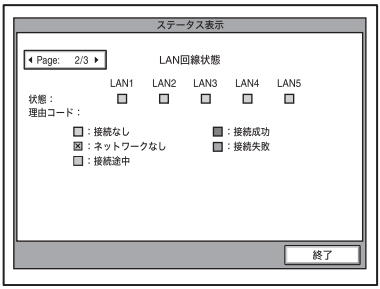
H.239 ライブに準拠したデュアルビデオ機能が使える状態になっているかどうかを表示します。
本機は、受信のみ対応しています。

Check Code

H.235 の暗号化標準方式を使用しているときに表示されます。

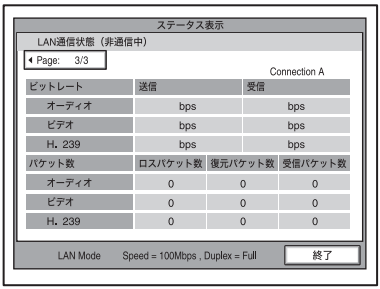
2 ページ目（Page 2/3）

LAN 回線状態を表示します。



3 ページ目（Page 3/3）

LAN 通信状態を表示します。



ビットレート—送信

送信時の伝送レートが、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーションまたはライブ）の種別ごとに表示されます。

ビットレート—受信

受信時の伝送レートが、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（プレゼンテーションまたはライブ）の種別ごとに表示されます。

パケット数—ロスパケット数

相手からの伝送中にネットワーク上で欠落したパケット数が、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（デュアルビデオまたは DSB）の種別ごとに表示されます。

パケット数—復元パケット数

ロスパケット数のうち本機の QoS 機能で復元されたパケット数が、オーディオ（音声）、ビデオ（映像）、H.239（デュアルビデオまたは DSB）の種別ごとに表示されます。

パケット数—受信パケット数

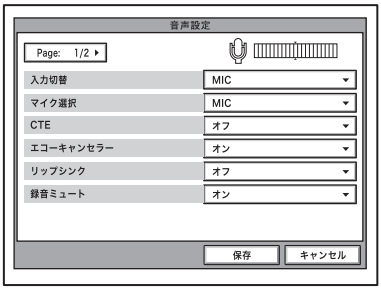
通信中に受信したパケット数が、映像、音声、デュアルビデオまたは DSB の種別ごとに表示されます。

音声設定メニュー

音声に関する設定をします。

1 ページ目（Page 1/2）

画面右上に音声入力レベルが表示されます。



入力切替

入力する音声を選びます。

MIC: マイクの音声を入力する場合。

AUX: 外部機器の音声を入力する場合。

MIC + AUX: マイクと外部機器の両方の音声を入力する場合。

マイク選択

使用するマイクを選びます。

MIC: コミュニケーションターミナルに接続した外部マイクを使用する場合。

DSB MIC: データソリューションボックスに接続したマイクを使用する場合。

LINE: AUDIO IN LINE 端子に接続したマイクを使用する場合。

EC-MIC: エコーキャンセリングマイクを使用する場合。

CTE（コミュニケーショントランスデューサー）

コミュニケーショントランスデューサー CTE-600（現在は販売されていません。）からのマイク入力をどの入力端子からにするかを選びます。

オフ：コミュニケーショントランスデューサーから入力しない場合。

LINE：コミュニケーションターミナルの AUDIO IN（LINE）端子から入力する場合。

DSB AUX IN：データソリューションボックスの AUX IN 端子から入力する場合。

エコーキャンセラー

内部のエコーキャンセラーを使用するかどうかを選びます。

オン： 内部のエコーキャンセラーを使用する場合。

オフ： 内部のエコーキャンセラーを使用しない場合。

リップシンク

発言者の唇の動きと音声を同期させるリップシンク機能を使用するかどうかを選びます。

オン： リップシンク機能を使用する場合。

オフ： リップシンク機能を使用しない場合。

録音ミュート

AUDIO IN AUX端子と AUDIO OUT（MIXED）端子に 1 台の録音機器を接続し、その録音機器で会議の音声を録音するときに、本機能を使用することにより録音機器内部でのループバックが原因で音が異常発振するのを防ぎます（録音ミュート）。

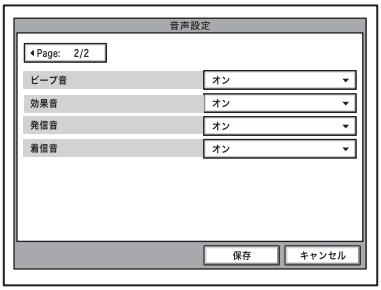
オン： 録音ミュートを使用する場合。

オフ： 録音ミュートを使用しない場合。

ご注意

- 録音ミュートを「オン」にした場合にミュートされるのは AUDIO IN AUX 端子からの信号のみです。マイクからの信号および相手側からの信号はミュートされません。したがって、「入力切替」が「AUX」または「MIC ＋ AUX」のときのみ録音ミュートが機能します。
- AUDIO IN AUX 端子と AUDIO OUT（MIXED）端子に 1 台の録音機器を接続し、その録音機器で会議の音声を録音する場合は、相手側にエコーが返るのを防ぐため、「入力切替」で「MIC」を選択してください。

2 ページ目（Page 2/2）



ビープ音

リモコンのボタンを押したときに、ビープ音を出すかどうかを選びます。

オン： ビープ音を出す場合。

オフ： ビープ音を出さない場合。

効果音

ビデオ会議システム起動時や会議開始時または会議終了時に効果音を出力するかどうかを選びます。

オン：効果音を出力する場合。

オフ：効果音を出力しない場合。

発信音

発信時のリングバックトーンや話し中のビジートーンを出力するかどうかを選びます。

オン：リングバックトーンやビジートーンをする場合。

オフ：リングバックトーンやビジートーンを出力しない場合。

着信音

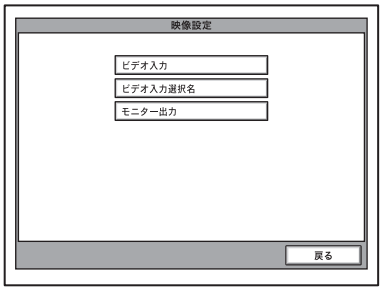
着信時のリンガートーンを出力するかどうかを選びます。

オン：リンガートーンを出力する場合。

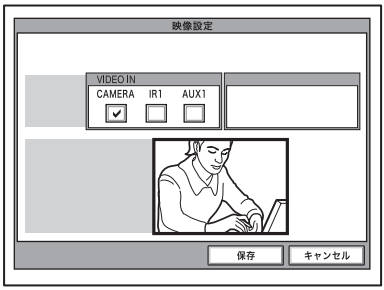
オフ：リンガートーンを出力しない場合。

映像設定メニュー

設定メニュー（管理者用）で映像を選ぶと以下のメニューが表示されます。設定したいメニューを選びます。



ビデオ入力



VIDEO IN

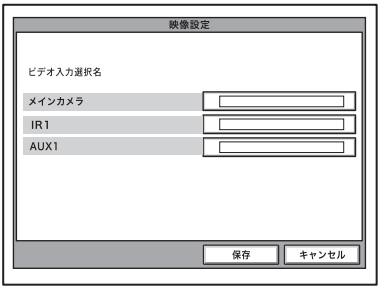
映像入力 1 の映像を選びます。

CAMERA：VIDEO IN 端子に接続されている機器の映像を選びます。

IR1：別売りのドキュメントスタンド PCS-DS150（現在は販売されていません。）の映像を選びます。

AUX1：AUX IN 端子に接続されている機器の映像を選びます。

ビデオ入力選択名



ビデオ入力選択メニューに表示する名前を設定します。

メインカメラ

ビデオ入力選択画面で「メインカメラ」を選択しているときの名前を 12 文字以内で入力します。

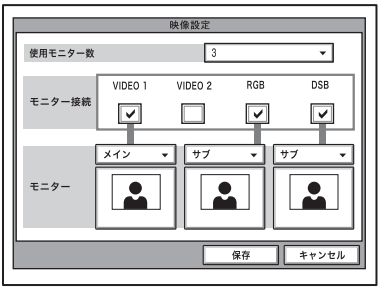
IR1

ビデオ入力選択画面で「IR1」を選択しているときの名前を 12 文字以内で入力します。

AUX1

ビデオ入力選択画面で「AUX1」を選択しているときの名前を 12 文字以内で入力します。

モニター出力



使用モニター数

本機に接続して使用するモニターの数を選びます。

1：1 台使用します。

2：2 台使用します。

3：3 台使用します。

モニター接続

モニターを接続している端子を選びます。

VIDEO 1：VIDEO MAIN 端子にモニターを接続している場合。

VIDEO 2：VIDEO SUB 端子にモニターを接続している場合。

RGB：本機の RGB OUT 端子にモニターを接続している場合。

DSB：データソリューションボックスの RGB OUT 端子にモニターを接続している場合。

モニター

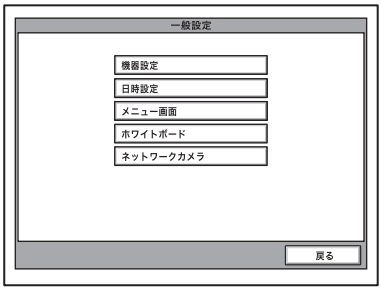
接続したモニターをメインとして使うか、サブとして使うか選びます。

メイン：メインモニターとして使います。

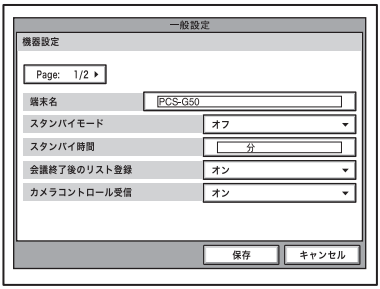
サブ：サブモニターとして使います。

一般設定メニュー

設定メニュー（管理者用）で一般設定を選ぶと以下のメニューが表示されます。設定したいメニューを選びます。



機器設定（Page 1/2）



端末名

会議相手に通知する本機の名前を 30 文字以内で入力します。

スタンバイモード

一定時間操作しないときにコミュニケーションターミナルをスタンバイモードに入れるかどうかを選びます。

オン： スタンバイモードに入れる場合。

オフ： スタンバイモードに入れない場合。

スタンバイ時間

スタンバイモードに入るまでの時間を設定します。1 ～ 99 分の間で設定できます。

◆スタンバイモードについて詳しくは、「スタンバイモードについて」（45 ページ）をご覧ください。

会議終了後のリスト登録

会議終了後に相手をアドレス帳に登録するかどうかを選びます。

オン： 会議終了後、相手がアドレス帳に登録されていなければ、「この相手をリストに登録しますか？」のメッセージが表示され、「OK」を選ぶとリスト編集メニューが表示されます。

オフ： アドレス帳に登録しない場合。

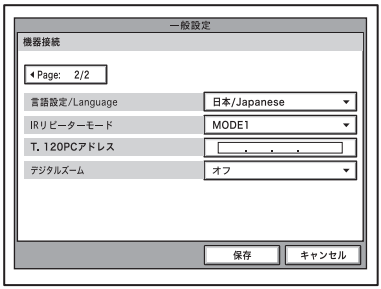
カメラコントロール受信

通信モード設定メニューの「遠隔カメラ制御」が「オン」になっているとき、一時的に相手側からのカメラコントロールコマンドを拒否することができます。

オン： カメラコントロールコマンドを受信する場合。

オフ： カメラコントロールコマンドを拒否する場合。

機器設定（Page 2/2）



言語設定 /Language

画面に表示されるメッセージの言語を選びます。

英語 /English: 英語で表示するとき。

フランス語 /French: フランス語で表示するとき。

ドイツ語 /German: ドイツ語で表示するとき。

日本語 /Japanese: 日本語で表示するとき。

スペイン語 /Spanish: スペイン語で表示するとき。

イタリア語 /Italian: イタリア語で表示するとき。

簡体中国語 /Chinese: 中国語（簡体字）で表示するとき。

ポルトガル語 /PORT: ポルトガル語で表示するとき。

繁体中国語 /Chinese: 中国語（繁体字）で表示するとき。
韓国語 /Korean: 韓国語で表示するとき。
オランダ語 /Dutch：オランダ語で表示するとき。
スウェーデン語 /Swed：スウェーデン語で表示するとき。
ノルウェー語 /Norw.：ノルウェー語で表示するとき。
デンマーク語 /Danish：デンマーク語で表示するとき。
フィンランド語 /Finn：フィンランド語で表示するとき。
ポーランド語 /Polish：ポーランド語で表示するとき。
ロシア語 /Russian：ロシア語で表示するとき。
アラビア語 /Arabic：アラビア語で表示するとき。
タイ語 /Thai：タイ語で表示するとき。
トルコ語 /Turkish：トルコ語で表示するとき。
ウェールズ語 /Welsh：ウェールズ語で表示するとき。

IR リピーターモード

IR リピーターのリモコンモードを選びます。通常は「MODE1」に設定してください。

MODE1: 「モード 1」を使用する場合。日本国内で使用する場合は、通常、このモードを選んでください。
MODE2:「モード 2」を使用する場合。日本国内で使用する場合、「MODE 1」でうまく機能しないときはこのモードを選んでください。
MODE3: 「モード 3」を使用する場合。
MODE4: 「モード 4」を使用する場合。

T.120 PC アドレス

NetMeeting を使って T.120 に準拠したデータ会議をするとき、使用するコンピューターの IP アドレスを入力します。(ISDN 接続の場合)

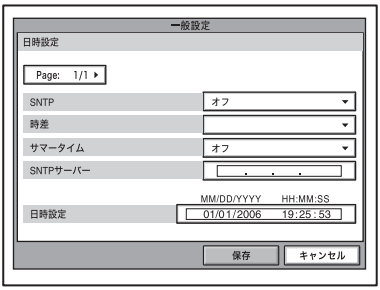
◆T.120 に準拠したデータ会議について詳しくは、「NetMeeting を使ってデータ会議をする－ T.120 データ会議」(204 ページ）をご覧ください。

デジタルズーム

デジタルズーム機能を使用するかどうかを選びます。

オン：デジタルズーム機能を使用する場合。
オフ：デジタルズーム機能を使用しない場合。

日時設定（Page 1/1）



SNTP

SNTP により、サーバーから時刻情報を取得する場合はオンにします。

オン：サーバーから時刻情報を取得する場合。
オフ：サーバーから時刻情報を取得しない場合。

時差

コミュニケーションターミナルを使用する国 / 地域を選びます。

サマータイム

サマータイム期間中はオンにします。

オン：サマータイム期間中の場合。

オフ：サマータイム期間中ではない場合。

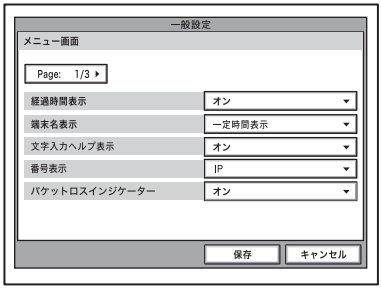
SNTP サーバー

時刻情報を取得するサーバーのアドレスを入力します。

日時設定

現在の年月日と時刻を入力します。

メニュー画面（Page 1/3）



経過時間表示

テレビ会議中にモニター画面に通話時間を表示するかどうかを選びます。

オン： 通話時間を表示します。

オフ： 通話時間を表示しません。

ご注意

通信中は、設定できない項目もあります。

端末名表示

接続地点の端末名をモニター画面に表示するかどうかを選びます。

オフ：端末名を表示しない場合。

一定時間表示：一定時間端末名を表示する場合。

常時表示：常に端末名を表示する場合。

ご注意

通信モード設定メニューの「マルチポイントモード」が「オート」に設定されている状態で、1 対 1 の会議をしている場合、端末名は表示されません。

文字入力ヘルプ表示

文字や数字を入力するときに表示されるバルーンヘルプを表示させるかどうかを選びます。

オン：バルーンヘルプを表示させる場合。

オフ：バルーンヘルプを表示させない場合。

番号表示

ランチャーメニューに表示する、自分側の IP や SIP で使用する番号を選びます。

SIP：ユーザー名：SIP を使用した会議を行っているとき、SIP サーバーに登録したユーザー名を表示する場合。

SIP：アドレス：SIP を使用した会議を行っているとき、SIP アドレスを表示する場合。

GK：ユーザー名：ゲートキーパー使用時、ゲートキーパーに登録したユーザー名を表示する場合。

GK：ユーザー番号：ゲートキーパー使用時、ゲートキーパーに登録したユーザー番号を表示する場合。

NAT：アドレス：NAT を使用したネットワークに接続しているとき、NAT アドレスを表示する場合。

IP：IP アドレスを表示する場合。

表示しない：IP や SIP で使用する番号を何も表示しない場合。

パケットロスインジケーター

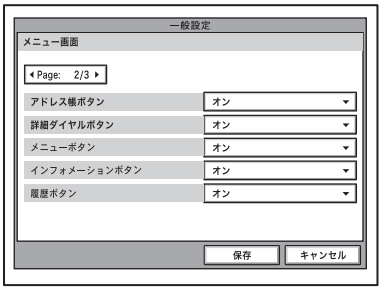
ネットワークでパケットロスが生じた場合、「Packet Loss」インジケーターを画面上に表示するかどうかを選びます。

オン：パケットロスが生じた場合、画面上にインジケーターを表示します。

オフ：パケットロスが生じても画面上にインジケーターを表示しません。

メニュー画面（Page 2/3）

ランチャー画面のメニューやボタンなどを表示させるかどうかを選びます。



アドレス帳ボタン

オン：「アドレス帳」を表示します。

オフ：「アドレス帳」を表示しません。

詳細ダイヤルボタン

オン：「詳細ダイヤル」を表示します。

オフ：「詳細ダイヤル」を表示しません。

メニューボタン

オン：「メニュー」を表示します。

オフ：「メニュー」を表示しません。

インフォメーションボタン

オン：「メニュー」を表示します。

オフ：「メニュー」を表示しません。

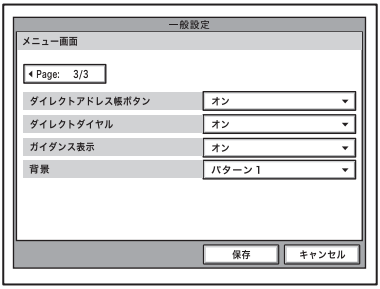
履歴ボタン

オン：「履歴」を表示します。

オフ：「履歴」を表示しません。

メニュー画面（Page 3/3）

ランチャー画面のメニューやボタンなどを表示させるかどうかを選びます。



ダイレクトアドレス帳ボタン

オン：「ダイレクトアドレス帳」を表示します。

オフ：「ダイレクトアドレス帳」を表示しません。

ダイレクトダイヤル

オン：ダイレクトダイヤル欄を表示します。

オフ：ダイレクトダイヤル欄を表示しません。

ガイダンス表示

オン：「ガイダンス」を表示します。

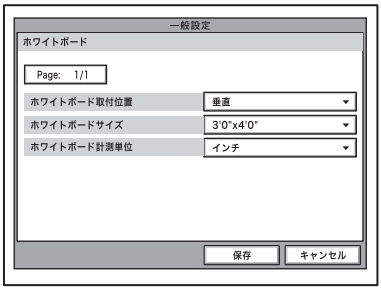
オフ：「ガイダンス」を表示しません。

背景

メニューの背景パターンを選びます。

◆ランチャーメニューの見かたは「ランチャーメニューの見かた」（118 ページ）をご覧ください。

ホワイトボード（Page 1/1）



ホワイトボード取付位置

ホワイトボードに mimio Xi を縦に取り付けるか横向きに取り付けるかを選びます。

垂直：ホワイトボードに mimio Xi を縦に取り付ける場合。

水平：ホワイトボードに mimio Xi を横向きに取り付ける場合。

ホワイトボードサイズ

使用するホワイトボードの大きさ（縦×横）を下記から選びます。

「ホワイトボード取付位置」の設定により、選べるサイズが変わります。

「垂直」のとき：

2'0" × 3'0"（0.6 × 0.9m）、
3'0" × 4'0"（0.9 × 1.2m）、
4'0" × 6'0"（1.2 × 1.8m）、
4'0" × 8'0"（1.2 × 2.4m）

「水平」のとき：

3'0" × 2'0"（0.9 × 0.6m）、
4'0" × 3'0"（1.2 × 0.9m）、
6'0" × 4'0"（1.8 × 1.2m）、
8'0" × 4'0"（2.4 × 1.2m）

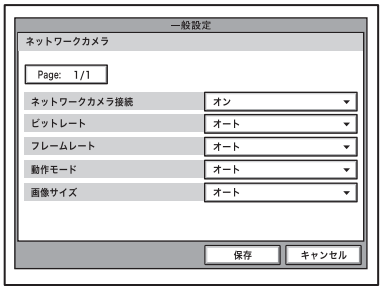
ホワイトボード計測単位

ホワイトボードサイズの表記単位をインチで表示するかメートルで表示するかを選びます。

インチ：ホワイトボードサイズの表記をインチで表示する場合。

メートル：ホワイトボードサイズの表記をメートルで表示する場合。

ネットワークカメラ（Page 1/1）



ネットワークカメラ接続

ネットワークカメラとの接続を行うかどうかを選びます。

オン：ネットワークカメラとの接続を行う場合。

オフ：ネットワークカメラとの接続を行わない場合。

ビットレート

ネットワークカメラから送信される映像のビットレートを選びます。

「オート」を選んだ場合は、ネットワークカメラの設定が優先されます。

フレームレート

ネットワークカメラから送信される映像のフレーム数を選びます。

オート：ネットワークカメラの設定を優先する場合。

30fps：最大 30 フレーム / 秒で送信する場合。

15fps：最大 15 フレーム / 秒で送信する場合。

動作モード

ネットワークカメラから送信される映像の圧縮方式を選びます。

オート：ネットワークカメラの設定を優先する場合。

H.264：H.264 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

MPEG4：MPEG4 に準拠した圧縮方式を使用する場合。

画像サイズ

ネットワークカメラから送信される映像の表示サイズを選びます。

オート：ネットワークカメラの設定を優先する場合。

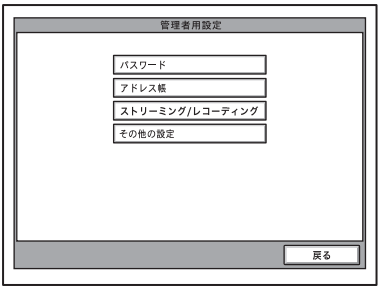
160 × 120 (QQVGA)：160 ピクセル× 120 ラインで表示する場合。

320 × 240 (QVGA)：320 ピクセル × 240 ラインで表示する場合。

管理者用設定メニュー

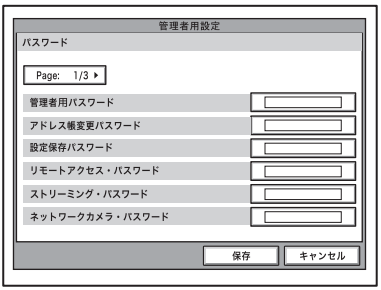
設定メニュー（管理者用）で管理者用を選ぶと以下のメニューが表示されます。

設定したいメニューを選びます。



システムの管理者が使用するメニューです。このメニューでパスワードを設定すると、設定メニューやアドレス帳メニューの変更にパスワードが必要になります。また、管理者用設定メニューにアクセスするときも、このパスワードが必要になります。

パスワード（Page 1/3）



管理者用パスワード

管理者用のパスワードを 10 文字以内で設定します。管理者は、設定メニュー（管理者用）とアドレス帳メニューを変更することができます。

ご注意

ほかのパスワードを設定しても、管理者パスワードが空白のままだと、パスワードの入力なしで変更や接続ができます。ご注意ください。

アドレス帳変更パスワード

電話帳を変更するときのパスワードを 10 文字以内で設定します。

設定保存パスワード

設定を保存するときのパスワードを 10 文字以内で設定します。

リモートアクセス・パスワード

Web からアクセスするときのパスワードを 10 文字以内で設定します。

ストリーミング・パスワード

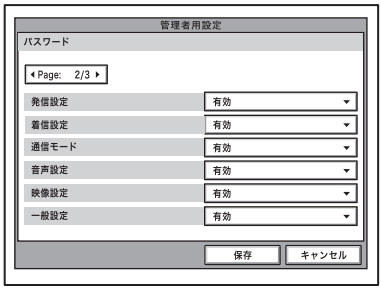
自分がストリーミング配信した会議を、相手が受信するときのパスワードを 10 文字以内で設定します。

ネットワークカメラ・パスワード

ネットワークカメラリストにアクセスするときのパスワードを 10 文字以内で設定します。

パスワード（Page 2/3）

それぞれの設定を保存するときにパスワードを有効にするかどうかを選びます。



発信設定

有効 : 発信設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

無効 : 発信設定をパスワードなしで保存できます。

着信設定

有効 : 着信設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

無効 : 着信設定をパスワードなしで保存できます。

通信モード設定

有効 : 通信モード設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

無効 : 通信モード設定をパスワードなしで保存できます。

音声設定

有効 : 音声設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

無効 : 音声設定をパスワードなしで保存できます。

映像設定

有効 : 映像設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

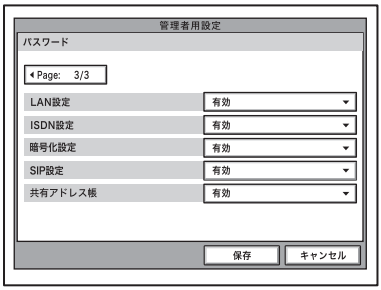
無効 : 映像設定をパスワードなしで保存できます。

一般設定

有効 : 一般設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

無効 : 一般設定をパスワードなしで保存できます。

パスワード（Page 3/3）



LAN 設定

有効 : LAN 設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

無効 : LAN 設定をパスワードなしで保存できます。

ISDN 設定

有効 : ISDN 設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

無効 : ISDN 設定をパスワードなしで保存できます。

暗号化設定

有効 : 暗号化設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

無効 : 暗号化設定をパスワードなしで保存できます。

SIP 設定

有効 : SIP 設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

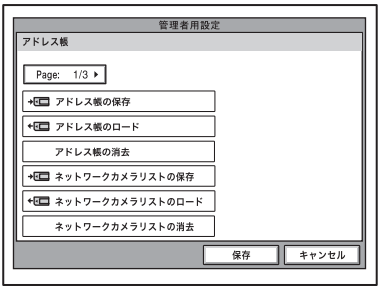
無効 : SIP 設定をパスワードなしで保存できます。

共有アドレス帳

有効 : 共有アドレス帳設定を保存するときに「設定保存パスワード」を要求します。

無効 : 共有アドレス帳設定をパスワードなしで保存できます。

アドレス帳（Page 1/3）



ご注意

「ネットワークカメラリストの保存」、「ネットワークカメラリストのロード」、「ネットワークカメラリストの消去」は一般設定メニュー－「ネットワークカメラ」の「ネットワークカメラ接続」が「オン」の場合のみ表示されます。

アドレス帳の保存

アドレス帳メニューのデータを“メモリースティック”に保存します。“メモリースティック”のデータは上書きされます。

アドレス帳のロード

アドレス帳メニューのデータを“メモリースティック”からロードします。

本体のアドレス帳メニューのデータは上書きされます。

ご注意

アドレス帳の保存およびロードは、元のデータを保存した端末とバージョンが同じ場合に使用してください。保存した端末とロードした端末のバージョンが異なる場合は、正常に認識されないことがあります。

アドレス帳の消去

本体のアドレス帳を消去します。

ネットワークカメラリストの保存

ネットワークカメラリストのデータを“メモリースティック”に保存します。“メモリースティック”のデータは上書きされます。

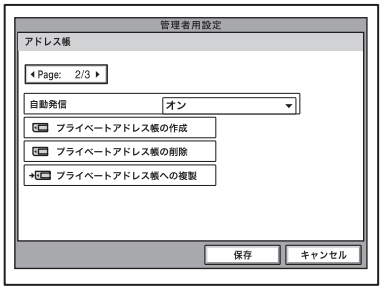
ネットワークカメラリストのロード

ネットワークカメラリストのデータを“メモリースティック”からロードします。本体のネットワークカメラリストのデータは上書きされます。

ネットワークカメラリストの消去

本体のネットワークカメラリストを消去します。

プライベートアドレス帳 (Page 2/3)



自動発信

“メモリースティック”を挿入したときに、“メモリースティック”に作成したプライベートアドレス帳の指定したリストの相手に自動発信するかどうかを選びます。

オン：自動発信する場合。

オフ：自動発信しない場合。

◆詳しくは「プライベートアドレス帳のリストの 1 つに自動発信するには」(103 ページ) をご覧ください。

プライベートアドレス帳の作成

“メモリースティック”に、空のプライベートアドレス帳のフォルダとファイルを作成します。

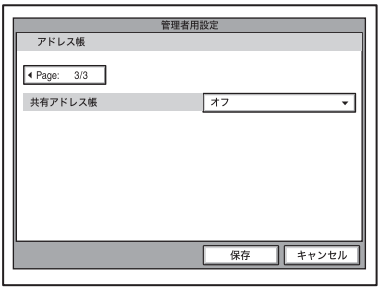
プライベートアドレス帳の削除

“メモリースティック”の中のプライベートアドレス帳を削除します。

プライベートアドレス帳への複製

本機に登録してあるアドレス帳のデータを“メモリースティック”の中のプライベートアドレス帳にコピーします。

共有アドレス帳（Page 3/3）



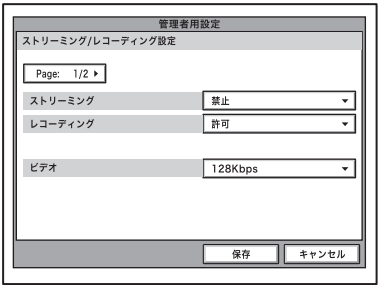
共有アドレス帳

サーバー上にある共有アドレス帳を使用するかどうかを選びます。

オン：共有アドレス帳を使用する場合。

オフ：共有アドレス帳を使用しない場合。

ストリーミング / レコーディング（Page 1/2）



ストリーミング

ビデオ・オーディオのストリーミング配信を許可するかどうかを選びます。

禁止：会議のストリーミングを許可しない場合。

許可：会議のストリーミングを許可する場合。

レコーディング

ビデオ・オーディオの“メモリースティック”への会議のレコーディングを許可するかどうかを選びます。

禁止：会議のレコーディングを許可しない場合。

許可：会議のレコーディングを許可する場合。

ビデオ

ストリーミング、レコーディングのビデオのレートを選びます。

オフ：ビデオのストリーミング、レコーディングをしない場合。

ご注意

「オフ」を選んだ場合は、オーディオのみをストリーミング、レコーディングできます。

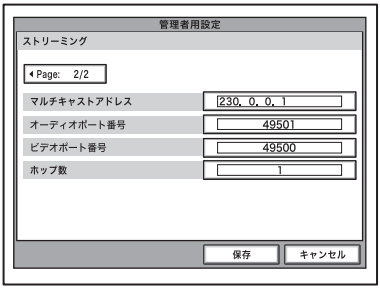
64Kbps：64Kbps でストリーミング、レコーディングを行う場合。

128Kbps: 128Kbps でストリーミング、レコーディングを行う場合。

384Kbps：384Kbps でストリーミング、レコーディングを行う場合。

512Kbps：512Kbps でストリーミング、レコーディングを行う場合。

ストリーミング / レコーディング (Page 2/2)



マルチキャストアドレス

ストリーミング配信するアドレスを入力します。

オーディオポート番号

ストリーミング配信するオーディオのポート番号を入力します。

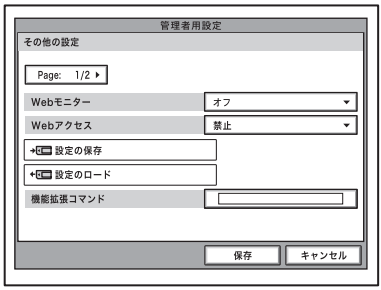
ビデオポート番号

ストリーミング配信するビデオのポート番号を入力します。

ホップ数

ストリーミング配信のホップ数を 0 ～ 255 の間で入力します。

その他の設定（Page 1/2）



Web モニター

Web からの会議状態監視機能（JPEG 画像の自動更新）を許可するかどうかを選びます。

オン： Web からの会議状態監視機能を許可する場合。

オフ： Web からの会議状態監視機能を許可しない場合。

Web アクセス

Web や Telnet から本機へのアクセスを許可するかどうかを選びます。

禁止： Web や Telnet からのアクセスを許可しない場合。

許可： Web や Telnet からのアクセスを許可する場合。

設定の保存

各種設定のデータを“メモリースティック”に保存します。“メモリースティック”の各種設定のデータは上書きされます。

ヒント

本機能を使用して定期的に設定を保存することをおすすめします。

ご注意

アドレス帳、履歴のデータは保存されません。

設定のロード

各種設定のデータを“メモリースティック”からロードします。本体の各種設定のデータは上書きされます。

ご注意

設定の保存およびロードは、元のデータを保存した端末とバージョンが同じ場合に使用してください。保存した端末とロードした端末のバージョンが異なる場合は、正常に認識されないことがあります。

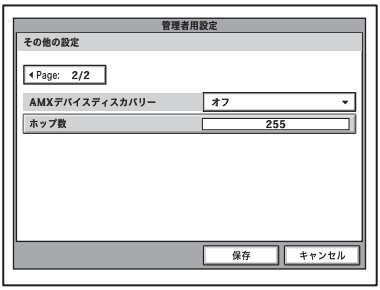
機能拡張コマンド

IPELA VC Link サービス利用を開始するためのコマンドを入力します。

ご注意

IPELA VC Link サービスは、日本国内専用のサービスです。
IPELA VC Link サービスに関しては、本機の販売会社へご確認ください。

その他の設定（Page 2/2）



AMX デバイスディスカバリー

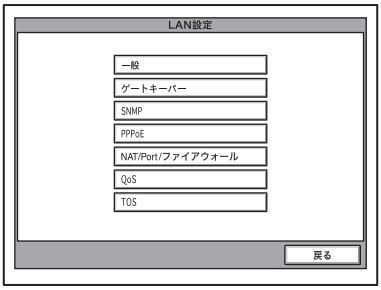
AMX デバイスディスカバリー情報を定期的にネットワーク上にデータ送出するかどうかを選びます。なお、AMX が本機とシリアル接続されている場合、AMX デバイスディスカバリー情報はシリアルにて出力されます。
AMX はビデオ会議システムを管理できる外部コントロールシステムで、本機から送出された AMX デバイスディスカバリー情報を受けとると、自動的に本機をシステムの管理下におきます。
オン：本機能を有効にする場合。
オフ：本機能を無効にする場合。

ホップ数

送出するデータのホップ数を 0 ～ 255 の間で入力します。

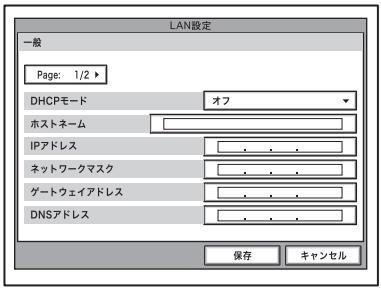
LAN 設定メニュー

設定メニュー（管理者用）で LAN を選ぶと以下のメニューが表示されます。設定したいメニューを選びます。



◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

一般（Page 1/2）



DHCP モード

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol、動的ホスト構成プロトコル）を使用するかどうかを設定します。

オート： IP アドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを自動的に取得します。
LAN 接続後にランチャーメニューまたはインフォメーションメニューで IP アドレスを確認してください。

オフ： DHCP を「オフ」に設定します。「オフ」にしたときは、IP アドレスとネットワークマスク、ゲートウェイアドレス、DNS アドレスを入力してください。

ホストネーム

ホスト名を 30 文字以内で入力します。

IP アドレス

IP アドレスを入力します。

ネットワークマスク

ネットワークマスクを入力します。

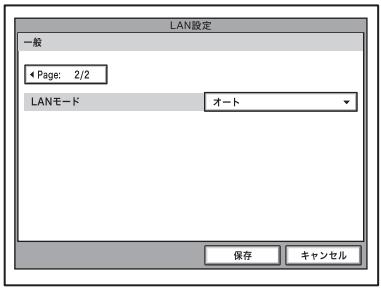
ゲートウェイアドレス

デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。

DNS アドレス

DNS（Domain Name System）サーバーアドレスを入力します。

一般（Page 2/2）



LAN モード

LAN 接続時のインターフェースのタイプと通信モードを選びます。

オート： インターフェースのタイプと通信モードを自動的に認識させる場合。

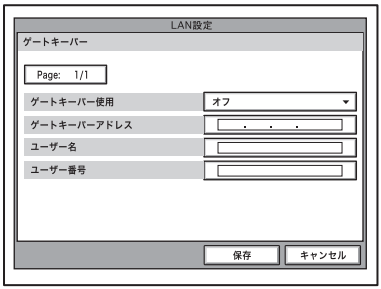
100Mbps Full Duplex：100BASE-TX、全二重モードで接続する場合。

100Mbps Half Duplex：100BASE-TX、半二重モードで接続する場合。

10Mbps Full Duplex：10BASE-T、全二重モードで接続する場合。

10Mbps Half Duplex：10BASE-T、半二重モードで接続する場合。

ゲートキーパー（Page 1/1）



ゲートキーパー使用

アクセスをコントロールするゲートキーパーを使用するかどうかを設定します。ゲートキーパーを使用すると、IP アドレスを使った発信の他に、ユーザー名やユーザー番号を使った発信が可能になります。

ゲートキーパーの登録状況が画面に表示されます。

オート： 自動的にゲートキーパーを探し、使用します。

オン： ゲートキーパーを使用します。

オフ： ゲートキーパーを使用しません。

ゲートキーパーアドレス

「ゲートキーパー使用」を「オン」にしたときに使用するゲートキーパーのアドレスを入力します。

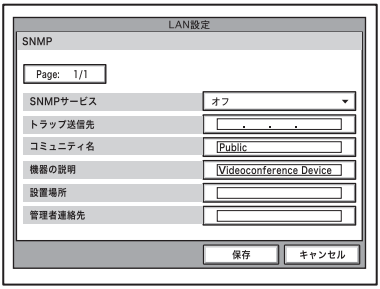
ユーザー名

ゲートキーパーに登録するユーザー名(H.323 エイリアス）を入力します。

ユーザー番号

ゲートキーパーに登録するユーザー番号（E.164 ナンバー）を入力します。

SNMP（Page 1/1）



SNMP サービス

SNMP(Simple Network Management Protocol) エージェントのサービスを有効にするかどうかを設定します。

オン： SNMP エージェントのサービスを有効にします。

オフ： SNMP エージェントのサービスを無効にします。

トラップ送信先

トラップを送信する SNMP マネージャーのアドレスを入力します。

コミュニティ名

SNMP マネージャーが管理するコミュニティ名を 24 文字以内で入力します。デフォルトでは、「public」と入力されています。通常は変更する必要はありません。

機器の説明

この機器についての説明を入力します。デフォルトでは、「Videoconference Device」と入力されています。この項目は変更できません。

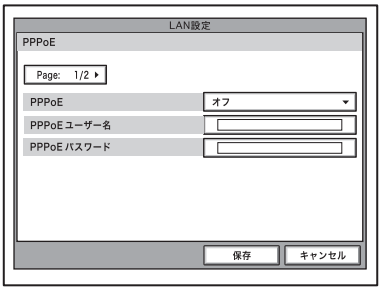
設置場所

この機器を設置している場所を 30 文字以内で入力します。

管理者連絡先

この機器の管理者についての情報を 30 文字以内で入力します。

PPPoE（Page 1/2）



PPPoE

PPPoE を使用して LAN 接続するかどうかの選択をします。

PPPoE を使用すると、フレッツ* ADSL または B フレッツ回線をルーターを接続せずに利用できます。

オン：PPPoE を使用して LAN 接続をする場合。

オフ：PPPoE を使用しない場合。

ご注意

- PPPoE は、NTT のフレッツ ADSL および B フレッツサービスのみ動作保証を行っています。
- 各ページの画面下部に PPPoE の登録状況が表示されます。

*「フレッツ」は、NTT 東日本・NTT 西日本のサービス名であり、登録商標です。

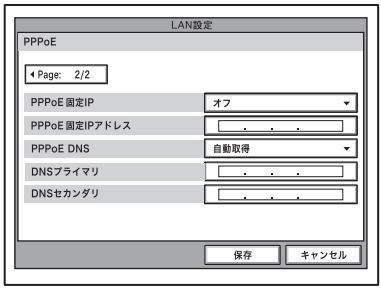
PPPoE ユーザー名

PPPoE を使用して LAN 接続するときのユーザー名を入力します。

PPPoE パスワード

PPPoE を使用して LAN 接続するときのパスワードを入力します。

PPPoE（Page 2/2）



PPPoE 固定 IP

固定 IP アドレスを使用して PPPoE 接続するかどうかの選択をします。

オン：固定 IP アドレスを使用して PPPoE 接続する場合。

オフ：固定 IP アドレスを使用しない場合。

PPPoE 固定 IP アドレス

「PPPoE 固定 IP」が「オン」のとき、固定 IP アドレスを入力します。

PPPoE DNS

PPPoE 接続する場合、DNS サーバーを自分で設定するか自動取得するかを選びます。

設定する：DNS サーバーを自分で設定する場合。

自動取得：DNS サーバーを自動取得する場合。

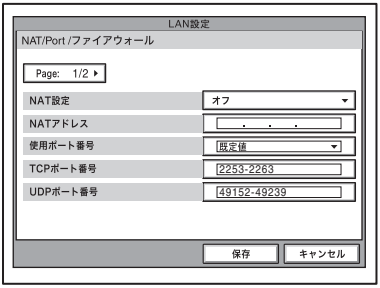
DNS プライマリ

DNS プライマリのアドレスを入力します。

DNS セカンダリ

DNS セカンダリのアドレスを入力します。

NAT/Port/ ファイアウォール (Page 1/2)



NAT 設定

LAN 上の複数のコンピューターがひとつの IP アドレスを共有できる NAT（Network Address Translation）を使用したローカルネットワークに本機を接続するかどうかを選びます。

オート（UPnP）：NAT を使用しているかどうかを自動判別して設定を自動で行う場合。UPnP ルーターを使用している場合のみ有効です。このとき、画面下部に UPnP の登録状況が表示されます。

オン： NAT のネットワークで使用します。

オフ： NAT は使用しません。

NAT アドレス

NAT が使用するグローバル側の IP アドレスを入力します。

使用ポート番号

TCP ポート番号と UDP ポート番号を固定するかどうかを選びます。

ユーザー設定： ユーザーが設定したポート番号を使用する場合。

既定値： デフォルトのポート番号を使用する場合。
TCP ポート番号 2253-2255
UDP ポート番号 49152-49159

TCP ポート番号

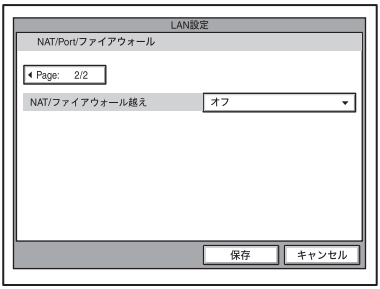
「使用ポート番号」が「ユーザー設定」のとき、TCP ポート番号を入力します。

UDP ポート番号

「使用ポート番号」が「ユーザー設定」のとき、UDP ポート番号を入力します。

◆使用ポート番号について詳しくは、「PCS-PG50 使用ポート番号一覧」（357 ページ）をご覧ください。

NAT/Port/ ファイアウォール (Page 2/2)



NAT/ ファイアウォール越え

H.460 を使用してファイアウォールを越え、別のネットワーク上にある端末との会議を行うかどうかを選びます。

オン（H.460）：H.460 に準拠したファイアウォールを越える会議を行う場合。

オフ：ファイアウォールを越える会議を行わない場合。

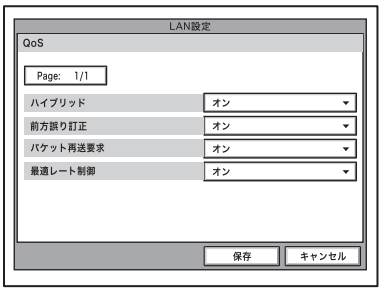
ご注意

この機能を使用する際には、ゲートキーパーの設定が必要です。

◆ゲートキーパーの設定について詳しくは、「ゲートキーパー」（88 ページ）をご覧ください。

QoS（Page 1/1）

通信の状態を最適に保つための機能を設定します。



ハイブリッド

ネットワークの状況に応じて前方誤り訂正機能、パケット再送要求機能および最適レート制御機能を自動的に切り替えます。

オン： 自動的に切替えます。

オフ： 自動的に切替えません。

前方誤り訂正

受信したパケットに誤りがあった場合に、受信側でデータを訂正するかどうかを選びます。

オン： 訂正します。

オフ： 訂正しません。

パケット再送要求

通信中にパケットをロスした場合に、再送要求するかどうかを選びます。

オン:パケット再送を要求します。

オフ:パケット再送を要求しません。

最適レート制御

LAN の使用帯域を常に最適化するかどうかを選びます。

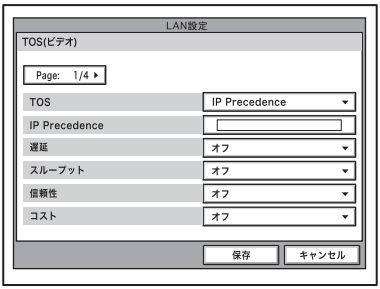
オン： 最適化します。

オフ： 最適化しません。

ご注意

「パケット再送要求」を「オフ」にした場合のみ設定できます。「オン」にしたときは、「最適レート制御」は「オン」になります。

TOS（Page 1/4 – 4/4）



各ページで、データの種類ごとに TOS（Type of Service）Field の設定ができます。

1 ページ目：TOS（ビデオ）
映像データの TOS（Type of Service）Field を設定します。

2 ページ目：TOS（オーディオ）
音声データの TOS（Type of Service）Field を設定します。

3 ページ目：TOS（プレゼンテーション）
データソリューションボックスから出力される RGB データの TOS（Type of Service）Field を設定します。

4 ページ目：TOS（カメラコントロール）
カメラコントロール信号やホワイトボード画像の TOS (Type of Service) Field を設定します。

TOS
TOS（Type of Service）Field の定義方法の選択をします。
オフ：TOS Field の定義をしない場合。
IP Precedence：TOS Field を IP Precedence に定義する場合。
Diffserve：TOS Field を Diffserve に定義する場合。

IP Precedence
IP Precedence 値（0 ～ 7）を入力します。

遅延
TOS Field の Low Delay のビットレートを指定するかどうかを選択します。
オン：TOS Field の Low Delay のビットレートを指定する場合。
オフ：TOS Field の Low Delay のビットレートを指定しない場合。

スループット
TOS Field の High Throughput のビットレートを指定するかどうかを選択します。
オン：TOS Field の High Throughput のビットレートを指定する場合。
オフ：TOS Field の High Throughput のビットレートを指定しない場合。

信頼性
TOS Field の Reliability のビットレートを指定するかどうかを選択します。
オン：TOS Field の Reliability のビットレートを指定する場合。
オフ：TOS Field の Reliability のビットレートを指定しない場合。

コスト
TOS Field の Minimum Cost のビットレートを指定するかどうかを選択します。
オン：TOS Field の Minimum Cost のビットレートを指定する場合。
オフ：TOS Field の Minimum Cost のビットレートを指定しない場合。

Diffserve 値
Diffserve 値（0 ～ 63）を入力します。「TOS」が「Diffserve」の場合のみ表示されます。

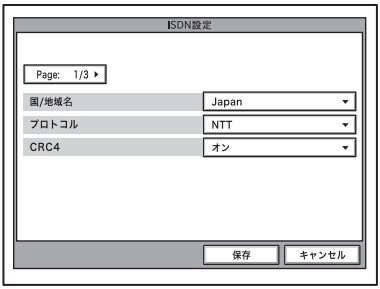
ISDN 設定メニュー

ISDN 回線の設定に関するメニューです。

ご注意

ISDN 設定メニューは、別売りの ISDN ユニット PCSA-B384S、PCSA-B768S または PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）を接続しているときのみ表示されます。

ISDN（Page 1/3）



国 / 地域名

コミュニケーションターミナルを使用する国 / 地域を選びます。（日本国内で使用する場合は、「Japan」を選んでください。）

プロトコル

使用する ISDN 回線のプロトコルを選びます。（日本国内で使用する場合は、「NTT」を選んでください。）

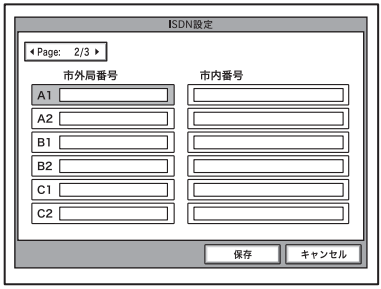
CRC4

CRC4 を有効にするかどうかを選択します。通常はオンで使用してください。

ご注意

「CRC4」は、PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）を使用している場合に表示されます。

ISDN（Page 2/3）



ISDN ユニットのポート番号と対応している欄に、市外局番号、市内番号をそれぞれ入力してください。
ISDN ユニットのポート番号と、入力欄の対応は以下のとおりです。

A1：ISDN ユニットのポート 1
A2：ISDN ユニットのポート 1
B1：ISDN ユニットのポート 2
B2：ISDN ユニットのポート 2
C1：ISDN ユニットのポート 3
C2：ISDN ユニットのポート 3

市外局番号

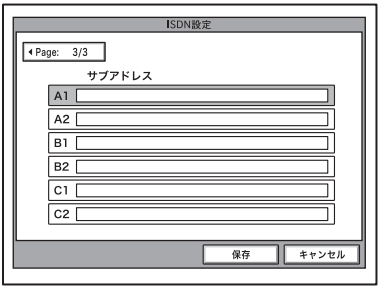
使用する ISDN 回線の市外局番号を入力します。市外局番号の最初の「0」は入力しないでください。

市内番号

使用する ISDN 回線の回線番号（市内番号）を入力します。

ISDN（Page 3/3）

A1 ～ C2 入力欄が表示されます。



サブアドレス

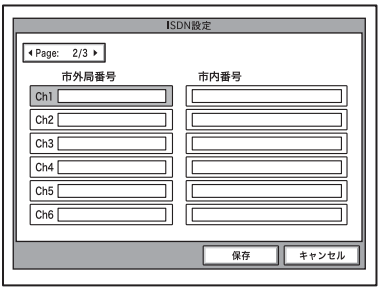
サブアドレスを登録する場合、サブアドレスを入力します。サブアドレスは数字のみ有効です。

ヒント

空欄を選択し、リモコンの決定ボタンを押すと、1 つ上の欄の項目の設定内容がコピーされます。

ご注意

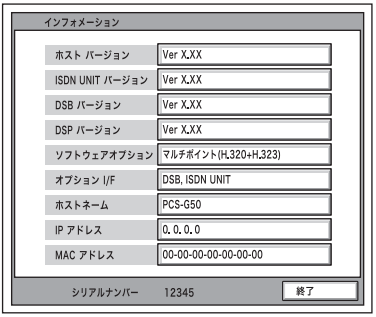
- ISDN ユニット PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）の場合は Ch1 ～ Ch23（T1/J1）、Ch1 ～ Ch30（E1）が表示されます。



- ISDN ユニット PCSA-B768S の場合は次のページに D1 ～ F2 欄が表示されます。使用する回線に応じて D1 ～ F2 欄にも入力してください。

機器情報

コミュニケーションターミナルのバージョンや接続されている専用別売り機器のバージョン、使用しているソフトウェアオプションなどを表示します。



ホストバージョン

コミュニケーションターミナルのソフトウェアバージョンを表示します。

ISDN UNIT バージョン

接続されている ISDN ユニットのバージョンを表示します。

DSB バージョン

接続されているデータソリューションボックス PCSA-DSB1S のバージョンを表示します。

DSP バージョン

内蔵の映像・音声コーデック DSP (Digital Signal Processor) のバージョンを表示します。

ソフトウェアオプション

インストールされているオプションのソフトウェアの種類を表示します。

なし：オプションソフトウェアがインストールされていません。

マルチポイント（H.323）：MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 (LAN 用) がインストールされています。

マルチポイント（H.320）：MCU ソフトウェア（ISDN 用）PCSA-M0G50 がインストールされています。

SIP：SIP ソフトウェア PCSA-SP1 がインストールされています。

マルチポイント（H.323）、SIP: MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 と SIP ソフトウェア PCSA-SP1 がインストールされています。

マルチポイント (H.320)、SIP: MCU ソフトウェア PCSA-M0G50 と SIP ソフトウェア PCSA-SP1 がインストールされています。

マルチポイント (H.320+H.323)、SIP: MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 と PCSA-M0G50、SIP ソフトウェア PCSA-SP1 がインストールされています。

マルチポイント（H.320+H.323）：MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 と PCSA-M0G50 の両方がインストールされています。

オプション I/F

接続されている別売り機器を表示します。

なし：別売り機器は接続されていません。

ISDN UNIT：ISDN ユニット PCSA-B384S、PCSA-B768S または PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）が接続されています。

DSB：データソリューションボックス PCSA-DSB1S が接続されています。

Whiteboard：mimio Xi が接続されています。

ホストネーム

ホスト名を表示します。

IP アドレス

IP アドレスを表示します。

MAC アドレス

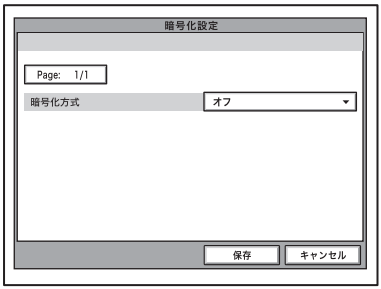
MAC アドレスを表示します。

シリアルナンバー

シリアル番号を表示します。

暗号化設定メニュー

1 ページ目（Page 1/1）



暗号化機能を使った会議を行うときに設定します。
暗号化機能を使うと、機密性の高い会議を行うことが可能です。

◆暗号化機能を使った会議について詳しくは、7 章をご覧ください。

暗号化方式

使用する暗号化機能の方式を選びます。

標準方式：標準の暗号化方式を使用する場合。

独自方式：ソニー独自の暗号化方式を使用する場合。

オフ：暗号化機能を使用しない場合。

暗号化モード

「暗号化方式」で「標準方式」を選んだ場合に表示されます。

接続性優先：標準暗号化接続ができる相手とは暗号化接続します。標準暗号化接続ができない、またはオフになっている相手とは、暗号化せずに接続します。

暗号化優先：標準暗号化接続ができる相手とのみ、接続します。

暗号化パスワード

「暗号化方式」で「独自方式」を選んだ場合に表示されます。
暗号化機能を使用して会議を行うときのパスワードを 13 ～ 20 文字で設定します。

ご注意

- 暗号化機能を持たない端末や、暗号化が「オフ」の端末、パスワードが異なる端末とは接続できません。
- 「暗号化方式」で「独自方式」を選んだ場合、ISDN 接続の端末には会議の内容が暗号化されないで接続されます。
- 暗号化機能は、LAN & ISDN カスケード接続をサポートしていません。

SIP 設定メニュー

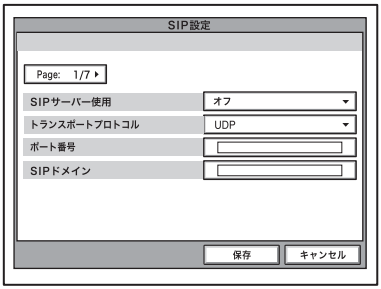
IP 電話などを接続し、SIP（Session Initiation Protocol）を利用して会議を行うときに設定します。

◆SIP を使用した会議について詳しくは、9 章をご覧ください。

ご注意

SIP 設定メニューは、別売りの SIP ソフトウェア PCSA-SP1 をインストールしているときのみ設定可能です。

1 ページ目（Page 1/7）



SIP サーバー使用

SIP サーバーを使用するかどうかを選択します。

オン：SIP サーバーを使用する場合。

オフ：SIP サーバーを使用しない場合。

トランスポートプロトコル

SIP で使用するプロトコルを選択します。

TCP：TCP（Transmission Control Protocol）を使用する場合。

UDP：UDP（User Datagram Protocol）を使用する場合。工場出荷時はこちらが選択されています。

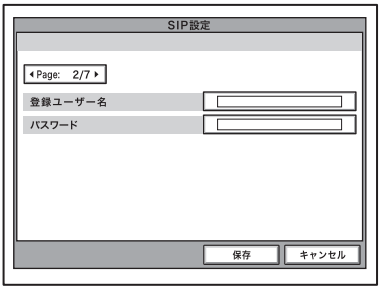
ポート番号

SIP で使用するポート番号を入力します。

SIP ドメイン

SIP ドメインの名前を入力します。

2 ページ目（Page 2/7）



登録ユーザー名

SIP サーバーに登録する端末のユーザー名を 39 文字以内で入力します。

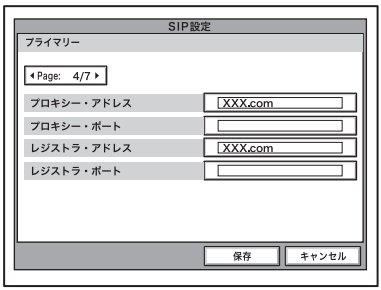
パスワード

SIP サーバーに登録する端末のパスワードを 39 文字以内で入力します。

ご注意

M.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 がインストールされている端末では、多地点会議を行うすべての端末の「登録ユーザー名」と「パスワード」を入力してください。端末が 4 つ以上ある場合は 3 ページ目に設定できます。

4 ～ 7 ページ目 (Page 4/7 － 7/7)



4 つのプロキシサーバー、レジストラサーバーに接続できます。サーバーごとにアドレスとポート番号を入力します。4 ページ目から 7 ページ目の各ページに、1 番目から 4 番目までのサーバーが順番に表示されます。

4 ページ目：プライマリー

5 ページ目：セカンダリー

6 ページ目：トリニティー

7ページ目：フォース

サーバーごとに以下の設定ができます。

プロキシー・アドレス

SIP で使用するプロキシサーバーのドメイン名を入力します。

プロキシー・ポート

SIP で使用するプロキシサーバーのポート番号を入力します。

レジストラ・アドレス

SIP で使用するレジストラサーバーのドメイン名を入力します。

レジストラ・ポート

SIP で使用するレジストラサーバーのポート番号を入力します。

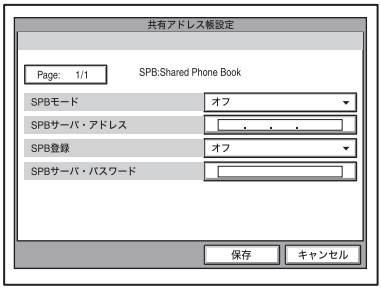
共有アドレス帳設定メニュー

サーバー上にある共有アドレス帳を使用する場合に設定します。

◆共有アドレス帳について詳しくは、「共有アドレス帳を使用する」（105 ページ）をご覧ください。

ご注意

共有アドレス帳設定メニューは、管理者用設定メニューの「共有アドレス帳」を「オン」に設定しているときのみ設定可能です。



SPB モード

共有アドレス帳を管理するサーバーを使用するかどうかを選択します。

オン：共有アドレス帳を管理するサーバーを使用する場合。

オフ：共有アドレス帳を管理するサーバーを使用しない場合。

SPB サーバ・アドレス

共有アドレス帳を管理するサーバーの IP アドレスを入力します。

SPB 自動登録

共有アドレス帳を管理するサーバーへ端末情報の登録を自動で行うかどうかを選択します。

オン：共有アドレス帳を管理するサーバーへの登録を自動で行う場合。

オフ：共有アドレス帳を管理するサーバーへの登録を自動で行わない場合。

SPB サーバ・パスワード

共有アドレス帳を管理するサーバーのパスワードを入力します。

会議の相手を登録するーアドレス帳

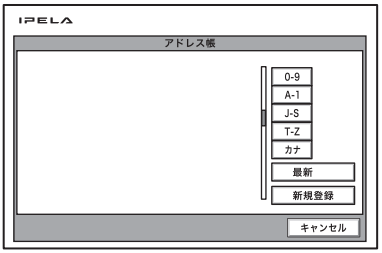
アドレス帳に相手の電話番号や IP アドレスなどを登録しておくと、簡単にダイヤルすることができます。本機のアドレス帳には 500 件までの相手を登録できます。各リストに静止画（相手の写真など）を登録しておくこともできます。

また、本機のアドレス帳とは別に、“メモリースティック”にプライベートアドレス帳を作ることもできます。

新しい相手を登録する

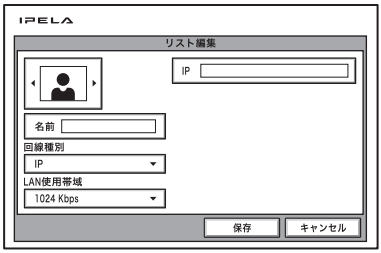
1 リモコンの ↓/↑/←/→ ボタンを押してランチャーメニューの「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳が表示されます。



2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「新規登録」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集が表示されます。



3 名前欄に、相手の名前を入力する。

◆入力のしかたは、「文字や数字を入力する」（58 ページ）をご覧ください。

4 「回線種別」で回線インターフェースを設定する。

IP: LAN を使ってテレビ会議システムと接続する場合。

ISDN: 通常の ISDN 回線でテレビ会議システムと接続する場合。

音声電話 : 通常の ISDN 回線で音声のみの電話と接続する場合。（ボイスミーティング）

マルチポイント : LAN および ISDN 回線で多地点（マルチポイント）接続をする場合。

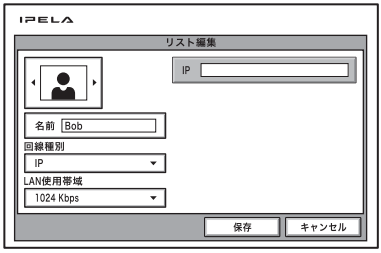
SIP: SIP を使って IP 電話などと接続する場合。

選んだ回線インターフェースによって、リスト編集画面が切り替わります。

◆マルチポイントの登録のしかたは「多地点会議の相手をマルチポイント接続リストに登録する」（249 ページ）をご覧ください。

5 相手の回線の情報を設定する。

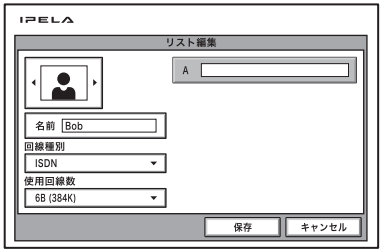
手順 4 で「IP」を選んだとき



① IP アドレス入力欄に相手の IP アドレスを入力する。
DNS サーバー使用時はホスト名とドメイン名（例 host.domain）、ゲートキーパー使用時は相手側の LAN 設定メニューに登録してあるユーザー名やユーザー番号（88 ページ）を入力してください。

② LAN 使用帯域を選択する。

手順 4 で「ISDN」または「音声電話」を選んだとき



① 回線番号Aの入力欄に相手の回線番号を入力する。
サブアドレスを登録する場合は、回線番号とサブアドレスを「*（アスタリスク）」で区切って入力します。サブアドレスは、数字のみ有効です。
発信設定メニューの「詳細設定」（63 ページ）を「オン」に設定しているとき、回線番号欄は A1、A2、B1、B2、C1、C2 の 6 つ現れます。相手の ISDN 回線番号は A1 欄に入力してください。

② 発信時に使用するISDN回線のチャンネル数を選択する。

6 アドレス帳に表示するアイコンまたは“メモリースティック”の静止画を選ぶ。



リモコンの ← または → ボタンを押して、アイコンまたは静止画を選び、決定ボタンを押す。

ご注意

静止画が保存されている“メモリースティック”が本機に挿入されていないときは、静止画を選ぶことはできません。

7 リモコンの ↑/↓/←/→ で「保存」を選び、決定ボタンを押す。

設定した内容が登録されます。

ご注意

「名前」を空欄にして登録した場合は、IP アドレスまたは回線番号が名前になります。

ボンディング機能を使わないで接続するには

相手のテレビ会議装置がボンディング機能を持っていないとき、相手の ISDN 回線番号を 1 つだけ入力したのでは、複数の使用回線数分を接続できません。
このような場合など、相手の ISDN 回線番号をすべて指定して接続したいときは、ボンディング機能を使用しないで接続することができます。
発信設定メニューの詳細設定（63 ページ）を「オン」にし、リスト編集メニュー下部の「詳細設定」から発信設定メニューを表示し、ボンディングを「オート」にしてください。リスト編集メニューに回線番号欄 A1、A2、B1、B2、C1、C2 が現れますので、「使用回線数」で選んだ回線数分の相手の ISDN 回線番号を入力してください。
相手の ISDN 回線番号をすべて指定して接続できるのは、使用回線数最大 6B までです。

ヒント

使用回線が 2B のときは、詳細ダイヤルメニューから回線種別で「ISDN (2B)」を選んで接続することもできます。

発信の詳細を設定するには

発信設定メニューの「詳細設定」を「オン」に設定しているときは、リスト編集メニュー下部に詳細設定ボタンが表示されます。リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「詳細設定」を選び、決定ボタンを押すと、発信詳細設定メニューが表示され、他の設定を変更することができます。

ご注意

リスト編集メニューの「詳細設定」で設定した内容は発信設定メニューで設定した内容よりも優先されます。

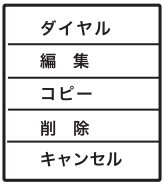
アドレス帳を修正する

アドレス帳に登録してある電話番号やIP アドレス、名前、設定を修正することができます。

1 アドレス帳メニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して修正したい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。



3 リモコンの ↑/↓ ボタンを押して「編集」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。

4 電話番号や IP アドレス、名前、設定を修正する。

5 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。

登録内容の修正が完了します。

アドレス帳の設定をコピーする

1 アドレス帳メニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押してコピーしたい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

3 リモコンの ↑/↓ ボタンを押して「コピー」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ相手がコピーされ、元のファイル名のうしろに「-2」が追加されます。設定はすでにコピーされているので、変更したい項目だけ修正して使用することができます。

登録した相手を削除する

アドレス帳に登録してある相手を削除するときは、次のように操作します。

1 アドレス帳メニューを表示する。

2 リモコンの↑/↓/←/→ボタンを押して削除したい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

3 リモコンの ↑/↓ ボタンを押して「削除」を選び、決定ボタンを押す。

「リストを削除しますか？」という確認のメッセージが表示されます。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「OK」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ相手が削除されます。

削除を中止するときは

手順４で「キャンセル」を選び、決定ボタンを押す。

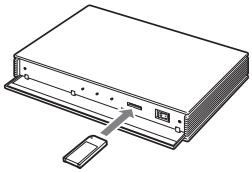
プライベートアドレス帳を作成する

“メモリースティック”に自分専用のアドレス帳（プライベートアドレス帳）を作成することができます。一度作成すると、本機に“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に切り換わります。また、“メモリースティック”を入れるだけでプライベートアドレス帳に登録したリストの１つに自動発信させることもできます。

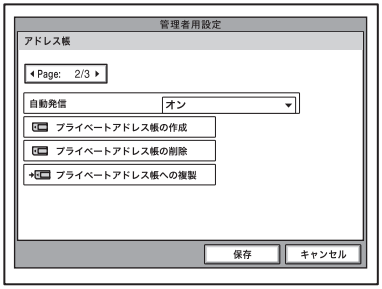
プライベートアドレス帳に相手を登録するには

1 プライベートアドレス帳を記憶させたい“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



2 管理者用設定メニューの「プライベートアドレス帳」を表示する。



◆メニューの表示のしかたは、「設定メニュー（管理者用）を表示する」（61ページ）をご覧ください。

3 「プライベートアドレス帳の作成」を選ぶ。

“メモリースティック”に空の「プライベートアドレス帳」フォルダと空のファイルが作成されます。

4 相手を新規登録する。

登録のしかたは、本体のアドレス帳の場合と同じです。「新しい相手を登録する」（98 ページ）の手順２～７をご覧ください。

プライベートアドレス帳の修正のしかたや、プライベートアドレス帳に登録した相手を削除したり、アドレス帳の設定をコピーしたりする方法も、本体のアドレス帳の場合と同じです。プライベートアドレス帳を画面に表示した状態で、101 ページの操作をしてください。

本体のアドレス帳をプライベートアドレス帳として複製するには

プライベートアドレス帳を記憶させたい“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込み、管理者用設定メニューの「プライベートアドレス帳」で「プライベートアドレス帳への複製」を選びます。本体に登録されているアドレス帳が“メモリースティック”に複製されます。

“メモリースティック”からプライベートアドレス帳を削除するには

削除したいプライベートアドレス帳が登録されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込み、管理者用設定メニューの「プライベートアドレス帳」で「プライベートアドレス帳の削除」を選びます。プライベートアドレス帳が“メモリースティック”から削除されます。

プライベートアドレス帳のリストの１つに自動発信するには

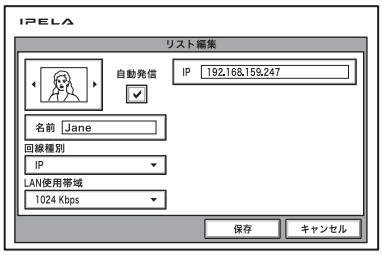
管理者設定メニューの「プライベートアドレス帳」で「自動発信」を「オン」にしておくと、“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込むだけでプライベートアドレス帳に登録したリストの１つに自動的に発信できます。

1 プライベートアドレス帳メニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して自動発信したい相手を選び、決定ボタンを押す。

3 リモコンの ↑/↓ ボタンを押して「編集」を選び、決定ボタンを押す。

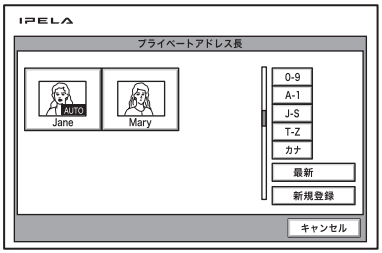
リスト編集メニューが表示されます。



4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「自動発信」を選び、決定ボタンを押す。

5 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。

設定が登録され、プライベートアドレス帳メニューのリストに「AUTO」と表示されます。



共有アドレス帳を使用する

共有アドレス帳機能を使用することで、サーバー上にあるアドレス帳を複数台のソニー製ビデオコミュニケーションシステムで使用できるようになります。

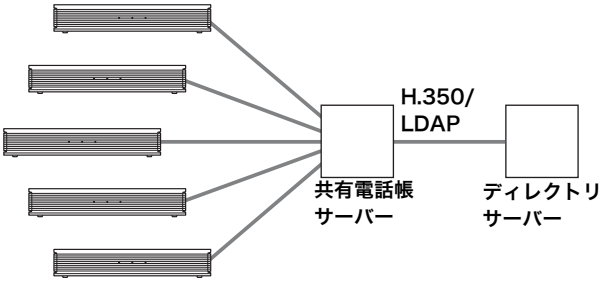
◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

ご注意

- 共有アドレス帳に登録された相手には通常のアドレス帳と同様に発信ができますが、相手の回線種別がマルチポイントの場合は発信できません。
- 共有アドレス帳へのリスト登録、変更、削除、および画像の貼り付けはできません。また、共有アドレス帳に登録された相手をプライベートアドレス帳にコピーすることはできません。

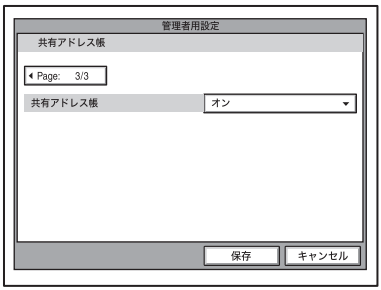
システム構成例

このシステム構成では、H.350 を使用したアドレス帳共有が可能になります。



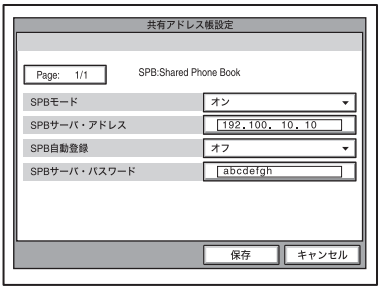
共有アドレス帳を使用するには

1 管理者用設定メニュー―共有アドレス帳 3 ページ目で「共有アドレス帳」を「オン」にする。



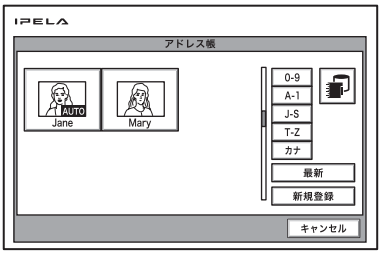
設定メニュー（管理者用）画面に「共有アドレス帳」ボタンが表示され、共有アドレス帳設定ができるようになります。

2 共有アドレス帳設定メニューで、「SPB モード」を「オン」にし、「SPB サーバ・アドレス」、「SPB サーバ・パスワード」にそれぞれ適切な値を入力する。



共有アドレス帳を表示する

アドレス帳画面右の  を選び、決定ボタンを押すことで共有アドレス帳に切り替わります。



共有アドレス帳からアドレス帳またはプライベートアドレス帳に切り換えるには、同じ操作を再度行ってください。

◆共有アドレス帳に登録された相手への発信方法は、アドレス帳と同様です。発信方法について詳しくは、「アドレス帳に登録している相手を呼び出す」（129 ページ）をご覧ください。

ネットワーク構成ごとの設定方法

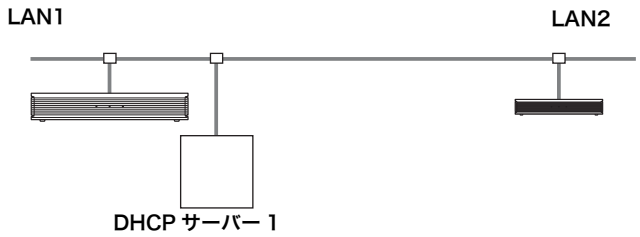
ここでは、さまざまなネットワークで使用する際の本機の設定方法を、使用するネットワーク構成ごとに説明します。

◆LAN 設定メニューについて詳しくは、「LAN 設定メニュー」（87 ページ）をご覧ください。

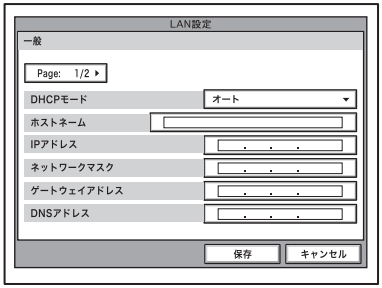
◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。

LAN（DHCP を介しての接続）

構成例



LAN 設定メニュー－一般 1 ページ目で「DHCP モード」を「オート」にします。



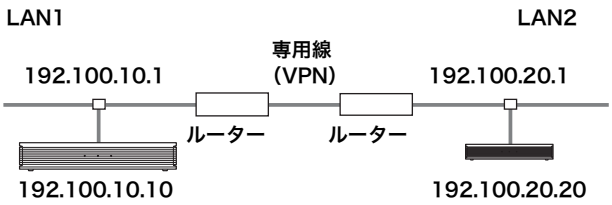
IP アドレスがランチャーメニューに表示されていれば、正しく設定できています。

ビデオ会議を行うには

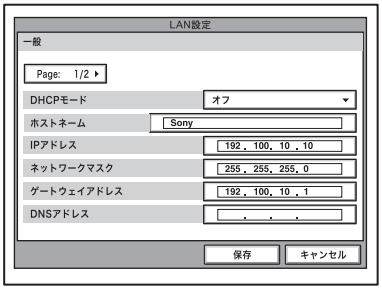
「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

LAN（ルーターを介しての接続）

構成例



LAN 設定メニュー－一般の 1 ページ目で、「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力します。



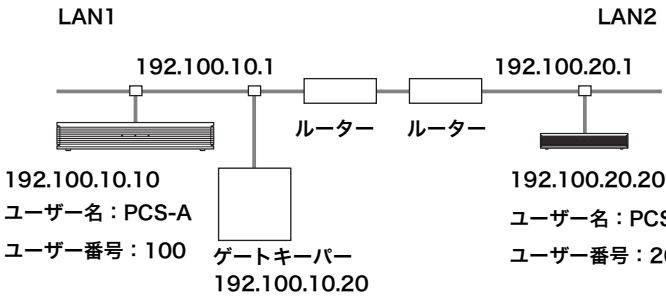
設定した IP アドレスが、ランチャーメニューに表示されていれば、正しく設定できています。

ビデオ会議を行うには

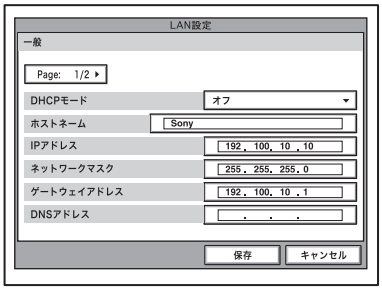
「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

LAN（ゲートキーパーを介しての接続）

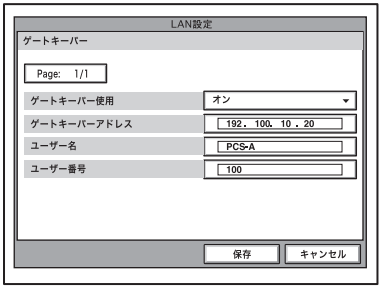
構成例



1 LAN 設定メニューー一般の 1 ページ目で、「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。



2 LAN 設定メニューーゲートキーパーで「ゲートキーパー使用」を「オン」にし、「ゲートキーパーアドレス」、「ユーザー名」、「ユーザー番号」にそれぞれ適切な値を入力する。



設定したIPアドレスがランチャーメニューに表示され、LAN設定メニュー－一般の2ページ目下段に「Registration Confirm」と表示されていれば、正しく設定できています。

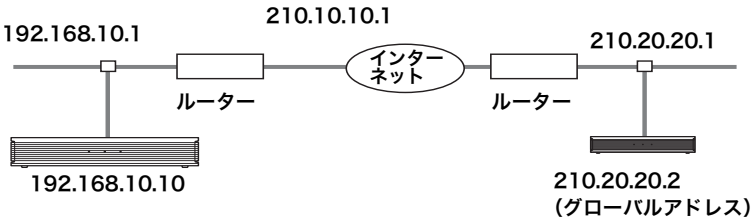
ビデオ会議を行うには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側で設定した「ユーザー名」または「ユーザー番号」を入力して、ダイヤルします。

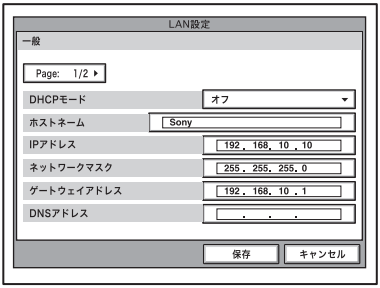
LAN（NAT環境での接続）

NATを使用すると、LAN上の複数のコンピューターが1つのIPアドレスを共有できます。ここでは、NAT環境とグローバルIP環境とのビデオ会議のための設定を説明します。

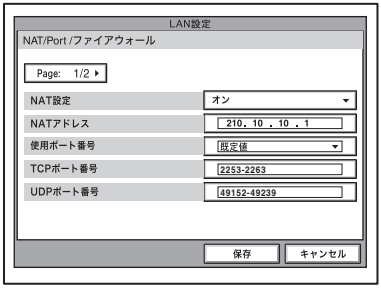
構成例



1 LAN設定メニュー－一般の1ページ目で、「ホストネーム」に任意の名称を、「IPアドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。



2 LAN 設定メニュー－ NAT/ Port/ ファイアウォールで「NAT 設定」を「オン」、「NAT アドレス」に適切な値を入力する。



ランチャーメニューに設定した NAT アドレスが表示されていれば、正しく設定できています。
ランチャーメニューに NAT アドレスを表示させるには、一般設定メニューの「メニュー画面」（77 ページ）で「番号表示」を「NAT：アドレス」に設定する必要があります。

3 相手側で、LAN 設定メニュー－一般の 1 ページ目を同様に設定する。

ご注意

相手側は NAT 環境ではないので、LAN 設定メニュー－ NAT/ Port/ ファイアウォールの設定を行う必要はありません。

ビデオ会議を行うには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

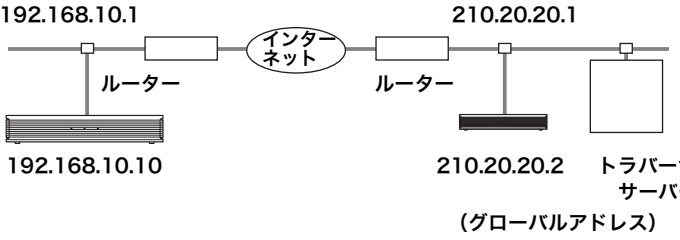
ご注意

NAT 環境で本機を使用する場合、本機から相手側（グローバル IP）への発信は可能ですが、相手側から本機への発信はルーターの設定を行う必要があります。ルーターの設定について詳しくは、ネットワーク担当者などにご相談ください。

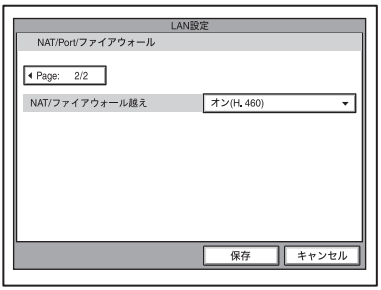
LAN（H.460 を使用したファイアウォール越えでの接続）

H.460 を使用すると、ファイアウォールを越え、別のネットワーク上にある端末との会議を行うことができます。

構成例



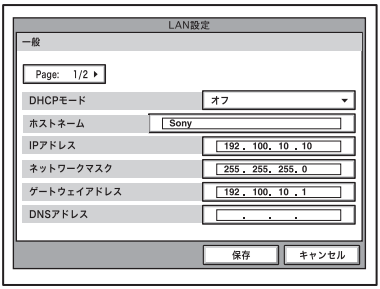
1 LAN 設定メニュー－ NAT/Port/ ファイアウォールで「NAT/ファイアウォール越え」を「オン（H.460)」に設定する。



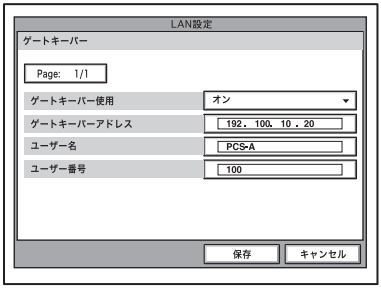
ご注意

この機能を使用する際には、ゲートキーパーの設定が必要です。

2 LAN 設定メニューー一般の 1 ページ目で、「ホストネーム」に任意の名称を、「IP アドレス」、「ネットワークマスク」、「ゲートウェイアドレス」にそれぞれ適切な値を入力する。



3 LAN 設定メニューーゲートキーパーで「ゲートキーパー使用」を「オン」にし、「ゲートキーパーアドレス」に適切な値を入力する。



設定した IP アドレスがランチャーメニューに表示され、LAN 設定メニューー一般の 2 ページ目下段に「Registration Confirm」と表示されていれば、正しく設定できています。

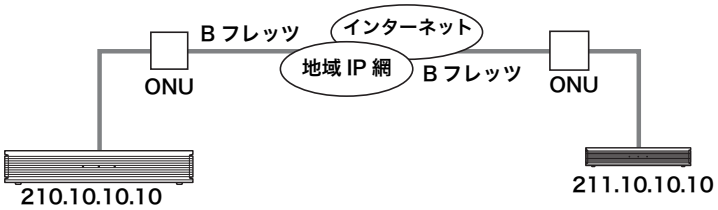
ビデオ会議を行うには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

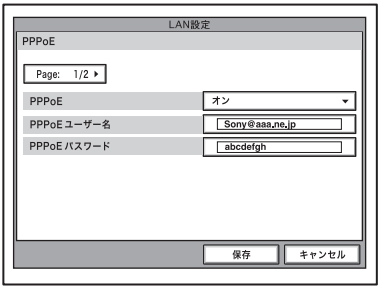
LAN（PPPoE による接続）

PPPoE を使用すると、ルーターを使用せずに、フレッツ ADSL または B フレッツを利用できます。
フレッツ ADSL の場合、モデム（ブリッジモードで使用）が必要になります。

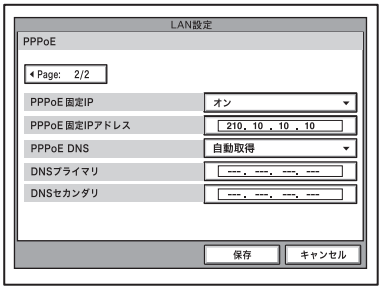
構成例



1 LAN 設定メニュー ー PPPoE の 1 ページ目で、「PPPoE」を「オン」にし、「PPPoE ユーザー名」、「PPPoE パスワード」にそれぞれプロバイダーから取得したものを入力する。



2 プロバイダーから固定 IP を取得している場合は、LAN 設定メニュー ー PPPoE の 2 ページ目で、「PPPoE 固定 IP」を「オン」にし、「PPPoE 固定 IP アドレス」に取得した IP アドレスを入力する。



ランチャーメニューに設定した IP アドレスが表示されていれば、正しく設定できています。

ご注意

プロバイダーによって固定の DNS サーバアドレスが指定されている場合は、「PPPoE DNS」を「設定する」にし、指定されたアドレスを「DNS プライマリ」、「DNS セカンダリ」に入力してください。

3 相手側も同様に設定する。

ビデオ会議を行うには

「回線種別」で「IP」を選択し、相手側の IP アドレスを入力して、ダイヤルします。

ISDN による接続

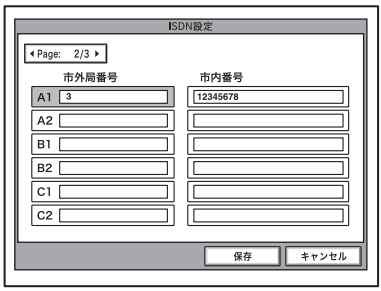
1 ISDN 設定メニューの 2 ページ目で、「市外局番号」、「市内局番号」にそれぞれ適切な値を入力する。

ご注意

「市外局番号」の冒頭が「0」の場合は、冒頭の「0」は入力しないでください。

◆ISDN 設定メニューについて詳しくは、「ISDN 設定メニュー」（92 ページ）をご覧ください。

◆詳しい設定については、ネットワーク担当者などにご相談ください。



ランチャーメニューに設定した回線番号が表示されていれば、正しく設定できています。

2 相手側も同様に設定する。

ご注意

ISDN ユニットのポートは、番号が若い順に使用してください。

○：1、2、3・・・

×：1、5、2・・・

ビデオ会議を行うには

「回線種別」で「ISDN」を選択し、相手側の回線番号を入力して、ダイヤルします。

◆会議の始めかたについて詳しくは、「自分側から会議を始める」（116 ページ）をご覧ください。

3章
日常の会議

この章では、管理者が2章のシステムの登録と設定をすませていることを前提に、日常の会議の行いかたを説明します。
この章で説明する会議は、LANまたはISDN回線（別売りのISDNユニットPCSA-B384S、PCSA-B768SまたはPCSA-PRI使用）を使って接続する2地点間のテレビ会議です。

◆“メモリースティック”や別売りの機器を使った会議を行うには、4章をご覧ください。

◆別売りのデータソリューションボックスPCSA-DSB1Sを使ったデータ会議を行うには、5章をご覧ください。

◆ 暗号化会議を行うには、7章をご覧ください。

◆多地点会議を行うには、8章をご覧ください。

◆SIPを使った会議を行うには、9章をご覧ください。

自分側から会議を始める

自分側から会議を始めるときは、会議を行う相手に電話をかけます(ダイヤルします)。相手とつながると、通常の電話で音声による会話を行うのと同じように、映像と音声による会議が始まります。
まず、相手を呼び出す方法を説明します。

電源を入れる

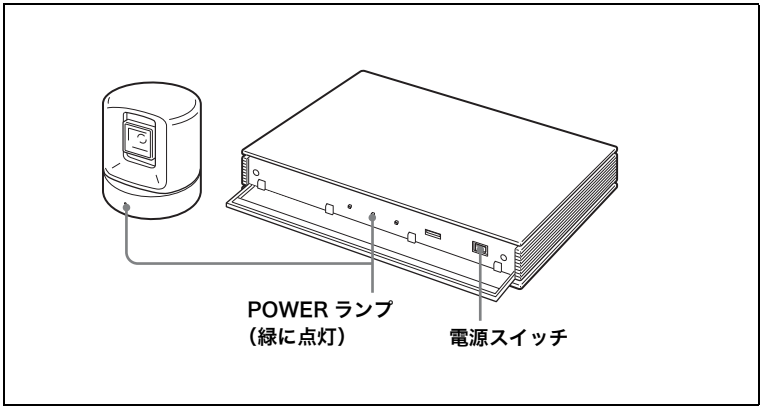
1 モニター用テレビの電源を入れる。

ソニー製モニター用テレビのリモコン受光部にIRリピーターを設置している場合は、モニター用テレビをスタンバイ状態にします。(コミュニケーションターミナルの電源を入れると、モニター用テレビの電源が入ります。)

2 会議で使用するその他の機器の電源を入れる。

3 コミュニケーションターミナルの前面パネルを開けて、右側の電源スイッチをオン（I 側）にする。

コミュニケーションターミナルの電源が入ります。



コミュニケーションターミナル前面の 3 つのランプとカメラの POWER ランプがいったんすべて点灯し、その後、POWER ランプだけが緑色に点灯します。

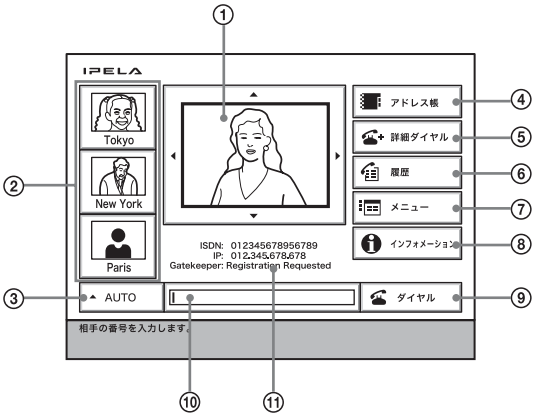
モニター用テレビにはランチャーメニューが表示され、自分側のカメラが写している映像も表示されます。

ご注意

電源が入ると、カメラが動作テストを行います。指を挟まないようにご注意ください。

ランチャーメニューの見かた

電源を入れたときなど通信中でないときは、ランチャーメニューが画面に表示されます。ランチャーメニューには、自分側のカメラの映像や、自分側のシステムの状況、メニュー操作用のボタンなどが表示されています。



① スクリーン

自分側のカメラの映像が表示されます。

② ダイレクトアドレス帳ボタン

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して呼び出したい相手のサムネイルを選び、決定ボタンを押します。相手を呼び出します。

③ 回線種別

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押してこのボタンを選び、決定ボタンを押すと、設定項目が表示されます。
使用する回線を選びます。

④ アドレス帳ボタン

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押してこのボタンを選び、決定ボタンを押すと、アドレス帳メニューが表示されます。

⑤ 詳細ダイヤルボタン

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押してこのボタンを選び、決定ボタンを押すと、詳細ダイヤルメニューが表示されます。

⑥ 履歴ボタン

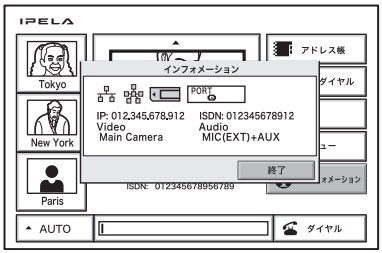
リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押してこのボタンを選び、決定ボタンを押すと、履歴メニューが表示されます。

⑦ メニューボタン

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押してこのボタンを選び、決定ボタンを押すと、設定メニューが表示されます。

⑧ インフォメーションボタン

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押してこのボタンを選び、決定ボタンを押すと、インフォメーションメニューが表示されます。



システムに応じて以下のアイコンまたは文字が表示されます。

インジケーター	名称	説明
	LAN	LAN が使用可能なときは濃く、使用不可能なときは薄く表示されます。
	マルチポイントモード	多地点会議のための MCU ソフトウェアがインストールされていて、マルチポイントモードを「オン」に設定した場合に表示されます。
	メモリースティックあり	“メモリースティック”が挿入されているとき表示されます。
PORT	ISDN	ISDN ユニットが接続されているときに表示され、使用可能な ISDN ポートを表示します。
IP:	IP アドレス	本機の IP アドレスを表示します。 一般設定メニューの「メニュー画面」（77 ページ）の「番号表示」の設定を変更すると、ゲートキーパーのユーザー名、NAT アドレスなどを表示できます。
ISDN:	ISDN 回線番号	本機の ISDN 回線番号を表示します。

インジケーター	名称	説明
Video	映像入力	自分側のシステムの映像入力を表示します。 **Main Camera:** メインカメラの映像 **IR1:** 別売りのドキュメントスタンド PCS-DS150（現在は販売されていません。）の映像 **AUX1:** AUX IN 端子に接続されている機器の映像 **ヒント** 映像入力名は、映像般設定メニューの「入力選択名」（74 ページ）で設定した名前が表示されます。
Audio	音声入力	自分側のシステムの音声入力を表示します。 **MIC(EXT):** コミュニケーションターミナルに接続した外部マイクの音声 **MIC(DSB):** データソリューションボックス PCSA-DSB1S（別売り）に接続した外部マイクの音声 **MIC(AUX):** データソリューションボックス PCSA-DSB1S の AUX IN 端子に接続した外部マイクの音声 **AUX:** コミュニケーションターミナルの AUDIO IN 端子に接続した外部機器の音声 **MIC(EXT)+AUX:** コミュニケーションターミナルに接続した外部マイクの音声と外部機器の音声 **MIC(DSB)+AUX:** データソリューションボックス PCSA-DSB1S に接続した外部マイクの音声と外部機器の音声 **MIC(AUX)+AUX:** データソリューションボックス PCSA-DSB1S の AUX IN 端子に接続した外部マイクの音声と外部機器の音声

インジケーター	名称	説明
Audio	音声入力	**CTE (LINE):** コミュニケーションターミナルの AUDIO IN 端子に接続したコミュニケーショントランスデューサー CTE-600（現在は販売されていません。）の音声 **CTE (DSB):** データソリューションボックス PCSA-DSB1S の AUX IN 端子に接続したコミュニケーショントランスデューサー CTE-600（現在は販売されていません。）の音声 **EC-MIC:** コミュニケーションターミナルの EC-MIC 端子に接続したエコーキャンセリングマイク PCSA-A7 の音声 **EC-MIC+AUX:** コミュニケーションターミナルの EC-MIC 端子に接続したエコーキャンセリングマイク PCSA-A7 の音声と外部機器の音声

⑨ ダイヤルボタン

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでこのボタンを選び、決定ボタンを押すと、番号入力欄に入力した相手を呼び出します。

⑩ 番号入力欄

アドレス帳に登録されていない相手を呼び出すときは、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでこの欄を選び、IP アドレスまたは ISDN 回線番号を入力します。

⑪ ステータス表示

PPPoE の認証状況、UPnP の登録状況、DHCP からの IP アドレスの取得状況、ゲートキーパーへの登録状況、SIP サーバーへの登録状況が表示されます。表示されるのは、登録中とエラーが発生したときだけで、登録に成功したときは表示されません。

表示	意味
SIP: Registration Requested	SIP サーバーへの登録中
SIP: Registration Failed	SIP サーバーへの登録に失敗
Gatekeeper: Registration Requested	ゲートキーパーへの登録要求中
Gatekeeper: Registration Failed	ゲートキーパーへの登録に失敗

表示	意味
DHCP: Assigning	DHCP サーバーから IP アドレスを取得中
DHCP: Assignment Failed	DHCP サーバーからの IP アドレスの取得に失敗
UPnP: Registration Requested	UPnP の登録中
UPnP: Registration Failed	UPnP の登録に失敗
PPPoE: Admitting	PPPoE の認証中
PPPoE: Admission Failed	PPPoE の認証に失敗

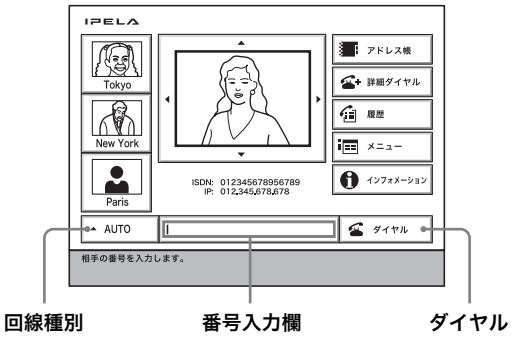
ご注意

一般設定メニューの「メニュー画面」―「番号表示」を「表示しない」に設定している場合は、表示されません。

◆「番号表示」の設定については、「一般設定メニュー」（74 ページ）をご覧ください。

相手を呼び出す

番号入力欄に直接番号を入力して相手を呼び出す



1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでランチャーメニューの「回線種別」を選び、決定ボタンを押す。

2 リモコンの ↑/↓ ボタンで回線の種類を選び、決定ボタンを押す。

AUTO: 番号入力欄に入力した内容に応じて本機が自動的に使用回線種別を切り替えます。

IP: LAN を使ってビデオ会議システムと接続する場合に選びます。

ISDN: ISDN 回線でビデオ会議システムと接続する場合に選びます。

TEL: ISDN 回線で音声のみの電話と接続する場合に選びます。（ボイスミーティング）

SIP: SIP を使って IP 電話などと接続する場合に選びます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで番号入力欄を選び、決定ボタンを押す。

4 リモコンの数字ボタンで相手の IP アドレスまたは回線番号を入力し、決定ボタンを押す。

5 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。

手順 4 で入力した IP アドレスまたは回線番号にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示され、コミュニケーションターミナルの ON LINE ランプ（青色）が点滅します。
相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示され、ON LINE ランプ（青色）が点灯します。

ご注意

発信設定メニューの「詳細設定」が「オン」のときは、手順 5 のあとにダイアログが表示されます。

「詳細設定」: 詳細設定メニューが表示されます。

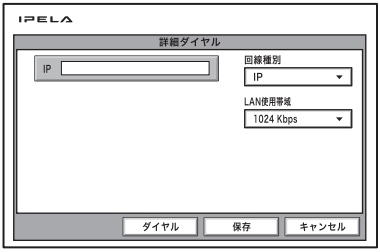
「ダイヤル」: 相手を呼び出します。

「キャンセル」: 呼び出しを中止します。

アドレス帳に登録していない相手を呼び出す

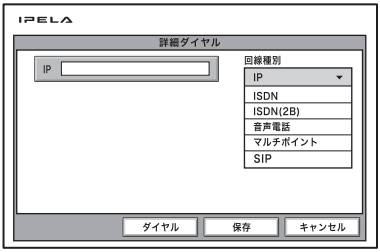
1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでランチャーメニューの「詳細ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。または、リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。

詳細ダイヤルメニューが表示されます。



2 会議に使用する回線種別を選ぶ。

リモコンの ▲/▼/◀/▶ ボタンで「回線種別」を選び、決定ボタンを押すと、設定項目が表示されます。▼ または ▲ ボタンで使用する回線種別を選び、決定ボタンを押してください。



IP: LAN を使ってテレビ会議システムと接続する場合。

ISDN: ISDN 回線でテレビ会議システムと接続する場合。

ISDN (2B): ISDN 回線で、H.221 方式のテレビ会議システムと 2B チャンネルで接続する場合

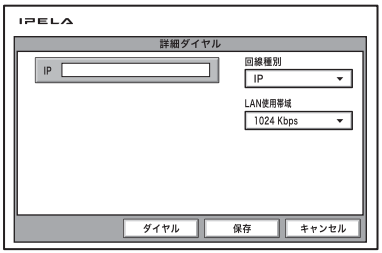
音声電話 : ISDN 回線で音声のみの電話と接続する場合。(ボイスミーティング)

マルチポイント : テレビ会議システムを多地点接続する場合。

SIP: SIP を使って SIP 端末や IP 電話などと接続する場合。

3 会議に使用する回線を設定する。

LAN を使用する場合



① IP アドレス入力欄に相手の IP アドレスを入力する。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで IP アドレス入力欄を選び、決定ボタンを押します。その後、リモコンの数字ボタンで IP アドレスを入力し、決定ボタンを押します。
DNS サーバー使用時はホスト名とドメイン名（例 host.domain）、ゲートキーパー使用時は相手側の LAN 設定メニューに登録してあるユーザー名やユーザー番号（88 ページ）を IP アドレス入力欄に入力し、決定ボタンを押します。

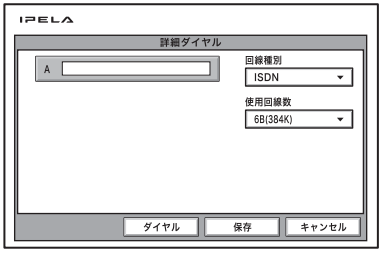
ヒント

- → ボタンまたは #⏎ ボタンを押すと、「.」（ドット）が入力できます。
- 入力する文字を間違えたときは、リモコンの子画面（後退）ボタンを押してください。最後に入力した文字が消えます。
- 入力した IP アドレスを消去したいときは、リモコンの画面表示（消去）ボタンを押してください。

② LAN 使用帯域を選択する。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「LAN 使用帯域」を選び、決定ボタンを押すと、設定項目が表示されます。↓ または ↑ ボタンで設定項目を選び、決定ボタンを押します。

ISDN 回線を使用する場合



① 電話番号入力欄 A に相手の回線番号を入力する。

リモコンの ▲/▼/◀/▶ ボタンで電話番号入力欄を選び、決定ボタンを押します。その後、リモコンの数字ボタンで回線番号を入力し、決定ボタンを押します。

ご注意

プリフィックスが設定してある場合は、電話番号入力欄には、0 発信などの発信番号（プリフィックス）を入力しないでください。「プリフィックス」の設定については、「発信設定メニュー」（63 ページ）をご覧ください。

ヒント

ISDN を選んだときは、複数（2B(128K) 以上）の「使用回線数」を選んでいても、相手側の ISDN 回線番号は 1 つ入力するだけで、使用回線数分を自動的に接続することができます。

- ISDN (2B) を選んだときは、電話番号入力欄 A1 と A2 が表示されます。A1 に入力した後に A2 を選ぶと、それぞれに別々の ISDN 回線番号を入力することができます。また、A2 が選ばれている状態でリモコンの決定ボタンを押すと、A1 に入力した電話番号を A2 にコピーすることができます。
- 入力する数字を間違えたときは、リモコンの子画面（後退）ボタンを押してください。最後に入力した数字が消えます。
- 入力した回線番号を消去したいときは、リモコンの画面表示（消去）ボタンを押してください。

② 発信時に使用する ISDN 回線の回線数を選ぶ。

リモコンの ▲/▼/◀/▶ ボタンで「使用回線数」を選び、決定ボタンを押すと、設定項目が表示されます。▼ または ▲ ボタンで設定項目を選び、決定ボタンを押します。

ヒント

相手側の ISDN 回線番号をすべて指定して接続するには

相手のテレビ会議装置がボンディング機能を持っていないとき、相手の ISDN 回線番号を 1 つだけ入力したのでは、複数の使用回線数分を接続することができません。

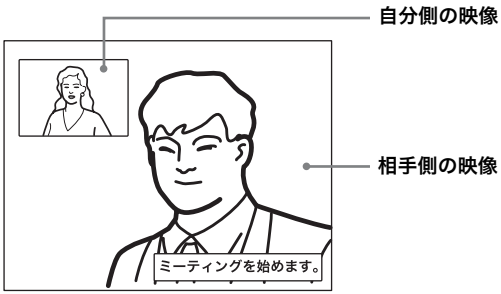
このような場合など相手の ISDN 回線番号をすべて指定して接続したいときは、2 章の「会議の相手を登録する－アドレス帳」（98 ページ）を参照して、アドレス帳に ISDN 回線番号を使用回線数分登録してから、「アドレス帳に登録している相手を呼び出す」（129 ページ）に従って接続してください。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでメニュー下部の「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。

手順 3 で入力した IP アドレスまたは回線番号にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示され、コミュニケーションターミナルの ON LINE ランプ（青色）が点滅します。

相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示され、ON LINE ランプ（青色）が点灯します。

これで会議を始めることができます。



相手につながる前にダイヤルを中止するには

モニター画面に「発信中」と表示されている間に、リモコンの決定ボタン、または、リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押してください。

入力した番号をアドレス帳に保存するには

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押してください。リスト編集メニューが表示されるので、入力した番号をアドレス帳に保存してください。

◆リスト編集メニューについて詳しくは、「会議の相手を登録する－アドレス帳」（98 ページ）をご覧ください。

リダイヤルするには

詳細ダイヤルメニューを使用してダイヤルすると、次に詳細ダイヤルメニューを表示したときに、前回ダイヤルした番号が IP アドレス入力欄または電話番号入力欄に入力された状態になっています。**（リダイヤル機能）**

ご注意

下記の場合は、リダイヤル機能は働きません。

- 電源を切ったり、スタンバイ状態にしたとき。
- IP アドレスや回線番号を入力してもダイヤルしなかったとき。

ランチャーメニューのダイレクトアドレス帳から相手を呼び出す

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで呼び出したい相手のダイレクトアドレス帳を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓ ボタンで「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。

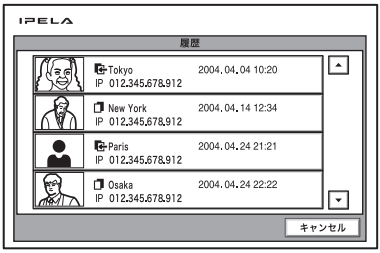
選んだ相手にダイヤルが始まります。

発信設定メニューの「詳細設定」が「オン」のときは「詳細設定」ボタンが選べます。
「詳細設定」ボタンを押すと「詳細設定」メニューが表示されます。

会議の履歴から相手を呼び出す

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでランチャーメニューの「履歴」を選び、決定ボタンを押す。

履歴メニューが表示されます。



2 リモコンの ↑/↓ ボタンで呼び出したい相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

3 リモコンの ↑/↓ ボタンで「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ相手にダイヤルが始まります。

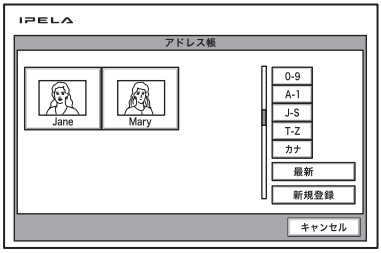
発信の詳細を設定するには

発信設定メニューの「詳細設定」を「オン」に設定しているときは、ダイアログが表示されます。リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「詳細設定」を選び、決定ボタンを押すと、詳細設定メニューが表示され、他の設定を変更することができます。

アドレス帳に登録している相手を呼び出す

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでランチャーメニューの「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。

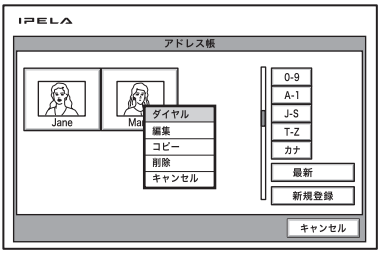
アドレス帳が表示されます。



◆希望の相手が表示されないときは、「アドレス帳を検索するには」（132 ページ）をご覧ください。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで呼び出す相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

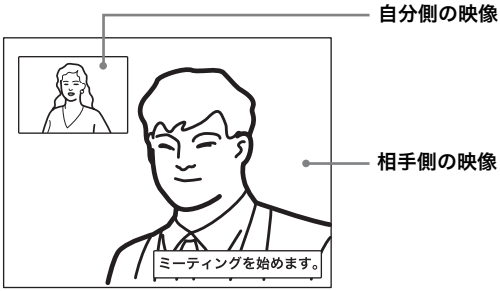


3 リモコンの ↓ または ↑ ボタンで「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。

手順 2 で選んだ相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中と表示され、コミュニケーションターミナルの ON LINE ランプ（青色）が点滅します。

相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示され、ON LINE ランプが点灯します。

これで会議を始めることができます。



相手につながる前にダイヤルを中止するには

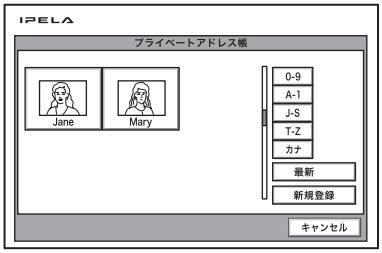
モニター画面に「発信中」と表示されている間に、リモコンの決定ボタン、または、リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押してください。

プライベートアドレス帳から相手を呼び出すには

1 プライベートアドレス帳が作成されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

アドレス帳の内容がプライベートアドレス帳に切り換わります。

2 ランチャーメニューの「プライベートアドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。



3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでプライベートアドレス帳から呼び出したい相手を選び、決定ボタンを押す。

4 サブメニューから「ダイヤル」を選んで決定ボタンを押すか、リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。

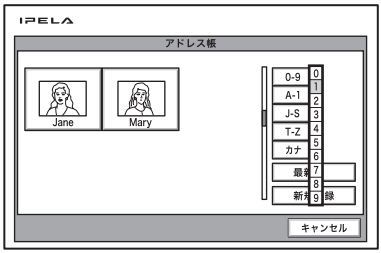
選んだ相手にダイヤルされます。

ヒント

プライベートアドレス帳の自動発信機能が「オン」になっているときは、“メモリースティック”を差し込むだけで自動的にダイヤルが始まります。

アドレス帳を検索するには

アドレス帳のリストには一画面に 6 件分が表示できます。
「最新」を選ぶと、最近ダイヤルした相手が最大 6 件表示されます。
「0—9」、「A—I」、「J—S」、「T—Z」、「カナ」の項目を選ぶと、右側にサブメニューが表示されます。サブメニューの数字またはアルファベットを選ぶと、その数字またはアルファベット、カナで始まる相手を含め 6 件が表示されます。



ヒント

リモコンの数字（0 ～ 9）ボタンを押しても検索できます。数字ボタンを押すと、ボタン上に表示されている 1 番目のアルファベットで始まる相手から最大 6 件表示されます。(0) を押した場合は、「最新」を選んだ場合と同じ表示になります。

相手から会議に呼び出される

相手から呼び出しを受けたとき（着信)、自動着信に設定してあるか手動着信に設定してあるかによって、操作の方法が異なります。

自動着信

相手からの呼び出しを自動的に受け、会議を始めます。
毎回操作をする手間が省けますが、自動的につながってしまうので、準備をしていないときでも、自分側の様子がすぐに相手側に伝わってしまいます。

手動着信

呼び出しを受けると、呼び出し音が鳴ります。回線をつなぐ操作をすることにより会議が始まります。
会議を始めてよいか確認をしてから相手とつなぐことができます。

ご注意

- コミュニケーションターミナル右側面の電源スイッチがオン（**I** 側）になっていないと、着信できません。
- モニター用テレビの電源が入っていることも確認してください。ソニー製モニター用テレビのリモコン受光部に IR リピーターを設置している場合は、モニター用テレビをスタンバイ状態にしておきます。

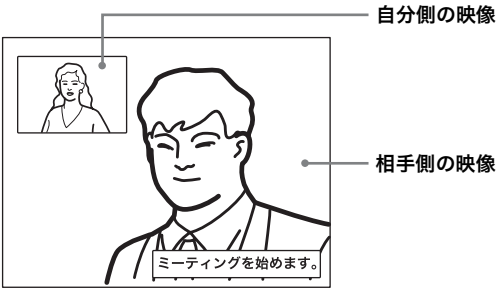
◆着信方法の設定については、着信設定メニューの「自動着信」（64 ページ）をご覧ください。

相手から呼び出される

自動着信のときは

相手から呼び出しを受けると、コミュニケーションターミナルから呼び出し音が鳴り、モニター画面に「着信中」と表示されます。
自動的に接続すると、相手の映像がモニター画面に映り、相手の音声も聞こえるようになります。この時点でこちらの映像と音声が相手に送られます。
モニター画面には「ミーティングを始めます。」と表示されます。

これで会議を始めることができます。



ヒント

会議中に音声やカメラを調節する方法は、136 ～ 158 ページをご覧ください。

手動着信のときは

相手から呼び出しを受けると、コミュニケーションターミナルから呼び出し音が鳴り、モニター画面に「着信があります。応答しますか?」というメッセージが表示されます。

リモコンの ←/→ ボタンを押して「OK」を選び、決定ボタンを押してください。
回線の接続が始まります。
接続すると、相手の映像がモニター画面に映り、相手の音声も聞こえるようになります。この時点でこちらの映像と音声が相手に送られます。
モニター画面には「ミーティングを始めます。」と表示されます。
これで会議を始めることができます。

ヒント

会議中に音声やカメラを調節する方法は、136 ～ 158 ページをご覧ください。

回線をつなぎたくないときは

リモコンの ←/→ ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。呼び出し音が止まり、接続がキャンセルされます。

ISDN 回線が接続されなかったときは

何らかの理由で ISDN 回線がつながらなかったときは、「回線を完全につなぐことができません（ここに ISDN 理由コードとメッセージが現れます。）」と表示されます。

◆ISDN 理由コードとメッセージについては、「メッセージ一覧」（326 ページ）をご覧ください。

会議を終了する

1 リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。

モニター画面に「切断しますか？」と表示されます。

2 リモコンの ←/→ ボタンで「OK」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンをもう一度押す。

これで、回線が切れます。

ご注意

回線を切っても、コミュニケーションターミナルの電源は入ったままです。

回線を切らないときは

リモコンの ←/→ ボタンで「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

接続していた相手をアドレス帳に登録するには

一般設定メニューの「会議終了後のリスト登録」が「オン」に設定されていれば、会議終了後に相手がアドレス帳に登録されていない場合、「この相手をリストに登録しますか？」のメッセージが表示されます。「OK」を選ぶとリスト編集メニューが表示されます。

ご注意

「会議終了後のリスト登録」が「オフ」になっていると、このメッセージは表示されません。

◆「会議終了後のリスト登録」の設定については、「一般設定メニュー」（75 ページ）をご覧ください。

音声を調節する

受信音量を調節する

相手から送られてくる音声の音量を調節することができます。
リモコンの音量＋ボタンを押すと音量が大きくなり、音量－ボタンを押すと小さくなります。
音量＋ / －ボタンを押すと、モニター画面に音量調節バーが表示されます。一定時間操作しないと、音量調節バーはモニター画面から消えます。



ご注意

- あらかじめモニター側の主音量を設定しておいてください。
- 音量を大きくしすぎるとハウリングが起こることがあります。その場合は音量を小さくしてください。

音声の送信を一時的にカットするーマイクミュート機能

会議中にこちらから相手に送る音声を一時的にカットすることができます。
リモコンのマイク オン / オフボタンを押します。
マイク オン / オフボタンを 1 回押すと、相手に送られる音声がカットされ、相手に聞こえなくなります。モニター画面に「MIC OFF」インジケーターが表示されます。



音声の送信を再開するときは

もう 1 回マイク オン / オフボタンを押します。
モニター画面から「MIC OFF」インジケーターが消えます。

着信時の音声の送信をカットするー着信時マイクオフ

相手から呼び出しを受けたとき、こちら側の音声が相手に送信されないように設定することができます。
着信設定メニューの「着信時マイク」を「オフ」に設定しておくと、着信時、映像のみ相手に送信されます。モニター画面に「MIC OFF」インジケーターが表示されます。

◆「着信時マイク」の設定については、「着信設定メニュー」（64 ページ）をご覧ください。

相手に音声を送信するには

リモコンのマイクオン / オフボタンを押します。
モニター画面から「MIC OFF」インジケーターが消えます。

送信する映像と音声の時間差を調整するーリップシンク機能

会議を行う際に、音だけが早く届き、その後で映像が届くことがあります。その結果、映像の口の動きと音声が一致せず、対話がスムーズに運ばなくなることがあります。
リップシンク機能を使うと、相手に届く映像と音声がほぼ一致するように自動的に調整されます。ただし、映像に合わせて音声も遅れて届くようになることがあります。
音声設定メニューの「リップシンク」を「オン」に設定しておくと、リップシンク機能が動作します。

◆「リップシンク」の設定については、「音声設定メニュー」（71 ページ）をご覧ください。

ご注意

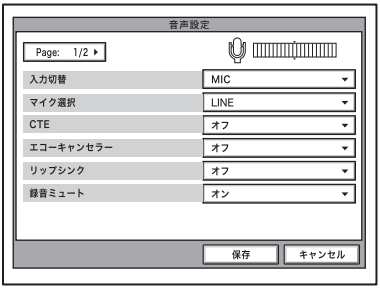
相手から送られてくる映像と音声にリップシンク機能による調整が必要な場合は、相手側に、リップシンク機能を使うよう依頼してください。

エコーを軽減するーエコーキャンセラー

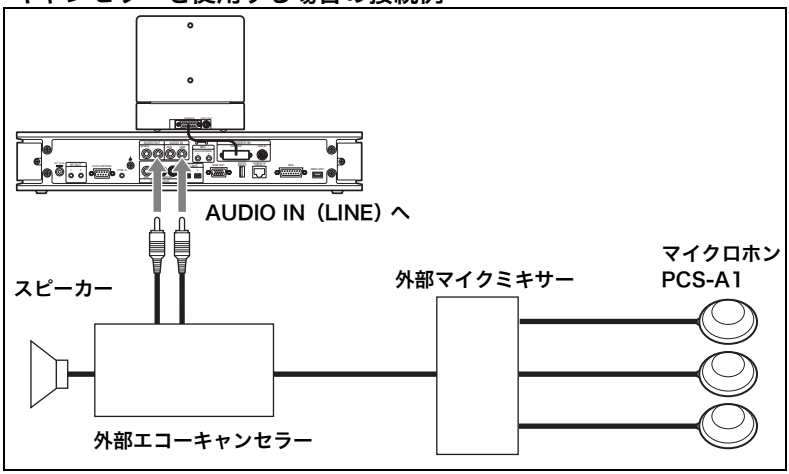
コミュニケーションターミナルには、音声の伝送時に発生するエコーを消すエコーキャンセラー機能があります。
音声設定メニューの「エコーキャンセラー」を「オン」に設定しておくと、内蔵のエコーキャンセラーが動作します。
外部機器のエコーキャンセラーを使用する場合は、「エコーキャンセラー」を「オフ」に設定してください。

◆音声設定メニューについて詳しくは、「音声設定メニュー」（71 ページ）をご覧ください。

外部エコーキャンセラーを使用する場合の音声設定メニューの設定



外部エコーキャンセラーを使用する場合の接続例



◆外部エコーキャンセラーの接続のしかたについては、使用する外部エコーキャンセラーの取扱説明書をご覧ください。

カメラを調節する

相手に送っている自分側のカメラの映像を希望の状態に調節することができます。
また、通信中に相手側のカメラを操作して、送られてくる映像を調節することもできます。

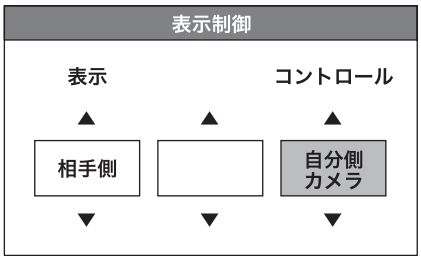
操作するカメラを決める

最初に、自分側と相手側のどちらのカメラを操作するか決めます。

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの ←/→ ボタンで「コントロール」を選び、↑/↓ ボタンで「自分側カメラ」または「相手側カメラ」を切り換える。



3 リモコンの決定ボタンを押す。

相手側のカメラが選ばれているときは、モニター画面に「FAR」インジケーターが表示されます。
自分側のカメラが選ばれているときは、モニター画面に「FAR」インジケーターは表示されません。

ご注意

- 相手側のカメラを操作するときは、自分側、相手側ともに通信モード設定メニューの「遠隔カメラ制御」を「オン」に設定してください。この設定が違っていると相手側のカメラは操作できません。
- 通信中のカメラ遠隔操作方式が H.281 でない場合、相手側のカメラを操作することはできません。相手側のカメラを操作できない場合は、相手のカメラの遠隔操作方式をご確認ください。

• 自分側と相手側から同時に同じカメラを操作すると、正常に動作しない場合があります。

アングルとズームを調節する

カメラのアングルとズームを調節して、モニター画面に映す映像を決めます。
通信中はモニター画面から、通信中でないときはランチャーメニューからアングルとズームが調節できます。また、カメラメニューからも調節できます。

ご注意

ズームは、デジタルズームの設定によりズーム倍率を変えることができます。

◆デジタルズームの設定について詳しくは、「機器設定（Page 2/2）」（75ページ）をご覧ください。

通信中にモニター画面で調節するには

1 調節したいカメラを選ぶ。

リモコンの相手 / 自分ボタンを押し、表示制御メニューの「コントロール」で「自分側カメラ」または「相手側カメラ」を選びます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押す。

自分側または相手側のカメラのアングルが調節され、子画面またはフルスクリーンに調節された画像が映ります。

3 リモコンのズームボタンを押して、ズームを調節する。

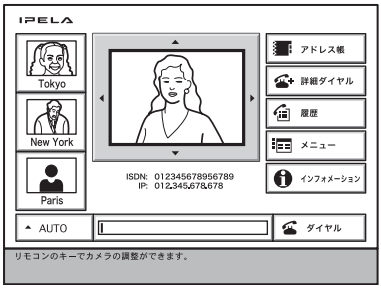
T ボタンを押すと画像が大きくなり、W ボタンを押すと小さくなります。

ランチャーメニューで調節するには（非通信中）

自分側カメラのアングルとズームが調節できます。

1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでスクリーンを選び（スクリーン枠が黄色になります）、決定ボタンを押す。

スクリーン枠の色が変わり、調節ができるようになります。



2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して、写したい部分がスクリーンに表示されるよう、カメラアングルを調節する。

3 リモコンのズームボタンを押して、ズームを調節する。

T ボタンを押すと画像が大きくなり、W ボタンを押すと小さくなります。

4 リモコンの決定ボタンを押す。

スクリーン枠の色が戻り、カメラ調節が完了します。

カメラメニューで調整するには

1 リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで (カメラ) アイコンを選ぶ。

カメラメニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「カメラ調整」を選び、決定ボタンを押す。

スクリーン枠の色が変わり、調節ができるようになります。



3 通信中の場合、リモコンの相手 / 自分ボタンを押して調節したいカメラを選ぶ。

相手側のカメラが選ばれているときは、モニター画面に「FAR」インジケーターが表示されます。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して、写したい部分がスクリーンに表示されるよう、カメラアングルを調節する。

5 リモコンのズームボタンを押して、ズームを調節する。

T ボタンを押すと画像が大きくなり、W ボタンを押すと小さくなります。

フォーカスと画像の明るさを調整する

通常、フォーカスと画像のブライトネス（明るさ）は、自動的に調整されますが、手動で調整することもできます。
通常は自動調整にしておいてください。最適なフォーカスと明るさが得られます。

カメラ調整モードにするには

1 リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで (カメラ) アイコンを選ぶ。

カメラメニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「カメラ調整」を選び、決定ボタンを押す。

スクリーン枠の色が変わり、調節ができるようになります。

スクリーンの下に操作ガイダンスが表示されます。



3 通信中の場合、リモコンの相手 / 自分ボタンを押して調節したいカメラを選ぶ。

相手側のカメラが選ばれているときは、モニター画面に「FAR」インジケーターが表示されます。

ご注意

相手側カメラは、フォーカスの手動調整だけが可能です。

フルスクリーン表示にするには

カメラメニュー表示中に、フルスクリーン表示にするには、「カメラ調整」を選び、リモコンの決定ボタンを押してから子画面ボタンを押してください。フルスクリーン表示になります。リモコンの戻るボタンまたは子画面ボタンを押すと、フルスクリーン表示は解除されます。

フォーカス、画像の明るさを自動調整するには

リモコンの 0 ボタンを押します。
「Auto Camera」インジケーターが表示され、フォーカスと画像の明るさが自動調整されます。

フォーカスを手動調整するには

遠くにフォーカスを合わせるときは、リモコンの # →ボタンを繰り返し押します。「Focus Far」インジケーターが表示されます。
近くにフォーカスを合わせるときは、リモコンの * ←ボタンを繰り返し押します。「Focus Near」インジケーターが表示されます。

画像の明るさを手動調整するには

画面を明るくするときは、リモコンの 9 ボタンを繰り返し押します。
「Brightness +」インジケーターが表示されます。
画面を暗くするときは、リモコンの 7 ボタンを繰り返し押します。
「Brightness −」インジケーターが表示されます。

逆光補正機能を使用するには

背景が明るすぎて、被写体が暗めになるときは、逆光補正機能を使用してください。
リモコンの 8 ボタンを押すたびに、逆光補正のオンオフが切り換わります。逆光補正オンのときは「Backlight On」インジケーターが表示されます。逆光補正オフのときは「Backlight Off」インジケーターが表示されます。

アングルとズームの設定をプリセット登録する

アングルとズームの設定を 6 つまでプリセット登録しておくことができます。一度プリセット登録しておくと、その設定を簡単に呼び出してカメラを移動することができます。
通信中はモニター画面から、通信中でないときはランチャーメニューからプリセット登録できます。また、カメラメニューからもプリセット登録できます。

通信中にモニター画面でプリセットするには

「自分側カメラ」または「相手側カメラ」のアングルとズームをプリセット登録できます。

1 アングルとズームをプリセットしたいカメラを選ぶ。

リモコンの相手 / 自分ボタンを押し、表示制御メニューの「コントロール」で「自分側カメラ」または「相手側カメラ」を選びます。

2 アングルとズームを調節する。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでアングルを、ズームボタンでズームを調節します。

3 リモコンの１～６ボタンを押したままにする。

選んだ番号にアングルとズームの設定が登録され、「プリセット１（～６）番に登録されました。」というメッセージが表示されます。

ランチャーメニューでプリセットするには（非通信中）

自分側カメラのアングルとズームがプリセット登録できます。

1 ランチャーメニューでアングルとズームを調節する。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでスクリーンを選んで決定ボタンを押してから、↑/↓/←/→ ボタンでアングルを、ズームボタンでズームを調節します。

2 リモコンの１～６ボタンを押したままにする。

選んだ番号にアングルとズームの設定が登録され、「プリセット１（～６）番に登録されました。」というメッセージが表示されます。

カメラメニューでプリセットするには

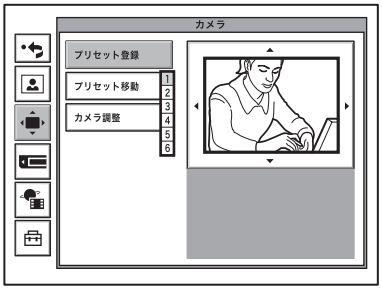
1 リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで (カメラ) アイコンを選ぶ。

カメラメニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「プリセット登録」を選び、決定ボタンを押す。

3 リモコンの ↑/↓ ボタンで設定をプリセットしたい番号 (1 ～ 6) を選び、決定ボタンを押す。

スクリーン枠の色が変わり、調節ができるようになります。



4 通信中の場合、リモコンの相手 / 自分ボタンを押して調節したいカメラを選ぶ。

相手側のカメラが選ばれているときは、モニター画面に「FAR」インジケーターが表示されます。

5 アングルとズームを調節する。

リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでアングルを、ズームボタンでズームを調節します。

6 リモコンの決定ボタンを押す。

選択した番号に設定値が登録されます。

プリセットしたアングルとズームの設定を呼び出す

通信中はモニター画面から、通信中でないときはランチャーメニューからプリセットしたアングルとズームの設定を呼び出してカメラを移動できます。また、カメラメニューからもプリセット位置にカメラを移動できます。

通信中にモニター画面でプリセットした設定を呼び出すには

1 プリセット位置に移動させたいカメラを選ぶ。

リモコンの相手 / 自分ボタンを押し、表示制御メニューの「コントロール」で「自分側カメラ」または「相手側カメラ」を選びます。

2 リモコンの 1 ～ 6 ボタンを押す。

選んだプリセット番号の設定値が呼び出され、カメラが移動します。 のインジケーターが表示されます。

ランチャーメニューでプリセットした設定を呼び出すには（非通信中）

自分側カメラをプリセットした位置に移動できます。

1 ランチャーメニューでスクリーンを選んで決定ボタンを押す。

2 リモコンの 1 ～ 6 ボタンを押す。

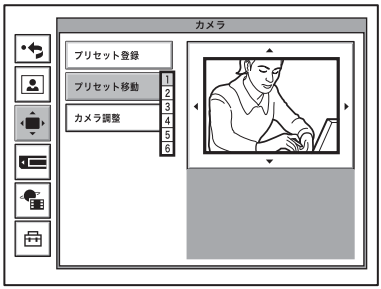
選んだプリセット番号の設定値が呼び出され、カメラが移動します。「プリセット 1（～ 6）番に移動しました。」というメッセージが表示されます。

カメラメニューでプリセットした設定を呼び出すには

1 カメラメニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「プリセット移動」を選び、決定ボタンを押す。

3 リモコンの ↑/↓ ボタンで設定を呼び出したい番号（1 ～ 6）を選び、決定ボタンを押す。



選んだプリセット番号の設定値が呼び出され、カメラが移動します。

バックアップについて

カメラ位置のプリセットなど各設定の登録情報は、コミュニケーションターミナルの電源スイッチをオフにしても、カメラに内蔵の充電式電池により、保持されています。

ご注意

- 充電式電池は、システムを使用している限り常に充電されていますが、システムの使用時間が短い場合、徐々に放電を続け、12 週間近く使用していないと、完全に放電してしまいます。登録情報を消したくないときは、充電してください。
- 充電するには、カメラをコミュニケーションターミナルに接続したまま、電源スイッチをオンにして約 48 時間放置してください。

カメラ映像を静止画にして送信する

カメラで撮影した動画を静止画として、送信することができます。文字の多い画像などは、静止画として送ったほうが、画像がはっきりし、文字などが読みやすくなります。

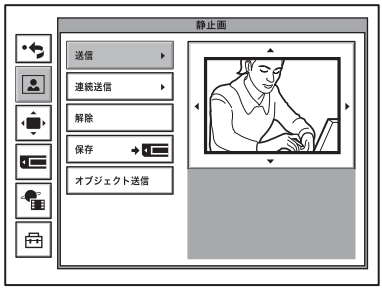
静止画メニューから送信する

通信中、自分側のカメラで撮影した動画を静止画にして相手に送信することができます。静止画は 1 枚だけ送信したり、連続して送信することもできます。

1 静止画メニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで [ ] (静止画) アイコンを選びます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「送信」または「連続送信」を選び、決定ボタンを押す。



3 必要があれば、カメラのアングルとズームを調整し、決定ボタンを押す。

◆アングルとズームの設定について詳しくは、「アングルとズームを調節する」(141 ページ)をご覧ください。

モニター画面の動画が静止画になり、相手に送信されます。

「送信」を選んだときは、静止画が 1 枚だけ送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました。」というメッセージが表示されます。

「連続送信」を選んだときは、静止画が次々と送信されます。静止画が送信される間隔は、通信速度と画像によって変わります。

連続送信を中止するには

リモコンの決定ボタンを押すとサブメニューが表示されます。↑/↓ボタンで「停止」を選び、決定ボタンを押してください。

静止画表示を解除するには

リモコンの決定ボタンを押すとサブメニューが表示されます。↑/↓ボタンで「解除」を選び、決定ボタンを押してください。

通信中サブメニューから送信する

通信中、モニター画面に表示されたカメラ映像を静止画にして、1 枚だけ簡単に相手に送信することができます。

1 通信中にリモコンの決定ボタンを押す。

通信中サブメニューが表示されます。



2 リモコンの↑/↓ボタンを押して「送信」を選び、決定ボタンを押す。

モニター画面の動画が静止画になり、1 枚だけ相手に送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました。」というメッセージが表示されます。

ご注意

静止画を受信中は送信はできません。解除を実行してから送信してください。

静止画表示を解除するには

リモコンの決定ボタンを押して通信中サブメニューを表示し、「解除」を選んで決定ボタンを押します。(静止画表示中はサブメニューの「送信」が「解除」に変わります。)

通信中サブメニューを消すには

通信中サブメニューの「終了」を選び、リモコンの決定ボタンを押します。

相手側から静止画を受信する

通信モード設定メニュー 3 ページ目の「遠隔カメラ制御」が「オン」になっていれば、通信中に相手側の映像を静止画として受信することができます。

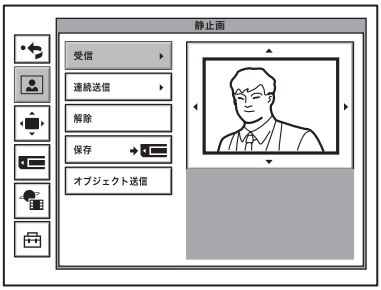
1 静止画メニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで [静止画] (静止画) アイコンを選びます。

2 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

静止画メニュー内のモニター画面に相手側のカメラの映像と「FAR」インジケーターが表示され、静止画メニューの「送信」が「受信」に変わります。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「受信」を選び、決定ボタンを押す。



モニター画面に表示されている相手側の映像が静止画として受信されます。

静止画表示を解除するには

リモコンの決定ボタンを押すとサブメニューが表示されます。↑/↓ ボタンで「解除」を選び、決定ボタンを押してください。

映像と音声を切り換える

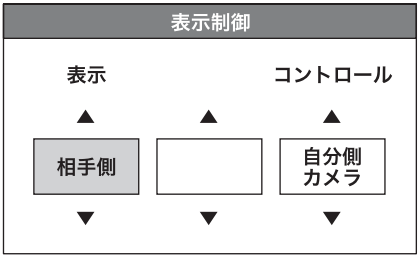
モニター画面に表示する映像や、入力される映像や音声を切り換えることができます。

相手側と自分側の映像を切り換える

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「表示」の「自分側」と「相手側」を切り換える。



3 リモコンの決定ボタンを押す。

入力される映像を切り換える

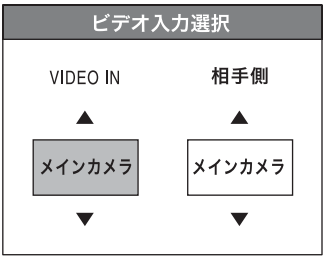
1 リモコンの入力切換ボタンを押す。

ビデオ入力選択メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「自分側」の入力を切り換える。

ヒント

通信中はビデオ入力選択メニューの「相手側」で相手側の映像入力を切り換えることもできます。



メインカメラ : メインカメラの映像を選ぶとき

IR1: 別売りのドキュメントスタンド PCS-DS150（現在は販売されていません。）の映像を選ぶとき

AUX 1: AUX IN 端子に接続されている機器の映像を選ぶとき

3 リモコンの決定ボタンを押す。

ビデオ入力選択メニューに表示する名前を変更するには

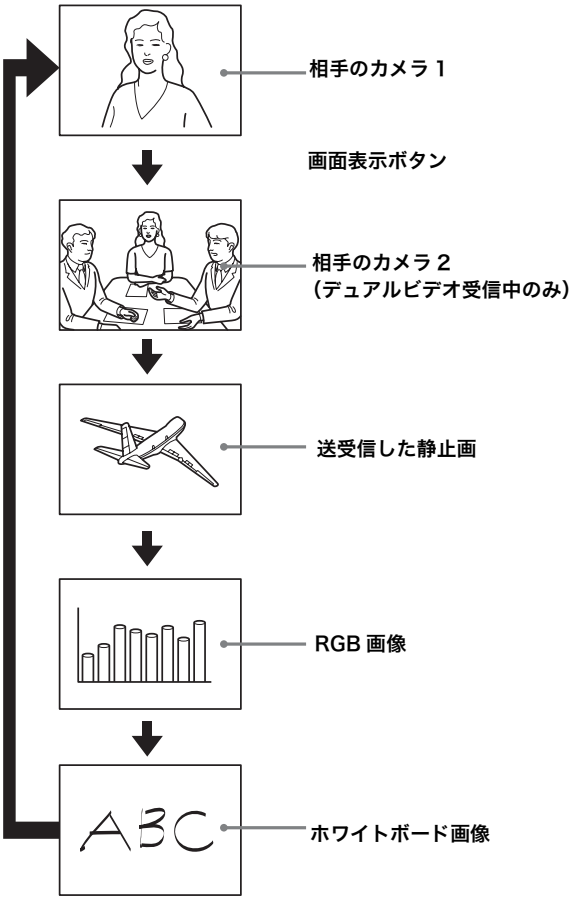
映像設定メニューの「ビデオ入力選択名」で「メインカメラ」「IR1」「AUX1」にお好きな名前を設定すると、上記の手順 2 で入力を切り換えるとき、設定した名前が表示されます。

例：メイン、ドキュメント、Camera2、None など

◆「ビデオ入力選択名」の設定について詳しくは、「映像設定メニュー」（73 ページ）をご覧ください。

モニターに表示される映像を切り換える

リモコンの画面表示ボタンを押すたびに、モニターに表示される映像が次のように切り換わります。



ご注意

- 静止画は、送信または受信した場合にのみ表示されます。
- RGB 画像は、別売りのデータソリューションボックス PCSA-DSB1S を使用してコンピューターなどから RGB 画像が送受信されている場合に表示されます。
- ホワイトボード画像は、ホワイトボードに描かれた内容を送受信しているときのみ表示されます。
- デュアルビデオ機能を使用している場合は、分割された画面も表示されます。

◆詳しくは、5 章の「接続機器の映像・音声を会議に使う」（218 ページ）、6 章の「ホワイトボードを使った会議」（227 ページ）をご覧ください。

相手側に送る音声を切り換える

相手に送る音声をマイクか外部機器の音声に切り換えることができます。音声設定メニューの「入力切替」で設定します。

◆「入力切替」の設定について詳しくは、「音声設定メニュー」（71 ページ）をご覧ください。

通信中に回線の状況を確認する

通信中にステータス表示画面で回線の状況を確認することができます。

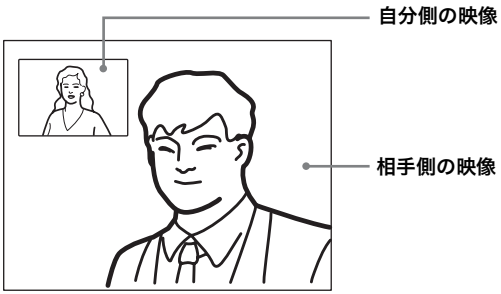
◆ステータス表示について詳しくは、「ステータス表示」（69 ページ）をご覧ください。

自分側の映像を子画面に表示するーピクチャーインピクチャー

自分側の様子が相手のモニターにどのように映っているかを、モニター画面の一部（子画面）に表示して確認することができます。

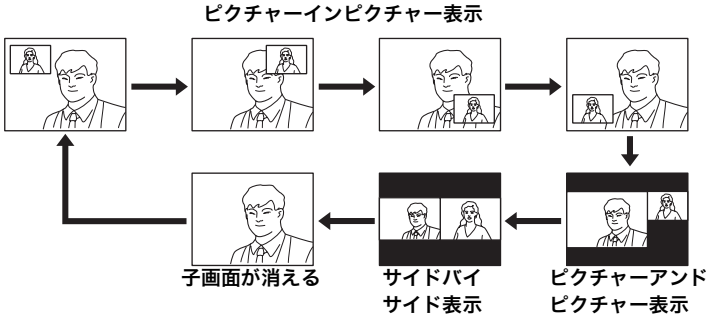
子画面を表示するには

通信中にリモコンの子画面ボタンを押します。
自分側の映像が子画面に表示されます。



子画面の位置を変えるには

子画面ボタンを押すたびに、子画面の位置が次のように切り換わります。



全画面表示

相手画面のみが全画面で表示されます。

ピクチャーインピクチャー表示

相手画面が全画面に、自画面が子画面に表示されます。
子画面の表示位置は、左上、右上、右下、左下の 4 箇所があります。

ピクチャーアンドピクチャー表示

相手画面が全画面で左側に、自画面が子画面で右側に表示されます。

サイドバイサイド表示

相手画面が左側に、自画面が右側に、同じ大きさで表示されます。

ご注意

- 子画面は、前回最後に表示されていた位置に表示されます。前回子画面を消していた場合は、表示されません。
- 会議中でないときは、子画面の表示はできません。

相手側の映像を子画面表示するには

自分側の映像が子画面表示されているとき、リモコンの相手 / 自分ボタンを押して、「表示」で「自分側」を選ぶと、自分側の映像がメイン画面、相手側の映像が子画面へと、入れ替わって表示されます。

4章 いろいろな機器を使った会議

この章では、ビデオコミュニケーションシステム PCS-G50 に含まれている構成機器以外に別売りの機器をプラスしてできるいろいろな会議のしかたを説明します。

◆別売りのデータソリューションボックス PCSA-DSB1S を使ったデータ会議を行うには、5章をご覧ください。

◆多地点会議を行うには、8章をご覧ください。

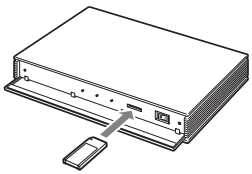
“メモリースティック”の静止画を会議に使う

別売りの“メモリースティック”に保存されている静止画をモニター画面に表示したり、相手に送信することができます。

“メモリースティック”の静止画を表示する

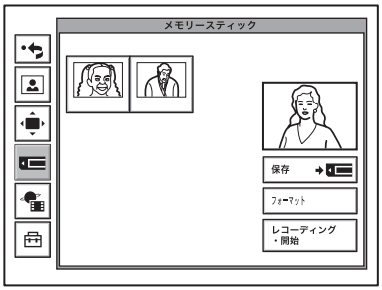
1 静止画が保存されている“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



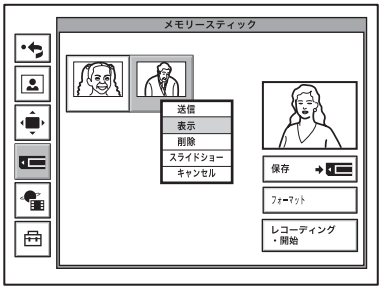
2 メモリースティックメニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ボタンで (メモリースティック) アイコンを選びます。



3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで表示したい静止画を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。



4 リモコンの ↑/↓ ボタンで「表示」を選び、決定ボタンを押す。

メニューが消え、選んだ静止画が表示されます。

静止画表示を解除するには

静止画が表示されているときに、リモコンの決定ボタンを押してください。メモリースティックメニューに戻ります。

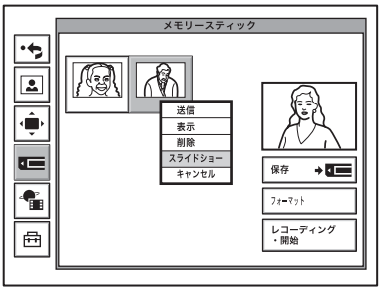
スライドショーで静止画を見るには

“メモリースティック”に保存されている静止画を次々に表示することができます。

1 “メモリースティック”をメモリースティックスロットに入れ、メモリースティックメニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでスライドショーを開始したい画像を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。



3 リモコンの ↑/↓ ボタンで「スライドショー」を選び、決定ボタンを押す。

スライドショーが始まります。通信中のときは、相手に静止画が送信されます。

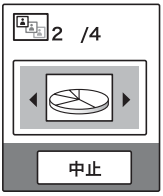
スライドショーを行っているときは、モニター画面に インジケーターが表示されます。

4 画像を切り換える。

リモコンの → ボタンを押すと、次の画像が表示されます。リモコンの ← ボタンを押すと、前の画像が表示されます。

スライドショーの途中で別の静止画を選ぶには

スライドショーを行っているときにリモコンの決定ボタンを押すと、サブメニューが表示されます。



リモコンの ←/→ ボタンでサブメニュー画面の静止画を選び、決定ボタンを押すと、選んだ静止画がモニター画面にフルスクリーンで表示されます。通信中のときは、相手に選んだ静止画が送信されます。

スライドショーを中止するには

サブメニューが表示されているときは、リモコンの ↓ ボタンで「中止」を選び、決定ボタンを押してください。

サブメニューが表示されていないときは、リモコンの戻るボタンを押してください。メモリースティックメニューに戻ります。

静止画を削除するには

メモリースティックメニューを表示し、削除したい画像を選んで決定ボタンを押します。サブメニューが表示されるので、リモコンの ↑/↓ ボタンで「削除」を選び、決定ボタンを押してください。「ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されるので、「OK」を選び、決定ボタンを押してください。静止画が“メモリースティック”から削除されます。

“メモリースティック”を取り出すには

“メモリースティック”を一度押し込んで少し飛び出させてから取り出してください。

“メモリースティック”の静止画を送信する

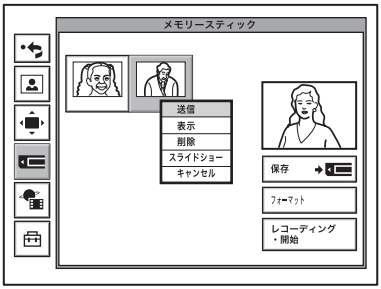
通信中、“メモリースティック”に保存されている静止画を相手に送信することができます。

1 “メモリースティック”をメモリースティックスロットに入れ、メモリースティックメニューを表示する。

◆“メモリースティック”の入れかたとメモリースティックメニューの表示のしかたは、「“メモリースティック”の静止画を表示する」（159ページ）をご覧ください。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで送信したい静止画を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。



3 リモコンの ↑/↓ ボタンで「送信」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ静止画が表示され、静止画が送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました。」というメッセージが表示されます。

手順 3 で「スライドショー」を選ぶと

サブメニューの「スライドショー」を選び、決定ボタンを押すと、選んだ画像からスライドショーが始まり、静止画が相手に送信されます。

◆スライドショーについて詳しくは、160 ページをご覧ください。

静止画表示を解除するには

リモコンの決定ボタンを押すとサブメニューが表示されます。↑/↓ ボタンで「解除」を選び、決定ボタンを押してください。

ご注意

- “メモリースティック”のディレクトリー「¥DCIM¥100MSDCF」から「¥DCIM¥109MSDCF」のうち、1 つのフォルダ内の画像が表示されます。優先的に表示されるフォルダは、「109MSDCF」、「108MSDCF」、「107MSDCF」…の順です。
- 静止画像が表示できない場合は、「JPEG」と表示されます。

“メモリースティック”をフォーマットする

ご注意

- コンピューターでフォーマットした“メモリースティック”は、本機での動作を保証いたしません。必ず、本機でフォーマットした“メモリースティック”をお使いください。
- “メモリースティック”をフォーマットすると、“メモリースティック”に保存されている画像やアドレス帳などのデータなどのデータはすべて消去されます。

“メモリースティック”をフォーマットするには

メモリースティックメニューの「フォーマット」を選ぶと「メモリースティックをフォーマットしますか？」というメッセージが表示されます。ここで「OK」を選ぶと、“メモリースティック”がフォーマットされます。

フォーマットされていない“メモリースティック”が挿入されると

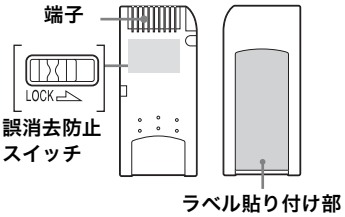
「メモリースティックをフォーマットしますか？」というメッセージが表示されます。フォーマットするときは「OK」を選んでください。フォーマットしないときは「キャンセル」を選んでください。

◆会議のレコーディングについては、180 ページをご覧ください。

“メモリースティック”についてのご注意

“メモリースティック”使用上のご注意

- 誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると記録や編集、消去ができません。



誤消去防止スイッチの位置や形状は、お使いの“メモリースティック”によって異なることがあります。

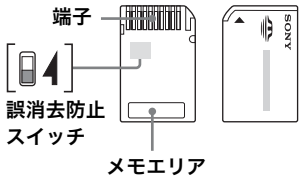
- データの読み込み中、書き込み中には「メモリースティック」を取り出さないでください。
- 以下の場合、データが破壊されることがあります。
  —読み込み中、書き込み中に「メモリースティック」を取り出したり、本機の電源を切った場合
  —静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- 大切なデータは、バックアップを取っておくことをおすすめします。
- ラベル貼り付け部には、専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部に貼ってください。はみ出さないようにご注意ください。
- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水に濡らさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
  —高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  —直射日光のあたる場所
  —湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

データについて

- “メモリースティック”の誤消去防止スイッチを「LOCK」にすると、データの記録や編集、消去ができなくなります。本機のデータを「メモリースティック」へ移動やコピーをしたり、「メモリースティック」内のデータを消去する場合は、「LOCK」をはずしてください。
- 大切なデータは、パソコンなどを使って他の「メモリースティック」やハードディスクにコピーし、保存（バックアップ）しておくことをおすすめします。

“メモリースティック　デュオ”使用上のご注意

- 「メモリースティック　デュオ」の誤消去防止スイッチを動かすときは、先の細いもので動かしてください。
- 「メモリースティック　デュオ」のメモエリアに書きこむときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- 「メモリースティック　デュオ」を本機でお使いになるときは、必ず「メモリースティック　デュオ」に付属のアダプターに取り付けてお使いください。



メモリーセレクト機能に関するご注意

- 各メモリーを同時に、また連続でご使用することはできません。
- 本機の「メモリースティック」スロットに挿入した状態で、メモリーセレクトスイッチを切り換えると、故障の原因になりますので、決して行わないでください。万一上記の操作を行い故障した場合の保証は致しかねます。
- メモリーセレクトスイッチを切り換える際は、確実にスイッチを端まで移動させてください。切り換えが不十分な場合、故障、誤動作の原因となります。
- 本機の「メモリースティック」スロットに挿入する前に、ご使用になるメモリーが選択されていることをご確認ください。
- メモリーセレクト機能付「メモリースティック」では、「メモリースティック」内部のメモリーを切り換えスイッチにより選択してご使用いただけます。対応機器では、選択されているメモリーのみを認識しますので、下記のような場合にご注意ください。
  —フォーマット（初期化）処理は選択されたメモリーのみに行われます。
  —残容量表示は選択されたメモリーのみの残容量です。
  —エラー表示は選択されたメモリーに対してのエラー表示です。
  それぞれ選択されていないメモリーとは独立で扱われます。

本機で表示できるファイル形式

以下の形式で“メモリースティック”に保存されているファイルのみ表示できます。

- JPEG (Joint Photographic Experts Group) 方式で圧縮した画像ファイル (DCF 準拠)。ファイル拡張子は「.jpg」です。
- 画像ファイルは最大 2048 × 1536 (画素) まで表示できます。

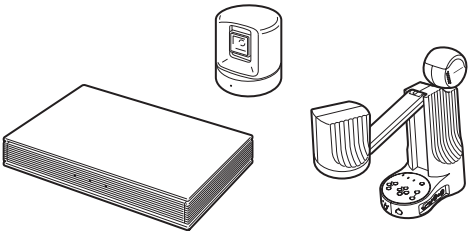
- Memory Stick Duo（“メモリースティック デュオ”）および MEMORY STICK DUO は、ソニー株式会社の商標です。
- Memory Stick（“メモリースティック”）および  は、ソニー株式会社の商標です。
- MagicGate Memory Stick（“マジックゲート メモリースティック”）および MAGICGATE は、ソニー株式会社の商標です。

外部機器の映像を静止画にして送信する

コミュニケーションターミナルに接続している外部映像機器の動画を静止画として、送信することができます。
文字の多い画像などは、静止画として送ったほうが、画像がはっきりし、文字などが読みやすくなります。

ドキュメントスタンドからの映像を静止画として送信するーオブジェクト送信

通信中、別売りのドキュメントスタンド PCS-DS150（現在は販売されていません。）のカメラで写した映像を静止画にして 1 枚だけ相手に送信できます。



ドキュメントスタンド PCS-DS150（別売り）（現在は販売されていません。）

静止画を送信するには

1 ドキュメントスタンドのカメラで送信したい映像を写す。

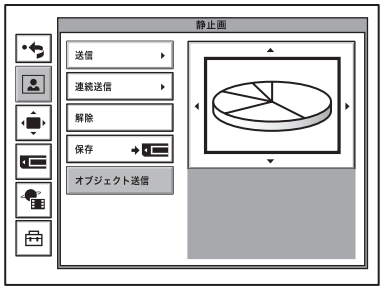
◆ドキュメントスタンド PCS-DS150 の詳しい使いかたは、ドキュメントスタンドに付属の取扱説明書をご覧ください。

2 静止画メニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで（静止画）アイコンを選びます。

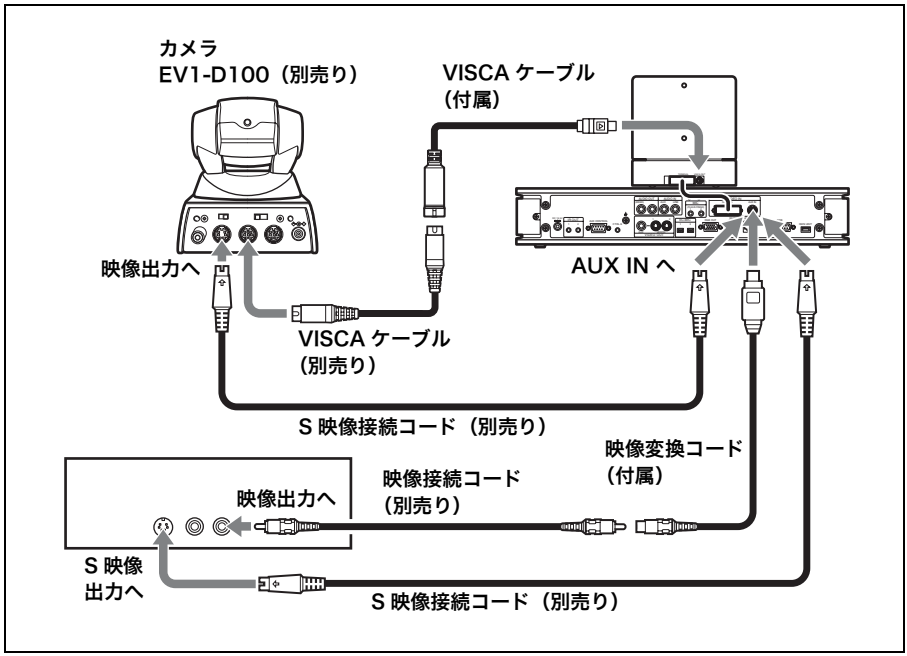
3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「オブジェクト送信」を選び、決定ボタンを押す。

ドキュメントスタンドで写した映像がモニター画面に表示され、静止画として相手に送信されます。



外部カメラや外部機器からの映像を静止画として送信する

通信中、コミュニケーションターミナルに接続した外部カメラや VTR などからの動画を静止画にして 1 枚だけ相手に送信できます。



静止画を送信するには

1 静止画メニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで [人] (静止画) アイコンを選びます。

2 送信したい映像をモニター画面に表示する。

リモコンの入力切換ボタンを押してビデオ入力選択メニューを表示し、「VIDEO IN」に AUX 1 を選んで決定ボタンを押します。

ご注意

静止画を送信できるのは、AUX IN 端子に接続されている機器の映像のみです。

ヒント

- 「IR1」を選ぶと、別売りのドキュメントスタンド PCS-DS150（現在は販売されていません。）の映像をモニター画面に表示することができます。
- 映像設定メニューの「入力選択名」で異なった名前を設定しているときは、「AUX1」、「IR1」の代わりに設定した名前が表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「送信」を選び、決定ボタンを押す。

モニター画面の映像が静止画になり、相手に送信されます。送信後も静止画が表示されています。

4 必要があれば、カメラのアングルとズームを調整し、決定ボタンを押す。

◆アングルとズームの設定について詳しくは、「アングルとズームを調節する」(141 ページ) をご覧ください。

モニター画面の動画が静止画になり、相手に送信されます。

「送信」を選んだときは、静止画が 1 枚だけ送信されます。送信が終わると「静止画が送信されました。」というメッセージが表示されます。

「連続送信」を選んだときは、静止画が次々と送信されます。静止画が送信される間隔は、通信速度と画像によって変わります。

受信側または送信側で静止画を切り換えるときは

「解除」を実行するか、画面を切り換えてください。

◆静止画表示の解除のしかたについて詳しくは、「静止画表示を解除するには」（163 ページ）をご覧ください。

静止画を“メモリースティック”に保存する

自分側のカメラ映像や入力映像、会議中の相手側の映像を静止画として“メモリースティック”に保存することができます。

静止画メニューから保存する

1 コミュニケーションターミナルの前面パネルを開き、静止画を保存する“メモリースティック”をメモリースティックスロットに入れる。

2 静止画メニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ボタンで（静止画）アイコンを選びます。

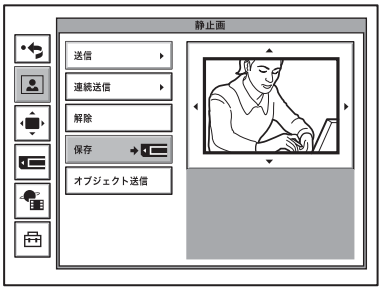
3 保存したい映像をモニター画面に表示する。

自分側の映像を表示するときは、リモコンの入力切換ボタンを押して映像設定メニューを表示し、ビデオ入力で表示したい映像の入力を選びます。

相手側の映像を表示するときは、リモコンの相手 / 自分ボタンで相手側の映像を選択します。

◆映像設定メニューについて詳しくは、「映像設定メニュー」（73 ページ）をご覧ください。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」を選び、決定ボタンを押す。



モニター画面に表示された映像が静止画として“メモリースティック”に保存されます。

ご注意

- データの書き込みが終了するまでは、“メモリースティック”を抜かないでください。“メモリースティック”が壊れたり、本機が誤動作します。
- 静止画ファイルは、すべて新規ファイルとして保存されます。上書きはされません。

“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっていると

「メモリースティックが書き込み禁止です。」というメッセージが表示され、静止画を保存することはできません。

“メモリースティック”の容量がいっぱいのときは

「メモリースティックがいっぱいです。」というメッセージが表示され、静止画を保存することはできません。

“メモリースティック”に保存される画像の形式

画像のファイル名

本機で保存する画像は、“メモリースティック”のディレクトリー「¥DCIM¥100MSDCF」の下に「DSCXXXXX.JPG」のファイル名で保存されます。

画像の圧縮形式

本機は、撮影した画像データを JPEG（Joint Photographic Experts Group）方式で圧縮・記録しています。ファイル拡張子は「.jpg」です。

ご注意

プログレッシブ JPEG には対応していません。

メモリースティックメニューから保存する

メモリースティックメニューに表示される“メモリースティック”保存ボタンを使って静止画を保存することができます。

1 静止画を保存する“メモリースティック”をメモリースティックスロットに入れる。

2 保存したい映像をモニター画面に表示する。

自分側の入力映像を切り換えるには、リモコンの入力切換ボタンを押して、ビデオ入力選択メニューで保存したい映像を選び、決定ボタンを押します。

相手側の映像を保存するときは、リモコンの相手 / 自分ボタンで相手側の画像を選択します。

3 メモリースティックメニューを表示する。

リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ ボタンで (メモリースティック) アイコンを選びます。

4 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保存」ボタンを選択し、決定ボタンを押す。



選んだ画像が静止画として“メモリースティック”に保存され、サムネイルができます。

ヒント

会議中にリモコンの相手 / 自分ボタンを押すと、映像を切り替えることができます。相手側の映像が表示されているときは、FAR アイコンが表示されます。

通信中サブメニューから保存する

通信中にモニター画面に表示された画像を簡単に“メモリースティック”に保存できます。

1 通信中にリモコンの決定ボタンを押す。

通信中サブメニューが表示されます。



2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。

モニター画面に表示された画像が静止画として“メモリースティック”に保存されます。

保存が終わると「静止画がメモリースティックに保存されました。」というメッセージが表示されます。

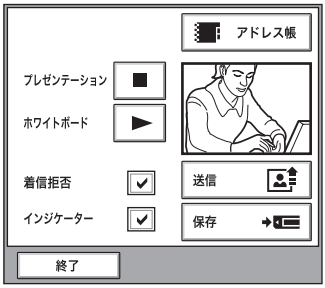
通信中サブメニューを消すには

通信中サブメニューの「終了」を選び、リモコンの決定ボタンを押します。

通信中に使える便利なメニュー ー通信中サブメニュー

通信中にリモコンの決定ボタンを押すと、モニター画面に通信中サブメニューが表示されます。
通信中サブメニューは、通信中によく使う機能をワンタッチで実行できる便利なメニューです。

通信中サブメニュー



リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンでメニューの各項目を選び、決定ボタンを押すと、以下の機能が実行されます。

プレゼンテーション：データソリューションボックス PCSA-DSB1S から入力した RGB 画像を相手に送信します。送信後はメニュー項目が「プレゼンテーション ■ 」に変わり、これを選んで決定すると RGB 画像の送信が終了します。
データソリューションボックスを接続しているときのみ表示されます。

ご注意

リモコン PCSA-RG1 のプレゼンテーションボタンでも送信 / 停止ができます。

◆詳しくは、「データソリューションボックスに接続したコンピューターの画像を送信するには」（219 ページ）をご覧ください。

ホワイトボード：mimio Xi を取り付けたホワイトボードに描いた内容を相手に送信します。送信中はメニュー項目が「ホワイトボード ► 」に変わり、これを選んで決定すると送信が終了します。
mimio Xi を取り付けたホワイトボードを接続しているときのみ表示されます。

着信拒否：会議中に他の端末からの呼び出しを受けたときに、接続を拒否します。

インジケーター：モニター画面にインジケーターが表示されていないとき、表示させます。インジケーター表示中はメニュー項目が「インジケーター ☑ 」に変わり、これを選んで決定するとインジケーターが表示されなくなります。

アドレス帳：アドレス帳メニューを表示します。

送信：モニター画面に表示されているカメラ映像を静止画として1枚送信します。

送信後はメニュー項目が「解除」に変わります。「解除」を選ぶとカメラ映像に戻ります。

保存：モニター画面に表示されているカメラ映像を静止画として“メモリースティック”に保存します。

終了：通信中サブメニューを消します。

会議をストリーミング配信する

会議をストリーミング配信し、会議に参加していない人がコンピューターで Web から会議を見ることができます。
ストリーミング配信を行うには、あらかじめストリーミング許可の設定が必要です。

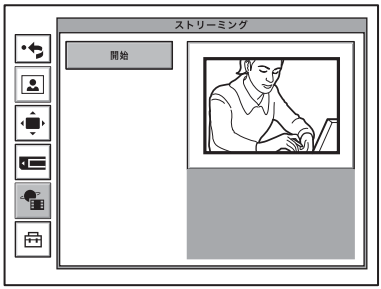
◆ストリーミング配信された会議の見かたについては、10 章「Web 機能」をご覧ください。

◆ストリーミングの設定については、「ストリーミング / レコーディング」（84 ページ）をご覧ください。

ストリーミング配信を開始する

1 リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ボタンで（ストリーミング）アイコンを選ぶ。
ストリーミングメニューが表示されます。

2 リモコンの → ボタンで「開始」を選び、決定ボタンを押す。
ストリーミング配信を開始し、コンピューターで Web から会議を見られるようになります。



ご注意

- 会議をしていないときにストリーミングを開始すると、会議を開始してからもストリーミング配信を続けます。
- ストリーミング受信は、Web でのアクセス制限により、10 端末程度で同時に利用できます。ただし、同時に利用できる端末数は、ご使用のシステムの環境によって異なります。

ストリーミング配信を停止する

1 リモコンのメニューボタンを押して設定メニューを表示し、↑/↓ボタンで（ストリーミング）アイコンを選ぶ。

ストリーミングメニューが表示されます。

2 リモコンの→ボタンで「停止」を選び、決定ボタンを押す。

ストリーミング配信を停止します。



ご注意

ストリーミング配信中に会議を終了しても、ストリーミング配信は終了しません。

会議をレコーディングする

会議の映像・音声を “メモリースティック” に MPEG4 形式で保存することができます。保存した会議のようすは、コンピューターで見ることができます。

レコーディングを開始する

1 “メモリースティック” をメモリースティックスロットに入れ、メモリースティックメニューを表示する。

ご注意

- レコーディングを開始するかどうかをたずねるダイアログが表示された場合は、そのダイアログでレコーディングを開始できます。
- プライベートアドレス帳の「自動発信」が「オン」になっている場合は、ダイアログが表示されません。

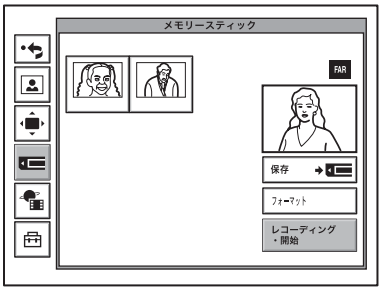
◆“メモリースティック” の入れかたとメモリースティックメニューの表示のしかたは、「“メモリースティック” の静止画を表示する」（159 ページ）をご覧ください。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「レコーディング・開始」を選び、決定ボタンを押す。

「レコーディングを開始しますか？」というメッセージが表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「OK」を選び、決定ボタンを押す。

“メモリースティック” へのレコーディングを開始します。



ヒント

会議中にリモコンの相手 / 自分ボタンを押すと、映像を切り替えることができます。相手側の映像が表示されているときは、FAR アイコンが表示されます。

◆レコーディングの設定については、「ストリーミング / レコーディング」（84 ページ）をご覧ください。

レコーディングを停止する

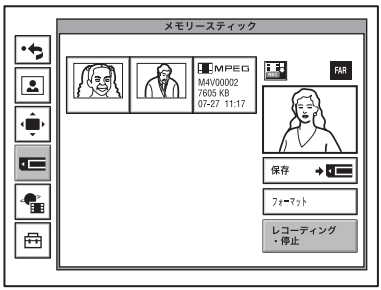
1 メモリースティックメニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「レコーディング・停止」を選び、決定ボタンを押す。

「レコーディングを終了しますか？」というメッセージが表示されます。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「OK」を選び、決定ボタンを押す。

“メモリースティック”へのレコーディングを停止します。



ご注意

- レコーディング中に“メモリースティック”の容量オーバーで保存できなくなった場合は、レコーディングが終了し、メッセージが表示されます。
- レコーディングされた MPEG4 ファイルは、PSP などのメモリースティックビデオフォーマット対応製品で再生できる MPEG4 ファイルと同じファイル名ですが、これらの製品で認識するディレクトリにファイルを移動しても再生はできません。

レコーディングした会議のデータを削除するには

メモリースティックメニューを表示し、削除したいMPEG4ファイルを選んで決定ボタンを押します。サブメニューが表示されますので、リモコンの↑/↓ボタンで「削除」を選び、決定ボタンを押してください。「ファイルを削除しますか？」というメッセージが表示されるので、「OK」を選び、決定ボタンを押してください。MPEG4ファイルが“メモリースティック”から削除されます。

ご注意

レコーディング中の会議のデータは、削除できません。

複数のモニターを使う

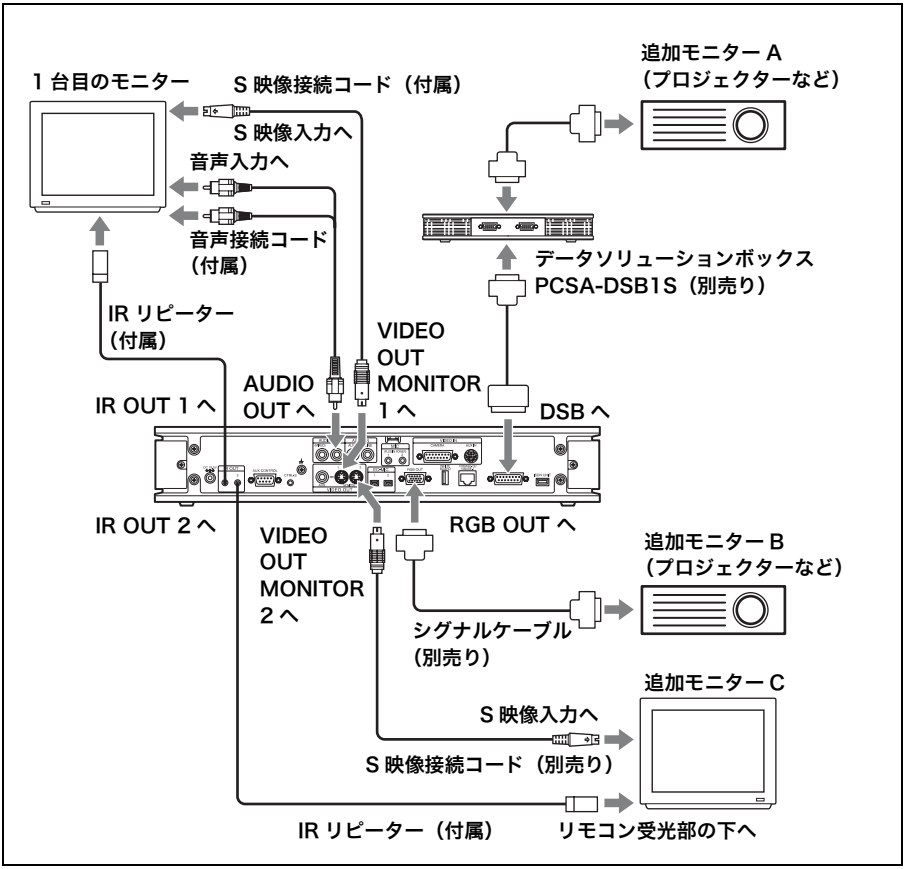
複数のモニターをつなぎ、動画や静止画それぞれ別のモニターに表示させることができます。

モニターを 2 台使うーデュアルモニター

モニターを 2 台つないで、使用することができます。

2 台目のモニターを接続するには

2 台目のモニターをコミュニケーションターミナルの VIDEO OUT MONITOR 2 端子、RGB OUT 端子または、データソリューションボックスの RGB OUT 端子へ接続します。
ソニー製モニターを使用するときは、付属の IR リピーターを 2 台目のモニターのリモコン受光部の下に差し込み、コミュニケーションターミナルの IR OUT 2 端子へ接続してください。


1 台目のモニター
S 映像接続コード（付属）
S 映像入力へ
音声入力へ
音声接続コード
（付属）
IR リピーター
（付属）
追加モニター A
（プロジェクターなど）
データソリューションボックス
PCSA-DSB1S（別売り）
VIDEO
OUT
MONITOR
1 へ
AUDIO
OUT へ
IR OUT 1 へ
DSB へ
IR OUT 2 へ
VIDEO
OUT
MONITOR
2 へ
RGB OUT へ
追加モニター B
（プロジェクターなど）
シグナルケーブル
（別売り）
追加モニター C
S 映像入力へ
S 映像接続コード（別売り）
IR リピーター（付属）
リモコン受光部の下へ

設定を変更する

映像設定メニューの「画面出力」で「使用モニター数」を「2」に設定してください。次に「モニター接続」で2台目のモニターを接続している端子を選びます。最後に「モニター」で「サブ」を選びます。

設定を変更すると1台目のモニターには動画が表示され、2台目のモニターにはRGB画像や静止画などが表示されます。

ご注意

通信中は設定を変更することができません。

◆詳しくは、「デュアルモニターに表示される映像を切り換える」（186ページ）をご覧ください。

子画面を表示するには

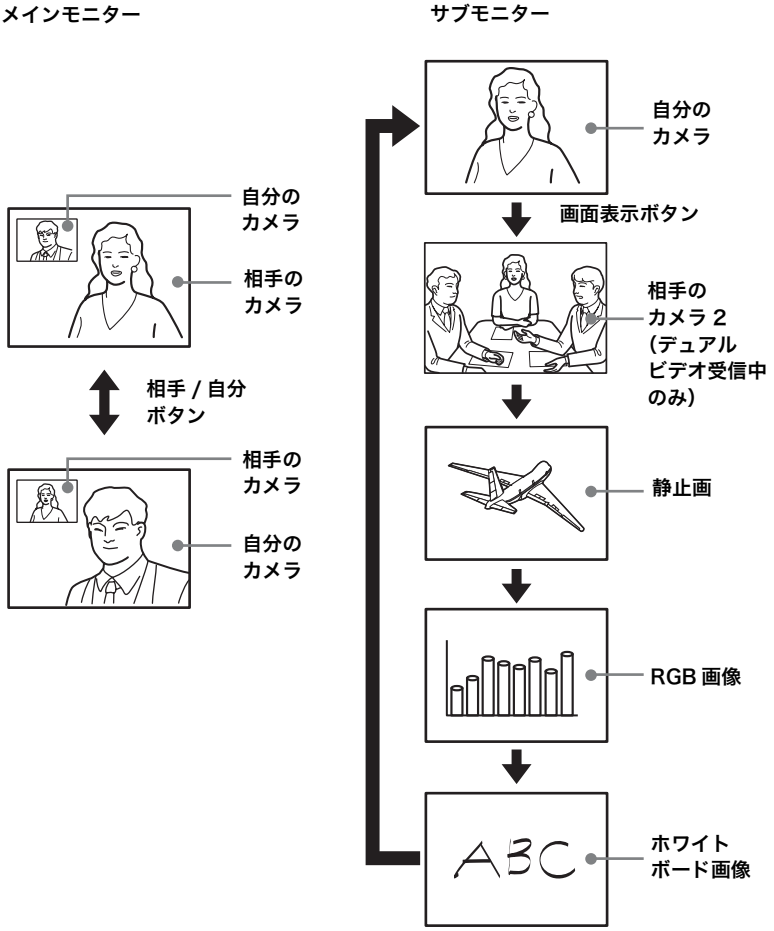
通信中、リモコンの子画面ボタンを押すと、1台目のモニターに子画面が表示されます。

ご注意

2台目のモニターに子画面を表示することはできません。

デュアルモニターに表示される映像を切り換える

通信中、メインとサブのモニター画面には以下の映像が表示できます。



メインモニター

- 自分側または相手側のカメラの映像（動画）を表示できます。
- 自分側と相手側の映像を切り換えるには、リモコンの相手 / 自分ボタンを押し、表示制御メニューの「表示」を「自分側」、「相手側」に切り換えます。

サブモニター

- 自分側のカメラ映像、相手のカメラ 2（デュアルビデオ受信中のみ）の映像送信または受信した静止画、データソリューションボックス PCSA-DSB1S 経由で送信される RGB 画像またはホワイトボード上の画像を表示できます。
- リモコンの画面表示ボタンを押すたびに、画像が切り換わります。

ご注意

静止画や RGB 画像などがないときは、画面表示ボタンを押しても切り換えはできません。

モニターを 3 台使うートリプルモニター

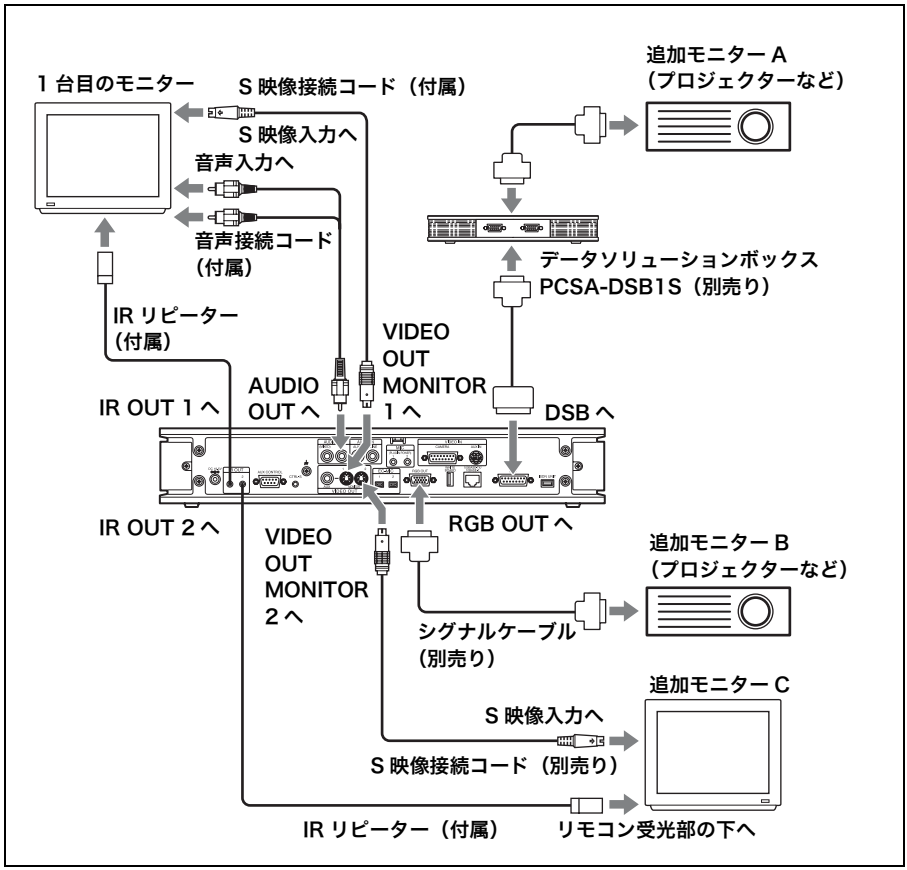
モニターを 3 台つないで、2 台を動画専用として使用することができます。

例

1 台目：相手のカメラの映像
2 台目：コンピューターの映像
3 台目：本体カメラの映像

3 台目のモニターを接続するには

2 台目と 3 台目のモニターをコミュニケーションターミナルの VIDEO OUT　MONITOR 2 端子、RGB OUT 端子または、データソリューションボックスの RGB OUT 端子へ接続します。
ソニー製モニターを使用するときは、付属の IR リピーターを 2 台目のモニターのリモコン受光部の下に差し込み、コミュニケーションターミナルの IR OUT 2 端子へ接続してください。



設定を変更する

映像設定メニューの「画面出力」で「使用モニター数」を「3」に設定してください。次に「モニター接続」で 2 台目と 3 台目のモニターを接続している端子を選びます。最後に「モニター」で「サブ」を選びます。

設定を変更すると 1 台目のモニターには動画が表示され、2 台目と 3 台目のモニターには静止画や動画が表示されます。

◆詳しくは、「トリプルモニターに表示される映像を切り換える」（189 ページ）をご覧ください。

子画面を表示するには

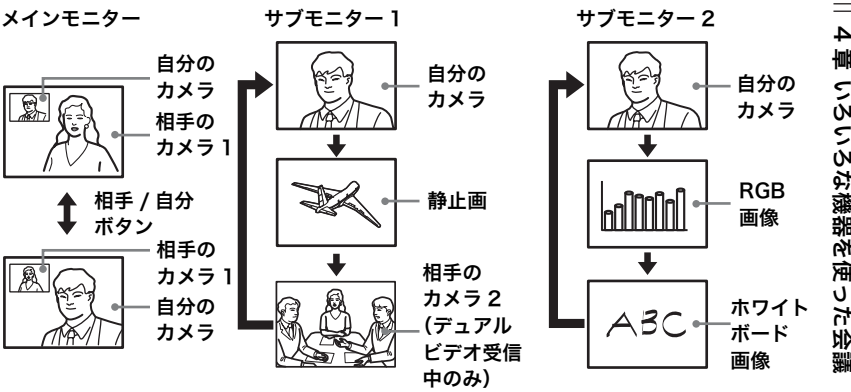
通信中、リモコンの子画面ボタンを押すと、1 台目のモニターに子画面が表示されます。

ご注意

- 2 台目と 3 台目のモニターに子画面を表示することはできません。
- メイン画面は、VIDEO OUT MONITOR 1 に接続されたモニターに固定されます。

トリプルモニターに表示される映像を切り換える

通信中のそれぞれのモニター画面には以下の映像が表示できます。



リモコンの画面表示ボタンを押すたびに、すべての組み合わせの画像が順番に切り換わります。

メインモニター

- 相手側のカメラの映像（動画）を表示できます。

サブモニター 1

- 自分側のカメラ映像、送信または受信した静止画、相手側のカメラ 2 の映像を表示できます。

サブモニター 2

- 自分側のカメラ映像、データソリューションボックス PCSA-DSB1S 経由で送信される RGB 画像、ホワイトボード上などの画像を表示できます。

ご注意

静止画や RGB 画像などがないときは、画面表示ボタンを押しても切り換えはできません。

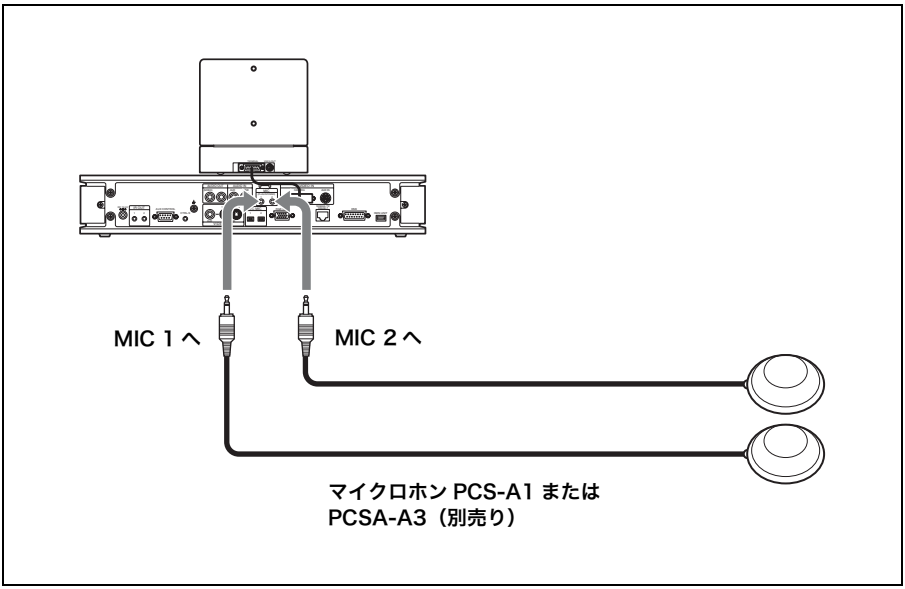
複数のマイクを使う

別売りのマイクロホン PCS-A1（付属）や PCSA-A3（別売り）を複数接続すると、多人数での会議が可能になります。

◆エコーキャンセリングマイクを使用する場合は、「エコーキャンセリングマイクを使う」（195 ページ）をご覧ください。

マイクを接続するには

コミュニケーションターミナルの MIC 1 端子と MIC 2 端子にマイクを接続します。マイクの電源は、コミュニケーションターミナルより供給されます。



接続したマイクを使うには

音声設定メニュー 1 ページ目の「入力切替」を「MIC」または「MIC + AUX」に、「マイク選択」を「MIC」に設定してください。(71 ページ)

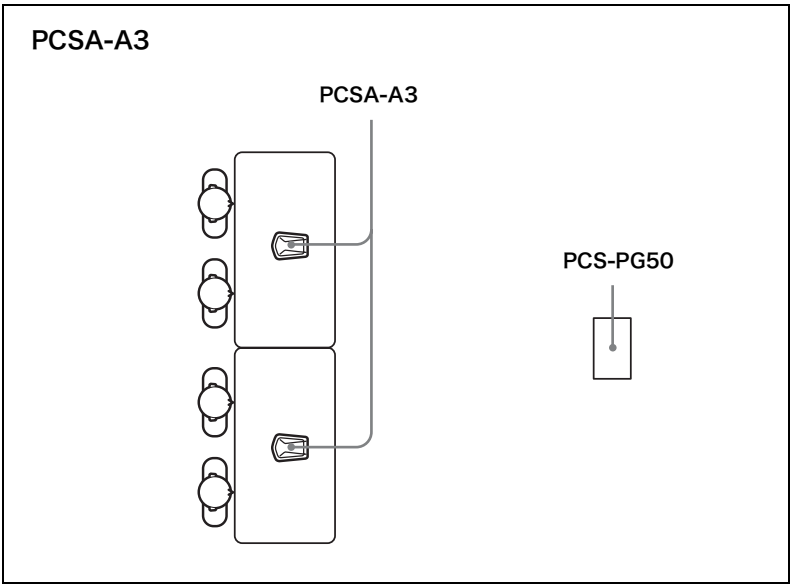
マイクロホン PCS-A1、PCSA-A3 を設置するときのご注意

- 参加者とマイクの間隔が 50 cm 程度になるように設置してください。
- できるだけ静かで、音が反響しにくい場所に設置してください。
- スピーカーは、マイクとの間に人が入らないように設置してください。

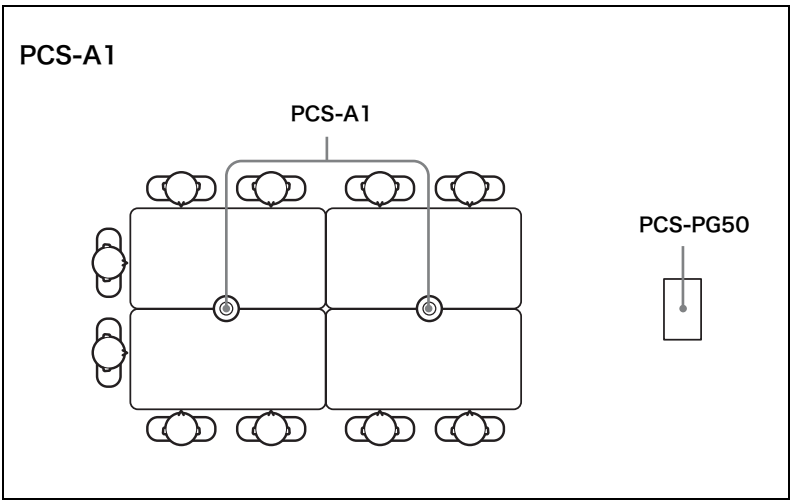
- ノイズの発生源となるような機器の近くには設置しないでください。
- マイクを紙などで覆ったり、マイクを手に持って動かしたりしないでください。ノイズとエコーが相手側へ一時的に大きく伝わることがあります。その場合は、エコーがおさまるまでしばらくお待ちください。

マイクロホンの配置例

PCSA-A3



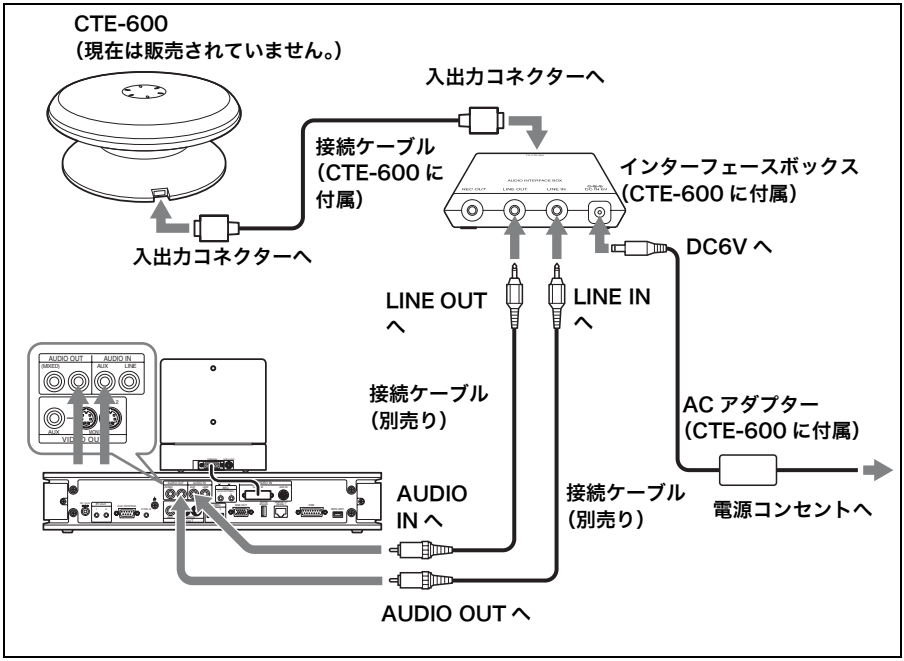
PCS-A1



コミュニケーショントランスデューサー（CTE）を使う

コミュニケーショントランスデューサー CTE-600（現在は販売されていません。）は、方位選択マイクと全方位スピーカーを一体化した機器です。1台で雑音の少ない明瞭な音声を全方向から拾い、周囲に鮮明な音声を均等に伝えることができます。

コミュニケーショントランスデューサー（CTE）を接続するには

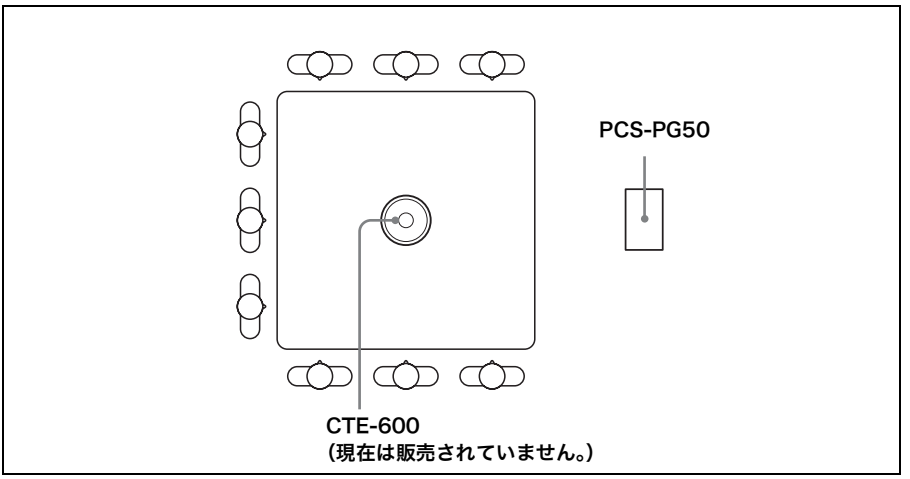


コミュニケーショントランスデューサー（CTE）を使うには

- 音声設定メニュー 1 ページ目の「CTE」を「LINE」に設定してください。(71 ページ)
- コミュニケーショントランスデューサー底面の SYSTEM SELECT スイッチを「PCS」に設定してください。

◆コミュニケーショントランスデューサーの詳しい使いかたは、コミュニケーショントランスデューサーの取扱説明書をご覧ください。

コミュニケーショントランスデューサーを使った配置例



エコーキャンセリングマイクを使う

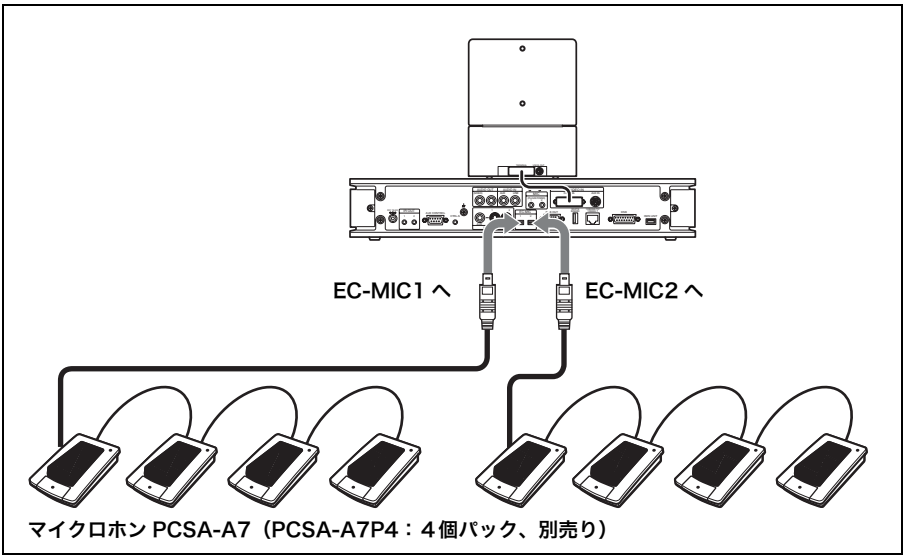
別売りのマイクロホン PCSA-A7 を複数接続することで、多人数での会議に対応できます。

PCSA-A7 には、以下の特長があります。

- エコーキャンセラー内蔵
- ノイズを効率的に低減
- 高音質
- 多数の PCSA-A7 をカスケード接続しても、音質劣化がない

マイクを接続するには

コミュニケーションターミナルの EC-MIC 1 端子と EC-MIC 2 端子にマイクを接続します。マイクの電源は、コミュニケーションターミナルより供給されます。



マイクロホン PCSA-A7（PCSA-A7P4：4個パック、別売り）

接続したマイクを使うには

音声設定メニュー 1 ページ目の「入力切替」を「MIC」または「MIC + AUX」に、「マイク選択」を「EC-MIC」に設定してください。(71 ページ)

マイクロホン PCSA-A7 を設置するときのご注意

- 参加者とマイクの間隔が 50 cm 程度になるように設置してください。
- スピーカーを使用する場合は、マイクの前方に設置しないでください。また、できるだけマイクとスピーカーの間には人が入らないように設置してください。

マイクロホンの接続例

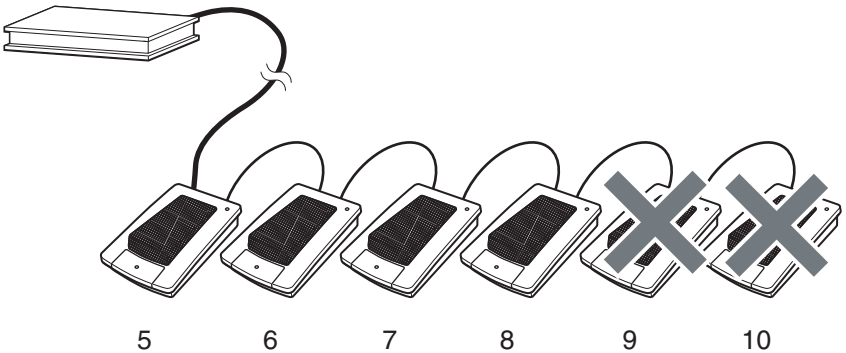
PCS-G50、または AC アダプターに接続されたマイクは、カスケード接続されたものも含めて、最大 8 個に給電されます。ただし、マイクケーブル（8 m）を使用している場合には、4 台分接続しているものとして計算されます。

既定値を超えて接続されているマイクには給電されませんが、給電されていない最初のマイクに AC アダプターを接続することで、さらにマイクを追加することができます。

ご注意

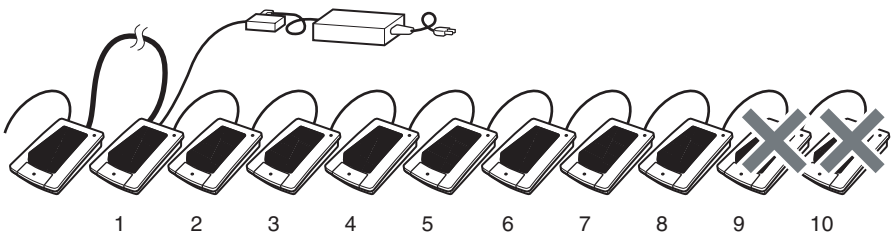
- PCSA-A7 は、EC-MIC1、2 端子それぞれに 40 個までカスケード接続できます。
- 給電されていないマイクは、POWER LED が消灯します。

接続例 1



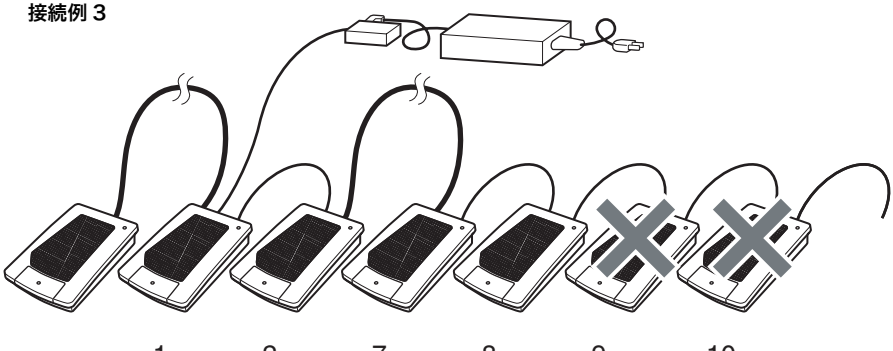
最初にマイクケーブル（8 m）を使用しているため、4 台分給電していると見なされ、4 台目まで給電されます。接続の途中にマイクケーブル（8 m）を使用しても同様です。

接続例 2



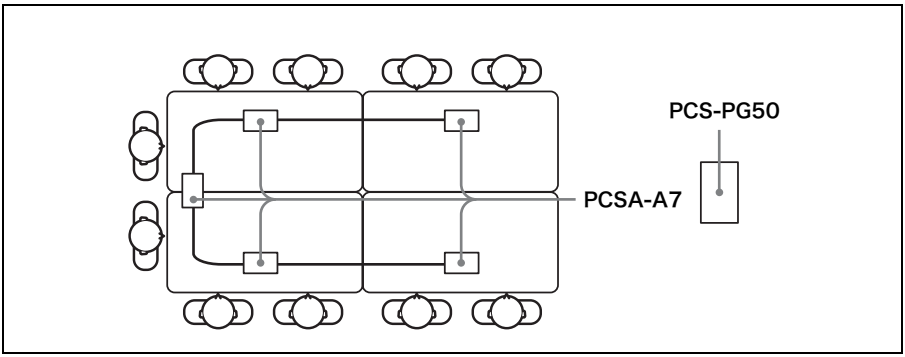
AC アダプタが接続されているマイクから数えて、8 台目まで給電されます。

接続例 3



接続の途中にマイクケーブル（8 m）を使用しているため、4 台分給電していると見なされます。AC アダプターが接続されているマイクから数えて、4 台目まで給電されます。

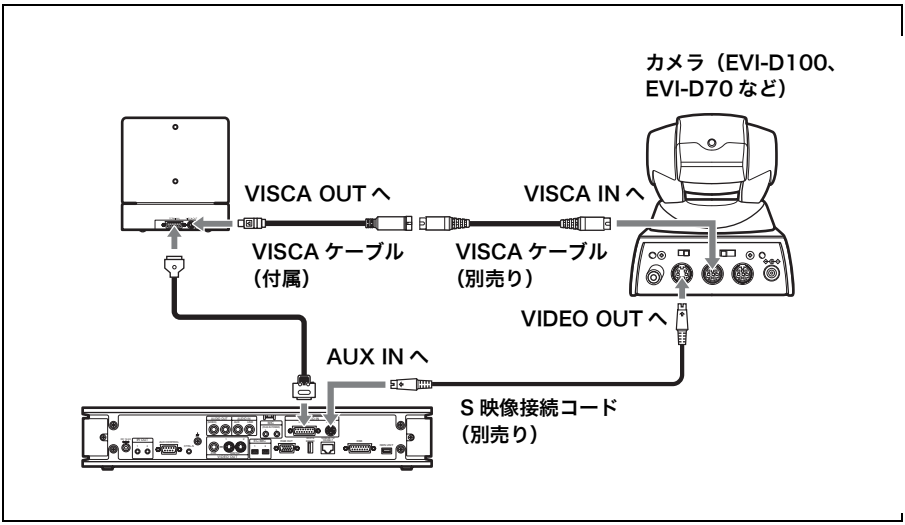
エコーキャンセリングマイクを使った配置例



セカンドカメラを使う

カメラユニット（PCSA-CG70）を介して、セカンドカメラとして、EVI-D100、EVI-D70 などのソニー製カメラを接続できます。

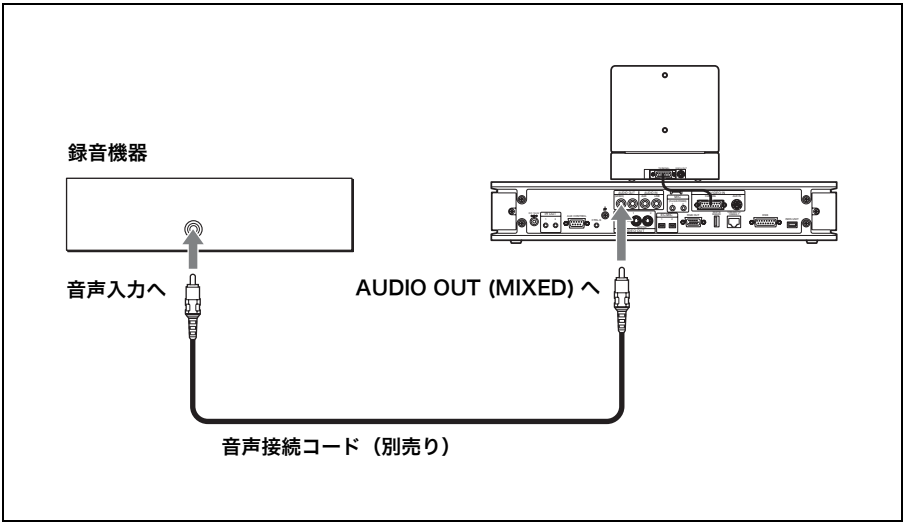
セカンドカメラの接続例



会議の音声を録音する

コミュニケーションターミナルの AUDIO OUT（MIXED）端子に録音機器を接続すると、会議中、自分側と相手側の両方の音声を録音することができます。議事録を作るときに便利です。

録音機器を接続するには



録音機器で録音するときは

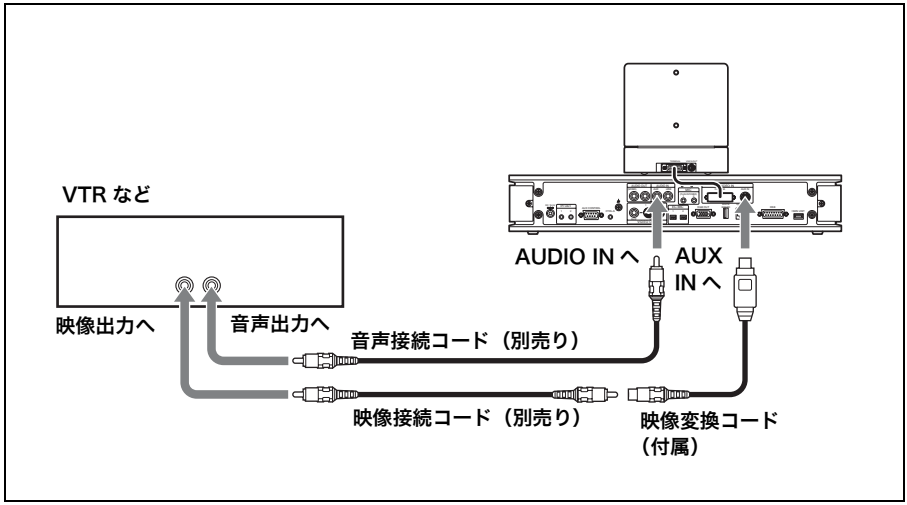
1 台の録音機器を AUDIO IN 端子と AUDIO OUT（MIXED）端子の両方に接続しているときは、相手側にエコーが返るのを防ぐため、音声設定メニュー 1 ページ目の「録音ミュート」を「オン」に設定してください。(71 ページ)

外部映像機器からの映像・音声を会議に使う

コミュニケーションターミナルに VTR などの外部映像機器を接続して、接続した機器からの映像や音声を相手に送信することができます。

入力用の外部映像機器を接続するには

コミュニケーションターミナルには 1 系統の映像機器を接続できます。



外部映像機器からの映像・音声を入力するには

映像を入力するには

リモコンの入力切換ボタンを押してビデオ入力選択メニューを表示し、「自分側」の欄に映像を入力したい機器を選びます。
AUX IN 端子に接続されている機器の映像を選ぶときは「AUX 1」を選んでください。

音声を入力するには

音声設定メニュー 1 ページ目の「入力切替」を「AUX」または「MIC + AUX」に設定してください。(71 ページ)
「AUX」に設定すると、外部機器の音声だけが入力され、マイクは切れます。「MIC + AUX」に設定すると、マイクと外部機器の音声が両方入力されます。

音声のみの会議をするーボイスミーティング

ビデオコミュニケーションシステム PCS-G50 は、ISDN 回線を経由して、テレビ会議システム以外の通常の電話機と音声のみの会議をすることができます。(ボイスミーティング)
基本的な接続の手順は、映像と音声の会議を行うときと同じです。

アドレス帳に登録していない相手とボイスミーティングをするとき

発信設定メニュー 1 ページ目の「回線種別」を「音声電話」に設定してください。
ボイスミーティング中は、モニター画面に「Voice Only」インジケーターが表示されます。

◆「回線種別」の設定については、「アドレス帳に登録していない相手を呼び出す」(123 ページ) をご覧ください。

ボイスミーティングをする相手を登録するとき

アドレス帳のリスト編集メニューで「回線種別」を「音声電話」に設定してください。

◆登録のしかたは、「会議の相手を登録するーアドレス帳」(98 ページ) をご覧ください。

音声圧縮方式を選ぶには

発信設定メニュー 1 ページ目の「音声電話」の設定を行ってください。
こちらからボイスミーティングを開始するときは、「音声電話」を「オート」に設定してください。「オート」を選ぶと、音声圧縮方式が自動的に「G.711 μ-law」に設定されます。
相手側からボイスミーティングを開始するときは、自分側の設定は必要ありません。

◆「音声電話」については、「発信設定メニュー」(63 ページ) をご覧ください。

トーン信号で相手のシステムを制御する－ DTMF の送信

ダイヤル発信する際の各数字（0 ～ 9、＃、＊）に割り当てられているトーン信号（二重トーン多重周波数）を送信することにより、相手側に接続されているシステムを遠隔制御することができます。

1 通信中にリモコンの ＊ ボタンを押す。

モニター画面に DTMF メニューが表示されます。

2 リモコンの数字ボタン（0 ～ 9、＃、＊）を押して、送信したい数字を選ぶ。

数字ボタンを押すと、トーン信号が相手に送られます。

3 終了するには、リモコンの決定ボタンを押す。

モニター画面の DTMF メニューが消えます。

ご注意

DTMF メニューが出ている間は、マイクが自動的にミュートになります。

NetMeeting を使ってデータ会議をするー T.120 データ会議

NetMeeting* をインストールしたコンピューターをコミュニケーションターミナルに接続すると、ビデオコミュニケーションシステムが ISDN 回線で接続されているときに限り、PCS-G50 を介してデータ会議の国際標準である ITU-T 勧告 T.120 に準拠したデータ会議を行うことができます。

* NetMeeting は米国マイクロソフト社の登録商標です。

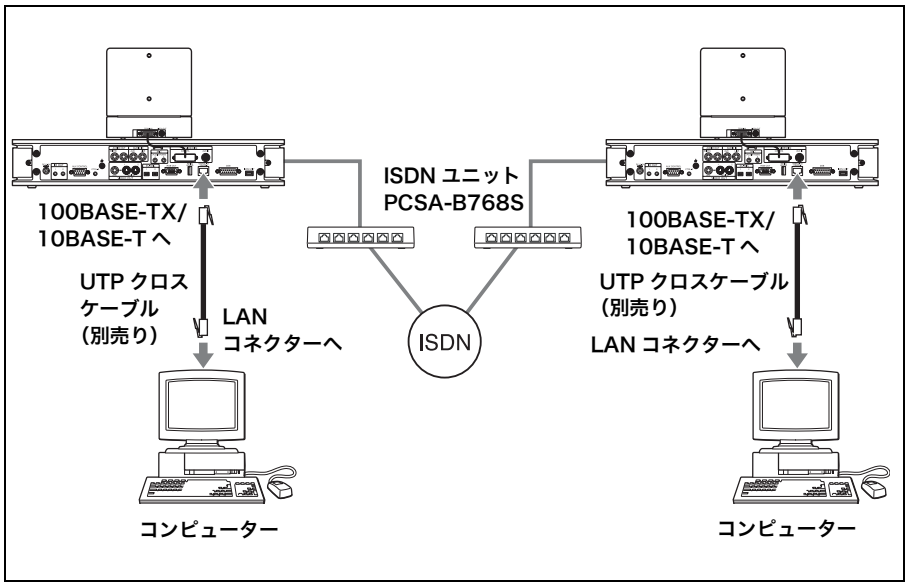
ご注意

- コミュニケーションターミナルを多地点会議装置（マルチポイント）として使用しているときは、T.120 データ会議を行うことはできません。
- ビデオコミュニケーションシステム PCS-G50 を相手のテレビ会議システムと LAN で接続している場合は、PCS-G50 を介さず、コンピューター間で T.120 データ会議を行ってください。

コンピューターを接続するには

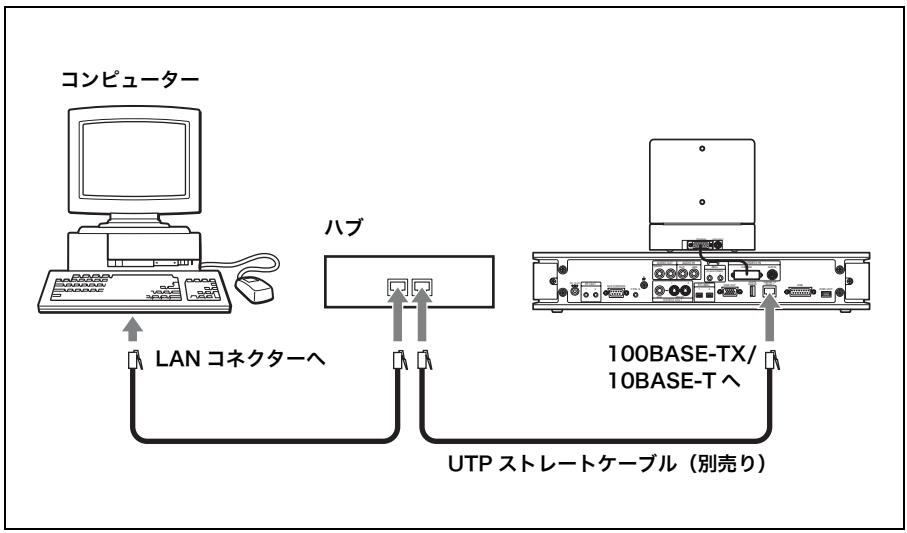
コミュニケーションターミナルに直接接続するには

コンピューターの LAN コネクターとコミュニケーションターミナルの 100BASE-TX/10BASE-T 端子を市販の UTP クロスケーブル（カテゴリー 5）で接続してください。



ハブを使って接続するには

ハブを使用しているときは、UTP ストレートケーブルを使用して、コンピューターとコミュニケーションターミナルを接続してください。



コミュニケーションターミナルの設定をするには

- 一般設定メニューの「機器設定」2 ページ目の「T.120 PC アドレス」に NetMeeting をインストールしたコンピューターの IP アドレスを入力してください。(76 ページ)
- 通信モード設定メニューの「T.120 データ」を「オン」に設定してください。(67 ページ)

ご注意

通信モード設定メニューの「音声方式」は「G.728」に設定して使用することをお奨めします。

NetMeeting で接続するには

あらかじめ、コンピューターに NetMeeting をインストールしておいてください。

1 コンピューターで NetMeeting のアイコンをダブルクリックするか、スタートメニューから NetMeeting のアイコンを選択して、NetMeeting を起動する。

2 コミュニケーションターミナルを通信状態にする。

モニター画面に「T.120」インジケーターが表示されていることを確認してください。

3 自分側または相手側のどちらかで NetMeeting の「通話」をクリックする。

4 「通話先」ダイアログボックスの「アドレス」にコミュニケーションターミナルに設定されている IP アドレスを入力する。

5 「通話」をクリックする。

しばらくすると接続が完了します。

◆具体的な使用方法は、NetMeeting のヘルプメニューなどをご覧ください。

データ伝送レートについて

コミュニケーションターミナルは、以下のデータ伝送レートをサポートしています。

MLP：6.4 Kbps、24 Kbps、32 Kbps
HMLP：62.4 Kbps、64 Kbps、128 Kbps

外部から本機にアクセスする

本機は下記のような外部アクセスが可能です。いずれの場合も、詳しい内容については、お買い上げ店にご相談ください。

Web ブラウザを使用する

Web ブラウザから本機にアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。

◆アクセス権やパスワードについては、「管理者用設定メニュー」(80 ページ）をご覧ください。

◆Web 操作について詳しくは、10 章「Web 機能」をご覧ください。

Telnet を使用する

Telnet により、本機にアクセスして、本機を操作したり、本機の設定を変更することができます。

◆アクセス権やパスワードについては、「管理者用設定メニュー」(80 ページ）をご覧ください。

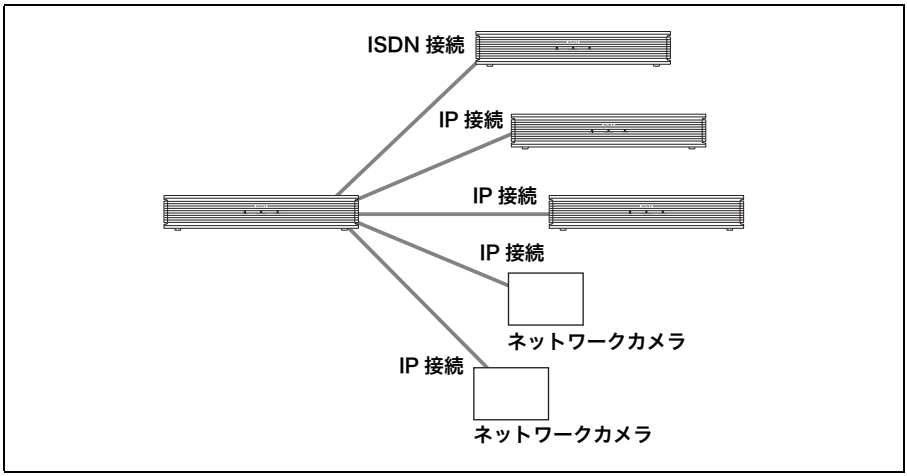
ネットワークカメラと接続する

本機では、ネットワーク上にあるソニー製ネットワークカメラとの接続が行えます。これらのネットワークカメラと接続することで、本機でのネットワークカメラ映像の受信やカメラコントロール、本機とネットワークカメラでの音声の送受信ができます。IP、ISDN など種別の異なる接続が混在した多地点会議でも使用できます。

ご注意

- 本機と接続すると、自動的にネットワークカメラの設定が変更される場合があります。ネットワークカメラをほかの監視システムなどで利用されている場合、それらのシステムに影響を及ぼすことがありますので、システム管理者にご相談ください。
- ネットワークカメラとの接続時は、以下の機能が使用できません。
  − プレゼンテーション画像の送受信
  − 暗号化会議
- ネットワークカメラを含む多地点会議を行なう場合、ネットワークカメラ側で設定された権限によって、使用できる機能や操作が異なります。また、権限によってはカメラコントロールもできない場合があります。
- 対象機種およびシステムの詳細条件については、販売店にご相談ください。

接続例



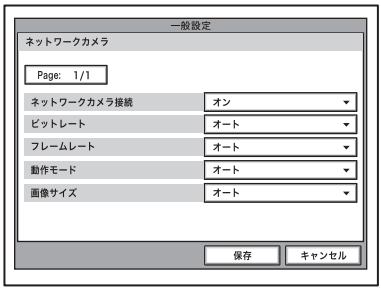
ご注意

- 複数のネットワークカメラと接続するには、別売りの H.323MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 または H.320MCU ソフトウェア PCSA-M0G50 を本機にインストールする必要があります。
- テレビ会議端末、ネットワークカメラを合わせて 5 台まで接続できます。
- ネットワークカメラが混在したカスケード接続はできません。

ネットワークカメラとの接続方法

ネットワークカメラとの通信設定をするには

一般設定メニュー－「ネットワークカメラ」の「ネットワークカメラ接続」を「オン」にし、「ビットレート」、「フレームレート」、「動作モード」、「画像サイズ」の各項目で適切な設定を行います。



ネットワークカメラとの接続を制限する

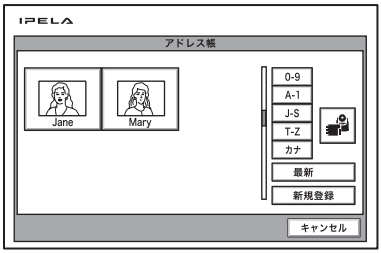
必要に応じて管理者用設定メニュー－「パスワード」1 ページ目の「ネットワークカメラ・パスワード」を設定してください。

ネットワークカメラをネットワークカメラリストに登録するには

本機には最大 20 件のネットワークカメラを登録しておくことができます。

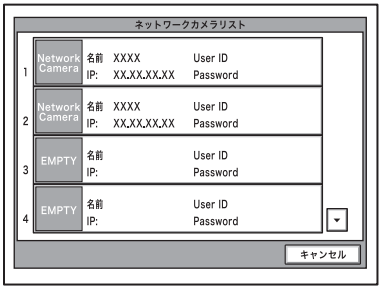
1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押してランチャーメニューの「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳が表示されます。



2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して画面右の を選び、決定ボタンを押す。

ネットワークカメラリストが表示されます。

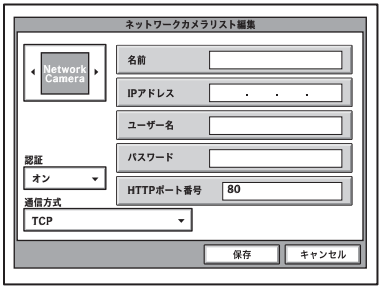


3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して新規登録または編集したいリストを選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。

4 リモコンの ↑ または ↓ ボタンで「編集」を選び、決定ボタンを押す。

ネットワークカメラリスト編集が表示されます。



5 「名前」、「IP アドレス」、「ユーザー名」、「パスワード」、「HTTP ポート番号」を入力し、必要に応じて「認証」、「通信方式」を設定する。

ご注意

・「ユーザー名」「パスワード」は、各ネットワークカメラに設定されているのと同様の設定を本機でも行ってください。
・「認証」を「オン」、「パスワード」を空欄にした場合は、発信時にパスワード入力を求められます。

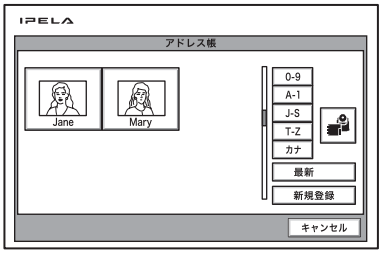
6 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「保存」を選び、決定ボタンを押す。

設定した内容が登録されます。

ネットワークカメラと接続するには

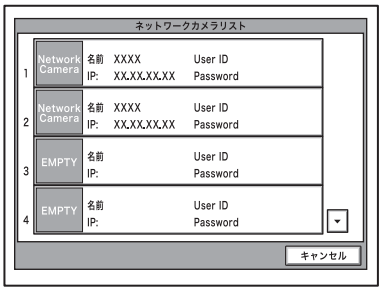
1 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押してランチャーメニューの「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳が表示されます。



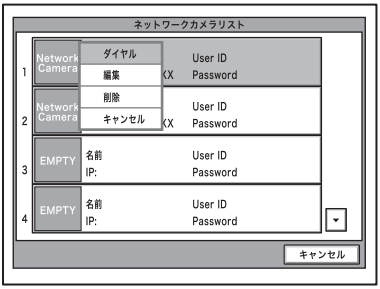
2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して画面右の を選び、決定ボタンを押す。

ネットワークカメラリストが表示されます。



3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで呼び出す相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。



4 リモコンの ↓ または ↑ ボタンで「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。

選んだ相手にダイヤルがはじまります。

ネットワークカメラリストで「認証」を「オン」、「パスワード」を空欄にしている相手の場合は、パスワード入力用のダイアログが表示されます。その場合はパスワードを入力し、「ダイヤル」を選んで決定ボタンを押してください。

5章 データソリューションボックスを使ったデータ会議

この章では、別売りのデータソリューションボックス PCSA-DSB1S を使い、コンピューターなどの画像を会議に使用する方法を説明します。

データソリューションボックス PCSA-DSB1S は、さまざまな入出力端子を備えています。たとえば、データソリューションボックスにコンピューターの RGB 映像出力を接続すれば、コンピューターに表示した画像や文書を会議の相手に送信することができます。またプロジェクターを接続して、相手の送ってくる高解像度のコンピューター画像を高速に表示することができます。そのほか、アクティブスピーカーやマイクを接続する端子があります。コミュニケーションターミナルとは専用のインターフェースケーブルで接続します。

受信側は、データソリューションボックスがなくても、また PCS-11 や PCS-1600 など他のテレビ会議装置でも、送られてきたコンピューター画像を見ることができます。ただし、端末の構成により、受信画像品質は異なります。受信側もデータソリューションボックスを使用すると、コミュニケーションターミナルだけのときに比べて 1 秒あたりのコマ数をより多く表示できるので、動きのある高解像度のコンピューター画像を見ることが可能です。

◆端末構成による画像品質は、「データソリューションボックスの画像品質」（221 ページ）をご覧ください。

◆RGB 入出力信号の仕様について詳しくは、「仕様」の「RGB 入出力仕様」（351 ページ）をご覧ください。

データソリューションボックス使用時の IP アドレスの制限について

データソリューションボックス PCSA-DSB1S 使用時に本機で使用できる IP アドレスには制限があります。また、データソリューションボックスとコミュニケーションターミナル間での通信用に使用しているネットワークは、別のセグメントに設定する必要があります。
(本機で使用できないアドレス) = (DSB 通信用アドレス) & (ネットワークマスク)
ここで DSB 通信用アドレスは、「192.254.1.2」の固定アドレスです。たとえばネットワークマスクが「255.255.0.0」だとすると、このときに使用できないアドレスは、

192.254.m.n (0 ≦ m ≦ 255, 0 ≦ n ≦ 255)

となります。

データソリューションボックス使用時のカメラ画像について

データソリューションボックスを使って送信中は、カメラ画像のコマ数が少なくなり、画質が悪くなります。

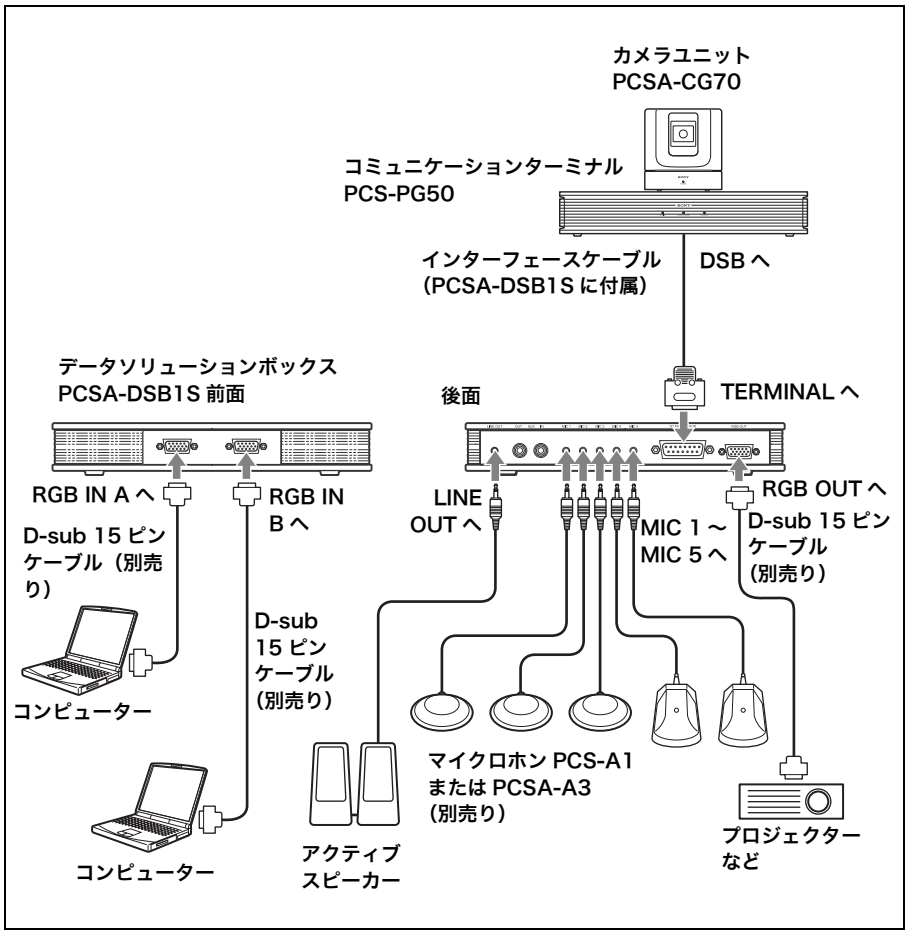
ご注意

ネットワークカメラとの接続時は、プレゼンテーション画像の送受信ができません。

データソリューションボックスへの接続例

⚠注意

- カメラユニットやコミュニケーションターミナル、データソリューションボックスの故障の原因となりますので、電源を入れたままカメラケーブルやインターフェースケーブルを抜き差ししないでください。
- データソリューションボックスを初めてコミュニケーションターミナルに接続して使用するとき、コミュニケーションターミナルが自動的にデータソリューションボックスのソフトウェアをバージョンアップすることがあります。画面にバージョンアップ中のメッセージが表示されている間は故障の原因となりますので、絶対に電源を切らないでください。



接続例について

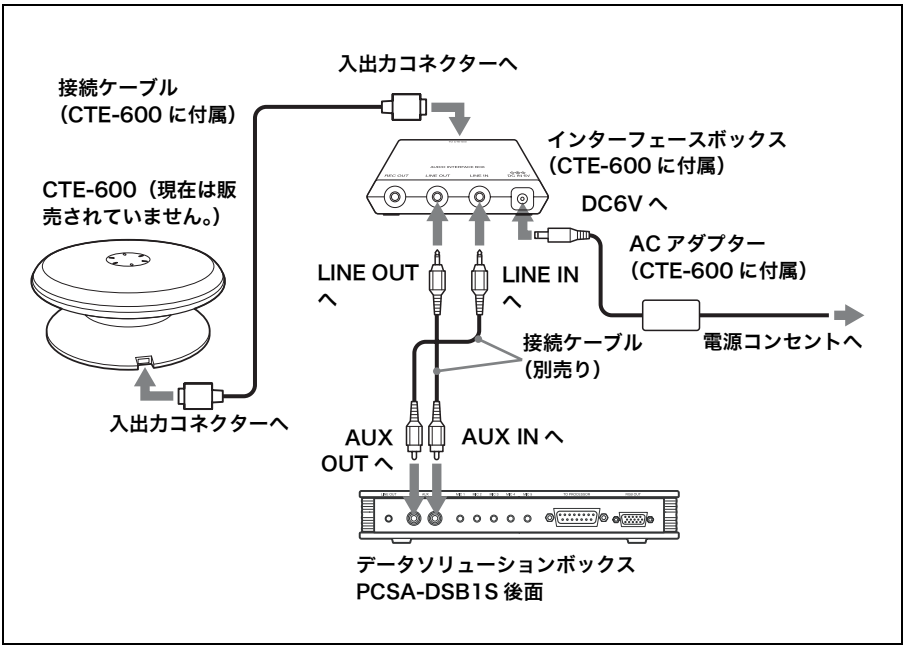
- 前ページのように接続すると、データソリューションボックスへの電源は、コミュニケーションターミナル PCS-PG50 から供給されます。
- データソリューションボックスの RGB OUT 端子にプロジェクターなどを接続してお使いください。これにより以下のことが可能になります。
  －送信中のコンピューター画像を出力できます。
  －受信したコンピューター画像を、もっとも良い画像品質で出力できます。

コミュニケーションターミナル PCS-PG50 の VIDEO OUT 端子や RGB OUT 端子から、受信したコンピューター画像を出力することもできますが、送信中のコンピューター画像を出力することはできません。

マイク使用時のご注意

- データソリューションボックスには外部マイクを 5 本まで接続することができます。
- 外部マイク使用時、室内の騒音によって相手に届く音声が不明瞭になることがあります。この場合はマイクに近づいて話してください。
- 複数のマイクを接続して使用する場合、部屋によってはエコーキャンセルの特性を十分に発揮できないことがあります。この場合は、部屋の反響を押さえる、マイクの本数を減らすなどしてご使用ください。
- データソリューションボックスに接続した外部マイクとコミュニケーションターミナルに接続した外部マイクは同時に使用できません。

コミュニケーショントランスデューサー CTE-600（現在は販売されていません。）を接続する



データソリューションボックスに接続したコミュニケーショントランスデューサーを使うには

- 音声設定メニュー 1 ページ目の「CTE」を「DSB AUX IN」に設定してください。(71 ページ)
- コミュニケーショントランスデューサー底面の SYSTEM SELECT スイッチを「PCS」に設定してください。

ご注意

2 台以上のコミュニケーショントランスデューサーを同じ部屋で使ったり、他のマイクとコミュニケーショントランスデューサーを併用することはできません。

◆コミュニケーショントランスデューサーの詳しい使いかたは、コミュニケーショントランスデューサーの取扱説明書をご覧ください。

接続機器の映像・音声を会議に使う

会議前の設定

データソリューションボックスに接続したマイクを使うには

音声設定メニュー 1 ページ目の「入力切替」で「MIC」または「MIC + AUX」に、「マイク選択」を「DSB MIC」に設定してください。(71 ページ)

データソリューションボックスの RGB OUT 端子に接続したプロジェクターなどを使用するには

映像設定メニューの「画面出力」－「モニター接続」で「DSB」を選択してください。(73 ページ)

会議中の操作

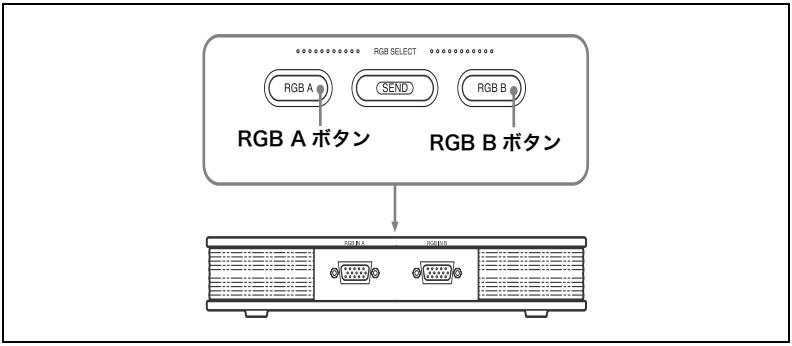
データソリューションボックスに接続したコンピューターの画像を選ぶには

データソリューションボックスのボタンを使用する場合

データソリューションボックス上面の RGB A ボタンまたは RGB B ボタンを押します。

RGB IN A 端子に接続したコンピューターの画像を入力するには RGB A ボタン、RGB IN B 端子に接続したコンピューターの画像を入力するには RGB B ボタンを押してください。

選択したボタンのランプが点灯します。



リモコンのボタンを使用する場合

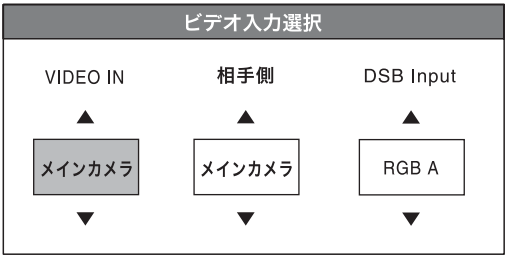
1 リモコンの入力切換ボタンを押す。

ビデオ入力選択メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「DSB Input」の「RGB A」と「RGB B」を切り換える。

RGB A：データソリューションボックスの RGB IN A 端子に接続したコンピューターの画像を選ぶとき

RGB B：データソリューションボックスの RGB IN B 端子に接続したコンピューターの画像を選ぶとき



3 リモコンの決定ボタンを押す。

選択した入力に応じ、データソリューションボックス上面の RGB A ボタンまたは RGB B ボタンのランプが点灯します。

ご注意

データソリューションボックスの RGB A ボタン、RGB B ボタンで入力を切り換えても、「ビデオ入力選択」画面の表示は切り換わりません。

データソリューションボックスに接続したコンピューターの画像を送信するには

リモコン PCSA-RG1 の操作でコンピューターの画像を送信する

リモコンのプレゼンテーションボタンを押します。停止するには、もう一度プレゼンテーションボタンを押します。
また、通信中サブメニューでも送信できます。

◆通信中サブメニューについて詳しくは、「通信中に使える便利なメニュー－通信中サブメニュー」（176 ページ）をご覧ください。

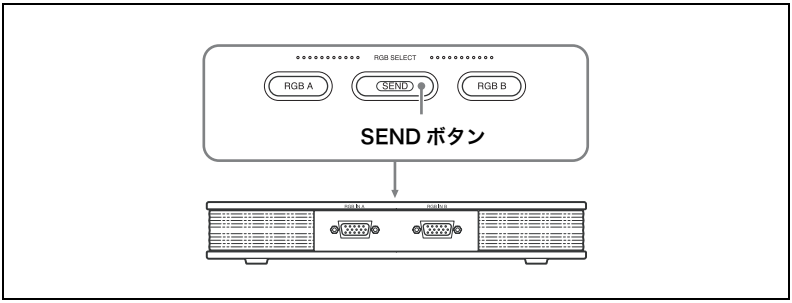
ご注意

リモコン PCS-RG70 は対応しておりません。

データソリューションボックスを操作してコンピューターの画像を送信する

データソリューションボックス上面の SEND ボタンを押します。
SEND ボタンのランプが点灯し、RGB A/RGB B ボタンまたはリモコンの入力切換ボタンで選択されたコンピューターの画像がデータソリューションボックスの RGB OUT 端子に接続されたプロジェクターなどに表示されます。会議の相手にもデータソリューションボックスで選択された画像が送信されます。
プロジェクターなどに表示されている送信中のコンピューター画像は、データソリューションボックスに入力している画像がそのまま表示されます。相手に送られている画像は、細かな部分が見にくくなる場合があります。また、コマ数が落ちます。

◆画像品質について詳しくは、「データソリューションボックスの画像品質」（221 ページ）をご覧ください。



ご注意

コンピューター画像を送信中は、他の端末からの静止画およびコンピューター画像を受信できません。送信を終了すると受信できます。また、他の端末から静止画およびコンピューター画像を受信中は、データソリューションボックスに接続した機器からの静止画およびコンピューター画像を送信することはできません。

多地点でコンピューター画像を伝送するには

別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（LAN 接続用）、または H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（ISDN 接続用）を本機にインストールしているときは、多地点間でコンピューター画像を伝送することができます。

データソリューションボックスの画像品質

相手側の端末や接続方法、モニター出力（サブモニター出力）の設定により、データソリューションボックスから送信された画像の受信品質が異なります。

相手側でもデータソリューションボックスを使用すれば、動きのある高画質のコンピューター画像を見ることが可能です。

ご注意

多地点会議の場合で、データソリューションボックスの映像を表示するモニターが本体 VIDEO、本体 RGB に接続されている端末が含まれているときは、データソリューションボックスの RGB OUT 端子に接続されている端末でも、1Mbps で表示できるのが 1 秒あたり画像 1 枚程度になります。

DSB 受信時の子画面表示

使用しているモニターが 1 台の場合は、RGB 画像を受信して全画面表示されているときにリモコンの子画面ボタンを押すと、子画面に相手側の映像を表示することができます。

ご注意

映像設定メニュー―「モニター出力」の「モニター接続」が「RGB」、「使用モニター数」が「1」に設定されている必要があります。

データソリューションボックスの映像を表示するモニター	受信端末のコンピューター画像の出力端子	解像度	コマ数	画像品質
本体 VIDEO	コミュニケーションターミナルの VIDEO OUT 1 または VIDEO OUT 2 端子	○	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を NTSC/PAL に変換して出力するため、本来の解像度では表示できません。細かな部分は見にくくなります。 回線レートにもよりますが、1 Mbps のとき 1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。
本体 RGB	コミュニケーションターミナルの RGB OUT 端子	◎	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。 回線レートにもよりますが、1 Mbps のとき 1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。
DSB RGB	データソリューションボックス PCSA-DSB1S の RGB OUT 端子 (PCSA-DSB1S 使用時のみ)	◎	◎	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を XGA で出力するので、高解像度の画像を表示できます。本体の RGB OUT 端子使用時より動きのある画像を見ることができます。回線レートにもよりますが、IP 接続で 1 Mbps のとき 1 秒あたり 5 枚程度（XGA で伝送した場合は 3 枚程度）です。

◎高、○中、△低

◆それぞれの出力端子から画像を出力するための設定は、「モニターやプロジェクターに映像を出力する」（224 ページ）や、映像設定メニューの「画面出力」（73 ページ）をご覧ください。

受信端末が PCS-11 の場合

解像度	コマ数	画像品質
○	○	VGA/SVGA/XGA で伝送した画像を NTSC/PAL に変換して出力するため、本来の解像度では表示できません。細かな部分は見にくくなります。 回線レートにもよりますが、 1 Mbps のとき 1 秒あたり 1 枚程度の画像を見ることができます。

◎高、○中、△低

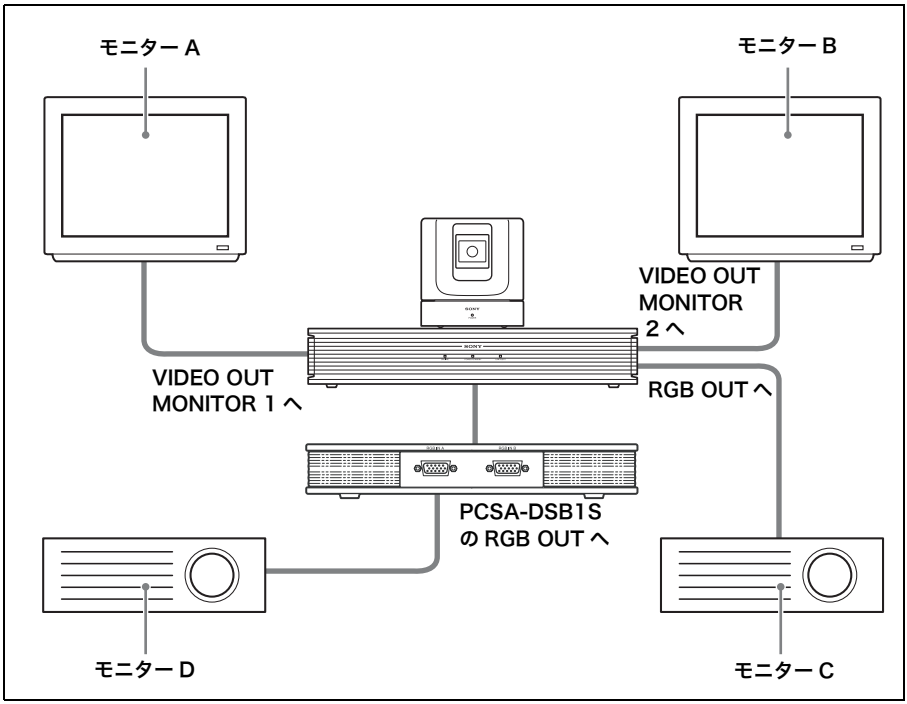
受信端末が PCS-1600 など他のテレビ会議装置の場合

解像度	コマ数	画像品質
○	△	4CIF で伝送するため、本来の解像度では表示できません。細かな部分は見にくくなります。またそのとき、回線レートにもよりますが、数秒に 1 枚程度の画像になります。

◎高、○中、△低

モニターやプロジェクターに映像を出力する

データソリューションボックスを接続した場合、自分側のシステムでは、次の 4 系統の出力端子にモニターやプロジェクターなどの外部出力機器を接続することができます。4 台のうち、1 台、2 台、または 3 台を選んで映像を出力することができます。



モニター 1 台だけに出力するとき

映像設定メニューの「モニター出力」の「モニター接続」でどの機器に出力するかを切り換えます。

VIDEO 1：コミュニケーションターミナルの VIDEO OUT MONITOR 1 端子に接続した機器（モニター A）に出力するとき

RGB：コミュニケーションターミナルの RGB OUT 端子に接続した機器（モニター C）に出力するとき

DSB：データソリューションボックスの RGB OUT 端子に接続した機器（モニター D）に出力するとき

モニターをデータソリューションボックスの RGB OUT 端子に接続した場合は

1 モニターをコミュニケーションターミナルの RGB OUT 端子に接続する。
2 映像設定メニューの「モニター出力」の「モニター接続」で「DSB」を選ぶ。
3 モニターをデータソリューションボックスの RGB OUT 端子に接続し直す。

2 台のモニターに出力するとき

映像設定メニューの「モニター出力」の「モニター接続」で 2 台のモニターを選択し、「モニター」でメインとサブのモニターを選択します。
メインに選択したモニターが動画用になります。

VIDEO 1：コミュニケーションターミナルの VIDEO OUT MONITOR 1 端子に接続した機器（モニター A）に出力するとき
VIDEO 2：コミュニケーションターミナルの VIDEO OUT MONITOR 2 端子に接続した機器（モニター B）に出力するとき
RGB：コミュニケーションターミナルの RGB OUT 端子に接続した機器（モニター C）に出力するとき
DSB：データソリューションボックスの RGB OUT 端子に接続した機器（モニター D）に出力するとき

ご注意

VIDEO 2 をメインモニターにすることはできません。

3 台のモニターに出力するとき

1 台目の動画用モニターは、コミュニケーションターミナルの VIDEO OUT MONITOR 1 端子に接続した機器（モニター A）に固定されます。

映像設定メニューの「モニター出力」の「モニター接続」で 2 台目と 3 台目のモニターとしてどの機器に出力するかを切り換えます。

VIDEO 2：コミュニケーションターミナルの VIDEO OUT MONITOR 2 端子（モニター B）に接続した機器に出力するとき

RGB：コミュニケーションターミナルの RGB OUT 端子に接続した機器（モニター C）に出力するとき

DSB：データソリューションボックスの RGB OUT 端子に接続した機器（モニター D）に出力するとき

6章 ホワイトボードを使った会議

この章では、ホワイトボードを使う会議のしかたを説明します。
ホワイトボードに描いた文字や画をリアルタイムで送受信して会議に活用することができます。
また、送受信したホワイトボードの画像を静止画として保存することができます。
ホワイトボードは、別売りのデジタルホワイトボードレコーダー mimio Xi* を使用した場合のみ会議に使用できます。

* mimio® は米国 Virtual Ink Corporation の登録商標です。
  mimio Xi は Virtual Ink Corporation の商標です。

◆mimio Xi について詳しくは、お買い上げ店にお問い合わせください。

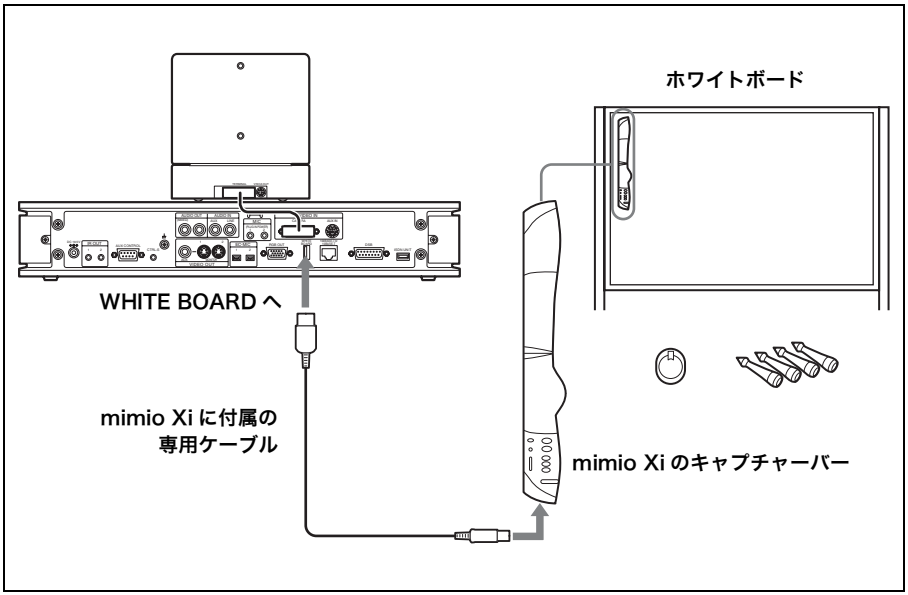
ご注意

ホワイトボードを使った会議ができるのは、PCS-G50 同士、または相手側（受信側）端末が PCS-G70、PCS-11、PCS-1、PCS-TL50、PCS-TL30 の場合のみです。
ソニー製の他のテレビ会議システム PCS-1600 などや、他社のテレビ会議システムには使えません。

ホワイトボードの接続例

⚠注意

カメラユニットやカメラコミュニケーションターミナル、mimio Xi の故障の原因となりますので、電源を入れたままケーブルを抜き差ししないでください。

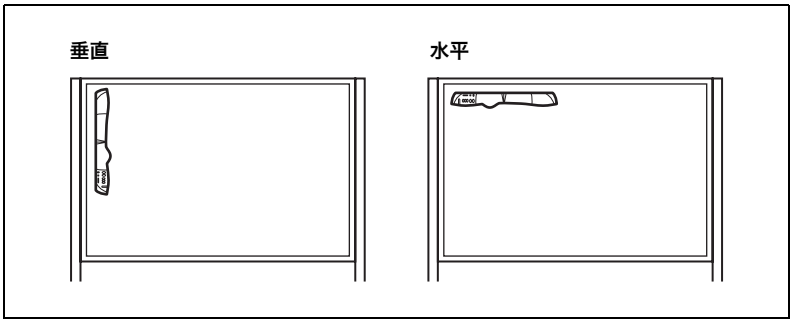


mimio Xi 使用上のご注意

- 必ず mimio Xi に付属の専用ケーブルを使って接続してください。
- mimio Xi は、ホワイトボードの左上端に取り付けてください。
- ホワイトボードに描く用具は mimio Xi 専用のスタイラスペンとマーカー、イレーザーをご使用ください。
- コミュニケーションターミナルの WHITE BOARD 端子には、mimio Xi 以外のものは接続しないでください。

mimio Xi を取り付ける

mimio Xi をホワイトボードの左上端に垂直または水平に取り付け、取り付けかたとホワイトボードの大きさを設定してください。



mimio Xi の取り付けかたを設定するには

mimio Xi の取り付けかたに応じて、一般設定メニューの「ホワイトボード」－「ホワイトボード取付位置」を「垂直」または「水平」に設定します。(79 ページ)

使用するホワイトボードの大きさを指定するには

一般設定メニューの「ホワイトボード」－「ホワイトボード計測単位」で「インチ」または「メートル」を選んでから、お使いのホワイトボードの大きさに応じて「ホワイトボードサイズ」を選択します。(79 ページ)「ホワイトボード取付位置」の設定により、以下のホワイトボードサイズ（縦×横）が選択できます。

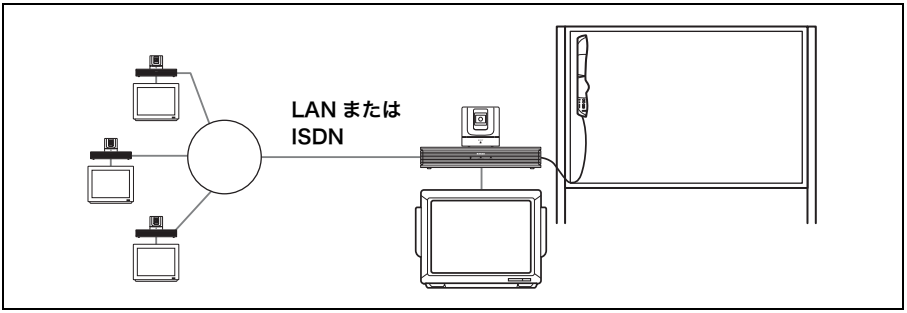
「垂直」の場合

2'0" × 3'0" (0.6 × 0.9 m)、3'0" × 4'0" (0.9 × 1.2 m)、4'0" × 6'0" (1.2 × 1.8 m)、4'0" × 8'0" (1.2 × 2.4 m)

「水平」の場合

3'0" × 2'0" (0.9 × 0.6 m)、4'0" × 3'0" (1.2 × 0.9 m)、6'0" × 4'0" (1.8 × 1.2 m)、8'0" × 4'0" (2.4 × 1.2 m)

ホワイトボードを使った会議をする



1 会議を始める。

2 ホワイトボードにこれから描く内容を送信するとき、リモコンの決定ボタンを押してモニター画面に通信中サブメニューを表示する。

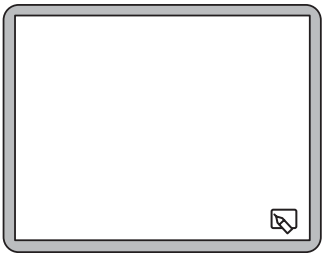
通信中サブメニュー



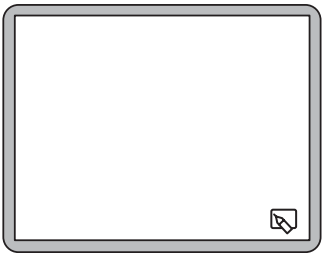
3 リモコンの ↑/↓ ボタンを押してホワイトボード ▶ を選び、決定ボタンを押す。

自分側のモニター（デュアルモニターの場合はサブモニター）と相手側のモニターにホワイトボードの画像とアイコンが表示されます。

自分側のモニター



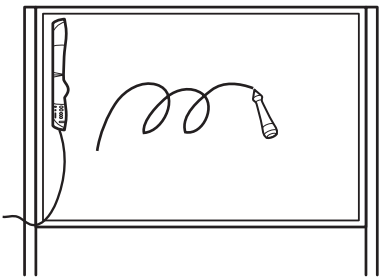
相手側のモニター



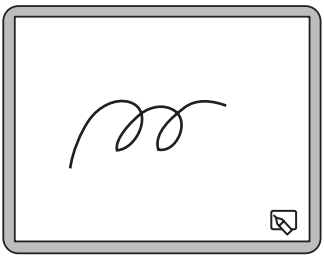
4 mimio Xi に付属のスタイラスペンとマーカー、イレーザーを使って、ホワイトボードに文字や画を描く。

描いた内容がリアルタイムでモニターに表示されます。

ホワイトボード



自分側と相手側のモニター



ご注意

- 会議中に使えるホワイトボードは 1 台だけです。複数の端末に mimio Xi が接続されている場合、先にホワイトボード を表示させた端末のホワイトボードがすべての端末に表示されます。
- 会議に参加するすべての端末で、通信モード設定メニュー 3 ページ目の「遠隔カメラ制御」（67 ページ）を「オン」に設定してください。設定されていないとホワイトボード機能は使えません。
- ホワイトボードを使用中の多地点会議に途中で参加した場合、参加時以降にホワイトボードに描かれた画像がモニターに表示されます。このため、参加時以前に描かれた文字や画が欠けた画像になります。

ホワイトボードに描いた内容を保存するには

通信中サブメニューを表示し、「保存」を選びます。
モニター画面に表示されているホワイトボードの画像が、静止画として“メモリースティック”に保存されます。



ホワイトボードの使用を終了するには

ホワイトボードを表示させた端末で通信中サブメニューを表示し、ホワイトボード [►] を選び、決定ボタンを押します。
すべての端末に表示されているホワイトボードの画像が消え、通常の画面に戻ります。この状態で、どの端末からもホワイトボードを開始させることができます。



ご注意

会議を終了したあとでホワイトボードの内容を再度モニターに表示することはできません。必要があれば、「ホワイトボードに描いた内容を保存するには」に従って、静止画として保存しておくことをおすすめします。

7章 暗号化会議

機密性の高い会議をしたいときやインターネットを介して会議を行う場合に、映像や音声、データソリューションボックス PCSA-DSB1S に接続したデータを暗号化して会議を行うことができます。この会議のしかたを暗号化会議と呼びます。
この章では、暗号化会議のしかたを説明します。
本機は、ITU-T で規定された H.233、H.234、H.235 に準拠した標準の暗号化方式と、ソニー独自の暗号化方式に対応しています。
独自方式の暗号化会議を行うことができるのは、接続された PCS-G50 同士または相手側（受信側）の端末が PCS-G70、PCS-11、PCS-1、PCS-TL50、PCS-TL30 の場合のみです。PCS-G50、PCS-G70、PCS-11、PCS-1、PCS-TL50、PCS-TL30 以外のソニー製や他社のテレビ会議システムとは独自方式の暗号化会議はできません。
標準暗号化方式は LAN 接続または ISDN 接続の場合に、独自方式は LAN 接続の場合に暗号化会議ができます。LAN 接続による多地点会議の場合（カスケード接続を含む）でも暗号化会議はできます。
独自方式は LAN と ISDN 接続が混在する接続では、暗号化会議はできません。

ご注意

- 標準暗号化方式、独自方式とも暗号化会議中は、ストリーミングおよびレコーディングはできません。
- 独自方式の暗号化会議では、相手のカメラをコントロールするためのデータやホワイトボードの画像は暗号化されません。
- 独自方式に対応しているのは、PCS-G70、PCS-G50、PCS-1、PCS-11、PCS-TL50、PCS-TL30 です。
- ネットワークカメラとの接続時は、暗号化会議ができません。

暗号化方式対応表

2 地点会議

回線種別 / 暗号化方式	LAN	ISDN	SIP
独自方式	○	×	○
標準方式（H.233、H.234、H.235）	○	○	×

多地点会議

回線種別 / 暗号化方式	LAN	ISDN	SIP	LAN と ISDN の混在	LAN と SIP の混在	ISDN と SIP の混在
独自方式	○	×	○	×	○	×
標準方式（H.233、H.234、H.235）	○	○	×	○	×	×

○：暗号化会議ができます。

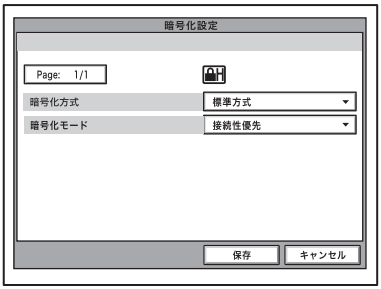
×：暗号化会議はできません。通常の会議となります。

暗号化会議の準備

暗号化会議を開催するには、暗号化設定メニューの「暗号化方式」を「標準方式」か「独自方式」にしておく必要があります。

標準方式の場合

1 暗号化設定メニューの「暗号化方式」を「標準方式」にする。

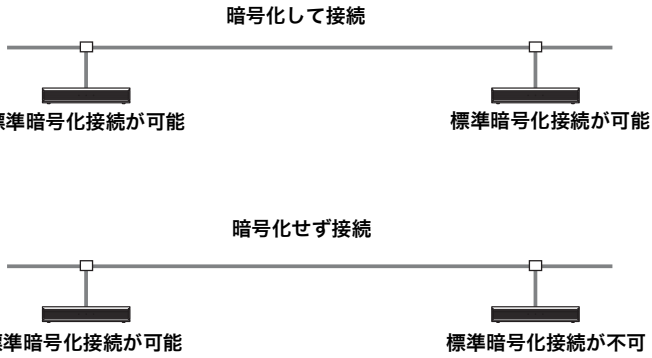


「暗号化モード」が表示されます。

2 「暗号化モード」を選びます。

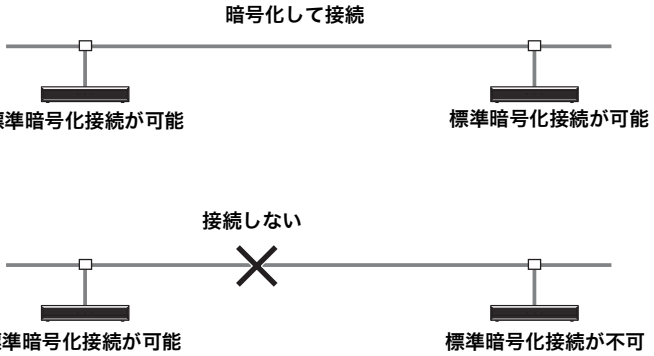
接続性優先

標準暗号化接続ができる相手とは暗号化接続します。標準暗号化接続ができない、またはオフになっている相手とは、暗号化せずに接続します。



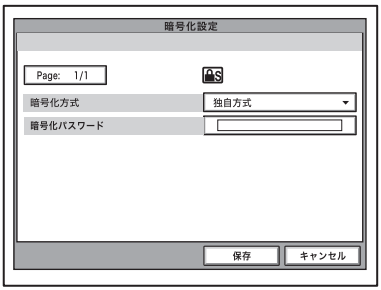
暗号化優先

標準暗号化接続ができる相手とのみ、接続します。



独自方式の場合

1 暗号化設定メニューの「暗号化方式」を「独自方式」にする。



「暗号化パスワード」欄が表示されます。

2 「暗号化パスワード」欄に 13 ～ 20 文字のパスワードを半角英数字、記号で入力する。

◆詳しい設定のしかたは、「暗号化設定メニュー」（95 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 「独自方式」の場合、LAN 接続で暗号化機能を持たない端末や、「暗号化方式」が「オフ」になっている端末、また「暗号化パスワード」が異なる端末との接続はできません。
- 「独自方式」の場合、ISDN 接続の端末には接続できますが、暗号化はされず、通常の会議となります。

暗号化会議を始める

通常の会議と同じ方法で、暗号化会議をする相手を呼び出します。
暗号化会議中、モニター画面には、暗号化会議アイコン S または H が表示されます。
表示されるアイコンは、暗号化方式が「独自方式」の場合は S、「標準方式」の場合は H になります。



ご注意

アイコンが表示されていないときは、送受信データは暗号化されていません。
アイコンが表示されていることを確認してから会議を始めてください。

暗号化会議ができない場合は

以下の場合、暗号化会議はできません。相手を呼び出すと、以下のエラーメッセージが表示され、接続されません。

エラーメッセージ	原因
「相手側の暗号化機能がオフになっています。」	相手側の暗号化機能がオフになっている。または、相手側と暗号化通信方式の設定が違う。
「暗号化のパスワードが違います。」	相手側の暗号化パスワードが本機と異なっている。
「ISDN 接続を含んだ暗号化会議はできません。」	ISDN 接続で会議中に LAN 接続の端末を呼び出した、または呼び出された。
「こちら側の暗号化機能がオフのため、会議が開始できませんでした。」	自分側の暗号化機能がオフになっている。

エラーメッセージ	原因
「相手側の暗号化機能がオフのため会議が開始できませんでした。」	相手側の暗号化機能がオフになっている。
「相手側と暗号化方式が異なるため会議が開始できませんでした。」	相手側と暗号化方式の設定が違う。
「SIP 接続を含んだ標準方式の暗号化会議はできません。」	相手側と SIP で接続している。
「ISDN 接続を含んだ独自方式の暗号化会議はできません。」	相手側と ISDN で接続している。

8章 多地点会議

この章では、多地点会議を行う方法を説明します。
本機を使って多地点会議を行うには、別売りの H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（LAN 接続用）または H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（ISDN 接続用）を本機にインストールする必要があります。
LAN を使用する場合は、自分側を含め、最大 10 地点間で多地点会議を行うことができます。
ISDN 回線を使用する場合は、自分側を含め、最大 6 地点間で多地点会議を行うことができます。そのうち最大 5 地点までに音声電話を使うことができます。
LAN 接続と ISDN 接続が混在する多地点会議もできます。

◆SIP を使った会議を行うには、9 章をご覧ください。

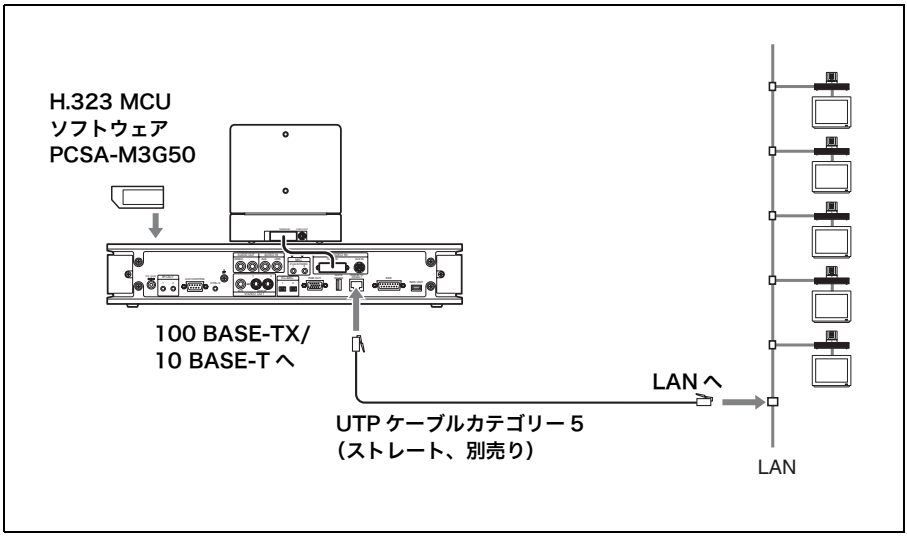
MCU ソフトウェア使用時の制限事項

- LAN 接続の多地点会議の場合、帯域は、全地点合計で最大 4 Mbps となるように自動的に設定されます。接続地点数により、各地点への回線レートが変わります。
- ISDN 接続の多地点接続の場合、帯域は、各地点が同じチャンネル数で、合計が最大 12B チャンネルとする必要があります。ただし、PRI を利用した場合は 23B、30B とする必要があります。
- 映像方式は、H.264、H.263+、H.261 のみの対応です。
- 音声方式は、G.711、G.722、G.728、MPEG4 AAC のみの対応です。

多地点会議の接続例

LAN 接続の場合（最大 6 地点）

- 1 台のコミュニケーションターミナルに H.323MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（別売り）をインストールすると、最大 6 地点間の多地点会議が可能です。
- 2 地点間の会議をしているときに別の地点から呼び出しがあった場合、自動的に多地点会議へと移行します。

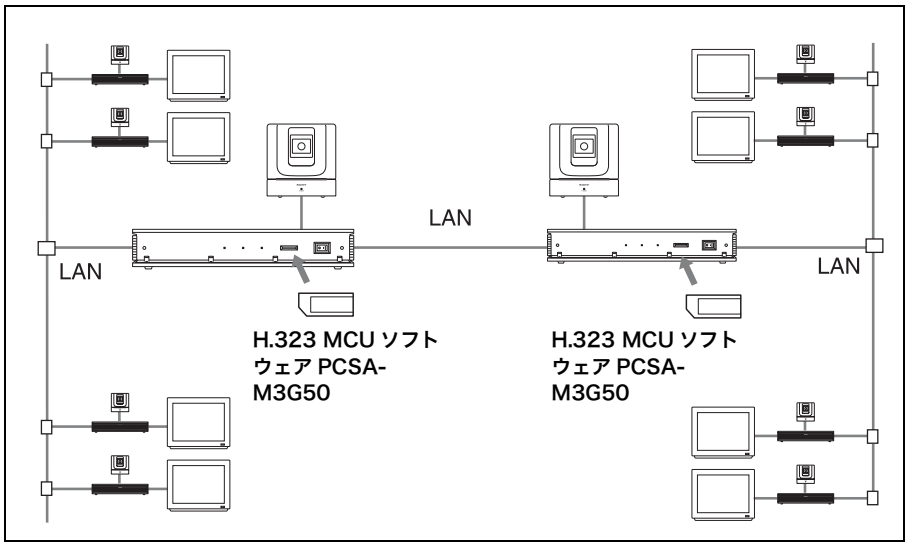


ご注意

多地点会議を行う場合、H.323MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 をインストールしたコミュニケーションターミナルだけが親機として使えます。

LAN カスケード接続の場合（最大 10 地点）

H.323MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 を 2 台のコミュニケーションターミナルにインストールすることにより、親機を 2 台とするカスケード接続ができます。各親機に 4 台ずつの子端末を接続して、最大 10 地点間の多地点会議が可能です。

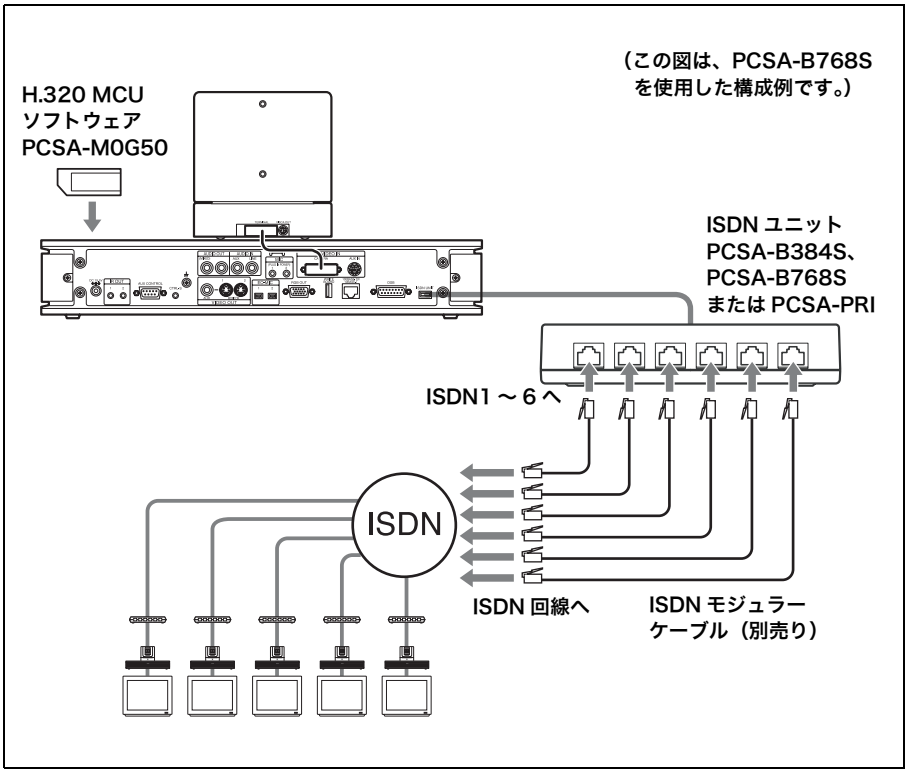


ご注意

- MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 を 3 台以上のコミュニケーションターミナルにインストールしても、カスケード接続はできません。3 台目以降のコミュニケーションターミナルでは、通信モード設定メニュー 4 ページ目の「マルチポイントモード」を「オート」にしてください。
- カスケード接続の場合、通信中の放送モードは音声検出モードになります。分割モード、分割位置固定モードで表示することはできません。
- 相手側の親機として使用できるのは、PCS-1、PCS-G50、PCS-G70、PCS-TL50 のいずれかです。
- カスケード接続の場合、ネットワークカメラとの接続ができません。

ISDN 接続の場合

1 台のコミュニケーションターミナルに H.320MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（別売り）をインストールすると、ISDN ユニット PCSA-B384S を介して最大 4 地点、PCSA-B768S または PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）を介して最大 6 地点間の多地点会議が可能です。



ISDN の使用回線数と会議の地点数について

多地点会議の 1 地点目の接続に使用する ISDN 回線の数は、通信モード設定メニュー 1 ページ目の「使用回線数」で設定できます。ただし、親機からの発信操作によって接続する地点数が増えた場合は、既に接続されている地点との接続回線の一部が切断され、新たに接続した地点との接続に使用されます。たとえば、ISDN 回線を 6 本接続しているとき（12B チャンネルまでの使用が可能なとき）、1 地点目のみと接続している場合は 12B チャンネルで接続されます

が、2 地点目と接続した際には 1 地点目、2 地点目とも 6B チャンネルでの接続に切り替わります。
なお、接続している複数の地点のうち、ある 1 地点との接続を切断した場合でも、残りの地点との接続に使用される回線数が増加することはありません。

ご注意

相手から呼び出された場合、相手側で設定した回線数が本機で設定した回線数より小さい場合は、相手側の設定が優先されます。

音声電話の接続について

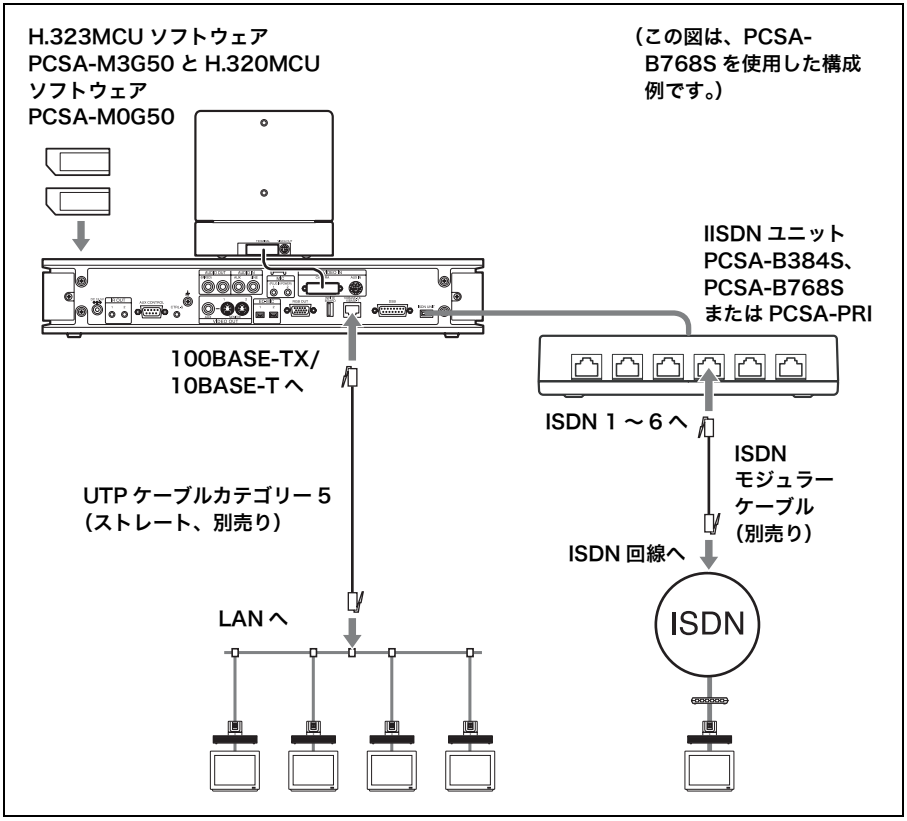
ISDN 接続の場合、最大 5 地点まで音声電話を接続できます。
音声電話は 1B(64K) 接続となります。

ご注意

- ISDN 接続の場合、2 台以上のコミュニケーションターミナルに H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50 をインストールしても、カスケード接続はできません。
- 多地点会議を行う場合、H.320MCU ソフトウェア PCSA-M0G50 をインストールしたコミュニケーションターミナルだけが親機として使えます。

LAN と ISDN 両方の場合

1 台のコミュニケーションターミナルに H.323MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 と H.320MCU ソフトウェア PCSA-M0G50 を両方インストールすると、LAN 接続と ISDN 接続が混在した多地点会議が可能です。

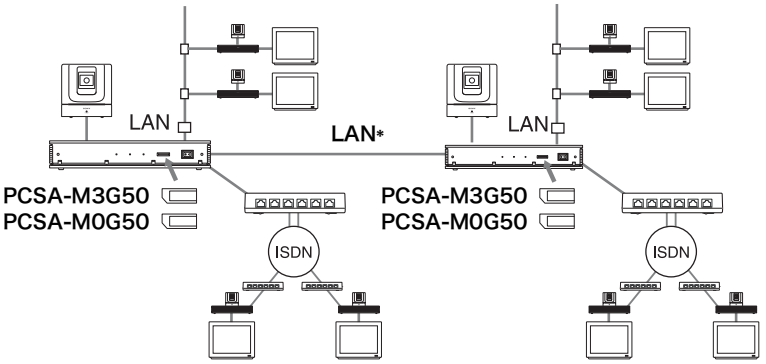


ご注意

上記の図は LAN 接続 4 台、ISDN 接続 1 台の例です。混在させる LAN 接続と ISDN 接続の機器の台数に制限はありません。

LAN カスケードと ISDN 接続の場合

2 台のコミュニケーションターミナルに H.323MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 と H.320MCU ソフトウェア PCSA-M0G50 を両方インストールすることにより、親機を 2 台とするカスケード接続ができます。各親機に 4 台ずつの子端末を接続して、最大 10 地点間の LAN 接続と ISDN 接続が混在した多地点会議が可能です。



* MCU ソフトウェアをインストールした 2 台のコミュニケーションターミナルは必ず LAN を介して接続してください。

ご注意

- カスケード接続する 2 台のコミュニケーションターミナル間は、必ず LAN 接続してください。ISDN によるカスケード接続はできません。
- カスケード接続の場合、通信中の放送モードは音声検出モードになります。分割モード、分割位置固定モードで表示することはできません。
- 相手側の親機として使用できるのは、PCS-1、PCS-G50、PCS-G70、PCS-TL50 のいずれかです。
- カスケード接続の場合、ネットワークカメラとの接続ができません。

MCU ソフトウェアをインストールする

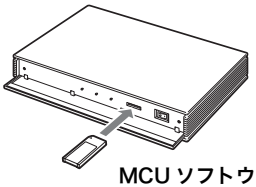
インストール時のご注意

- MCU ソフトウェアの入った“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっているとインストールできません。
- 1 個の MCU ソフトウェアでインストールできるのは 1 回のみです。
- コンピューターなどで他の“メモリースティック”にコピーした MCU ソフトウェアはインストールできません。

1 コミュニケーションターミナルの前面パネルを開けて、右側の電源スイッチをオフ（O 側）にする。

2 MCUソフトウェアPCSA-M3G50またはPCSA-M0G50の入った“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



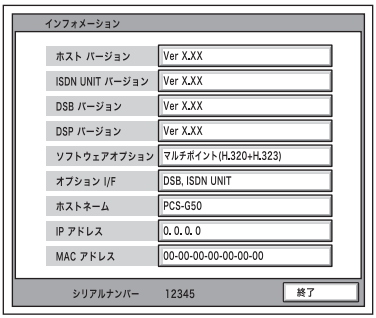
MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 または PCSA-M0G50

3 コミュニケーションターミナルの電源スイッチをオン（I 側）にする。

MCU ソフトウェアがコミュニケーションターミナルにインストールされます。

MCU ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認するには

機器情報の「ソフトウェアオプション」にインストールされたソフトウェアが表示されます。



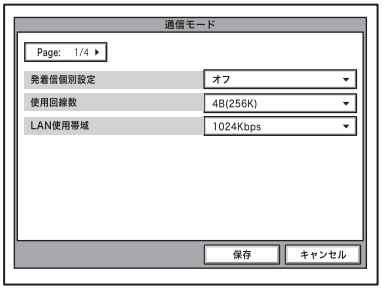
◆機器情報について詳しくは、「機器情報」（94 ページ）をご覧ください。

多地点会議の設定をする

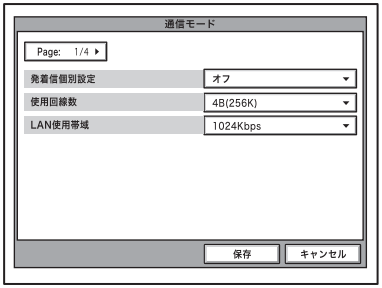
通信モード設定メニューで、多地点会議の設定を行います。

通信設定メニュー

1 通信モード設定メニュー 1 ページ目の「使用回線数」で、多地点会議の 1 地点目の接続に使用する ISDN 回線のチャンネル数を選択します。選んだチャンネル数と接続されている ISDN 回線の本数により、接続可能な地点数が決まります。



2 通信モード設定メニューの「LAN 使用帯域」で、LAN を使って多地点会議をするときの帯域幅を選択します。



多地点会議の相手をマルチポイント接続リストに登録する

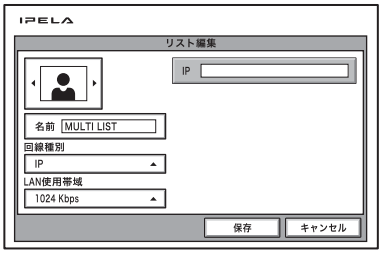
多地点会議の相手をすべて登録したマルチポイント接続リストをアドレス帳に作成しておくと、相手に一括してダイヤルできるので便利です。

新たに相手を入力してマルチポイント接続リストを作成したり、すでにアドレス帳に登録されている相手をマルチポイント接続リストに指定することもできます。

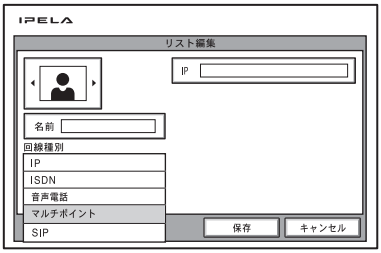
新たにマルチポイント接続リストを登録するには

アドレス帳への登録のしかたは、基本的には 2 地点間のテレビ会議の相手の場合と同じです。詳しくは、「新しい相手を登録する」（98 ページ）をご覧ください。

1 アドレス帳で「新規登録」を選んでリスト編集メニューを表示し、名前の欄にマルチポイント接続リストの名前を入力する。



2 「回線種別」で「マルチポイント」を選ぶ。



3 アドレス帳に表示する静止画を選ぶ。

選ばないときは、アイコンは「 」になります。

4 相手の回線情報を設定する。

PCSA-M3G50（LAN 接続用 H.323 MCU ソフトウェア）をインストールしている場合

「IP」を選び、入力欄 A ～ E に多地点会議を行いたい相手の IP アドレスをすべて入力します。

PCSA-M0G50（ISDN 接続用 H.320 MCU ソフトウェア）をインストールしている場合

「ISDN」または「電話」を選び、入力欄 A ～ E に多地点会議を行いたい相手の回線番号または電話番号をすべて入力します。

PCSA-M3G50（LAN 接続用 H.323 MCU ソフトウェア）と PCSA-M0G50（ISDN 接続用 H.320 MCU ソフトウェア）を両方インストールしている場合

マルチポイントを選ぶと入力欄 A ～ E の右端にドロップダウンリストが表示されます。

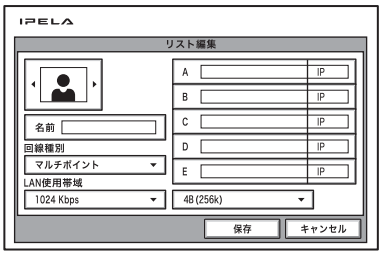
LAN 回線の場合：ドロップダウンリストで「IP」を選び、IP アドレスを入力します。

ISDN 回線の場合：ドロップダウンリストで「ISDN」を選び、回線番号を入力します。

音声電話の場合：ドロップダウンリストで「TEL」を選び、電話番号を入力します。

SIP の場合：ドロップダウンリストで「SIP」を選び、アドレスを入力します。

多地点会議を行いたい相手をすべて入力します。



◆詳しい設定のしかたは、「新しい相手を登録する」（98 ページ）の手順 5 をご覧ください。

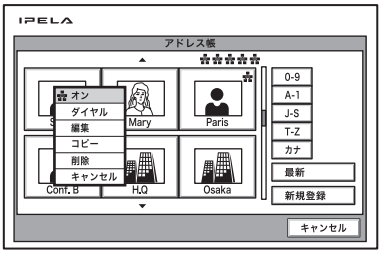
5「保存」を選び、リモコンの決定ボタンを押す。

これでマルチポイント接続リストの登録が完了します。

アドレス帳に登録されている相手をマルチポイント接続リストに指定するには

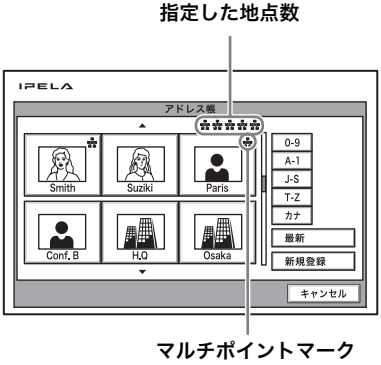
1 リモコンの↑/↓/←/→ボタンでアドレス帳の中から多地点会議の相手として指定したい相手を選ぶ。

2 リモコンの＊ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓ボタンで「 オン」を選んで決定ボタンを押す。



選んだ相手のリスト欄の右上に （マルチポイント）マークが表示され、多地点会議の相手に指定されます。

同じ手順で5地点までに マークをつけることができます。
メニュー上部に マークをつけた相手の数だけ マークが濃く表示されます。



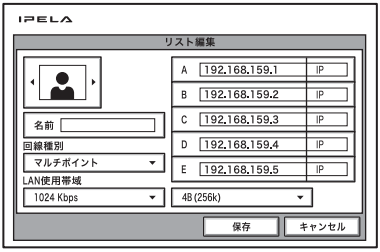
ヒント

✣ マークを消すには、リモコンの ✱ ボタンをもう一度押してください。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓ ボタンで「✣ オフ」を選んで決定ボタンを押します。

3 ✣ マークをつけた相手の 1 つを選び、リモコンの決定ボタンを押す。

4 ↑/↓ ボタンを押してサブメニューから「✣ 編集」を選び、決定ボタンを押す。

リスト編集メニューが表示されます。番号欄には ✣ マークをつけた相手の IP アドレスまたは電話番号がすべて入力されています。



5 名前の欄にマルチポイント接続リストの名前を入力する。

6 「保存」を選び、決定ボタンを押す。

これでマルチポイント接続リストの登録が完了します。

多地点会議を始める

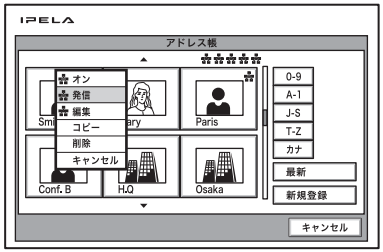
相手を呼び出す

マルチポイント接続リストに登録している相手を呼び出す

1 アドレス帳に登録してあるマルチポイント接続リストを選ぶ。

マルチポイント接続リストの回線種別アイコンは、⁂ です。

2 リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓ ボタンで「⁂ 発信」を選んで決定ボタンを押す。

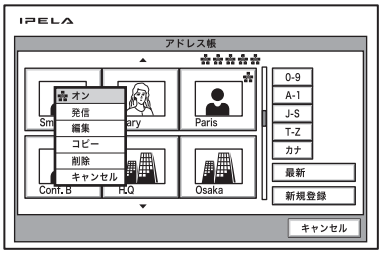


マルチポイント接続リストに登録された相手にダイヤルが始まります。モニター画面に発信中と表示され、コミュニケーションターミナルの ON LINE ランプ（青色）が点滅します。
相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示され、ON LINE ランプが点灯します。

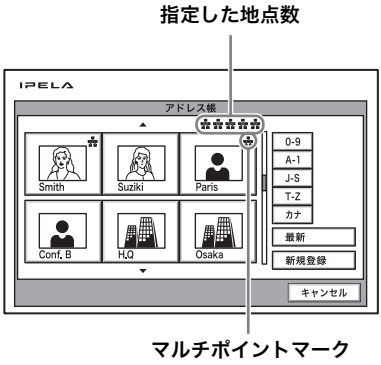
アドレス帳から多地点会議の相手を選択して呼び出す

1 アドレス帳で多地点会議を行いたい相手を選ぶ。

2 リモコンの ＊ ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓ ボタンで「⁂ オン」を選んで決定ボタンを押す。



選んだ相手のリスト欄の右上に ✣（マルチポイント）マークが表示され、多地点会議の相手に指定されます。
同じ手順で 5 地点までに ✣ マークをつけることができます。メニュー上部に ✣ マークをつけた相手の数だけ ✣ マークが表示されます。



ヒント

✣ マークを消すには、リモコンの ✱ ボタンをもう一度押してください。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓ ボタンで「✣ オフ」を選んで決定ボタンを押します。

3 ✣ マークをつけた相手の 1 つを選ぶ。

4 リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。または、リモコンの決定ボタンを押してサブメニューを表示し、↑/↓ ボタンで「✣ 発信」を選んで決定ボタンを押す。

✣ マークをつけた相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示され、コミュニケーションターミナルの ON LINE ランプ（青色）が点滅します。

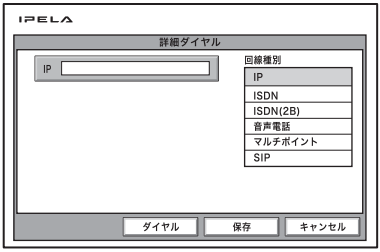
相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示され、ON LINE ランプが点灯します。

アドレス帳に登録していない相手を呼び出す

登録していない相手の呼び出しかたは、基本的には 2 地点間のテレビ会議の場合と同じです。詳しくは、「相手を呼び出す－アドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（123 ページ）をご覧ください。

1 ランチャーメニューで「詳細ダイヤル」を選び、詳細ダイヤルメニューを表示する。

2 相手の回線種別を設定する。



PCSA-M3G50（LAN 接続用 H.323 MCU ソフトウェア）をインストールしている場合

「マルチポイント」を選び、入力欄 A ～ E に多地点会議を行いたい相手の IP アドレスをすべて入力します。

PCSA-M0G50（ISDN 接続用 H.320 MCU ソフトウェア）をインストールしている場合

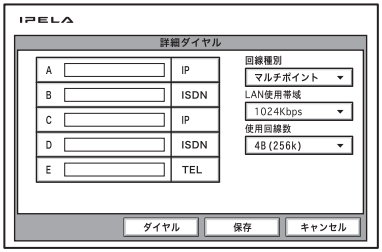
「マルチポイント」を選び、入力欄 A ～ E に多地点会議を行いたい相手の回線番号または電話番号をすべて入力します。

PCSA-M3G50（LAN 接続用 H.323 MCU ソフトウェア）と PCSA-M0G50（ISDN 接続用 H.320 MCU ソフトウェア）を両方インストールしている場合

「マルチポイント」を選ぶと入力欄 A ～ E の右端にドロップダウンリストが表示されます。

LAN 回線の場合：ドロップダウンリストで「IP」を選び、IP アドレスを入力します。

ISDN 回線の場合：ドロップダウンリストで「ISDN」を選び、回線番号を入力します。
音声電話の場合：ドロップダウンリストで「TEL」を選び、電話番号を入力します。
SIP の場合：ドロップダウンリストで「SIP」を選び、アドレスを入力します。
多地点会議を行いたい相手をすべて入力します。



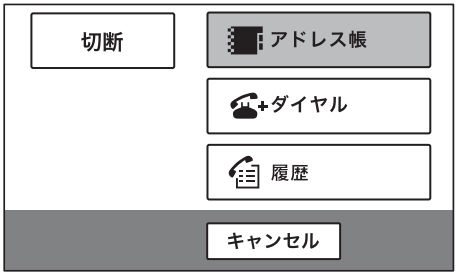
◆詳しい設定のしかたは、「アドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（123 ページ）の手順 3 をご覧ください。

3 「ダイヤル」を選び、リモコンの決定ボタンを押す。またはリモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。

手順 2 で入力した相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示され、コミュニケーションターミナルの ON LINE ランプ（青色）が点滅します。
相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示され、ON LINE ランプが点灯します。

2 地点目以降の相手を呼び出すには

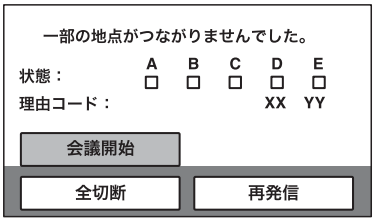
すでにある 1 地点と通信を始めた後、リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押すと、メニューが表示されます。



接続する相手の登録状態にあわせて、「相手を呼び出す」（122 ページ）のいずれかの方法を行ってください。

マルチポイント接続で一部の地点がつながらなかった場合

以下のような画面が表示されます。希望の操作を選んでください。



会議開始：接続中の相手との会議を開始します。
全切断：すべての接続を終了し、ランチャーメニューへ戻ります。
再発信：接続に失敗した地点への発信処理を行います。

ISDN による多地点接続時のご注意

ISDN による多地点会議の際、親機からの発信操作によって接続する地点数が増えた場合は、既に接続されている地点との接続回線の一部が切断され、新たに接続した地点との接続に使用されます。たとえば、ISDN 回線を 6 本接続しているとき（12B チャンネルまでの使用が可能なとき)、1 地点目のみと接続している場合は 12B チャンネルで接続されますが、2 地点目と接続した際には 1 地点目、2 地点目とも 6B チャンネルでの接続に切り替わります。

なお、接続している複数の地点のうち、ある 1 地点との接続を切断した場合でも、残りの地点との接続に使用される回線数が増加することはありません。

相手から呼び出しを受ける

2 地点間のテレビ会議の操作と同じです。

◆詳しくは、「相手から会議に呼び出される」（133 ページ）をご覧ください。

画面制御を行う

本機に MCU ソフトウェアをインストールしているとき、多地点会議中に自分側から下記のような操作が可能になります。

放送モードの種類

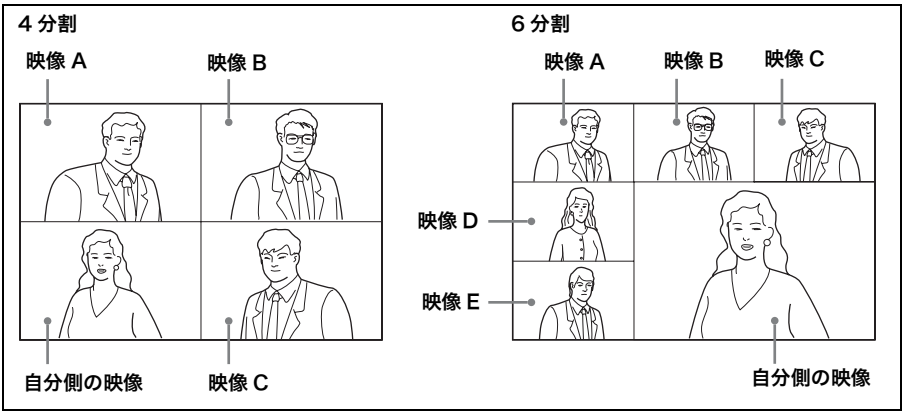
放送モードには分割モードと分割位置固定モード、音声検出モード、放送選択モードがあります。

分割モード

接続している端末の映像と自分側の映像が、分割されてモニター画面に表示されます。

端末の数に関わりなく常に 6 分割される「6 分割固定」と端末の数により自動的に 4 分割や 6 分割になる「自動分割」があります。「自動分割」では、端末数が 2 か 3 のときは 4 分割になり、端末数が 4 か 5 のときは 6 分割になります。

映像 A ～ C（または A ～ E）には、接続された端末の映像が接続された順番に表示されます。



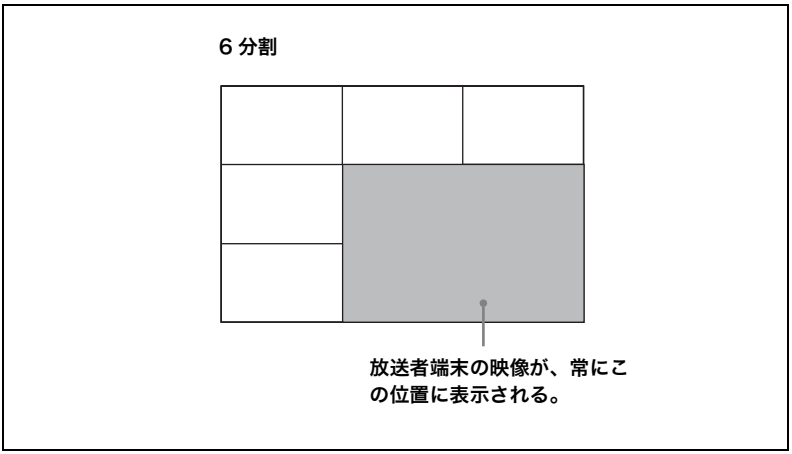
ご注意

- 6 分割の分割モードのときは、音声が一番大きい端末を検出し、右下の位置に表示します。検出された端末の映像が表示されていた位置には、自分側の映像が表示されます。
- 通信中に分割モードから音声検出モードに切り換えて特定の地点をフルスクリーンに表示すると、あとで分割モードに戻したとき、映像 A ～ E の位置が変わります。

- 端末数が 1 の場合は、設定にかかわらず、全画面表示になります。
- 放送者に対する 6 分割の分割モードのときは、常に放送者を右下の位置に表示します。
- 分割モード、分割固定モードのときは接続している端末のカメラをコントロールすることはできません。

分割位置固定モード

分割モードと同様に、接続している端末の映像と自分側の映像が分割されてモニター画面に表示されます。さらに、6 分割の右下の画面に表示される端末を固定できます。固定画面以外の分割画面には、接続された端末の映像が接続された順番に表示されます。



音声検出モード

音声が一番大きい端末を検出し、その端末の映像を他のすべての端末にフルスクリーンで表示します。音声検出モードのときは、モニター画面に「V.A」インジケーターが表示されます。また、放送中の端末を表す、A、B、C などアルファベットのついたインジケーター（ など）も表示されます。自分側の映像が放送されているときは、モニター画面に が表示されます。

放送選択モード

端末を選択し、その端末の映像を他のすべての端末にフルスクリーンで表示します。モニター画面に放送中の端末を表す、A、B、C などアルファベットのついたインジケーター（ など）も表示されます。自分側の映像が放送されているときは、モニター画面に が表示されます。

放送モードと画面表示

それぞれの放送モードを選択したときの画面表示は次のようになります。また、接続の状態によっては選択できないモードもあります。下記の表で、画面表示のない接続では選択できません。

接続の状態				カスケード接続でない場合	カスケード接続の場合
接続図				LAN 接続（240 ページ参照） ISDN 接続（242 ページ参照） LAN & ISDN 接続 (244 ページ参照)	LAN カスケード接続 (241 ページ参照) LAN カスケードと ISDN 接続 (245 ページ参照)
最大地点数				6	10
放送モード	通信前の設定	自動分割モード	端末数が 2、3 のとき	4 分割 	−
			端末数が 4、5 のとき	6 分割 	−
		6 分割固定モード		6 分割固定 	−
	通信中の設定	分割位置固定モード	端末数が 2、3 のとき	−	−
			端末数が 4、5 のとき	6 分割 	−
		音声検出モード		フルスクリーン 	フルスクリーン 
		放送選択モード		フルスクリーン 	−

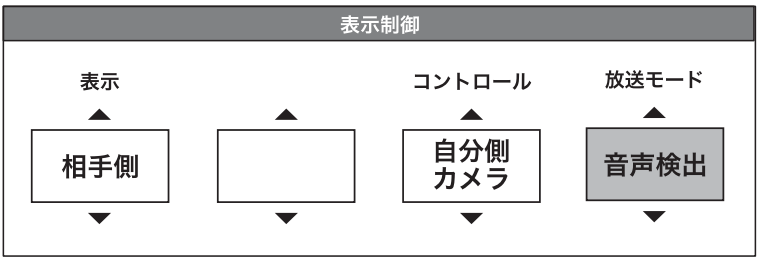
放送モードを切り換える

会議を始めるときは通信モード設定メニュー 4 ページ目の「放送モード」で設定したモードになっています。会議中に以下のように放送モードを切り換えることができます。

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「放送モード」を選び、決定ボタンを押す。



分割：分割モードを選ぶとき

分割（A を固定）：分割位置固定モードで、1 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（B を固定）：分割位置固定モードで、2 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（C を固定）：分割位置固定モードで、3 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（D を固定）：分割位置固定モードで、4 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（E を固定）：分割位置固定モードで、5 番目に接続した端末の映像の位置を固定するとき

分割（自分を固定）：分割位置固定モードで、自分側の映像の位置を固定するとき

音声検出：音声検出モードを選ぶとき

自分を放送：放送選択モードで、自分側の映像を放送するとき

A を放送：放送選択モードで、1 番目に接続した端末の映像を放送するとき

B を放送：放送選択モードで、2 番目に接続した端末の映像を放送するとき

C を放送：放送選択モードで、3 番目に接続した端末の映像を放送するとき

D を放送：放送選択モードで、4 番目に接続した端末の映像を放送するとき

E を放送：放送選択モードで、5 番目に接続した端末の映像を放送するとき

音声検出モードのときに自分側の映像を確認するには

音声検出モードのときは、自分側の映像を自分側のモニター画面にのみ表示することができます。他の端末は音声検出モードの状態になっています。

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「表示」に「自分側」を選び、決定ボタンを押す。

自分側の映像が自分側のモニター画面に表示されます。

音声検出モードに戻るには

リモコンの相手 / 自分ボタンをもう一度押し、「表示」の「相手側」を選んでください。

サブモニターに表示される映像を切り換える

会議中にサブモニターに表示される映像を切り換えることができます。

ご注意

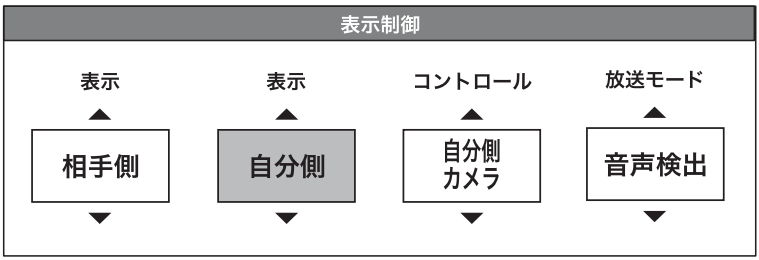
サブモニターに表示される映像を切り換えるには、映像設定メニュー－「モニター出力」－「使用モニター数」を「2」または「3」に設定しておく必要があります。

◆モニター出力について詳しくは、「モニター出力」（74 ページ）をご覧ください。

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「表示」を選び、決定ボタンを押す。



相手側：相手側のカメラ映像を表示するとき
自分側：自分側のカメラ映像を表示するとき
話者：話者のカメラ映像を表示するとき
A を固定：1 番目に接続した端末のカメラ映像を表示するとき
B を固定：2 番目に接続した端末のカメラ映像を表示するとき
C を固定：3 番目に接続した端末のカメラ映像を表示するとき
D を固定：4 番目に接続した端末のカメラ映像を表示するとき
E を固定：5 番目に接続した端末のカメラ映像を表示するとき

他の端末から送信要求を受ける

接続されている端末から「自分を放送」を受信すると、その端末の映像が他の端末に自動的にフルスクリーンで放送されます。接続されている端末から「放送終了」を受信すると、元のモードに戻ります。

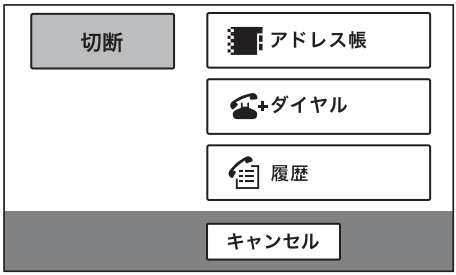
ご注意

- すでに他の端末から「自分を放送」を受信しているときは、上記の動作を行いません。
- カスケード接続の場合は、音声検出モードのみをサポートします。

多地点会議を終了する

1 リモコンの接続 / 切断（☎ / ☎）ボタンを押す。

下記のメニューが表示されます。

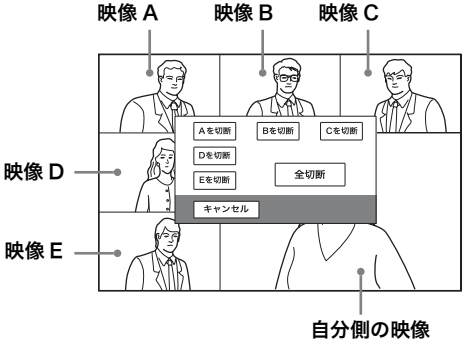


2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「切断」を選び、決定ボタンを押す。

6 分割画面に切り換わり、下記のメニューが表示されます。

A ～ E（または A ～ C）に表示される映像は、端末が接続されたときの順番に戻ります。

このとき、一般設定メニューの「メニュー画面」の「端末名表示」を「一定時間表示」または「常時表示」に設定していると、端末名が表示されます。



3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで切断する端末を選び、決定ボタンを押す。

A を切断：1 番目に接続した端末を切断するとき

B を切断：2 番目に接続した端末を切断するとき

C を切断：3 番目に接続した端末を切断するとき

D を切断：4 番目に接続した端末を切断するとき

E を切断：5 番目に接続した端末を切断するとき
全切断：すべての端末を切断するとき

選択した端末の接続が切れます。
すべての端末を切断する場合は、リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押しても切断されます。

切断を中止するときは

手順 3 で「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

二次端末の取り扱い

本機で設定している能力に満たない端末が接続された場合には、その端末を二次端末と呼びます。
本機と二次端末間の通信は以下のようになります。

- 音声の送 / 受信を行う。
- 二次端末からの映像を受信する。
- 二次端末への映像の送信は行わない。

◆二次端末について詳しくは「用語解説」（362 ページ）をご覧ください。

音声電話が接続されたとき

音声電話が接続されても、テレビ会議端末の音声モードには影響がありません。
また、音声電話が会議を終了してもテレビ会議端末に影響はありません。

「遠隔カメラ制御」の設定が「オン」と「オフ」の端末が混在しているとき

「遠隔カメラ制御」の「オン」と「オフ」では映像のビットレートが異なるため、一部の端末では映像が表示されません。

ご注意

バージョン 2.4 以降では、混在した場合はすべて「オフ」として扱われるため、二次端末とはなりません。

非制限網（64 K ネットワーク）での会議のとき、制限網（56 K ネットワーク）との混在が発生したとき

制限網へ自動的に移行します。移行できない端末は二次端末とし、音声の送 / 受信と映像の受信は行いますが、映像の送信は行いません。

音声モードが違う端末が接続され、映像ビットレートが違っているとき

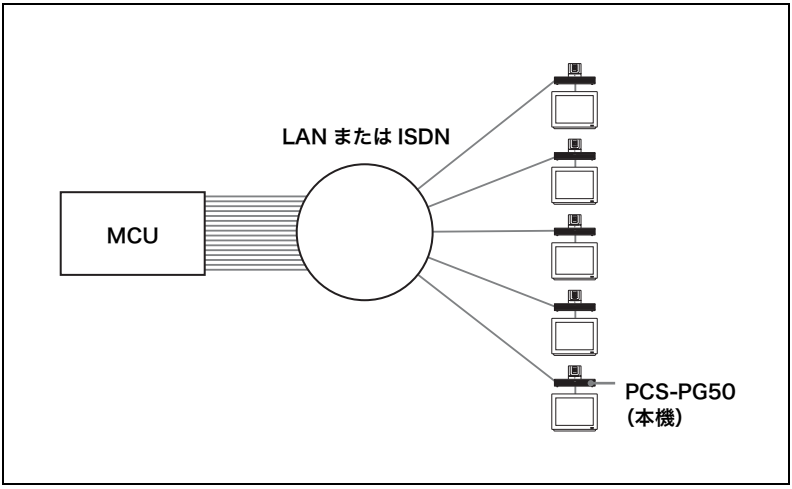
映像ビットレートの低い端末に音声モードを合わせます。音声モードを合わせられない端末があると、この端末を二次端末とし、音声の送 / 受信と映像の受信は行いますが、映像の送信は行いません。

ビデオが QCIF しかない端末が混在しているとき

QCIF 端末へは映像を送信しません。

外部 MCU と接続する

本機を外部 MCU（Multipoint Control Unit）に接続すると、本機に MCU ソフトウェアをインストールしなくても多地点会議ができるようになります。



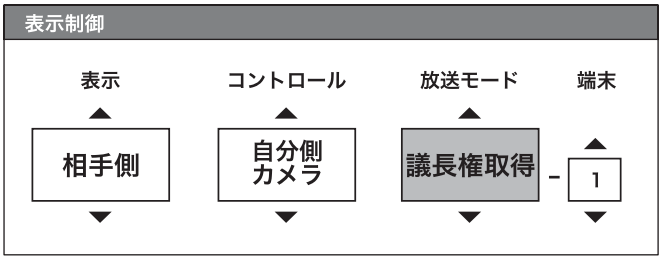
議長制御をする

議長制御機能のある ISDN 用の MCU と接続すれば、本機から 99 台までの端末の議長制御ができます。
議長制御とは、端末を選択してその映像を見たり、すべての端末にその映像を放送したり、自分の映像をすべての端末に放送したりする機能です。

1 リモコンの相手 / 自分ボタンを押す。

表示制御メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「放送モード」の「議長権取得」を選ぶ。



3 リモコンの決定ボタンを押す。

これで、本機から最大 99 台までの端末の議長制御ができるようになります。議長権は、「議長権解放」を選択するまで持続します。

ご注意

実行不可能な操作をしたときには、「MCU 操作は拒否されました」というメッセージがモニター画面に表示されます。

選択した端末の映像を見るには

1 表示制御メニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「放送モード」の「受信する」を選ぶ。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「端末」に映像を見たい端末の番号を表示し、決定ボタンを押す。

選んだ端末の映像が、自分側のモニター画面に映ります。

ご注意

- 端末の番号を選択していないときは、一番小さな番号の端末の映像が映ります。
- 端末の番号は、MCU より通知された端末の情報に基づいて割り付けられます。

選択した端末の映像をすべての端末に放送するには

1 表示制御メニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「放送モード」の「放送する」を選ぶ。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「端末」に放送したい端末の番号を表示し、決定ボタンを押す。

選んだ端末の映像が、自分側のモニター画面に映り、すべての端末に放送されます。

自分側の映像をすべての端末に放送するには

1 表示制御メニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「放送モード」の「放送する」を選ぶ。

3 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「端末」に「0」を表示し、決定ボタンを押す。

自分側の映像が、すべての端末に放送されます。自分側の映像を放送中は、モニター画面に [P] が表示されます。

議長制御を終了するには

1 表示制御メニューを表示する。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンを押して「放送モード」の「議長権解放」を選び、決定ボタンを押す。

これで議長制御ができなくなります。

マルチポイントの属性表

番号	属性	H.320MCU の値	H.323MCU の値
1	単体のマルチポイントに接続可能な最大端末数	5（自分も含めると 6）	5（自分も含めると 6）
2	単体のマルチポイントでサポート可能な並行開催（独立）の最大会議数	1	1
3	他のマルチポイントに接続可能なポートの最大数	0	1
4.1	各ポートにおける網インターフェース	BRI.PRI（T1/E1）	LAN
4.2	制約網能力	Restrict_Required	−
5	各ポートで利用可能な転送レート	1B、2B、4B、6B（BRI） 1B、2B、4B、6B、8B、12B（PRI（T1/E1））	全地点合計 最大 4Mbps
6	音声プロセッサー	あり	あり
6.1	ミクスト / 切替 「沈黙」ポートの雑音 / エコー抑制	ミクスト なし	ミクスト なし
6.2	各ポートでの音声アルゴリズム	G.711、G.728、G.722、MPEG4 AAC	G.711、G.728、G.722、MPEG4 AAC
7	映像プロセッサー（動画）	あり	あり
7.1	切替 / ミクスト	音声切替 /4 分割 /6 分割 / ユーザー制御	音声切替 /4 分割 /6 分割 / ユーザー制御
7.2	各ポートでの映像アルゴリズム	H.261、H.263、H.264	H.261、H.263、H.264
8	データプロセッサー	あり	あり
8.1	データ同報送信機能、LSD データ同報送信機能、HSD	あり なし	− −
8.2	MLP プロセッサー	あり	−
9	暗号化	サポートする	サポートする

番号	属性	H.320MCU の値	H.323MCU の値
10	選択された通信モード—SCM の選択方法	ユーザーによる設定： 回線レート（1B/2B/4B/6B（PRI を使用すると最大 30B）） 音声アルゴリズム（G.711/G.728/G.722/MPEG4 AAC） 自動：映像フレームレート（7.5/10/15/30fps） 映像エンコードモード（CIF/QCIF） ユーザーによる固定と自動の選択：映像アルゴリズム（H.261 固定 / H.261、H.263 と H.264 の自動判定） 制限網・非制限網の切り替え（制限網固定 / 自動）	ユーザーによる設定： 回線レート（全地点合計最大 4 Mbps） 音声アルゴリズム（G.711/G.728/G.722/MPEG4 AAC） 自動：映像フレームレート（7.5/10/15/30fps） 映像エンコードモード（CIF/QCIF） ユーザーによる固定と自動の選択：映像アルゴリズム（H.261 固定 / H.261、H.263 と H.264 の自動判定）
11	二次端末の取り扱い	音声の送 / 受信はするが、映像は受信のみ。 音声電話とは音声の送 / 受信のみ。	音声の送 / 受信はするが、映像は受信のみ。 音声電話とは音声の送 / 受信のみ。
12	着信設定規定	予約発 / 着信機能なし	予約発 / 着信機能なし
13	制御能力	—	—
13.1	端末の番号付け BAS を使用する簡易議事制御	なし なし	あり なし
13.2	MLP 機能（T.120）	なし	なし
13.3	H.224（シンプレックスデータ）	あり	あり
14	カスケーディング	なし	あり
14.1	固定レート（「シンプル」）	なし	なし
14.2	マスター / スレーブ	なし	あり
15	端末識別	なし	あり
16	MBE 能力	なし	—

9章 SIPを使った会議

この章では、SIP（Session Initiation Protocol―セッション開始プロトコル）を使った会議を行う方法を説明します。
SIPは、IETF（Internet Engineering Task Force）で標準化された、IPネットワーク上で通信を開始するプロトコルです。SIPを使った会議を行うには、別売りのSIPソフトウェアPCSA-SP1を本機にインストールし、SIPサーバーを経由してIP電話などの端末と接続します。
また、別売りのMCUソフトウェアをインストールすることで、最大5台までのIP電話などと接続して多地点会議を行うこともできます。

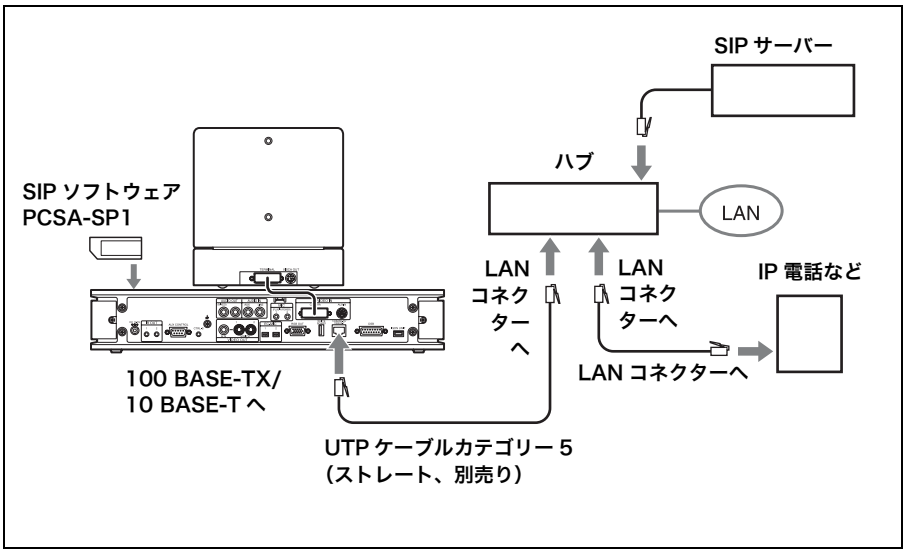
SIPソフトウェア使用時の制限事項

SIPでのカスケード接続はサポートしていません。

SIP を使った会議をするための接続例

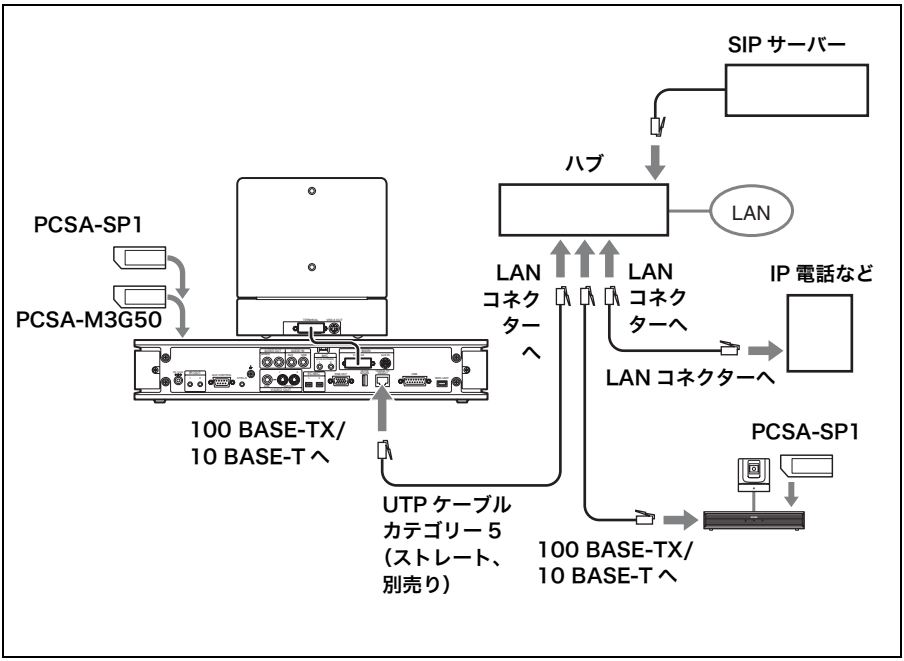
2 地点間の接続例

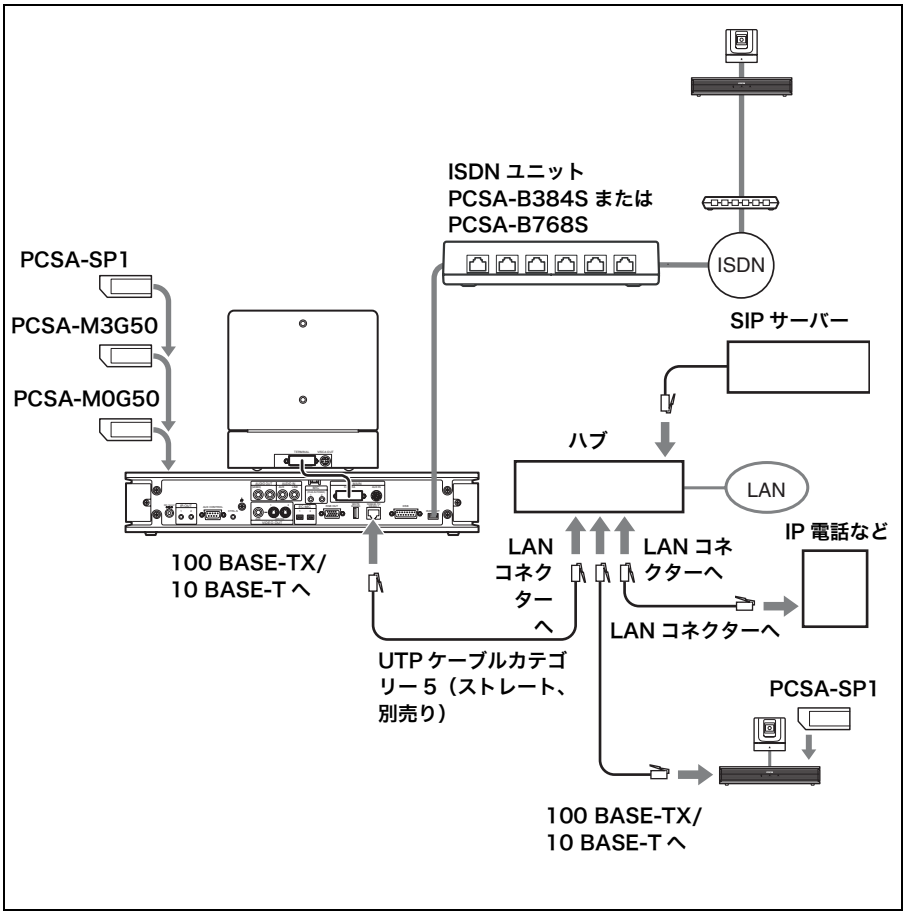
SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）をインストールした PCS-G50 をハブを介して IP 電話と SIP サーバーに接続します。



多地点会議の接続例

SIP ソフトウェア PCSA-SP1（別売り）と H.323MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（別売り）をインストールすると、最大 6 地点間での多地点会議が可能です。また、さらに H.320MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（別売り）をインストールすると、SIP と ISDN 接続が混在した最大 6 地点間での多地点会議が可能です。





ご注意

- 2 台以上のコミュニケーションターミナルに SIP ソフトウェアをインストールしてもカスケード接続はできません。
- SIP 接続では、会議中に映像モードの自動変更ができません。すでに接続されている映像モード以外の能力の端末が追加で接続された場合、2 次端末扱いとなり、映像を受信することはできません。

SIP を使った会議の準備

SIP ソフトウェアをインストールする

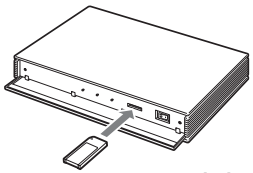
インストール時のご注意

- SIP ソフトウェアの入った“メモリースティック”の誤消去防止ツマミが「LOCK」になっているとインストールできません。
- 1 個の SIP ソフトウェアでインストールできるのは 1 回のみです。
- コンピューターなどで他の“メモリースティック”にコピーした SIP ソフトウェアはインストールできません。

1 コミュニケーションターミナル前面の電源スイッチをオフ（O 側）にする。

2 SIP ソフトウェア PCSA-SP1 の入った“メモリースティック”をメモリースティックスロットに差し込む。

“メモリースティック”の上面に書いてある矢印の向きに差し込んでください。



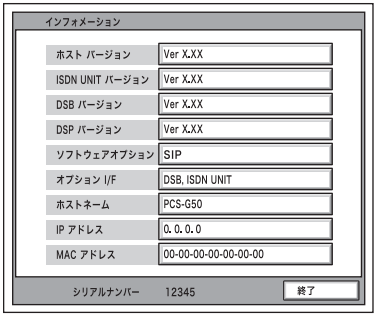
SIP ソフトウェア PCSA-SP1

3 コミュニケーションターミナルの電源スイッチをオン（I 側）にする。

SIP ソフトウェアがコミュニケーションターミナルにインストールされます。

SIP ソフトウェアが正しくインストールされたことを確認するには

機器情報メニューの「ソフトウェアオプション」に「SIP」と表示されます。



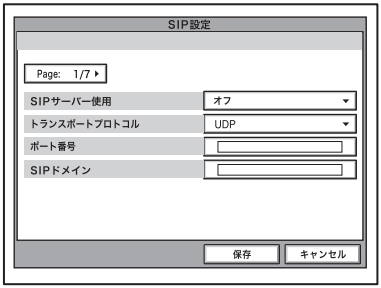
◆機器情報メニューについて詳しくは、「機器情報」（94 ページ）をご覧ください。

SIP の設定をする

設定メニュー（管理者用）の SIP 設定メニューで、SIP を使用した会議の設定を行います。

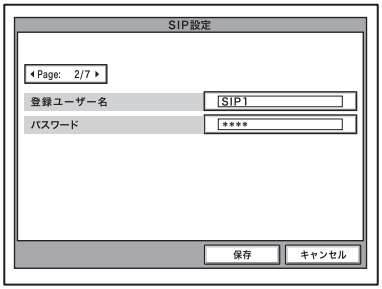
◆詳しい設定のしかたは、「SIP 設定メニュー」（96 ページ）をご覧ください。

1 SIP 設定メニューの 1 ページ目の「SIP サーバー使用」を「オン」にする。



2 SIP で使用するプロトコル (TCP または UDP) を選択し、ポート番号、SIP ドメインを入力する。

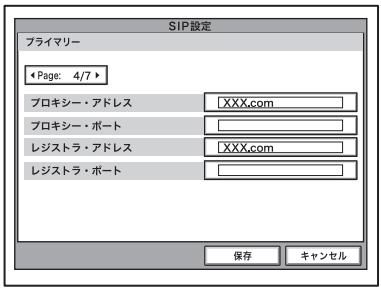
3 SIP 設定メニューの 2 ページ目を開き、接続する端末の「登録ユーザー名」と「パスワード」を入力する。



ご注意

H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50 がインストールされている端末では、多地点会議を行うすべての端末の「登録ユーザー名」と「パスワード」を入力してください（最大 5 つ）。

4 SIP 設定メニューの 4 ページ目を開き、使用する SIP サーバーのアドレスとポート番号を入力する。

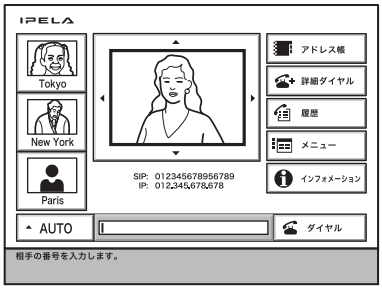


ご注意

4 台までの SIP サーバーを設定できます。複数の SIP サーバーを設定する場合は、4 ページ目から 7 ページ目にそれぞれのサーバーのアドレスとポート番号を入力してください。

5 SIP サーバーへの登録が正しく行われたことを確認する。

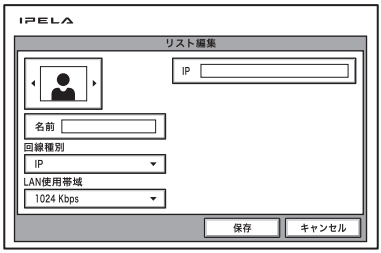
ランチャーメニューで、ステータス表示部に「SIP: Registration Failed」および「SIP: Registration Requested」と表示されていないことを確認してください。



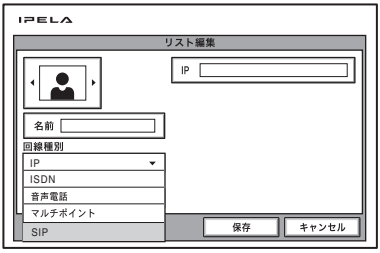
会議の相手をアドレス帳に登録する

SIP 接続をする相手をアドレス帳へ登録する方法は、基本的には通常の 2 地点間の会議の場合と同じです。詳しくは、「新しい相手を登録する」（98 ページ）をご覧ください。

1 アドレス帳で「新規登録」を選んでリスト編集メニューを表示し、名前の欄に相手の名前を入力する。



2 「回線種別」で「SIP」を選ぶ。



3 IP アドレス入力欄に相手のアドレスを入力する。

4 アドレス帳に表示する回線種別アイコンまたは静止画を選ぶ。

5 「保存」を選び、リモコンの決定ボタンを押す。

設定した内容がアドレス帳に登録されます。

SIP を使った会議を始める

相手を呼び出す

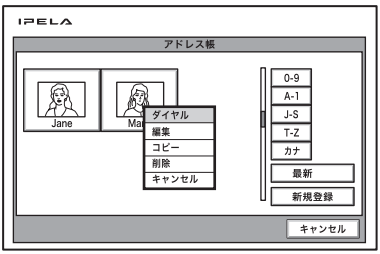
アドレス帳に登録している相手を呼び出すには

1 ランチャーメニューで「アドレス帳」を選び、決定ボタンを押す。

アドレス帳メニューが表示されます。

2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで呼び出す相手を選び、決定ボタンを押す。

サブメニューが表示されます。



3 リモコンの ↑ または ↓ ボタンで「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。またはリモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。

手順 2 で選んだ相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示され、コミュニケーションターミナルの ON LINE ランプ（青色）が点滅します。

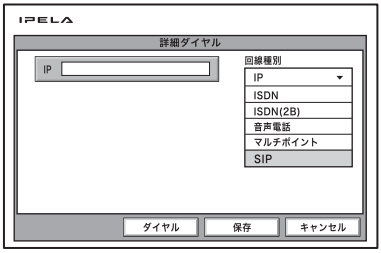
相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示され、ON LINE ランプが点灯します。

アドレス帳に登録していない相手を呼び出すには

基本的には通常の 2 地点間の会議の場合と同じです。詳しくは、「アドレス帳に登録していない相手を呼び出す」（123 ページ）をご覧ください。

1 ランチャーメニューで「詳細ダイヤル」を選ぶ。

2 「回線種別」で「SIP」を選ぶ。



3 IP アドレス入力欄に相手を指定するアドレスを入力する。

SIP で相手を指定するときのアドレスには以下のような形式があります。

- 4000（SIP サーバーから割り当てられた番号）
- 4000@sip.com
- 192.168.1.1（IP アドレス、SIP サーバーを使用しない場合）

ご注意

IP アドレスは、SIP サーバーがオフのときのみ使用可能です。

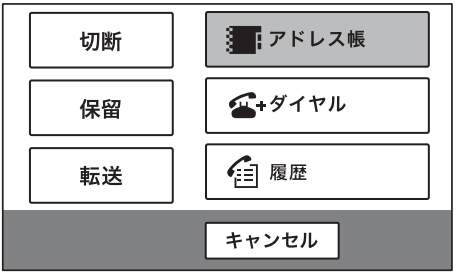
4 「ダイヤル」を選び、リモコンの決定ボタンを押す。またはリモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。

手順 3 で入力した相手にダイヤルが始まります。モニター画面に「発信中」と表示され、コミュニケーションターミナルの ON LINE ランプ（青色）が点滅します。

相手側とつながると「ミーティングを始めます。」と表示され、ON LINE ランプが点灯します。

多地点会議の相手を次々と呼び出すには

1 地点目を選んで通信を始めたあと、リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押すと、次のようなメニューが表示されます。



相手の登録状態に合わせて、メニューから「アドレス帳」を選び、「アドレス帳に登録している相手を呼び出すには」（282 ページ）の手順 2、3 を行うか、「ダイヤル」を選び「アドレス帳に登録していない相手を呼び出すには」（282 ページ）の手順 2 ～ 4 を行ってください。すべての端末につながるまでこの手順を繰り返します。

多地点会議の相手を一括して呼び出すには

アドレス帳に、SIP を使った多地点会議を行う相手を登録した「SIP 用マルチポイント接続リスト」を作成することができます。

マルチポイント接続リストの作成のしかたは、8 章の「多地点会議の相手をマルチポイント接続リストに登録する」（249 ページ）をご覧ください。

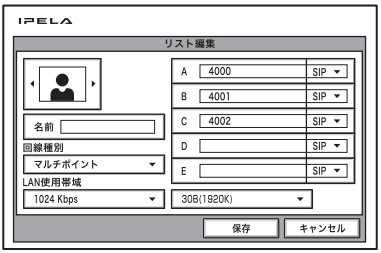
相手の回線情報を、以下のように設定します。

①「回線種別」で「マルチポイント」を選ぶ。

② 回線種別アイコンとして「 」（または希望の静止画）を選ぶ。

③ 入力欄右端のドロップダウンリストから「SIP」を選ぶ。

④ 入力欄に SIP 用の相手の番号を入力する。



多地点会議を始めるとき、アドレス帳の「SIP 用マルチポイント接続リスト」を選択してリモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押すと、多地点会議の相手を一括して呼び出すことができます。

相手から呼び出される

2 地点間のテレビ会議の操作と同じです。

◆詳しくは、「相手から会議に呼び出される」（133 ページ）をご覧ください。

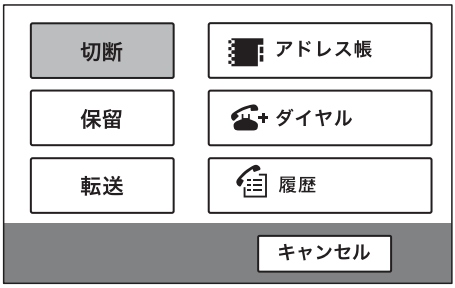
通話を保留する

SIP を使った 2 地点間会議または多地点間会議中のみ、通話を保留することができます。

2 地点間会議を保留するには

1 通信中にリモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。

次のメニューが表示されます。



2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「保留」を選び、決定ボタンを押す。

自分および相手のモニター画面に「Please Wait」画面が表示されます。

ご注意

- 2 地点間会議の保留中は、発信、着信ができません。
- 2 地点間会議中、データソリューションボックスやホワイトボードの送受信中に保留になった場合、送受信は解除されます。保留を解除しても送受信は復帰しません。

2 地点間会議の保留を解除するには

自分側から保留を行った場合のみ、次の方法で保留解除ができます。

保留中にリモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押し、表示されるメニューから「保留解除」を選んで決定ボタンを押します。保留が解除され、会議を続けることができます。



ご注意

2 地点間会議の場合、相手側から保留された場合は「保留解除」はできません。「切断」のみが可能です。

多地点会議中に通話を保留するには

保留や保留解除の操作は 2 地点間会議の場合と同じです。

「2 地点間会議を保留するには」、「2 地点間会議の保留を解除するには」をご覧ください。

多地点会議中に保留した場合の動作および画面表示は、以下のようになります。

- 本機が親機の場合、本機で保留操作を行うと、すべての子端末がいっせいに保留となり、「Please Wait」画面が表示されます。ただし、多地点会議に SIP 以外の回線種別の端末が参加している場合は、本機から保留することはできません。

  また、子端末が保留操作を行うと、その子端末のみ「Please Wait」画面が表示され、本機から保留ができなくなります。この場合は、ほかの端末からの着信が可能です。子端末がすべて保留操作を行うと自分側の映像のみが表示されます。

- 本機が子端末の場合、本機で保留操作を行うと「Please Wait」画面に変わります。ほかの子端末が保留操作を行っても、本機の保留操作は可能です。親機が保留操作を行った場合には、ほかの子端末もすべて「Please Wait」画面に変わります。いずれの場合も、保留中にほかの端末への発信、ほかの端末からの着信はできません。
- 本機に MCU ソフトウェアをインストールして音声検出モードで多地点会議を行っている場合、放送中の子端末で保留操作を行うと、その端末だけが保留となり、本機の映像が放送されます。放送中以外の子端末が保留した場合は、放送は続きます。

◆「分割モード」、「音声検出モード」について詳しくは、8 章の「放送モードの種類」（259 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 保留中にできる操作は、「保留解除」のみです。
- 被保留中にできる操作は、「切断」のみです。
- 多地点会議中、データソリューションボックスやホワイトボードの送受信中に受信端末がすべて保留になった場合、送受信は解除されます。保留を解除しても送受信は復帰しません。ただし、子端末の 1 つが保留しても、他の子端末との通信が続いていれば、送受信は解除されません。

通話を転送する

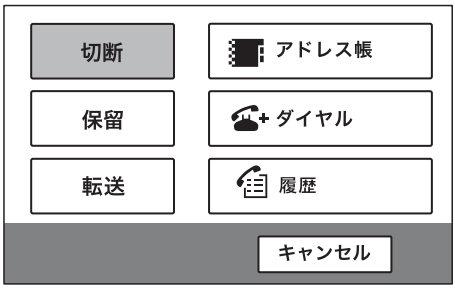
SIP を使った 2 地点間会議中のみ、別の相手に通話を転送することができます。

ご注意

多地点会議中は、通話の転送はできません。

1 通信中にリモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。

次のメニューが表示されます。



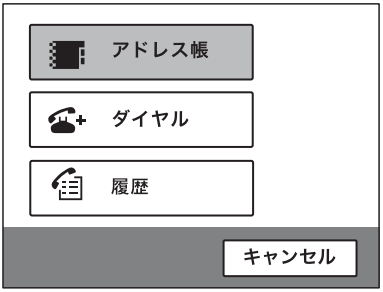
2 リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「転送」を選び、決定ボタンを押す。

現在通話中の端末は保留になります。保留状態は、転送が完了するまで続きます。

ご注意

- 転送時、保留された端末から「保留解除」はできません。「切断」のみが可能です。
- データソリューションボックスやホワイトボードの送受信中に転送の操作を行うと、送受信は解除されます。転送が完了しても送受信は復帰しません。

本機には、次のメニューが表示されます。



3 転送したい相手の登録状態に合わせ、リモコンの ↑/↓/←/→ ボタンで「アドレス帳」または「ダイヤル」を選び、決定ボタンを押す。

4 「アドレス帳」または「ダイヤル」メニューで転送したい相手を選び、ダイヤルする。

◆詳しくは、「アドレス帳に登録している相手を呼び出すには」（282 ページ）の手順 2、3、または「アドレス帳に登録していない相手を呼び出すには」（282 ページ）の手順 2 ～ 4 をご覧ください。

ご注意

「回線種別」が「SIP」以外の相手には転送できません。

相手側とつながると、モニター画面に相手側の映像と「切断すると転送されます。」のメッセージが表示されます。

5 相手に転送することを伝え、リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。

通話が相手に転送されます。回線が切断され、自分側のモニター画面はランチャーメニューに戻ります。

転送をキャンセルするには

メニューの「キャンセル」を選び、決定ボタンを押してください。

ご注意

転送をキャンセルできるのは、転送先の端末が応答するまでです。応答後にキャンセルしたい場合は、転送先端末で回線を切断してもらってください。最初に接続していた 2 地点会議に戻ります。

会議を終了する

2 地点間の会議を終了するには（MCU ソフトウェアがインストールされていない場合）

1 リモコンの接続 / 切断（ / ）ボタンを押す。

モニター画面に「切断しますか？」と表示されます。

2 リモコンの ←/→ ボタンで「OK」を選び、決定ボタンを押す。または接続 / 切断（ / ）ボタンをもう一度押す。

多地点会議を終了するには

通常の多地点会議の場合と同じです。8 章の「多地点会議を終了する」(265 ページ)をご覧ください。

10 章
Web 機能

この章では、PCS-G50 上で動作する Web 機能をまとめたものです。
Web 機能とは、PC 上の Web ブラウザ(Internet Explorer)から PCS-G50 にアクセスし、PCS-G50 のコントロール、設定変更を行う機能です。

Internet Explorer は Microsoft 社の製品です。バージョン 5.0 以上 (6.0 を推奨) を使用してください。

Web ページへのアクセス方法

Web ブラウザのアドレス欄に PCS-G50 に設定されている IP アドレスを入力します。
http://xxx.xxx.xxx.xxx/

例　IP アドレスが 192.168.1.24 の場合
　　http:// 192.168.1.24/

ご注意

ネットワークセグメント外部の Proxy が設定されている時は、PCS-G50 の LAN 設定のゲートウェイアドレスを指定する必要があります。もしくは、Web ブラウザの Proxy 設定で NoProxy に指定してください。

認証ページの入力方法

Web ページにアクセスすると以下のような認証ページが表示されます。



ユーザー名入力欄にユーザー名を、パスワード入力欄にパスワードを入力し、OK ボタンをクリックします。
パスワードは、“*”で表示されます。
ユーザー名、パスワードを正しく入力すると、[Dial/Disconnect] ページが表示されます。
誤ったユーザー名、パスワードを入力すると、再度ユーザー名、パスワードをきいてきます。
３回誤った入力を行うと、エラーメッセージが画面に表示されます。

ご注意

- ユーザー名に “user” を入力した場合、管理者設定のリモートアクセス・パスワードを入力します。Phone Book、Setup の内容確認を行うことができます。
- ユーザー名に “super” を入力した場合、管理者設定のアドレス帳変更パスワードを入力します。Phone Book の内容確認と変更・新規登録、Setup の内容確認を行うことができます。
- ユーザー名に “sonypcs” を入力した場合、管理者設定の管理者パスワードを入力します。Phone Book の内容確認と変更・新規登録、Setup の内容確認と変更を行うことができます。
- ユーザー名に “streaming” を入力した場合、会議をストリーミング配信している端末のストリーミング・パスワードを入力します。Streaming でその端末の会議の様子を受信し、閲覧できます。

- ユーザー名に“networkcamera”を入力した場合、ネットワークカメラ・パスワードを入力します。ネットワークカメラリストからの発信や登録されている内容の確認と変更・新規登録ができます。
- パスワードが設定されていない時は、パスワード入力欄を空白で OK ボタンをクリックします。
- 管理者パスワード、アドレス帳変更パスワード、リモートアクセス・パスワード、ストリーミング・パスワード、ネットワークカメラ・パスワードは管理者用設定の中で設定します。

機能ボタンの選択

各機能ボタンをクリックすることで、それぞれのページを表示します。



[Controller]

制御卓から各種操作を行うことができます。
リモコン(PCSA-RG1)と同様の操作を行うことができます。

[Dial/Disconnect]

マニュアルダイヤル発信と切断を行うことができます。

[Phone Book]

リストの一覧表示を行うことができます。
リスト発信を行うことができます。
リストの新規登録、内容確認、編集を行うことができます。

プライベートアドレス帳の場合は、Phone Book ボタンが Private Phone Book ボタンに変わります。



[Setup]

Setup の内容確認と変更を行うことができます。
メッセージの送信を行うことができます。
Reset の各項目を行うことができます。(ユーザー名:sonypcs で認証したときのみ)

[Info]

通信状態、回線状態、機種情報を確認することができます。
Cause Code を確認することができます。
Call Log を確認することができます。(ユーザー名:sonypcs で認証したときのみ)

[Monitor]

PCS-G50 の映像をモニターすることができます。

ご注意

管理者用設定の Web モニターがオフの時は、映像のモニターはできません。

[Streaming]

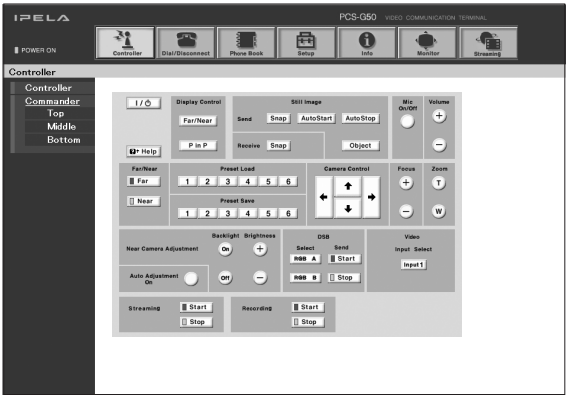
ストリーミング配信されている会議を閲覧することができます。

ご注意

- 会議を閲覧するには、QuickTime のバージョン 6.0 以上が必要です。
- ストリーミング / レコーディング設定のストリーミングが禁止になっている時は、会議の閲覧はできません。また、ストリーミング / レコーディング設定のビデオがオフになっている時は、会議の音声だけが配信され、映像の閲覧はできません。

[Controller] ページの使用方法

Controller 画面



機能ボタンの [Controller] をクリックすると制御卓の画像が表示されます。
それぞれのボタンをクリックすることにより静止画の送受信、カメラ操作、プリセット登録、などの制御を行うことができます。

プリセット登録の方法

① Camera Control ボタンなどでカメラを任意の位置に合わせます。
② Preset Save(1 ～ 6)ボタンをクリックします。
③ プリセット登録完了です。
④ Preset Load(1 ～ 6)ボタンをクリックするとセーブされたプリセット(1 ～ 6)をロードします。

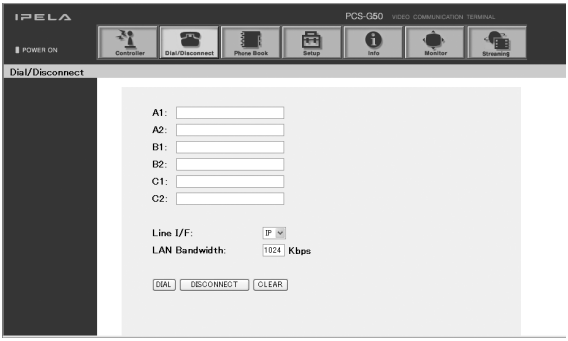
Commander 画面



左側の Commander をクリックするとリモートコマンダーの画像が表示されます。

それぞれのボタンをクリックすることにより、実際のリモコン（PCSA-RG1）と同様にカメラコントロール、ダイヤルなどの操作を行うことができます。

[Dial/Disconnect] ページの使用方法



機能ボタンの [Dial/Disconnect] をクリックすると Dial/Disconnect ページが表示されます。

2 地点間の会議の場合

Dial の方法

① 番号入力欄に相手回線番号(LAN 接続時は IP アドレス、DNS ネームなど)を入力します。
② Line I/F を選びます。
③ DIAL ボタンをクリックします。
④ “Now dialing...”と表示されます。
⑤ 接続が完了すると、“Connect OK.”と表示され、このページが再表示されます。

Disconnect の方法

① DISCONNECT ボタンをクリックします。
② “Now disconnecting...”と表示されます。
③ 切断が完了すると、“Disconnect OK.”と表示され、このページが再表示されます。

リダイヤルの内容をクリアする

① CLEAR ボタンをクリックします。
② リダイヤルの内容がクリアされ、このページが再表示されます。

多地点会議の場合

Dial の方法

① Line I/F から Multipoint を選択します。
② 番号入力欄に相手回線番号(LAN 接続時は IP アドレス、DNS ネームなど)を入力します。
③ それぞれの属性を選びます。
④ DIAL ボタンをクリックします。
⑤ “Now dialing...”と表示されます。
⑥ 接続が完了すると、“Connect OK.”と表示され、このページが再表示されます。

Disconnect の方法（前端末一斉の場合）

① DISCONNECT ボタンをクリックします。
② “Now disconnecting...”と表示されます。
③ 切断が完了すると、“Disconnect OK.”と表示され、このページが再表示されます。

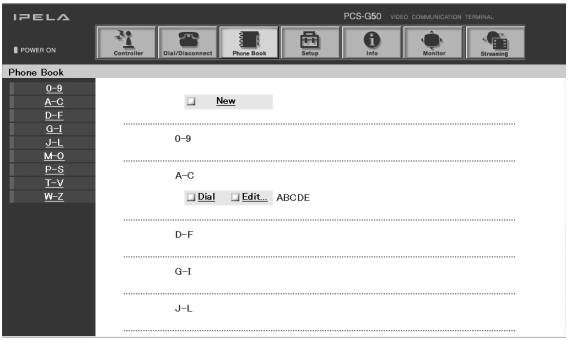
Disconnect の方法（個別端末ごとの場合）

① DISC A ボタン～ DISC E ボタンのうち、切断したい端末に対応したボタンをクリックします。
② “Now disconnecting...”と表示されます。
③ 切断が完了すると、“Disconnect OK.”と表示され、このページが再表示されます。

リダイヤルの内容をクリアする

① CLEAR ボタンをクリックします。
② リダイヤルの内容がクリアされ、このページが再表示されます。

[Phone Book] ページの使用方法



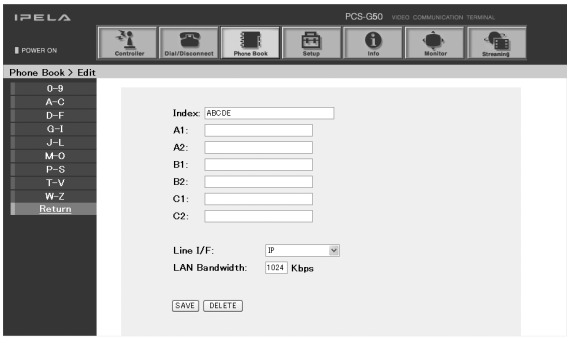
機能ボタンの [Phone Book] をクリックするとリスト一覧ページが表示されます。

Dial の方法

① ダイヤルしたい相手の Index 名の左側にある □Dial をクリックします。
“Now dialing...”と表示されます。

② 接続が完了すると、“Connect OK.”と表示され、リスト一覧ページが再表示されます。

Phone Book 編集画面



Phone Book を編集する（ユーザー名：super、sonypcs で認証した時）

① リスト一覧ページで、修正したい相手の Index 名の左側にある □Edit... をクリックします。
Phone Book 編集画面が表示されます。

② 回線番号、属性を修正します。

③ SAVE ボタンをクリックします。
SAVE 完了後、リスト一覧ページが再表示されます。

Phone Book から削除する（ユーザー名：super、sonypcs で認証した時）

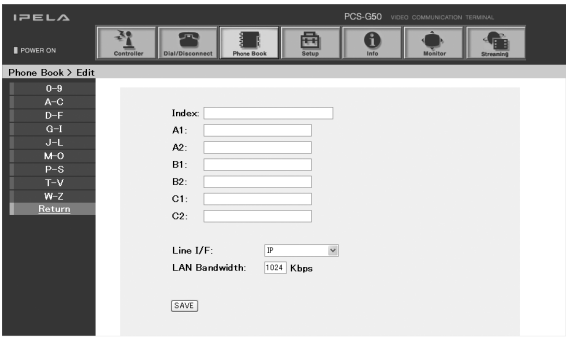
① リスト一覧ページで、削除したい相手の Index 名の左側にある □Edit... をクリックします。
Phone Book 編集画面が表示されます。

② DELETE ボタンをクリックします。
DELETE 完了後、リスト一覧ページが再表示されます。

リスト一覧ページに戻る

① 左側の Return をクリックします。
リスト一覧ページが再表示されます。

Phone Book 新規登録画面



Phone Book に新規登録する（ユーザー名：super、sonypcs で認証した時）

① リスト一覧ページで □New をクリックします。
新規登録画面が表示されます。
② 相手 Index 名、回線番号を入力します。
③ Line I/F を選びます。
④ SAVE ボタンをクリックします。
SAVE 完了後、新規リストが追加され、リスト一覧 ページが再表示されます。

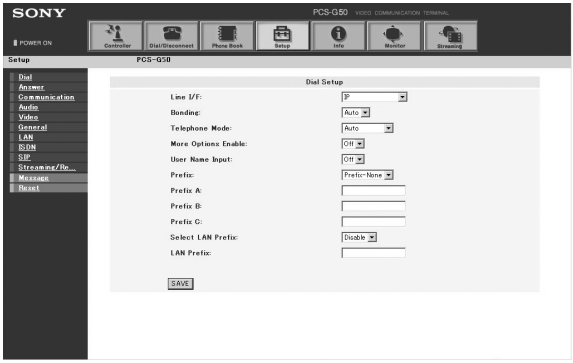
Phone Book にマルチポイント接続リストを新規登録する（ユーザー名：super、sonypcs で認証した時）

① リスト一覧ページで □New をクリックします。
新規登録画面が表示されます。
② Line I/F から Multipoint を選択します。
③ 相手 Index 名、回線番号をそれぞれ入力します。
④ それぞれの属性を選びます。
⑤ SAVE ボタンをクリックします。
SAVE 完了後、新規リストが追加され、リスト一覧 ページが再表示されます。

リストー覧のページに戻る

① 左側の Return をクリックします。
リスト一覧ページが再表示されます。

[Setup] ページの使用方法



機能ボタンの [Setup] をクリックすると Dial Setup のページが表示されます。

他の Setup を行う時は、左側の Dial、Answer、Communication、Audio、Video、General、LAN、ISDN、SIP、Streaming/Recording をクリックしてください。それぞれのページが表示されます。

Setup の変更方法（ユーザー名：sonypcs で認証した時のみ）

① 各 Setup のページを開きます。
② 設定項目を変更します。
③ SAVE ボタンをクリックします。
SAVE 完了後、ページが再表示されます。

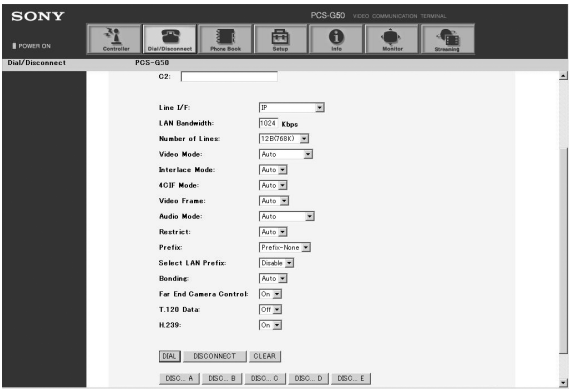
ご注意

※ LAN 設定変更時、ページが再表示できない場合があります。

詳細設定をオンにする

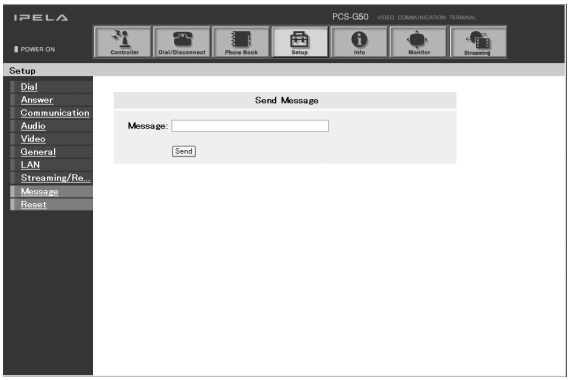
① Dial Setup ページを開きます。
② More Options Enable: を ON に変更します。
③ SAVE をクリックします。
SAVE 完了後、このページが再表示されます。

More Options Enable: を ON にすると Dial/Disconnect ページと Phone Book ページに以下の項目が追加されます。各項目の内容について詳しくは、「発信設定メニュー」(63 ページ)、「通信モード設定メニュー」(65 ページ) をご覧ください。



Number of Lines：使用回線数の設定
Video Mode：映像方式の設定
Interlace Mode：インターレースモードの設定
4CIF Mode：4CIF モードの設定
Video Frame：映像フレーム数の設定
Audio Mode：音声方式の設定
Restrict：制限網の設定
Prefix：プリフィックスの設定
Select LAN Prefix：LAN プリフィックスの設定
Bonding：ボンディングの設定
Far End Camera Control：遠隔カメラ制御の設定
T.120 Data：T.120 データの設定
H.239：H.239 の設定

Send Message 画面



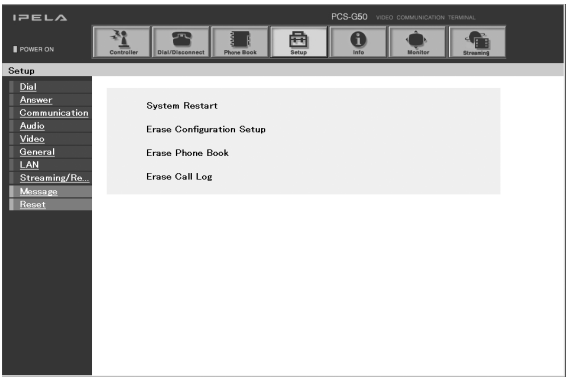
左側の Message をクリックすると Send Message のページが表示されます。

入力欄にメッセージを入力し、Send ボタンをクリックすると、PCS-PG50 本体にメッセージを送ります。完了後、“message send OK.”と表示され、ページが再表示されます。

ご注意

メッセージは、最大でアスキーコードで 200 字まで送れます。

Reset 画面



左側の Reset をクリックすると Reset のページが表示されます。
(ユーザー名:sonypcs で認証した時のみ)

① 実行したい項目をクリックします。
　確認メッセージが表示されます。

② OK ボタンをクリックすると実行します。

System Restart

PCS-PG50 本体をリセットします。

Erase Configuration Setup

Setup の内容を工場出荷値に戻します。

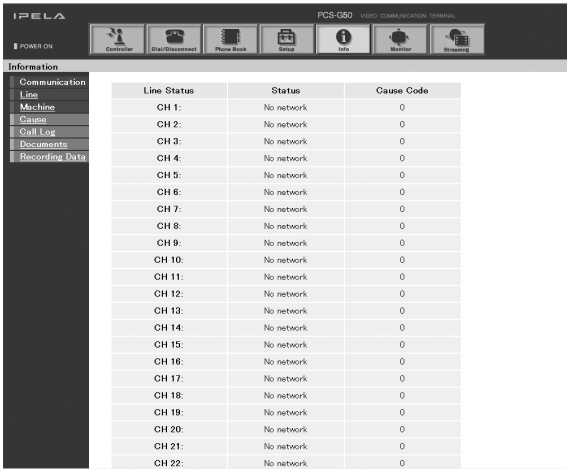
Erase Phone Book

Phone Book の内容をすべて消去します。

Erase Call Log

Call Log の内容をすべて消去します。

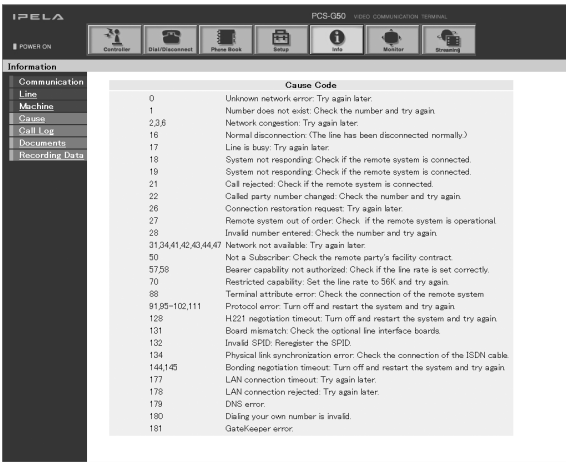
[Info] ページの使用方法



- 機能ボタンの [Info] をクリックすると Information ページが表示されます。
- 機能ボタンの [Documents] をクリックすると 取扱説明書の PDF をダウンロードすることができます。

非通信中は Line Status、Machine Information が表示されます。
通信中は Communication Status、Line Status、Machine Information が表示されます。

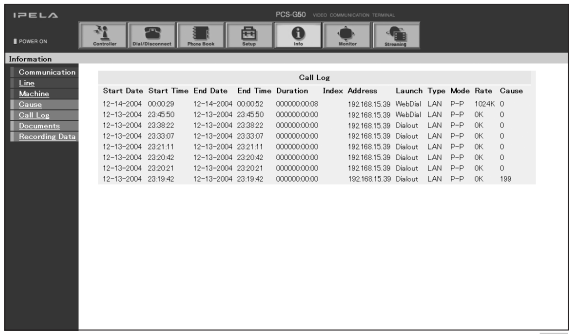
Cause Code 一覧画面


PCS-G50
Controller
Dial/Disconnect
Phone Book
Setup
Info
Monitor
Streaming
POWER ON
Information
Communication
Line
Machine
Cause
Call Log
Documents
Recording Data
Cause Code
0 Unknown network error: Try again later.
1 Number does not exist: Check the number and try again.
2,3,6 Network congestion: Try again later.
16 Normal disconnection: (The line has been disconnected normally.)
17 Line is busy: Try again later.
18 System not responding: Check if the remote system is connected.
19 System not responding: Check if the remote system is connected.
21 Call rejected: Check if the remote system is connected.
22 Called party number changed: Check the number and try again.
26 Connection restoration request: Try again later.
27 Remote system out of order: Check if the remote system is operational.
28 Invalid number entered: Check the number and try again.
31,34,41,42,43,44,47 Network not available: Try again later.
50 Not a Subscriber: Check the remote party's facility contract.
57,58 Bearer capability not authorized: Check if the line rate is set correctly.
70 Restricted capability: Set the line rate to 56K and try again.
88 Terminal attribute error: Check the connection of the remote system.
91,95–102,111 Protocol error: Turn off and restart the system and try again.
128 H.221 negotiation timeout: Turn off and restart the system and try again.
131 Board mismatch: Check the optional line interface boards.
132 Invalid SPID: Reregister the SPID.
134 Physical link synchronization error: Check the connection of the ISDN cable.
144,145 Bonding negotiation timeout: Turn off and restart the system and try again.
177 LAN connection timeout: Try again later.
178 LAN connection rejected: Try again later.
179 DNS error.
180 Dialing your own number is invalid.
181 GateKeeper error.

左側の Cause をクリックすることにより Cause Code ページが表示されます。

Cause Code の一覧を表示します。

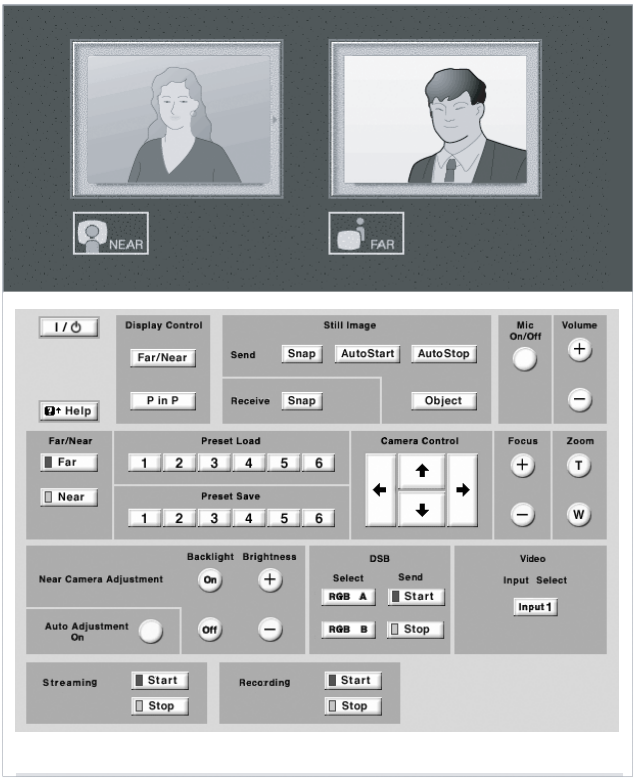
Call Log 画面



左側の Call Log をクリックすることにより Call Log ページが表示されます。
(ユーザー名:sonypcs で認証したときのみ)

Call Log を表示します。

[Monitor] ページの使用方法



機能ボタンの [Monitor] をクリックすると Monitor ページが別ウィンドウで表示され、PCS-PG50 の映像をモニターします。

ご注意

- 管理者用設定の Web モニターがオフの時は、映像のモニターはできません。
- デュアルビデオ送受信中の 2 番目のビデオ映像は、Web モニターに表示できません。

[Streaming] ページの使用方法

① 認証画面でユーザー名に“streaming”を、パスワードに受信したい会議をストリーミング配信している端末のストリーミング・パスワードを入力します。
以下の画面が表示されます。[Streaming] 以外のボタンは押せません。



② 機能ボタンの[Streaming]をクリックするとQuickTimeが起動し、会議を閲覧することができます。



ご注意

- 会議を閲覧するには、QuickTime のバージョン 6.0 以上が必要です。コンピューターにインストールされていない場合は、下記のホームページからダウンロードしてください。
  http://www.apple.com/quicktime/download/
- ストリーミング / レコーディング設定のストリーミングが禁止になっている時は、会議の閲覧はできません。また、ストリーミング / レコーディング設定のビデオがオフになっている時は、会議の音声だけが配信され、映像の閲覧はできません。

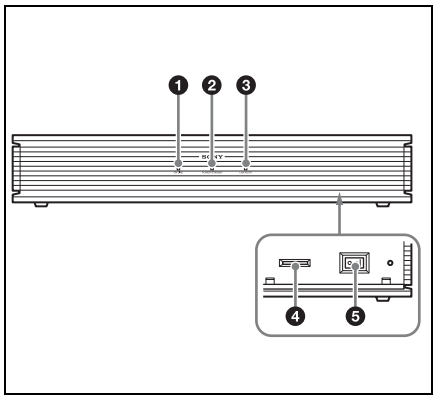
- ストリーミング受信は、Web でのアクセス制限により、10 端末程度で同時に利用できます。ただし、同時に利用できる端末数は、ご使用のシステムの環境によって異なります。

付録

各部の名称と働き

コミュニケーションターミナル PCS-PG50

前面



❶ ON LINE （通信中）ランプ
発信中、着信中は点滅し、通信が成立すると、青色で点灯します。通信が切れると消灯します。

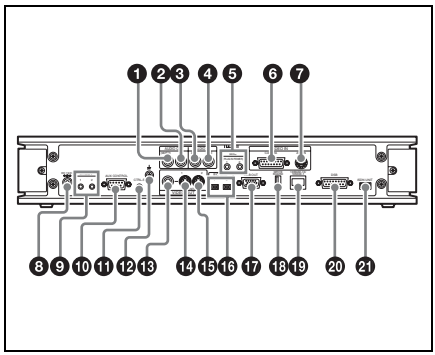
❷ POWER/STANDBY（電源）ランプ
電源スイッチをオン（I 側）にすると緑色で点灯します。コミュニケーションターミナルがスタンバイ状態になるとオレンジ色で点灯します。

❸ LAN ALERT（LAN 警告）ランプ
通信中にパケットエラー（ロス）やリンクエラーが起こると黄色で点灯します。

❹ メモリースティックスロット
“メモリースティック”（別売り）を挿入します。

❺ 電源スイッチ
コミュニケーションターミナルの電源を入 / 切します。I 側にすると電源が入り、O 側にすると電源が切れます。

後面



❶ AUDIO OUT（MIXED）（音声出力）端子（ピンジャック）
議事録として音声を録音するときに使用します。この端子からは、自分側と相手側の音声がミックスして出力されます。

❷ AUDIO OUT（音声出力）端子（ピンジャック）

モニター用テレビの音声入力端子と接続します。

❸ AUDIO IN AUX（音声入力）端子（ピンジャック）

別売りの VTR やオーディオ機器の音声出力端子と接続します。

❹ AUDIO IN LINE（音声入力）端子（ピンジャック）

別売りの CTE-600（現在は販売されていません。）や外部マイクミキサーを使用するときに使用します。

❺ MIC1/MIC2（PLUG IN POWER）（マイク 1/2）端子（ミニジャック）

別売りのマイクロホン PCS-A1 や PCSA-A3 を接続します。マイクにはコミュニケーションターミナルから電源が供給されます。

❻ VIDEO IN CAMERA 端子

メインカメラ後面の TERMINAL 端子と接続します。

❼ VIDEO IN AUX IN（補助映像入力 1）端子（ミニ DIN 7 ピン）

別売りの映像機器などの映像出力端子と接続します。

❽ DC 19.5V 端子

付属の AC アダプター VGP-AC19V45 または VGP-AC19V15 を接続します。

❾ IR OUT 1/2（赤外線出力 1/2）端子

付属の IR リピーターを接続します。VIDEO OUT MONITOR MAIN 端子に接続したモニターの IR リピーターは IR OUT 1 端子に、VIDEO OUT MONITOR SUB 端子に接続したモニターの IR リピーターは IR OUT 2 端子に接続してください。

❿ AUX CONTROL（D-sub 9 ピン）

サービス用です。

⓫ CTRL-S（ミニジャック）

付属のリモコン受光ユニットを接続します。このジャックに接続するとカメラユニットのリモコン受光機能は動作しなくなります。

⓬ ⏚（アース）端子

アース線

⓭ VIDEO OUT AUX（補助映像出力）端子（ピンジャック）

モニター用テレビや VTR の映像入力端子と接続します。

⓮ VIDEO OUT MONITOR 1（メインモニター用映像出力）端子（ミニ DIN4 ピン）

モニター用テレビや VTR の S 映像入力端子と接続します。

⓯ VIDEO OUT MONITOR 2（サブモニター用映像出力）端子（ミニ DIN4 ピン）

デュアルモニターシステムで使用するとき、静止画用モニターの S 映像入力端子と接続します。

⓰ EC-MIC（1, 2）

別売りのエコーキャンセリングマイク PCSA-A7 を接続します。

⓱ RGB OUT（RGB 出力）端子（D-sub 15 ピン）

別売りのプロジェクターやディスプレイ機器の RGB 入力端子と接続します。

⓲ WHITE BOARD（ホワイトボード）端子

別売りの mimio Xi と接続します。

⓳ 100BASE-TX/10BASE-T 端子（8 ピンモジュラー）

LAN または SIP を介して会議を行うときに使用します。カテゴリー 5 のケーブルを使ってハブまたは SIP サーバーなどに接続します。

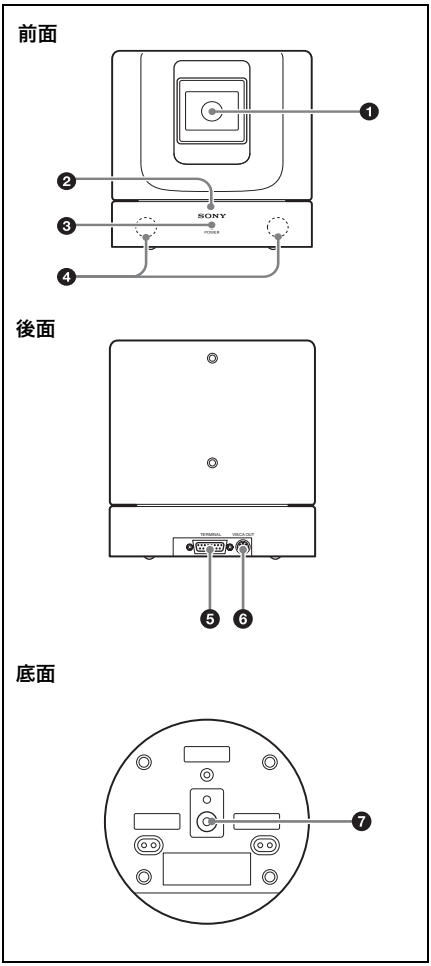
⓴ DSB 端子（D-sub 15 ピン）

別売りのデータソリューションボックス PCSA-DSB1S の TERMINAL 端子と接続します。

㉑ ISDN UNIT（ISDN ユニット）端子

別売りの ISDN ユニット PCSA-B384S、PCSA-B768S または PCSA-PRI などの TERMINAL 端子と接続します。

カメラユニット PCSA-CG70



❶ レンズ

❷ リモコン受光部

リモコンをこの部分に向けて操作します。

❸ POWER（電源）ランプ（緑）

コミュニケーションターミナルの電源スイッチをオンにすると点灯します。コミュニケーションターミナルがスタンバイ状態または電源オフになるとランプは消えます。

❹ 赤外線受光部

別売りのドキュメントスタンド PCS-DS150（現在は販売されていません。）から発信されるワイヤレス信号をこの受光部で受信します。受信された信号は入力（IR）として使用することができます。

❺ TERMINAL（ターミナル）端子

コミュニケーションターミナルの CAMERA UNIT 端子と接続します。

❻ VISCA OUT（VISCA 出力）端子

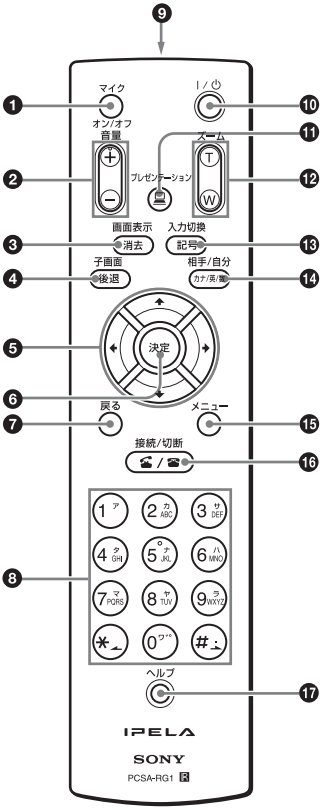
❼ 三脚用ネジ穴

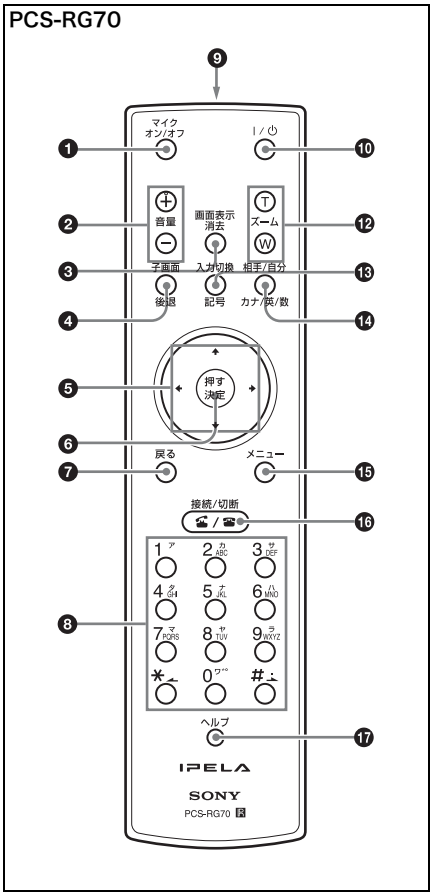
三脚を取り付ける場合に使用します。

◆ネジの規格については、「カメラユニット PCSA-CG70 を三脚に取り付ける」（37 ページ）をご覧ください。

リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70

PCSA-RG1





リモコンのボタンを押したときのビープ音は、メニューの設定で音が出ないようにすることもできます。

◆詳しくは、「音声設定メニュー」（71 ページ）をご覧ください。

❶ マイクオン / オフボタン

自分側からの音声を相手に送るのを中断するときに押します。再び音声を相手に送るときは、もう一度押します。

❷ 音量（＋ / －）ボタン

相手から送られてくる音声の音量を調整します。

＋：音量が大きくなります。

－：音量が小さくなります。

❸ 画面表示（消去）ボタン

モニター画面に表示する映像を切り換えます。

文字を入力するときは、押すと、1 行分の文字を消去します。

❹ 子画面（後退）ボタン

通信中に押すと、子画面を表示します。押すたびに子画面の位置が変わります。

カメラメニュー表示中に押すと、画像をフルスクリーン表示にします。

文字を入力するときは、押すと、最後に入力した文字が消えます。

❺ ↑/↓/←/→（矢印）ボタン

メニューを選んだり、項目を設定するのに使います。カメラのアングル調整にも使います。

❻ 決定ボタン

選んだメニューや設定した内容を確定して次の階層に進みます。

❼ 戻るボタン

メニューのひとつ前の階層に戻ります。

❽ 数字（0 ～ 9、＃、＊）ボタン

回線番号などの数字や名前などを入力するときに使用します。

また、フォーカス調整、画像の明るさの調整、逆光補正などを行う場合にも使用します。

❾ 電池入れ（後面）

単 3 形乾電池を 2 本入れます。(PCSA-RG1)
単 4 形乾電池を 2 本入れます。(PCS-RG70)

❿ I / ⏻（電源）ボタン

コミュニケーションターミナルの電源が入っているときは、押すとスタンバイ状態になります。スタンバイ状態のときは、押すと電源が入ります。

⓫ プレゼンテーションボタン

プレゼンテーションデータを送信 / 停止します。(PCSA-RG1 のみ)

⓬ ズーム（T/W）ボタン

カメラのズームを操作します。
T: 画像が大きくなります。
W: 画像が小さくなります。

⓭ 入力切換（記号）ボタン

映像入力を選択します。押すたびに映像入力を切り換えます。
文字を入力するときは、記号入力ボタンとして機能します。

⓮ 相手 / 自分（カナ / 英 / 数）ボタン

相手側と自分側の映像を切り換えます。
文字を入力するときは、入力モードを切り換えます。

⓯ メニューボタン

メニューを表示するときに押します。

⓰ 接続 / 切断（☎ / ☎）ボタン

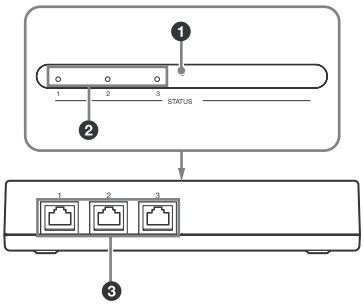
会議をする相手と接続するときや、回線を切るときに使用します。

⓱ ヘルプボタン

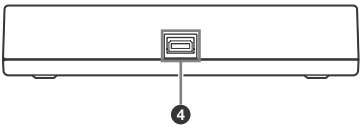
オンラインヘルプを画面に表示するときに押します。

ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）

前面・上面



後面



❶ POWER ランプ

ISDN ユニットに電源が供給されるとオレンジ色に点灯します。初期化が完了すると緑色に点滅します。

❷ STATUS 1 ～ 3 ランプ

各 ISDN 端子の同期が確立するとオレンジ色に点灯します。呼が接続されると黄色に点灯します。

❸ ISDN 1 ～ 3 端子（8 ピンモジュラー）

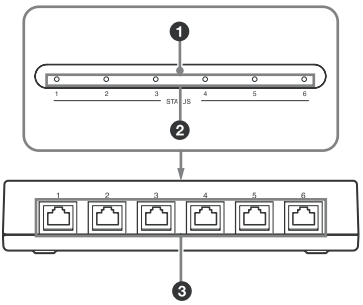
ISDN モジュラーケーブルを使って ISDN 回線に接続します。

❹ TERMINAL（ターミナル）端子

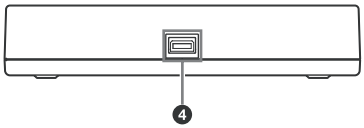
ISDN ユニットに付属のインターフェースケーブルを使って、コミュニケーションターミナルの ISDN UNIT 端子と接続します。

ISDN ユニット PCSA-B768S（別売り）

前面・上面



後面



❶ POWER ランプ

ISDN ユニットに電源が供給されるとオレンジ色に点灯します。初期化が完了すると緑色に点滅します。

❷ STATUS 1 ～ 6 ランプ

各 ISDN 端子の同期が確立するとオレンジ色に点灯します。呼が接続されると黄色に点灯します。

❸ ISDN 1 ～ 6 端子（8 ピンモジュラー）

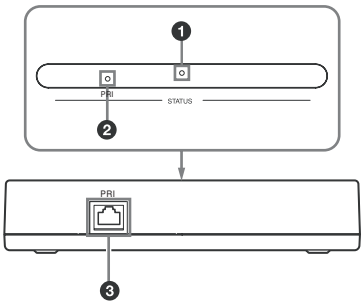
ISDN モジュラーケーブルを使って ISDN 回線に接続します。

❹ TERMINAL（ターミナル）端子

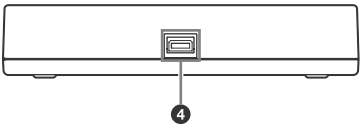
ISDN ユニットに付属のインターフェースケーブルを使って、コミュニケーションターミナルの ISDN UNIT 端子と接続します。

ISDN ユニット PCSA-PRI（日本国内では発売されていません。）

前面・上面



後面



❶ POWER ランプ

ISDN ユニットに電源が供給されるとオレンジ色に点灯します。初期化が完了すると緑色に点滅します。

❷ STATUS PRI ランプ

ISDN 端子の同期が確立するとオレンジ色に点灯します。呼が接続されると黄色に点灯します。

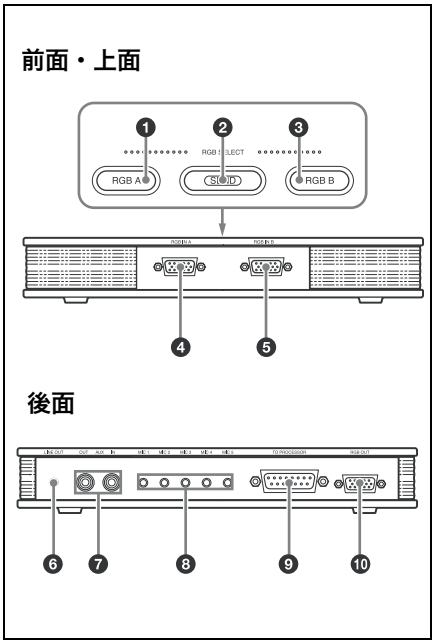
❸ ISDN PRI 端子（8 ピンモジュラー）

ISDN モジュラーケーブルを使って ISDN 回線に接続します。

❹ TERMINAL（ターミナル）端子

ISDN ユニットに付属のインターフェースケーブルを使って、コミュニケーションターミナルの ISDN UNIT 端子と接続します。

データソリューションボックス PCSA-DSB1S（別売り）



❶ RGB A 入力選択ボタンとランプ
RGB IN A 端子に接続されている機器の映像を選びます。

❷ SEND（送信）ボタンとランプ
選択した映像をコミュニケーションターミナルへ送信します。

❸ RGB B 入力選択ボタンとランプ
RGB IN B 端子に接続されている機器の映像を選びます。

❹ RGB IN A（RGB 入力 A）端子（D-sub 15 ピン）
コンピューターなどの RGB 出力端子と接続します。

❺ RGB IN B（RGB 入力 B）端子（D-sub 15 ピン）
コンピューターなどの RGB 出力端子と接続します。

❻ LINE OUT（ライン出力）端子（ステレオミニジャック）
アクティブスピーカーなどの音声入力端子と接続します。
出力はモノラルです。

❼ AUX IN/OUT（補助入出力）端子（ピンジャック）
別売りのコミュニケーショントランスデューサー CTE-600（現在は販売されていません。）を接続します。

❽ MIC 1 ～ MIC 5（マイク 1 ～ 5）端子（ミニジャック）
別売りのマイクロホン PCS-A1 または PCSA-A3 を接続します。

❾ TO PROCESSOR 端子（D-sub 15 ピン）
データソリューションボックスに付属のインターフェースケーブルを使って、コミュニケーションターミナルの DSB 端子と接続します。

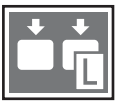
❿ RGB OUT（RGB 出力）端子（D-sub 15 ピン）
プロジェクターやモニター用テレビへ映像を出力します。

インジケーター一覧

機能の使用状況によって、モニター用テレビの画面に以下のアイコンが表示されます。

インジケーター	名称	説明
	相手カメラコントロール中	相手側のカメラをコントロール中
	議長権取得中	外部 MCU と接続し、議長権を保有しているときに表示
	マイクオフ	通信中、非通信中ともに自分側のマイクがオフの場合
	データ通信 ON	通信中、T.120 が使用できる状態のときに表示
	静止画送信中	静止画を送信中
	静止画受信中	静止画を受信中
	放送中（自分）	多地点会議で映像を放送中
	放送中（A ～ E）	多地点会議でその端末 (A ～ E) が映像を放送中
	音量	相手から送られてくる音声の音量を調節中
 	ブライトネス調整	カメラメニューでブライトネス調整を行っているときに表示

インジケーター	名称	説明
	フォーカス調整	カメラのフォーカスを手動調整中
	カメラ自動調整	カメラのフォーカスとブライトネスを自動調整中
	バックライト ON/OFF	カメラの逆光補正機能のオン／オフ
	音声検出中	放送モードで音声検出モードを使用中
	入力モード	選択されている文字入力モード
	スライドショー中	スライドショーで画像を表示中
	パケットロス	パケットロスが発生中
	RGB 送受信中	コンピューター画面を送信または受信中
	ホワイトボード送受信中	ホワイトボードのデータを送信または受信中
	独自方式暗号化通信中	独自方式で暗号化会議中

インジケーター	名称	説明
	標準方式暗号化通信中	標準方式で暗号化会議中
	プリセット呼び出し	通信中にプリセットした設定を呼び出すときに表示
	音声入力レベル	音声入力レベルの表示
	H.239 プレゼンテーションでデュアルビデオ受信中	H.239 プレゼンテーションでデュアルビデオ受信中
	H.239 ライブでデュアルビデオ受信中	H.239 ライブでデュアルビデオ受信中
	ストリーミング	ストリーミング配信中
	レコーディング	レコーディング中

メッセージ一覧

コミュニケーションターミナルを操作中、モニター用テレビの画面にメッセージが現れたら、下記の表で確認してください。

メッセージ	意味
正しいセットアップをしてください	相手が登録されていない、または登録内容が不適切です。
回線を完全につなぐことができません (下記の理由コードとメッセージが表示されます。)	
0　理由なし :	もう一度ダイヤルしなおしてください。
1　該当番号なし :	相手側の電話番号を確認してください。
2、3、6 回線渋滞 :	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
16　正常切断 :	(通常の回線切断です)
17　通話中 :	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
18　相手側応答なし :	相手側 TV 会議装置の接続を確認してください。
19　相手側応答なし :	相手側 TV 会議装置の接続を確認してください。
20　加入者不在 :	相手側の電話番号を確認してください。
21　通信拒否 :	相手側 TV 会議装置の接続を確認してください。
22　相手側番号変更 :	相手側の電話番号を確認してください。
26　接続復旧要求 :	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
27　相手側故障中 :	相手側 TV 会議装置の動作を確認してください。
28　無効な番号 :	相手側の電話番号を確認してください。
31、34、41 ～ 44、47 回線不通 :	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
50　未契約 :	相手側回線の契約内容を確認してください。
57、58 伝達能力不許可 :	[制限網] の設定を確認してください。
70　能力制限 :	[制限網] を [56K] に設定してダイヤルしてください。
88　端末属性不一致 :	相手側 TV 会議装置の接続を確認してください。
91、95 ～ 102、111 手順誤り :	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
128　H.221 同期取得失敗 :	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。

メッセージ	意味
132　無効 SPID:	SPID が正しく設定されていません。
134　物理的同期取得失敗 :	ISDN ケーブルの接続を確認してください。
144、145 Bonding 同期取得失敗 :	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
177　LAN 接続タイムアウト :	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
178　LAN 接続拒否 :	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
179　DNS エラー :	DNS を確認してください。
180　自分にはダイヤルできません :	相手先のアドレスを確認してください。
181　ゲートキーパーエラー :	相手先のアドレスを確認してください。
話し中のためつなぐことができません	相手の回線が使用中なので接続できません。
相手側が応答しません	相手側 TV 会議装置の接続を確認してください。
相手側の都合で送れません	相手が何かの作業を行っているので、静止画を送信することができません。
回線をつなぐためメニューを閉じてください	会議を行うときはメニューを閉じてください。
回線の一部がつながりません	相手側の回線番号を確認してください。
接続タイムアウト	しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
通信エラー	通信エラーが起こりました。
設定エラー	通信エラーが起こりました。
MCU 操作は拒否されました	外部 MCU 接続時の操作はできません。
信号エラー　切断します	信号エラーが起こりました。
受信信号エラー　切断します	信号エラーが起こりました。
メモリーがいっぱいです	“メモリースティック”の容量が残っていません。
タイトルを入力してください	インデックスタイトルを入力してください。
操作はできません	—
パスワードが違います	正しいパスワードを入力してください。
01H　LAN セットアップエラー（IP アドレス）	IP アドレスの設定が不適切です。
02H　LAN セットアップエラー（ネットマスク）	ネットマスクの設定が不適切です。
03H　LAN セットアップエラー（MAC アドレス）	マックアドレスの設定が不適切です。
04H　LAN セットアップエラー（DHCP エラー）	IP アドレスとネットマスクが取得できません。
05H　GateKeeper 登録エラー	ゲートキーパーの設定が不適切です。

メッセージ	意味
06H　SNMP エラー	SNMP の設定が不適切です。
ＬＡＮ セットアップエラー （ゲートキーパー)	ゲートキーパーの設定が不適切です。
ＬＡＮ セットアップエラー (SNMP エラー)	SNMP の設定が不適切です。
LAN セットアップエラー	LAN 設定メニューの設定が不適切です。
メモリースティックエラー	“メモリースティック”のフォーマットが違います。
一般エラー	—
メモリースティックがありません	“メモリースティック”を挿入してください。
メモリースティックが書き込み禁止です	“メモリースティック”の誤消去防止ツマミの LOCK を解除してください。
メモリースティックがいっぱいです	“メモリースティック”の容量が残っていません。
メモリースティックファイルエラー	“メモリースティック”のファイルフォーマットが違っています。または、ファイルに異常があります。
メモリースティック ファイルデコードエラー	“メモリースティック”の JPEG ファイルのデコードに失敗しました。
メモリースティック ファイルサイズエラー	“メモリースティック”のファイルサイズが不適切です。
メモリースティックに画像はありません	“メモリースティック”に画像が何も保存されていません。
ファイルエラー	ファイルに異常があります。
ファイルサイズエラー	ファイルサイズが不適切です。
ファイルデコードエラー	JPEG ファイルのデコードに失敗しました。
フォーマットエラー	“メモリースティック”がフォーマットできません。
通信中は設定の変更はできません	通信が終わってから設定を変更してください。
静止画送信が出来ませんでした	静止画の送信に失敗しました。
プレゼンテーション画像の送信が出来ません	データソリューションボックスから入力した RGB 画像の送信に失敗しました。
この相手へのマルチポイント接続は出来ません	この相手へのマルチポイント接続はできません。
LAN が使用できません	LAN が使用できません。
データソリューションボックスが使用できません	データソリューションボックスが使用できません。

メッセージ	意味
不適切なデバイスが接続されています	WHITE BOARD 端子に不適切なデバイスが接続されています。
ISDN ユニットとの通信が出来ません	ISDN ユニットとの通信ができません。
これ以上のカスケード接続はできません。	MCU ソフトウェアを 3 台以上のコミュニケーションターミナルにインストールしてもカスケード接続はできません。
ISDNではカスケード接続はできません。	ISDN 接続の場合、カスケード接続はできません。
RGB 画像を受信中です。送信はできません。	他の端末から RGB 画像を受信中は、データソリューションボックスに接続した機器からの RGB 画像を送信することはできません。
静止画送受信中です。データソリューションボックスの使用はできません。	静止画を送受信中は、データソリューションボックスを介して RGB 画像を送受信することはできません。
データソリューションボックスとの接続が正常ではありません。システムの電源を入れなおしてください。	コミュニケーションターミナルとデータソリューションボックスが正常に接続されていません。コミュニケーションターミナルの電源を入れなおしてください。
データソリューションボックスのファンが正常ではありません。	データソリューションボックスのファンが正常に働いていません。データソリューションボックスは使用できません。
ホワイトボードが使用できません。	ホワイトボードを使って会議ができるのは、相手が PCS-G50、PCS-G70、PCS-1、PCS-11、PCS-TL50、PCS-TL30 のいずれかの場合です。
ホワイトボードのスタイラスの電池が消耗しています。交換してください。	ホワイトボードのスタイラスに新しい電池を入れてください。
相手側は暗号化に対応していません。	暗号化機能を使って会議を行う場合、相手側のテレビ会議システムが暗号化機能に対応していない場合は接続できません。
相手側の暗号化機能がオフになっています。	暗号化機能を使って会議を行う場合、相手側の暗号化機能がオンに設定されていないと接続できません。
相手側の暗号化機能がオンになっています。	通常の会議を開始する場合、相手側の暗号化機能がオンに設定されていると接続できません。
暗号化のパスワードが違います。	正しいパスワードを設定してください。

メッセージ	意味
ISDN 接続を含んだ暗号化会議はできません。	ISDN 接続で会議中、暗号化機能が独自方式になっていると、LAN 接続の端末とは接続できません。
暗号化のパスワードは 13 文字以上入力してください。	暗号化機能を使った会議を行うために必要なパスワードは 13 文字以上 20 文字以下です。
PPPoE 接続に失敗しました。	LAN 接続ができません。PPPoE の設定を確認してください。
PPPoE のサーバー認証に失敗しました。	正しいパスワードを入力してください。
PPPoE のサーバーへの接続が出来ません。	DNS サーバーの設定を確認してください。
LAN が使用できません。LAN ケーブルの接続を確認してください。	LAN 接続ができません。接続を確認してください。
DHCP で IP アドレスが取得できていません。	DHCP の設定を確認してください。
IP 番号を使用して発信してください。	相手の IP アドレスを入力して発信してください。
DNS 参照の解決ができません。	ドメインネームサーバー使用時、相手の名前を入力したため LAN 接続できませんでした。IP アドレスを入力してください。
接続処理を開始していますが、処理途中で何らか障害があり、接続ができません。	再度、接続をし直してください。
ゲートキーパーの登録情報を確認してください。	ゲートキーパー使用時、LAN 設定メニューの 2 ページ目にゲートキーパーの登録情報が表示されますので、ご確認ください。
ゲートキーパーの帯域設定を超えたため、接続が拒否されました。	ゲートキーパーの帯域設定を超えたため、接続できませんでした。
ゲートキーパーが応答しません。	ゲートキーパーの設定を確認してください。
ISDN ユニットが接続されていません。	ISDN ユニットが接続されていません。
ISDN 回線が有効ではありません。接続を確認してください。	ISDN 回線の接続を確認してください。
ISDN 回線の接続が正しくありません。	ISDN 回線の接続を確認してください。

メッセージ	意味
ISDN の設定を確認してください。	「ISDN 設定メニュー」で ISDN 回線の設定を確認してください。
相手の電話番号が入力されていません。	相手の電話番号を入力してください。
相手の電話番号が正しく入力されていません。	相手の電話番号を正しく入力してください。
交換機または相手側の ISDN 回線接続に問題があり、正しく接続できません。	ISDN 回線の接続ができません。交換機または相手側の接続に問題があります。
回線がビジーです。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。	回線が使用中です。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。
回線を完全につなぐことができません。呼び出しましたが、相手テレビ会議装置が応答しませんでした。	相手側のテレビ会議装置が応答せず、接続できませんでした。
指定した IP アドレスの機器がないか、電源が入っていません。	相手に接続できませんでした。 指定した IP アドレスを確認してください。 または相手に電源を入れてもらってください。
相手が接続を拒否しました。	相手に接続できませんでした。
相手を呼び出しましたが、応答がありません。	相手側から応答がありません。
H.245 エラー	LAN の多地点接続ができませんでした。
相手側端末がボンディング接続未対応の可能性があります。	相手側がボンディング機能を使用していないか、ボンディング機能を搭載していない可能性があります。
ISDN設定の電話番号が正しく設定されていません。正しく設定してください。	本機の ISDN 設定メニューで電話番号を正しく設定してください。
相手端末の ISDN 設定の電話番号が正しく設定されていない可能性があります。	相手側の端末で電話番号が正しく設定されていません。
xB で接続されました。	xB 以上のチャンネルで接続できませんでした。
PPPoE のサーバー認証に失敗しました。 PPPoE ユーザ名と PPPoE パスワードを確認してください。	PPPoE サーバーに接続できませんでした。 正しいパスワードとユーザー名を入力してください。

メッセージ	意味
LAN セットアップエラー。PPPoE の固定 IP がオンになっています。PPPoE 固定 IP アドレスを確認してください。	固定 IP アドレスを使用して PPPoE に接続するように設定されています。PPPoE 固定 IP アドレスを入力してください。
PPPoE の認証に失敗しています。PPPoE の設定を確認のうえ、もう一度ダイヤルしてください。	PPPoE サーバーに接続できません。PPPoE の各種設定をし、再度ダイヤルしてください。
DNS サーバーにアクセスできませんでした。PPPoE の DNS 設定を確認してください。	DNS サーバーに接続できませんでした。PPPoE の DNS サーバーの設定を確認してください。
DNS での名前解決ができません。IP アドレスで発信してください。	ドメイン名での接続ができません。IP アドレスを入力して発信してください。
DHCP で IP アドレスを取得中です。	DHCP で IP アドレスを自動取得中です。
LAN セットアップエラー。不正な IP アドレスが設定されています。	設定した IP アドレスが不適切です。
LAN セットアップエラー。不正なネットワークマスクが設定されています。	設定したネットワークマスクが不適切です。
DNS サーバにアクセスできません。IP アドレスで発信してください。	ドメイン名での接続ができません。相手の IP アドレスを入力して発信してください。
DNS アドレスを設定するか、IP アドレスで発信してください。	DNS アドレスを設定するか、相手の IP アドレスを入力して発信してください。
発信するユーザー名、もしくはユーザー番号が正しいか確認してください。	ユーザー名、ユーザー番号を正しく入力してください。
相手端末がゲートキーパーへ登録されていない可能性があります。ゲートキーパー管理者へ連絡してください。	相手端末のゲートキーパー登録に関してゲートキーパー管理者へ連絡してください。
ゲートキーパーが応答しません。ゲートキーパー管理者へ連絡してください。もしくは相手の IP アドレスで発信してください。	ユーザー名やユーザー番号での発信はできませんでした。ゲートキーパー管理者へ連絡するか、相手の IP アドレスを入力して発信してください。

メッセージ	意味
LAN セットアップエラー。ゲートキーパーが ON になっています。ゲートキーパーアドレスを入力してください。	ゲートキーパーを使用して LAN 接続するように設定されています。ゲートキーパーアドレスを入力してください。
LAN セットアップエラー。NAT モードが ON になっています。NAT アドレスを確認してください。	NAT を使用してネットワークに接続するように設定されています。NAT アドレスを確認してください。
LAN セットアップエラー。不正な NAT アドレスが指定されています。NAT アドレスを確認してください。	設定した NAT アドレスが不適切です。LAN 設定メニューで正しい NAT アドレスを入力してください。
LAN セットアップエラー。NAT 機器以外のアドレスが NAT アドレスに指定されています。NAT アドレスを確認してください。	LAN 設定メニューで正しい NAT アドレスを入力してください。
LAN セットアップエラー。ポート番号が重複しているため、完全につなぐ事ができません。	LAN 設定メニューで、「TCP ポート番号」と「UDP ポート番号」が重複していないか確認してください。
LAN セットアップエラー。無効なポート番号が指定されているため、完全につなぐ事ができません。	相手に接続できません。LAN 設定メニューで、「TCP ポート番号」と「UDP ポート番号」を確認してください。
「回線が混雑しています。しばらくしてからもう一度ダイヤルしてください。」	回線がつながりません。再度、発信してください。
ISDN 設定の電話番号が正しく設定されていません。正しく設定してください。xB で接続されました。	xB 接続されました。より高速の接続をするには、ISDN 設定メニューで電話番号を正しく設定してください。
相手端末の ISDN 設定の電話番号が正しく設定されていない可能性があります。xB で接続されました。	xB 接続されました。相手端末の ISDN 設定の電話番号が正しく設定されていない可能性があります。
H.221 同期取得失敗。 電源を入れなおしてもう一度接続してください。	システムの電源を入れ直してもう一度ダイヤルしてください。
同じアドレスに発信できません。	すでに発信した相手にダイヤルしています。

メッセージ	意味
回線数が不足しています。 MCU 設定の回線数を確認してください。もしくは、ISDN ケーブルが外れていないか確認してください。	ISDN の回線がいっぱいで接続できません。マルチポイント設定メニューの ISDN の回線数を確認または ISDN ケーブルの接続を確認してください。
回線数が異なるため、2 次端末として扱われます。	相手と異なる回線数のため、2 次端末として扱われます。
回線種別もしくは IP アドレスが正しいか確認してください。	LAN 設定メニューで、回線種別もしくは IP アドレスが正しいか確認してください。
発信設定エラー。Prefix 欄が空白です。	発信設定メニューでプリフィックスを登録していません。
発信設定エラー。LAN Prefix 欄が空白です。	発信設定メニューでプリフィックスを登録していません。
LAN セットアップエラー、 PPPoE が ON になっています。 ユーザ名、パスワードを確認してください。	PPPoE を使用して LAN 接続するように設定されています。ユーザ名、パスワードの設定が必要です。
LAN セットアップエラー。IP Precedence の値が上限を超えています。	LAN 設定メニューの IP Precedence の値を 0 ～ 7 に設定してください。
LAN セットアップエラー。 Diffserve の値が上限を超えています。	LAN 設定メニューの Diffserve の値を 0 ～ 64 に設定してください。
SIP での接続が出来ません。 パラメーターエラー	設定が不正のため接続できません。「SIP 設定メニュー」などの設定を確認してください。
SIP での接続が出来ません。 システムコールエラー	システムの状態に問題があるため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 メモリー確保失敗	本機のメモリーが不足しているため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 初期化エラー	初期化に失敗したため接続できません。 設定を確認してください。
SIP での接続が出来ません。 ハンドル不正	内部エラーのため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 最大セッション数オーバー	接続地点数のオーバーにより接続できません。
SIP での接続が出来ません。 内部エラー	内部エラーのため接続できません。

メッセージ	意味
SIP での接続が出来ません。 暫定応答タイムアウト	発信後一定時間相手からの応答がなかったため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 要求タイムアウト	一定時間、相手から応答がなかったため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 400 番台応答受信	本機がサポートしていないメディアを相手が使用しているなどの理由により、接続できません。
SIP での接続が出来ません。 500 番台応答受信	SIP サーバーのエラーなどの理由により、接続できません。SIP サーバーを確認してください。
SIP での接続が出来ません。 600 番台応答受信	相手が見つからないなどの理由により、接続できません。相手の番号などを確認してください。
SIP での接続が出来ません。 未定義のエラー	予期せぬエラーにより接続できません。
SIP での接続が出来ません。 状態不正	予期せぬエラーにより接続できません。
SIP での接続が出来ません。 相手からキャンセルされました。	相手が本機を呼び出したあとキャンセルしたため、接続できません。
SIP での接続が出来ません。 相手から切断されました。	相手が本機からの呼び出しをキャンセルしたため、接続できません。
SIP での接続が出来ません。 Reject 受信	相手から拒否されたため接続できません。
SIP での接続が出来ません。 ネットワークエラー	ネットワークの状態に問題があるため接続できません。ネットワーク状態を確認してください。
SIP での接続が出来ません。 暗号化での通信はできません。	暗号化機能がオンに設定されていると SIP 接続できません。暗号化機能をオフにしてください。
SIP での接続が出来ません。 話し中のためつなぐことができません	相手が話し中のため接続できません。
SIP 以外の回線種別への転送は出来ません。	SIP 以外の回線種別への転送はできません。
転送しました。	転送しました。
切断すると転送されます。	切断すると転送されます。
転送先が切断されました。	転送先が切断されました。
転送元が切断されました。	転送元が切断されました。
保留が解除されました。	保留が解除されました。
保留中の回線があるため、操作できません。	保留中の回線があるため、操作できません。
SIP ではカスケード接続ができません。	SIP ではカスケード接続ができません。

メッセージ	意味
保留の操作に失敗したため、回線が切断されました。	保留の操作に失敗したため、回線が切断されました。
レコーディング中は設定の変更はできません。	レコーディング終了後に設定を変更してください。
ストリーミング配信中は設定の変更はできません。	ストリーミング配信終了後に設定を変更してください。
検索に失敗しました。	検索に失敗しました。
会議を始めます。(暗号化機能がオンになっています。)	暗号化機能がオンの状態で会議を始めます。
会議を始めます。(暗号化機能はオフになっています。)	暗号化機能がオフの状態で会議を始めます。
こちら側の暗号化機能がオフのため、会議が開始できませんでした。	暗号化機能をオンにしてください。
相手側の暗号化機能がオフのため会議が開始できませんでした。	相手側に暗号化機能をオンにするよう依頼してください。
相手側と暗号化方式が異なるため会議が開始できませんでした。	相手側と同じ暗号化方式に設定してください。
SIP 接続を含んだ標準方式の暗号化会議はできません。	接続方法を変えるか、独自方式の暗号化会議にしてください。
ISDN 接続を含んだ独自方式の暗号化会議はできません。	接続方法を変えるか、標準方式の暗号化会議にしてください。
PPPoE 接続中です。	PPPoE を使用して LAN に接続中です。
指定された回線種別では、現在の通信モードでの接続はできません。	現在の通信モードを確認してください。
相手からのパケットが来なくなったため切断しました。	パケットが正常に受け取れなかった場合。
ネットワークカメラの動作モードが JPEG になっているため接続できません。 ネットワークカメラの設定を変更してください。	ユーザー権限でネットワークカメラと接続しようとしている場合、本機がサポートしていない動作モードでの接続はできません。ネットワークカメラ側で適切な設定を行ってください。
ネットワークカメラの画像サイズが VGA になっているため接続できません。 ネットワークカメラの設定を変更してください。	ユーザー権限でネットワークカメラと接続しようとしている場合、本機がサポートしていない画像サイズでの接続はできません。ネットワークカメラ側で適切な設定を行ってください。

メッセージ	意味
ユーザー名、またはパスワードが違うため接続できません。	本機側で設定したユーザー名またはパスワードが、ネットワークカメラのユーザー名またはパスワードと相違しているため、接続できません。適切な設定を行ってください。
接続先の IP アドレスまたは HTTP ポート番号が異なるため、接続できません。	本機側で設定した IP アドレスまたは HTTP ポート番号が、ネットワークカメラの IP アドレスまたは HTTP ポート番号と異なっているため、接続できません。適切な設定を行ってください。
ネットワークカメラのマルチキャスト配信設定がオフのため接続できません。	ネットワークカメラのマルチキャスト配信設定がオフになっているため、接続できません。ネットワークカメラ側でマルチキャスト配信設定をオンにしてください。

以下のメッセージは、操作や会議の開始、終了を確認するために表示されます。

メッセージ	意味
ミーティングを始めます	相手との接続が完了しました。 これで会議を始めることができます。
回線の接続を始めます	相手から呼び出しを受け、システムが回線の接続動作を始めました。
ミーティングを終わります	会議の終了操作が完了しました。
しばらくお待ちください	データの保存中です。
インストールが完了しました	ソフトウェアのインストールが終了しました。
静止画が送信されました	静止画が送信されました。
静止画送信が解除されました	静止画の送信が解除されました。
プリセット 1 番（～ 6 番）に移動しました	カメラのアングルとズームがプリセット 1 番（～ 6 番）に登録された状態に変更されました。
静止画がメモリースティックに保存されました	静止画が“メモリースティック”に保存されました。
プリセット 1 番（～ 6 番）に登録されました	カメラのアングルとズームの設定がプリセットの 1 番（～ 6 番）に登録されました。
端末 A（または B、C、D、E）を切断しました	多地点会議をしているとき、相手 A（または B、C、D、E）を切断しました。
A（または B、C、D、E）が退出しました	多地点会議をしているとき、相手 A（または B、C、D、E）が会議を終了しました。
オブジェクト入力の静止画像が送信されました	ドキュメントスタンド（現在は販売されていません。）からの静止画が送信されました。
スライドショーを終了しました	スライドショーを終了しました。

メッセージ	意味
1 地点目（～ 5 地点目）が選択されました	アドレス帳から多地点会議の 1 地点目（～ 5 地点目）の接続先を選択しました。
端末が会議に参加しました	表示されている端末が多地点会議に参加しました。
端末が会議から退出しました	表示されている端末が多地点会議から退出しました。
端末を見ています [端末名]	表示されている端末の画像を見ています。
バージョンアップ中です。しばらくお待ちください	ソフトウェアのバージョンアップを実行しています。バージョンアップが完了するまで電源を切らないでください。
カスケード接続されました。	カスケード接続で端末との接続が完了しました。
カスケード接続されました。分割画面表示はできません。	カスケード接続では分割画面を表示することはできません。
プライベートアドレス帳の使用を開始します。	プライベートアドレス帳を登録した“メモリースティック”が挿入されました。プライベートアドレス帳が使用できます。
プライベートアドレス帳の使用を終了します。	プライベートアドレス帳を登録した“メモリースティック”が抜かれました。プライベートアドレス帳の使用を終了します。

故障かな？

コミュニケーションターミナルが正しく動作しないときは、故障とお考えになる前に以下の項目を確認してください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電源スイッチがオンになっていない。	電源スイッチをオン（**I** 側）にしてください。(43 ページ)
	リモコンの電池が消耗している。	新しい乾電池と交換してください。(39 ページ)
音声が聞こえない・小さい。	本機の音量が小さすぎる、または最小になっている。	リモコンの音量ボタンを押して音量を調節してください。(47 ページ)
	モニター用テレビの音量が小さすぎる、または最小になっている。	モニター用テレビのリモコンの音量ボタンを押して音量を調節してください。
	会議中の相手のマイクがオフになっている。	相手に、音声が聞こえないことを伝え、マイクをオンにするよう依頼してください。
	「マイク選択」が正しく設定されていない。	音声設定メニューの「マイク選択」を正しく設定してください。(72 ページ)
	音声入力が正しく選択されていない。	音声設定メニューの「入力切替」を正しく設定してください。(71 ページ)
	マイクまたは入力用の外部機器が正しく接続されていない。	接続を確かめてください。(191、201、215 ページ)
映像がぼやける。	フォーカスを手動で調節しているとき、フォーカスが合っていない。	フォーカスを調整してください。(143 ページ)

症状	原因	対策
映像がぼやける。	オートフォーカスにしてあるとき、背景が明るすぎたり、明暗がはっきりしすぎている、または参加者の衣服や背景が横じまなど細かい模様になっている。	マニュアルフォーカスに切り換え、調節してください。(144 ページ)
映像が映らない。	映像信号入力用外部機器の電源が入っていない。	電源を入れてください。
	入力が正しく選ばれていない。	入力を正しく切り換えてください。(153 ページ)
	入力用の外部機器が正しく接続されていない。	接続を確かめてください。(201 ページ)
	ボイスミーティングを行っている。	故障ではありません。
	カメラの動きをさえぎった。	コミュニケーションターミナルの電源を入れ直してください。
相手とつながらない。	違う番号にダイヤルした。	入力した番号をよく確かめてください。
	回線種別の選択がまちがっている。(マニュアルダイアルのとき)	「3 章　日常の会議」の「相手を呼び出す」(122 ページ) を参照して正しく選択してください
	アドレス帳の登録内容がまちがっている。	「2 章　登録と設定－管理者用」の「会議の相手を登録する－アドレス帳」(98 ページ) を参照して正しく登録してください。
	システム設定の設定内容がまちがっている。	「2 章　登録と設定－管理者用」の「システムを設定する」を参照して正しく設定してください。(61 ページ)
	IP アドレス、ネットワークマスクの設定がまちがっている。(LAN 通信のとき)	ネットワーク 担当者などに問い合わせて、正しく設定してください。(87 ページ)

症状	原因	対策
相手とつながらない。	LAN または ISDN の接続ケーブル が抜けている。	正しく接続してください。(34、37 ページ)
	LAN または ISDN の接続ケーブル の接続端子をまちがえている。	正しく接続してください。(34、37 ページ)
	LAN または ISDN の接続ケーブル が断線している。	ケーブルを交換してください。
	ISDN 専用のケーブルを LAN 用に使っている。(LAN 通信のとき)	ISDN で使えても LAN には使えないケーブルがあります。LAN 用のケーブルを使ってください。
	LAN または ISDN の接続にタイプ（クロスまたはストレート）の違う接続ケーブルを使っている。	正しいケーブルに交換してください。
	DSU の電源が入っていない。(ISDN 通信のとき)	DSU の電源を入れてください。
	通信中に ISDN 接続ケーブルを抜いたり、電源を切るなど通常の手順によらないで通信を終了すると、しばらくつながらなくなることがある。(ISDN 通信のとき)	電源を切り、数分待ってから使ってください。
	LAN ケーブルの抜き差しや電源の入り切りを繰り返していると、しばらく使えなくなることがある。(LAN 通信のとき)	電源を切り、数分待ってから使ってください。

症状	原因	対策
相手とつながらない。	LAN の一時的な障害（LAN 通信のとき）	一時的な障害がおさまってから使ってください。
	ご使用の LAN 環境ではテレビ会議のパケットを通せない。（LAN 通信のとき）	ネットワーク担当者に相談して、テレビ会議のパケットを通せるように LAN 環境を整えてください。
	相手端末の電源が入っていない。	相手端末の電源を入れてもらってください。
	相手端末がスタンバイ（スリープ）状態から着信可能になるまでに時間がかかる。	相手端末をスタンバイ（スリープ）状態から復帰させてもらってください。
	相手端末が他の端末と通信中である。	相手端末が通信を終えてからダイヤルし直してください。
	相手端末が設定変更などの操作中で、着信を許可しない。	相手端末に着信を受け付けてもらってください。
	相手端末が自動着信になっていない。	相手端末の設定を自動着信に変更する、または、相手端末に手動で着信を受け付けてもらってください。
	相手端末の ISDN 回線番号が設定されていない。（ボンディング接続のとき）	相手端末の ISDN 設定メニューの市外局番号、市内番号を正しく設定してもらってください。（92 ページ）
	相手端末の使用している複数の ISDN 回線番号の、下から 8 桁目以上の番号が共通になっていない。（ボンディング接続で、相手端末が PCS-1600 など旧機種のとき。）	ボンディングを使用しないで接続する、または下から 8 桁目以上の番号が共通になっている ISDN 回線番号を使用してください。
	相手端末側に問題がある。	他の端末にダイヤルして確かめてください。

症状	原因	対策
相手とつながらない。	画面にメッセージが表示される。	「メッセージ一覧」をご覧ください。(326 ページ)
“メモリースティック”に静止画やアドレス帳を保存できない。	“メモリースティック”の誤消去防止スイッチが「LOCK」になっている。	「LOCK」を解除してください。(165 ページ)
	“メモリースティック”の容量がいっぱいになっている。	他の“メモリースティック”に保存してください。

仕様

コミュニケーションターミナル PCS-PG50

本機は ITU-T 勧告 H.320 と H.323 に準拠しています。

動画

動作帯域　64 Kbps ～ 4096 Kbps（標準、LAN による接続）
56 Kbps ～ 768 Kbps (PCSA-B768S 取り付け時、ISDN による接続)
56 Kbps ～ 384 Kbps (PCSA-B384S 取り付け時、ISDN による接続)
56 Kbps ～ 1472 Kbps (T1)　56 Kbps ～ 1920 Kbps (E1) (PCSA-PRI* 取り付け時、ISDN による接続)
*PCSA-PRI は日本国内では発売されていません。

コーディング方式
H.261/H.263/H.263+/ H.263++/H.263 4CIF/ H.264/ インターレース SIF (ITU-T 勧告準拠) / インターレース SIF（H.264/ H.263)
MPEG4 Simple Profile (LAN による接続)

画素　CIF 352 ピクセル× 288 ライン
QCIF 176 ピクセル× 144 ライン

カラー方式　NTSC
ただし、PAL 方式と相互接続可能

静止画

画素　704 ピクセル× 480 ライン
圧縮方式　H.261（ITU-T 勧告準拠) Annex. D（4CIF)
H.263（独自方式)

音声

周波数帯域　14 kHz (MPEG4 Audio)
7 kHz（G.722/G.722.1 ITU-T 勧告準拠)
3.4 kHz（G.711/G.728/ G.723.1/G729 ITU-T 勧告準拠)

伝送レート　56 Kbps、64 Kbps（G.711 ITU-T 勧告準拠)
48 Kbps、56 Kbps、64 Kbps（G.722　ITU-T 勧告準拠)
64 Kbps、96 Kbps (MPEG4 Audio)（LAN による接続)
24 Kbps、32 Kbps (G.722.1　ITU-T 勧告準拠)（LAN による接続)
16 Kbps（G.728　ITU-T 勧告準拠)
8 Kbps（G.729　ITU-T 勧告準拠)（LAN による接続)
5.3 Kbps、6.3 Kbps (G.723.1　ITU-T 勧告準拠)（LAN による接続)
48 Kbps（MPEG4 Audio) (ISDN による接続)

ネットワーク

多重分離化　映像信号、音声信号、データを多重分離化

フレームフォーマット

H.221（ITU-T 勧告準拠）

回線　LAN（標準）、64 Kbps ～ 4096 Kbps

ISDN（BRI）、6 回線接続可能（PCSA-B768S 取り付け時）、3 回線接続可能 (PCSA-B384S 取り付け時)

ISDN（PRI*）T1 または E1 (PCSA-PRI 取り付け時)

*PCSA-PRI は日本国内では発売されていません。

データ伝送レート

LSD 1.2 Kbps、4.8 Kbps、6.4 Kbps

MLP 6.4 Kbps、24 Kbps、32 Kbps

HMLP 62.4 Kbps、64 Kbps、128 Kbps

サポート LAN プロトコル

HTTP

FTP

Telnet

RTP/RTCP

TCP/UDP

SNMP

リモートコントロール

相手カメラコントロール

H.281（ITU-T 勧告準拠）

データ伝送　T.120（ITU-T 勧告準拠）

その他

電源電圧　DC 19.5 V

消費電流　4 A

動作温度　5 ° C ～ 35 ° C

動作湿度　20%～ 80%

保存温度　－ 20 ° C ～+ 60 ° C

保存湿度　20%～ 80%（結露しないこと）

外形寸法　420 × 70 × 254 mm（幅 / 高さ / 奥行き）（突起部含まず / 脚含む）

質量　約 4.6 kg

付属品　マイクロホン PCS-A1（1）

リモコン PCSA-RG1 または PCS-RG70（1）

リモコン用単 3 形乾電池または単 4 形乾電池（2）

受光ユニット（1）

IR リピーター（2）

S 映像接続コード（1.5 m）（1）

音声接続コード（1 m）（1）

映像変換コード（15 c m）（1）

AC アダプター VGP-AC19V45 または VGP-AC19V15（1）

電源コード（1）

CD-ROM（1）

ご使用になる前に（1）

接続シート（1）

簡単接続ガイド / リモコン操作ガイド（1）

B&P ワランティブックレット（1）

カメラユニット PCSA-CG70

映像信号	NTSC カラー EIAJ 標準方式
映像素子	1/4 型カラー CCD（総画素数約 41 万画素、有効画素数約 38 万画素）
レンズ	f = 3.1 ～ 31 mm、F1.8 ～ F2.9、水平画角 6.6° ～ 65°
最至近撮影距離	100 mm（WIDE 端）、600 mm（TELE 端）
最低被写照度	3.5 ルクス（F1.8）/50 IRE にて
被写照度範囲	3.5 ～ 100,000 ルクス
水平解像度	470 TV 本
パン・チルト機能	水平± 100°、垂直± 25°
外形寸法	130 × 139 × 130 mm（幅 / 高さ / 奥行き）（突起部含まず / 脚含む）
質量	約 1.0 kg
付属品	カメラケーブル（3 m）（1） VISCA ケーブル（15 cm）（1）

マイクロホン PCS-A1

周波数帯域	13 kHz
指向特性	無指向性
外形寸法	74 × 16 × 93 mm（幅 / 高さ / 奥行き）
質量	約 170 g
電源	プラグインパワータイプ
ケーブル長	8 m

リモコン PCSA-RG1

信号方式	赤外線 SIRCS
制御	DC 3 V 単 3 形乾電池 2 本使用

リモコン PCS-RG70

信号方式	赤外線 SIRCS
制御	DC 3 V 単 4 形乾電池 2 本使用

AC アダプター VGP-AC19V45

電源	AC 100 ～ 240 V、50/60 Hz、1.6 A ～ 0.7 A
出力	DC 19.5 V、6.2 A
動作温度	5 ° C ～ 35 ° C
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	− 20 ° C ～+ 60 ° C
保存湿度	20%～ 80%（結露しないこと）
外形寸法	63 × 30.5 × 140 mm（幅 / 高さ / 奥行き）（突起部含まず）
質量	約 400 g

AC アダプター VGP-AC19V15

電源	AC 100 ～ 240 V、 50/60 Hz、1.6 A ～ 0.7 A
出力	DC 19.5 V、6.2 A
動作温度	5 ° C ～ 35 ° C
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	－ 20 ° C ～+ 60 ° C
保存湿度	20%～ 80% （結露しないこと）
外形寸法	67 × 36.5 × 155 mm （幅 / 高さ / 奥行き） （突起部含まず）
質量	約 550 g

マイクロホン PCSA-A3（別売り）

周波数帯域	13 kHz
指向特性	単一指向性
外形寸法	68 × 16 × 96 mm （幅 / 高さ / 奥行き）
質量	約 200 g
電源	プラグインパワータイプ
ケーブル長	8 m

マイクロホン PCSA-A7P4（別売り）

外形寸法	約 64 × 26 × 102 mm （幅 / 高さ / 奥行き） （脚含む）
質量	約 130 g
電源電圧	DC 12 V　PCS-G50 本体、 または付属 AC アダプター より給電
消費電力	2.5 W 以下（1 台あたり）
動作温度	5 ° C ～ 35 ° C
動作湿度	20% ～ 80%
保存温度	－ 20 ° C ～ ＋ 60 ° C
保存湿度	20% ～ 80% （結露しないこと）
付属品	マイクロホン PCSA-A7（4） マイクケーブル（8 m）（2） マイクケーブル（1.5 m）（4） AC アダプター MPA-AC1 （1） 電源コード（日、米、欧） （各 1） コードアダプター（1） DC コード（1） 取扱説明書（1） B&P ワランティブックレット （1） 保証書（1）

ISDN ユニット PCSA-B384S（別売り）

電源電圧	DC 19.5 V
消費電流	0.3 A
動作温度	5 ° C ～ 35 ° C
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	－ 20 ° C ～+ 60 ° C
保存湿度	20%～ 80% （結露しないこと）
外形寸法	166 × 34 × 128 mm （幅 / 高さ / 奥行き） （突起部含まず / 脚含む）
質量	約 400 g
付属品	インターフェースケーブル（5 m）（1） 取扱説明書（1） B&P ワランティブックレット（1）

ISDN ユニット PCSA-B768S（別売り）

電源電圧	DC 19.5 V
消費電流	0.5 A
動作温度	5 ° C ～ 35 ° C
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	－ 20 ° C ～+ 60 ° C
保存湿度	20%～ 80% （結露しないこと）
外形寸法	166 × 34 × 128 mm （幅 / 高さ / 奥行き） （突起部含まず / 脚含む）
質量	約 400 g
付属品	インターフェースケーブル（5 m）（1） 取扱説明書（1） B&P ワランティブックレット（1））

ISDN ユニット PCSA-PRI（日本国内では発売されていません。）

電源電圧	DC 19.5 V
消費電流	0.3 A
動作温度	5 ° C ～ 35 ° C
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	－ 20 ° C ～+ 60 ° C
保存湿度	20%～ 80% （結露しないこと）
外形寸法	166 × 34 × 128 mm （幅 / 高さ / 奥行き） （突起部含まず）
質量	約 400 g
付属品	インターフェースケーブル（5 m）（1） 取扱説明書（1） B&P ワランティブックレット（1）

データソリューションボックス PCSA-DSB1S（別売り）

電源電圧	DC 19.5 V
消費電流	1.0 A
動作温度	5 ° C ～ 35 ° C
動作湿度	20%～ 80%
保存温度	－ 20 ° C ～+ 60 ° C
保存湿度	20%～ 80% （結露しないこと）
外形寸法	240 × 36 × 180 mm （幅 / 高さ / 奥行き） （突起部含まず / 脚含む）
質量	約 1.1 kg
付属品	インターフェースケーブル（10 m）（1） 取扱説明書（1） B&P ワランティブックレット（1） リアカバー（1）

H.320 MCU ソフトウェア PCSA-M0G50（別売り）

外形寸法　50 × 2.8 × 21.5 mm（幅 / 高さ / 奥行き）
質量　約 4 g
付属品　シリアル番号シール (1)
取扱説明書 (1)

H.323 MCU ソフトウェア PCSA-M3G50（別売り）

外形寸法　50 × 2.8 × 21.5 mm（幅 / 高さ / 奥行き）
質量　約 4 g
付属品　シリアル番号シール (1)
取扱説明書 (1)

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性 - 第 3-2 部 : 限度値 - 高調波電流発生限度値 (1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。

MPEG-4 Visual エンコーダ／デコーダ製品の販売・頒布

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている MPEG-4 VISUAL PATENT PORTFOLIO LICENSE の下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 Visual 規格に合致したビデオ信号 (以下、MPEG 4 VIDEO といいます) にエンコードすること。
(ii) MPEG-4 VIDEO（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページ (HTTP://WWW.MPEGLA.COM) をご参照下さい。
MPEG LA は、(i) MPEG-4 Visual ビデオ情報を記録した媒体（PACKAGEDMEDIA）を製造し、販売する行為、(ii) MPEG-4 Visual ビデオ情報を何らかの方法（オンラインビデオ配信サービス、インターネット放送、TV 放送など）で配信・放送する行為について、ライセンスを提供しています。
その他の使用方法につきましても、MPEG LA からのライセンス取得が必要な場合があります。

詳しくは、MPEG LA にお問い合わせください。
MPEG LA. L.L.C., 250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206
ホームページ：http://www.mpegla.com

MPEG-4 AVC (3-1) エンコーダ／デコーダ製品の販売・頒布

本製品は、MPEG LA, LLC. がライセンス活動を行っている AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE の下、次の用途に限りライセンスされています：

(i) 消費者が個人的、非営利の使用目的で、MPEG-4 AVC 規格に合致したビデオ信号 (以下、AVC VIDEO といいます) にエンコードすること。

(ii) AVC Video（消費者が個人的に非営利目的でエンコードしたもの、若しくは MPEG LA よりライセンスを取得したプロバイダーがエンコードしたものに限られます）をデコードすること。

なお、その他の用途に関してはライセンスされていません。プロモーション、商業的に利用することに関する詳細な情報につきましては、MPEG LA, LLC. のホームページをご参照下さい。

RGB 入出力仕様

コミュニケーションターミナル PCS-PG50 RGB OUT 信号仕様

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
1024 × 768	XGA VESA 60Hz	48.363	60.004	65	H- 負 V- 負

データソリューションボックス PCSA-DSB1S RGB IN A/RGB IN B 信号仕様

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
640 × 480	VGA mode	31.469	59.94	25.17	H- 負 V- 負
	Macintosh 13"	35	66.667	30.24	H- 負 V- 負
	VGA VESA 72 Hz	37.861	72.809	31.5	H- 負 V- 負
	VGA VESA 75 Hz	37.5	75	31.5	H- 負 V- 負
	VGA VESA 85 Hz	43.269	85.008	36	H- 負 V- 負

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
800 × 600	SVGA VESA 56 Hz	35.156	56.25	36	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 60 Hz	37.879	60.317	40	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 72 Hz	48.077	72.188	50	H- 正 V- 正
	SVGA VESA 75 Hz	46.875	75	49.5	H- 正 V- 正
800 × 600	SVGA VESA 85 Hz	53.674	85.061	56.25	H- 正 V- 正
1024 × 768	XGA VESA 60 Hz	48.363	60.004	65	H- 負 V- 負
	XGA VESA 70 Hz	56.476	70.069	75	H- 負 V- 負
	XGA VESA 75 Hz	60.023	75.029	78.75	H- 正 V- 正

データソリューションボックス PCSA-DSB1S RGB OUT 信号仕様

表示画素数	備考	水平同期周波数 fH(kHz)	垂直同期周波数 fV(Hz)	ドットクロック (MHz)	同期信号極性
1024 × 768	XGA VESA 60Hz	48.363	60.004	65	H- 負 V- 負

RGB IN A または RGB IN B の映像の送信中は、入力映像信号規格（VGA/SVGA/XGA）のまま出力されます。

端子のピン配列

100BASE-TX/10BASE-T 端子



モジュラー端子

ピン番号	信号名	意味
1	TPOPTX+	送信＋
2	TPONTX －	送信－
3	TPIPRX+	受信＋
4	NC	—
5	NC	—
6	TPINRX －	受信－
7	NC	—
8	NC	—

ISDN UNIT 端子



USB 端子

ピン番号	信号名	意味
1	GND	接地
2	19.5V	19.5V
3	DCLK+	クロック＋
4	DCLK －	クロック－
5	DR+	受信データ＋
6	DR －	受信データ－
7	FS+	フレーム同期＋
8	FS －	フレーム同期－
9	DX+	送信データ＋
10	DX －	送信データ－
11	RX	シリアル受信データ
12	TX	シリアル送信データ
13	19.5V	19.5V
14	GND	接地

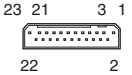
VIDEO OUT MONITOR MAIN 端子



ミニ DIN 4 ピン端子

ピン番号	信号名	意味
1	GND	アナログ接地
2	GND	アナログ接地
3	Y	輝度信号
4	C	色信号

TERMINAL 端子 (PCSA-CG70)



角形コネクタ 23 ピン端子（凸）

ピン番号	信号名	意味
1	19.5V	19.5V
2	NC	—
3	NC	—
4	STAND BY	スタンバイ
5	NC	—
6	Y	ブライトネス信号
7	Y.GND	ブライトネス信号用接地

ピン番号	信号名	意味
8	C	クロミナンス信号
9	C.GND	クロミナンス信号用接地
10	Video	ビデオ信号
11	Video. GND	ビデオ信号用接地
12	NC	—
13	NC	—
14	SIRCS	リモートコントロールデータ
15	DTR	データ端末レディー
16	TXD	送信データ
17	RXD	受信データ
18	NC	—
19	NC	—
20	Audio +	音声+
21	Audio −	音声−
22	NC	—
23	GND	接地

VIDEO IN AUX IN 端子

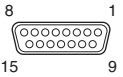


ミニ DIN7 ピン端子

ピン番号	信号名	意味
1	Y.GND	輝度信号用接地
2	C.GND	色信号用接地
3	Y	輝度信号
4	C	色信号
5	COMP. GND	コンポジット信号用接地
6	COMP. GND	コンポジット信号用接地

ピン番号	信号名	意味
7	COMP	コンポジット信号

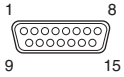
VIDEO IN CAMERA 端子



D-sub 15 ピン端子（凹）

ピン番号	信号名	意味
1	Y	ブライトネス信号
2	Y.GND	ブライトネス信号用接地
3	C	クロミナンス信号
4	C.GND	クロミナンス信号用接地
5	Video	ビデオ信号
6	Video. GND	ビデオ信号用接地
7	TXD	送信データ
8	RXD	受信データ
9	19.5V	19.5V
10	Audio+	音声 +
11	Audio −	音声−
12	SIRCS	リモートコントロールデータ
13	DTR	データ端末レディー
14	STAND BY	スタンバイ
15	GND	接地

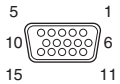
DSB 端子



D-sub 15 ピン端子（凸）

ピン番号	信号名	意味
1	Video	ビデオ信号
2	Video. GND	ビデオ信号用接地
3	LINE A+	ライン音声＋
4	LINE A －	ライン音声－
5	MIC+	マイク音声＋
6	MIC －	マイク音声－
7	TD+	送信データ＋
8	TD －	送信データ－
9	19.5V	19.5V
10	NC	—
11	AGND	アナログ接地
12	NC	—
13	RD+	受信データ＋
14	RD －	受信データ－
15	GND	接地

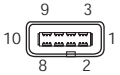
RGB OUT 端子



MINI D-sub 15 ピン端子（凹）

ピン番号	信号名	意味
1	RED	R（赤）
2	GREEN	G（緑）
3	BLUE	B（青）
4	NC	—
5	GND	接地
6	RED. GND	R（赤）信号用接地
7	GREEN. GND	G（緑）信号用接地
8	BLUE. GND	B（青）信号用接地
9	NC	—
10	SYNC. GND	同期信号用接地
11	NC	—
12	NC	—
13	HSYNC	水平同期
14	VSYNC	垂直同期
15	NC	—

EC-MIC1、2 端子



ピン番号	信号名	意味
1	GND	接地
2	TXD ＋	送信データ＋
3	TXD －	送信データ－
4	NC	—
5	NC	—
6	MICDET	マイク検出
7	GND	接地
8	RXD ＋	受信データ＋
9	RXD －	受信データ－
10	＋ 12V	電源＋ 12V

別売り機器の端子のピン配列

ISDN1 ～ 3 端子（PCSA-B384S）
ISDN 1 ～ 6 端子（PCSA-B768S）



モジュラー端子

ピン番号	信号名	意味
1	NC	—
2	NC	—
3	TA	送信＋
4	RA	受信＋
5	RB	受信－
6	TB	送信－
7	NC	—
8	NC	—

ISDN PRI 端子（PCSA-PRI）



モジュラー端子

ピン番号	信号名	意味
1	RB	受信－
2	RA	受信＋
3	NC	—
4	TB	送信－
5	TA	送信＋
6	NC	—
7	NC	—
8	NC	—

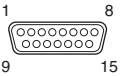
TERMINAL 端子（PCSA-B384S/ PCSA-B768S/PCSA-RG1）



USB 端子

ピン番号	信号名	意味
1	GND	接地
2	19.5V	19.5V
3	DCLK+	クロック＋
4	DCLK －	クロック－
5	DR+	送信データ＋
6	DR －	送信データ－
7	FS+	フレーム同期＋
8	FS －	フレーム同期－
9	DX+	受信データ＋
10	DX －	受信データ－
11	TX	シリアル送信データ
12	RX	シリアル受信データ
13	19.5V	19.5V
14	GND	接地

TERMINAL 端子（PCSA-DSB1S）



D-sub 15 ピン端子（凸）

ピン番号	信号名	意味
1	Video	ビデオ信号
2	Video. GND	ビデオ信号用接地
3	LINE A+	ライン音声＋

ピン番号	信号名	意味
4	LINE A −	ライン音声−
5	MIC+	マイク音声+
6	MIC −	マイク音声−
7	RD+	受信データ+
8	RD −	受信データ−
9	19.5V	19.5V
10	NC	—
11	AGND	アナログ接地
12	NC	—
13	TD+	送信データ+
14	TD −	送信データ−
15	GND	接地

PCS-PG50 使用ポート番号一覧

対向接続時（規定値）

LAN 設定メニューの「使用ポート番号」を「規定値」に設定した場合、PCS-PG50 は次のポート番号を使用します。
(MCU オプション未インストール時)

信号	ポート番号
RAS（PCS-PG50)	1719（ゲートキーパー使用時)
RAS（ゲートキーパー)	1718 または 1719（ゲートキーパー使用時)
Q.931（発信)	2253 ～ 2255 の任意
Q.931（着信)	1720
H.245	2253 ～ 2255 の任意
オーディオ RTP	49152
オーディオ RTCP	49153
ビデオ RTP	49154
ビデオ RTCP	49155
FECC RTP	49156
FECC RTCP	49157
データ会議 /RTP	49158
データ会議 /RTCP	49159

対向接続時（ユーザー設定：TCP ポート番号 3000、UDP ポート番号 3100 の場合）

LAN 設定メニューの「NAT/Port」－「使用ポート番号」を「ユーザー設定」に設定した場合、「TCP ポート番号」と「UDP ポート番号」に入力した値により、PCS-PG50 が使用するポート番号が決定します。
例として、「TCP ポート番号」を「3000」、「UDP ポート番号」を「3100」に設定した場合、PCS-PG50 は次のポート番号を使用します。

信号	ポート番号
RAS（PCS-PG50）	1719（ゲートキーパー使用時）
RAS（ゲートキーパー）	1718 または 1719（ゲートキーパー使用時）
Q.931（発信）	3000 ～ 3002 の任意
Q.931（着信）	1720
H.245	3000 ～ 3002 の任意
オーディオ RTP	3100
オーディオ RTCP	3101
ビデオ RTP	3102
ビデオ RTCP	3103
FECC RTP	3104
FECC RTCP	3105
データ会議 /RTP	3106
データ会議 /RTCP	3107

MCU オプション（H.323）インストール時（規定値）

LAN 設定メニューの「NAT/Port」－「使用ポート番号」を「規定値」に設定した場合、親機として動作する PCS-PG50 は次のポート番号を使用します。

信号	ポート番号（1 地点目）	ポート番号（N 地点目）
RAS (PCS-PG50)	1719（ゲートキーパー使用時）	
RAS（ゲートキーパー）	1718 または 1719（ゲートキーパー使用時）	
Q.931（発信）	2253 ～ 2263 の任意	
Q.931（着信）	1720	
H.245	2253 ～ 2263 の任意	
オーディオ RTP	49152	49152+20 × (N-1)
オーディオ RTCP	49153	49153+20 × (N-1)
ビデオ RTP 49154	49154	49154+20 × (N-1)
ビデオ RTCP	49155	49155+20 × (N-1)
FECC RTP	49156	49156+20 × (N-1)
FECC RTCP	49157	49157+20 × (N-1)
データ会議 /RTP	49158	49158+20 × (N-1)
データ会議 /RTCP	49159	49159+20 × (N-1)

MCU オプション（H.323）インストール時（ユーザー設定：TCP ポート番号 3000、UDP ポート番号 3100 の場合）

LAN 設定メニューの「NAT/Port」－「使用ポート番号」を「ユーザー設定」に設定した場合、「TCP ポート番号」と「UDP ポート番号」に入力した値により、PCS-PG50 が使用するポート番号が決定します。
例として、「TCP ポート番号」を「3000」、「UDP ポート番号」を「3100」に設定した場合、親機として動作する PCS-PG50 は次のポート番号を使用します。

信号	ポート番号（1 地点目）	ポート番号（N 地点目）
RAS(PCS-PG50)	1719（ゲートキーパー使用時）	
RAS（ゲートキーパー）	1718 または 1719（ゲートキーパー使用時）	
Q.931（発信）	3000 ～ 3010 の任意	
Q.931（着信）	1720	
H.245	3000 ～ 3010 の任意	
オーディオ RTP	3100	3100+20 × (N-1)
オーディオ RTCP	3101	3101+20 × (N-1)
ビデオ RTP	3102	3102+20 × (N-1)
ビデオ RTCP	3103	3103+20 × (N-1)
FECC RTP	3104	3104+20 × (N-1)
FECC RTCP	3105	3105+20 × (N-1)
データ会議 /RTP	3106	3106+20 × (N-1)
データ会議 /RTCP	3107	3107+20 × (N-1)

ご注意

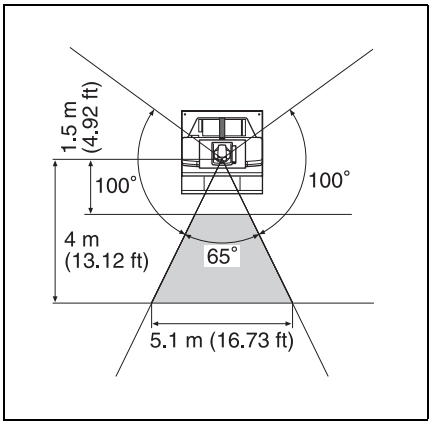
RTP、RTCP については、ポートが正しく使用できない場合は上記の範囲を超えて使用されることがあります。

ミーティングスペースのレイアウト

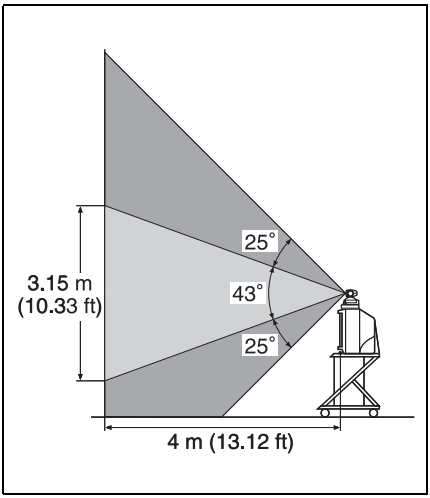
カメラに映し出される範囲

図の ■ で示した部分が、カメラが最大にズームアウトして正面を捉えているときに映し出される範囲です。カメラのアングルを調節することにより写すことのできる範囲は ■ で示してあります。数値はおおよその目安です。レイアウトの参考にしてください。

上から見た図（ズームアウト最大時の、左右方向の範囲）



横から見た図（ズームアウト最大時の、上下方向の範囲）

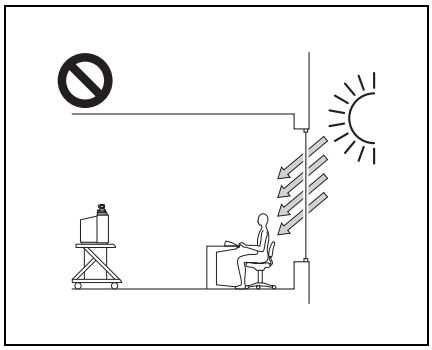


ミーティングスペースをレイアウトするときのご注意

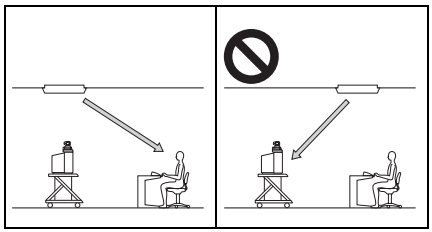
- 参加者の背景には、できるだけ物を置かないようにしてください。とくに、大きな動くものがあると、相手に送られる画像の質が低下することがあります。人が行き来するようなところを背景にしないでください。
- 木目調の壁や横縞などの細かい柄の壁を背景にすることも避けてください。
- できるだけ音が反響しない場所に設置してください。
- エアコンやコピー機など、電源ノイズの発生源となるような機器の近くには設置しないでください。
- 社内放送用のスピーカーがある部屋に設置することも避けてください。

照明について

外から光が入る窓の正面にカメラを設置しないでください。カメラの写りが悪くなります。どうしてもカメラの正面に窓がくる場合は、厚手のカーテンなどで窓を覆ってください。



ミーティング参加者に光が当たり、モニター用テレビの画面に直接光が当たらないように照明器具の位置や明るさを調節してください。
参加者の顔の明るさは 300 ルクス以上が目安です。



照明にインバーター方式や調光のできる蛍光灯を使用した場合、リモコンの感度が低下します。

CCD 特有の現象

撮影画面に出る下記の現象は、CCD 撮像素子（Charge Coupled Device）特有の現象で、故障ではありません。

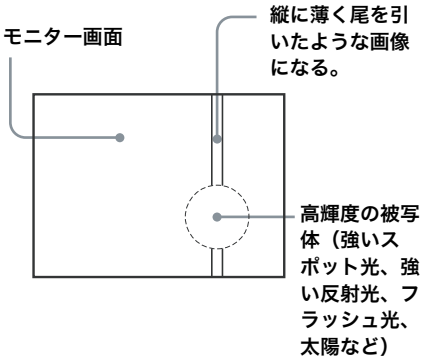
白点

CCD 撮像素子は非常に精密な技術で作られていますが、宇宙線などの影響により、まれに画面上に微小な白点が発生する場合があります。
これは CCD 撮像素子の原理に起因するもので故障ではありません。
また、下記の場合、白点が見えやすくなります。

- 高温の環境で使用するとき
- ゲイン（感度）を上げたとき

スミア現象

強いスポット光やフラッシュ光などを撮影したときに、画面上に縦線や画乱れが発生することがあります。



折り返しひずみ

細かい模様、線などを撮影すると、ぎざぎざやちらつきが見えることがあります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？」（339 ページ）をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お買い上げ店にお問い合わせください。

用語解説

インターレース SIF

テレビの映像は、通常 1 秒間に 60 枚のフィールドとよばれる画面を飛び越し走査（インターレース）表示することで滑らかな動きと高い解像度を実現しています。通常の CIF サイズを使ったビデオ会議では、1 秒間に 352 ピクセル× 288 ラインの画面を 1 秒間に 30 枚だけ送っているので、通常のテレビ放送のような滑らかな動きが出ていません。これに対して、インターレース SIF モードでは、飛び越し走査（インターレース）された 352 ピクセル× 240 ラインからなる SIF サイズの映像を 1 秒間に 60 枚送ることが可能になります。これにより、全体として 352 ピクセル× 480 ラインの高い垂直解像度と、滑らかな動きを実現することが可能になります。なお、情報量が 2 倍になりますから、比較的高いビットレートで使用することが必要になります。

エコーキャンセラー

音声の伝送時に発生するエコーを消去し、違和感なく聞こえるようにする装置。

基本インターフェース（BRI）

ITU-T で規定された標準的なインターフェース。2B + D のインターフェース構造になります。

ゲートキーパー

ネットワーク上での H.323 テレビ会議のアクセスをコントロールする装置。ゾーン管理や許可制限、帯域制限、エイリアスなどの機能を使用することができる。

コーデック

CODer-DECoder の略。音声や映像のアナログ信号をデジタル信号に変換、圧縮するコーダーと、圧縮されたデジタル信号を元のアナログ信号に戻すデコーダーが一体になった装置。

サブアドレス

ISDN にはバス配線で複数の機器を接続することができます。これらの機器の回線番号は同一になるので、同一回線にバス接続された機器にそれぞれ違うサブアドレスを付けて区別します。

二次端末

多地点会議を行う際には、すべての地点のテレビ会議装置の映像方式や音声方式、伝送レートなどが同一でなければ、通常は接続できません *1。多地点会議を行うとき、共通の方式で接続できる地点の端末を一次端末と言います。一方、共通の方式で接続できないため、機能を制限して接続する地点の端末のことを二次端末と言います。機能の制限方法は、多地点会議装置の「二次端末の取り扱い」に依存します。
たとえば、共通の方式に移行できない地点のテレビ会議装置には映像を送信しませんが、音声通話を可能にして接続します。この場合、映像を見ることのできない端末を二次端末と言います *2。また音声電話で多地点会議に加わるとき、音声しか接続できませんので、この場合の音声電話端末も二次端末と呼びます。様々な接続の場合の二次端末の取り扱いについては、「二次端末の取り扱い」（267 ページ）をご覧ください。

*1 NTSC と PAL の違いは許されます。
*2 このとき二次端末には映像を送信しませんが、二次端末からの映像は受信できる場合があります。

フレームレート

1 秒間にエンコード / デコードできるフレーム数。

ボンディング *

複数の ISDN 回線を使用してテレビ会議装置を接続できるようにする方法 (Inverse Multiplexing) の 1 つです。最初の 1 つの ISDN 回線番号にダイヤルするだけで他の残りの回線も接続できます。2 つ目以降の ISDN 回線番号は、テレビ会議装置同士のやりとりで発信側に知らせ、接続します。ボンディングで接続するには、両方のテレビ会議装置がボンディング機能を持っていなければなりません。また着信側テレビ会議装置の ISDN 設定メニューの市外局番号、市内番号を正しく設定しておく必要があります。ボンディングで接続するときテレビ会議装置どうしがやりとりして知らせるのは着信側の ISDN 回線番号なので、発信側の ISDN 設定メニューの市外局番号、市内番号は設定していなくても接続できます。

* BONDING (Bandwidth on Demand Interoperability Group) は THE BONDING CONSORTIUM の登録商標です。

リップシンク
TV 会議システムで、発言者の唇の動きと音声とを同期させるために音声を遅延させて同期させること。

CIF（Common Intermediate Format）
TV 会議システムにおいて、NTSC 方式と PAL 方式がお互いに通信できるように定めた共通ビデオフォーマット。352 ピクセル× 288 ライン

DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）
動的ホスト構成プロトコル。ネットワーク内の IP アドレスを管理します。

DNS（Domain Name System）
ドメインネームシステムを規定します。

G.711
ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を 64kbps のデータレートのデジタル信号に変換します。56kbps で伝送する場合もあります。

G.722
ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。7 kHz 帯域の音声を 48 kbps、56 kbps、または 64 kbps のデジタル信号に変換します。

G.722.1
ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。7 kHz 帯域 の音声を 24 kbps、または 32 kbps のデータレートのデジタル信号に変換します。

G.723.1
ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を 5.3 kbps または 6.3 kbps のデータレートのデジタル信号に変換します。

G.728
ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を 16 kbps のデータレートのデジタル信号に変換します。

G.729
ITU-T で勧告化された、音声符号化に関する規格。電話帯域の音声を 8kbps のデータレートのデジタル信号に変換します。

H.221
オーディオビジュアル情報の個々のフレームをデジタルチャネルに多重化するためのフレーミングに関する勧告。

H.239
ITU-T で勧告化されたデュアルビデオ機能（プレゼンテーションモード）対応の規格。カメラ映像とコンピューターのデータを同時に送受信できます。

H.261
p × 64 としても知られており、異なるメーカーのビデオコーデックがお互いに通信するためのビデオコーディングアルゴリズム、ピクチャーフォーマットおよびエラー訂正技法を記述した TV 会議の標準。

H.263
H.261 を基本として、より低いビットレートの回線で通信するためのビデオコーディングアルゴリズムです。

H.263+
H263 を基本として、画質、エラー耐性の向上などを目的とする Annex I ～ T（I,J,K,...,T）を追加した映像符号化方式。通常、H.263/H.263+ の Annex のいくつかを用いたプロファイルと呼ばれる組み合わせで用いられます。

H.264
2003 年 5 月に ITU-T で標準化されたビデオコーディングアルゴリズムです。低いビットレートでも高画質を実現でき、H.263 と比べて約半分のビットレートで同等の画質を実現することが可能です。MPEG-4 Advanced Video Coding (AVC) とも呼ばれます。

H.320
互いに異なる TV 会議システムがお互いに通信するための TV 会議の標準。

H.323
QoS 非保証 LAN 上で通信可能な TV 会議の標準。

HMLP
→ MLP を参照。

I-Mux
Inverse Multiplexer の略。384 Kbps での伝送を ISDN の 6B に分けて伝送することを可能にします。

ISDN
Integrated Services Digital Network の略。電話のみならずデータ、画像、ファックスなどの異なるサービスの情報をデジタル信号によって統一し、標準化したインターフェースを介して総合的なサービスを提供するネットワーク。

MCU（マルチポイント）
Multipoint Control Unit の略。マルチポイント機能を持った端末と接続すると、多地点間通信が可能になります。

MLP
テレビ会議装置間で映像音声の通信をしているとき、同時にデータ通信を行うことができます。このデータを通すための手順に、MLP や HMLP があります。NetMeeting などのデータを通すのに使います。HMLP は、MLP より高速のデータ伝送レートをもつデータ通信手順です。

MPEG4
ISO/IEC にて標準化されたビデオコーディングアルゴリズムで、H.263+ を基本のアルゴリズムに採用しています。いくつかのツールの追加によって、H.263+ より若干の画質の改善が得られます。また、PC や携帯電話などの民生用機器で広く使われているビデオコーディングアルゴリズムです。

QCIF（Quater CIF）

CIF の 1/4 の画素数を定めたフォーマット。通信速度が遅い場合に使用されます。
176 ピクセル× 144 ライン

SIP

Session Initiation Protocol の略。インターネット電話、インスタントメッセージなどに使われる通話制御プロトコルです。

SNMP

Simple Network Management Protocol の略。管理ステーションと管理対象システムの間での管理情報の交換プロトコルです。これにより、ソニー製ビデオ会議システムの監視が可能になります。

TOS (Type of Service)

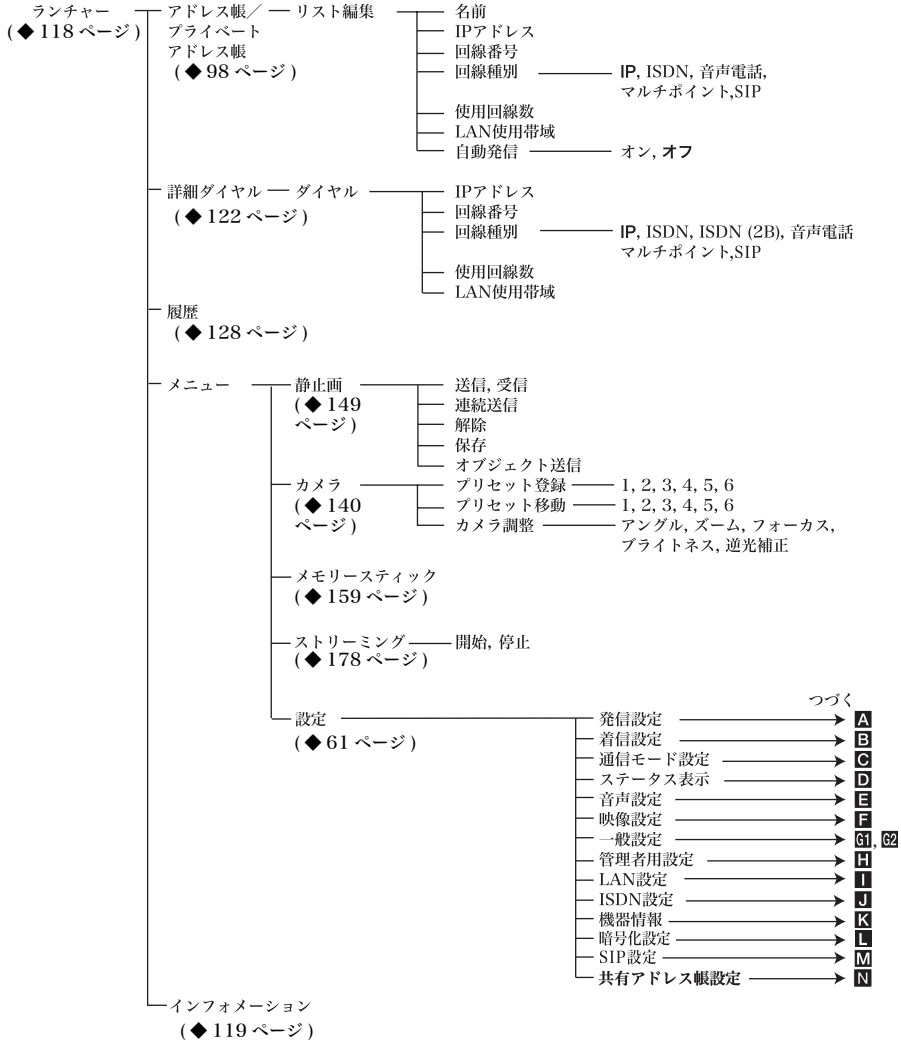
IP ヘッダ内の TOS フィールド。サービスタイプに情報を組み込むことにより、パケットの優先順位などを、通信機器が適切に判断できるようになります。
また，サービスの種類 (遅延や容量) によって経路を変更することなども可能になります。

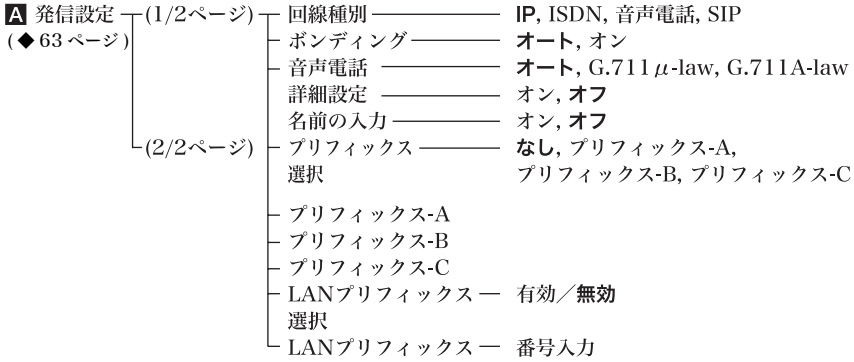
4CIF

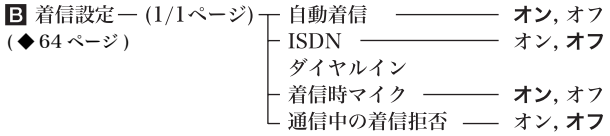
CIF の 4 倍の画素数を定めたフォーマット。704 ピクセル× 576 ラインの解像度の静止画を送 / 受信する方法は、H. 261 Annex. D で標準化されています。

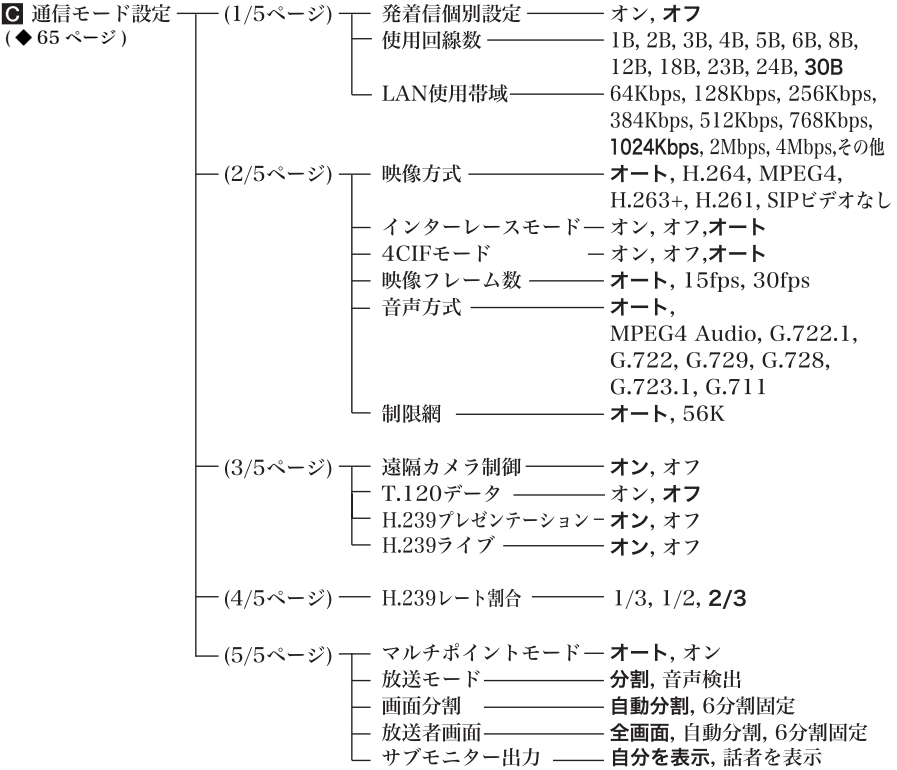
メニューの構成

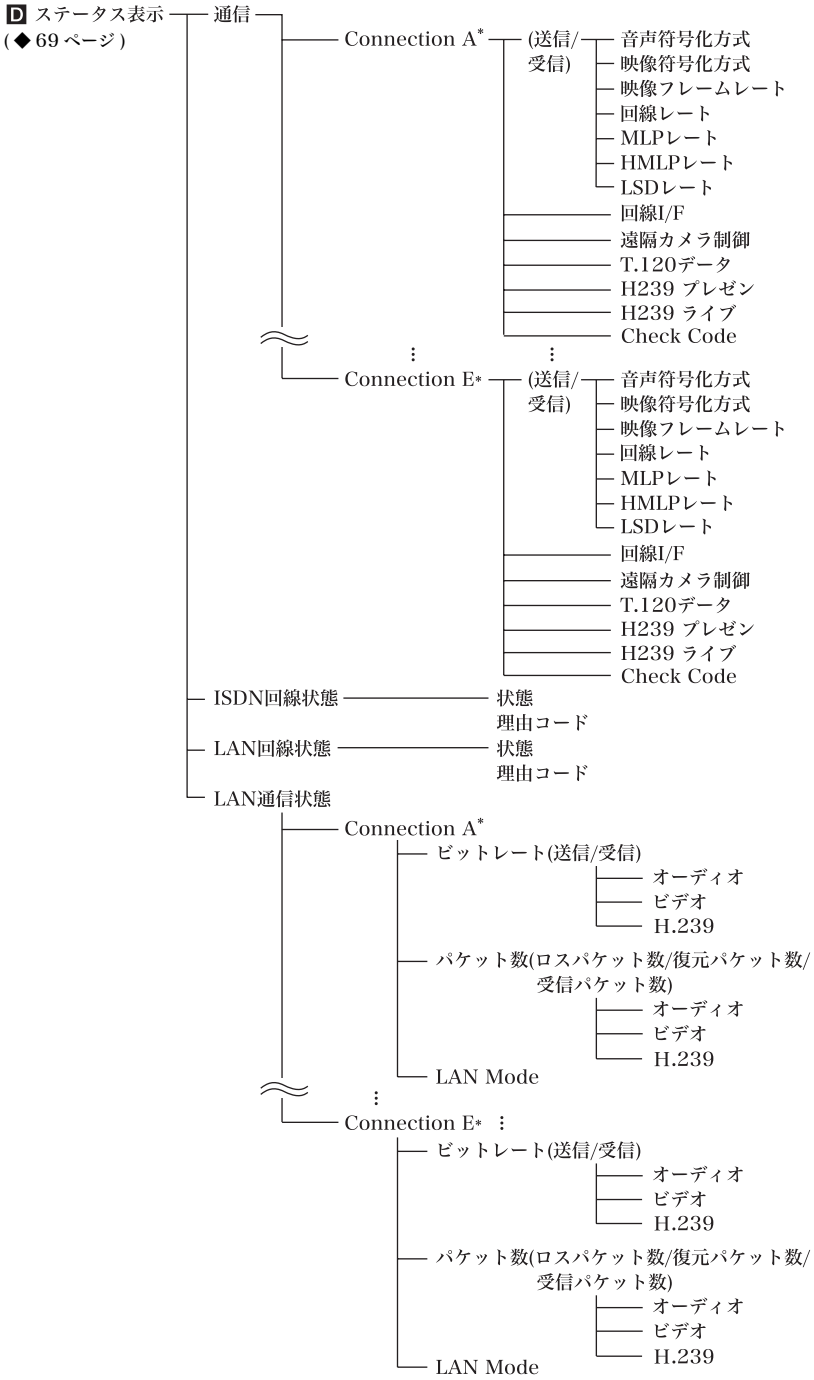
本機のメニューは次のように構成されています。詳しい内容は、( ) 内のページをご覧ください。太字は初期設定です。



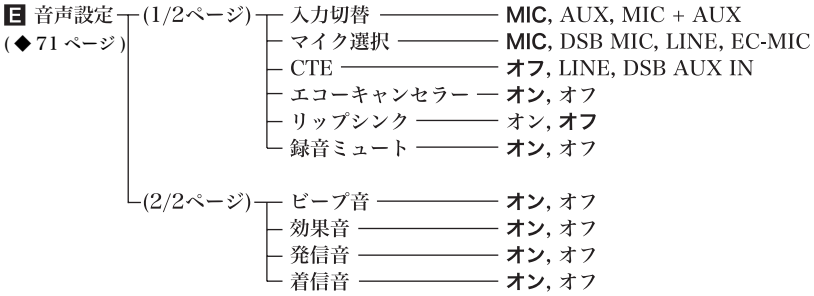

A 発信設定
(◆63ページ)
(1/2ページ)
回線種別 IP, ISDN, 音声電話, SIP
ボンディング オート, オン
音声電話 オート, G.711μ-law, G.711A-law
詳細設定 オン, オフ
名前の入力 オン, オフ
(2/2ページ)
プリフィックス選択 なし, プリフィックス-A, プリフィックス-B, プリフィックス-C
プリフィックス-A
プリフィックス-B
プリフィックス-C
LANプリフィックス選択 有効／無効
LANプリフィックス 番号入力

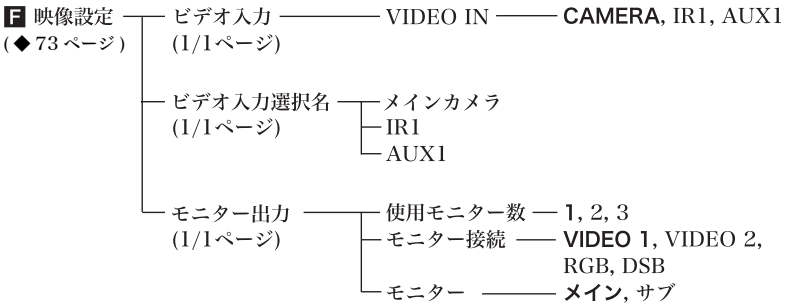

B 着信設定
(◆64ページ)
(1/1ページ)
自動着信 オン, オフ
ISDNダイヤルイン オン, オフ
着信時マイク オン, オフ
通信中の着信拒否 オン, オフ

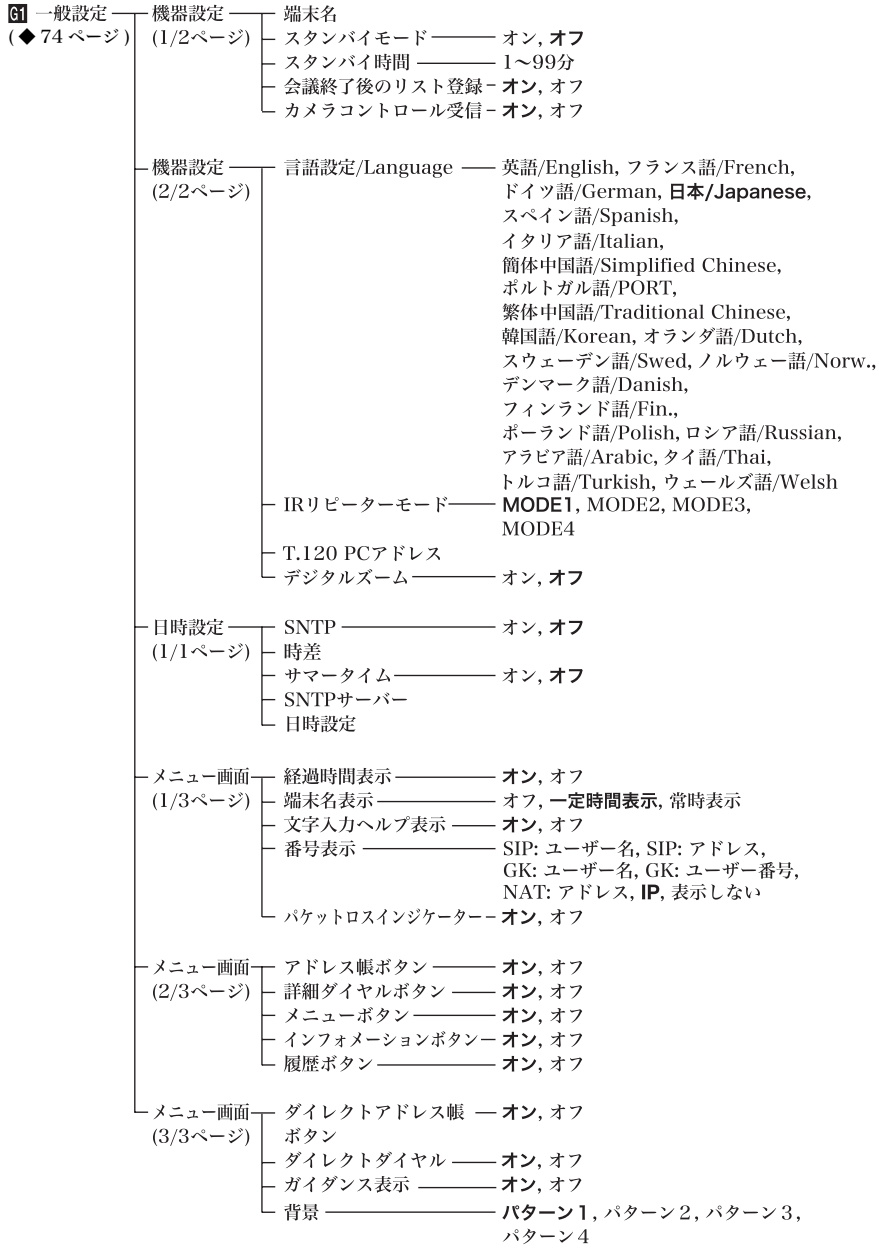

C 通信モード設定
(◆65ページ)
(1/5ページ)
発着信個別設定 オン, オフ
使用回線数 1B, 2B, 3B, 4B, 5B, 6B, 8B, 12B, 18B, 23B, 24B, 30B
LAN使用帯域 64Kbps, 128Kbps, 256Kbps, 384Kbps, 512Kbps, 768Kbps, 1024Kbps, 2Mbps, 4Mbps,その他
(2/5ページ)
映像方式 オート, H.264, MPEG4, H.263+, H.261, SIPビデオなし
インターレースモード オン, オフ,オート
4CIFモード オン, オフ,オート
映像フレーム数 オート, 15fps, 30fps
音声方式 オート, MPEG4 Audio, G.722.1, G.722, G.729, G.728, G.723.1, G.711
制限網 オート, 56K
(3/5ページ)
遠隔カメラ制御 オン, オフ
T.120データ オン, オフ
H.239プレゼンテーション オン, オフ
H.239ライブ オン, オフ
(4/5ページ)
H.239レート割合 1/3, 1/2, 2/3
(5/5ページ)
マルチポイントモード オート, オン
放送モード 分割, 音声検出
画面分割 自動分割, 6分割固定
放送者画面 全画面, 自動分割, 6分割固定
サブモニター出力 自分を表示, 話者を表示

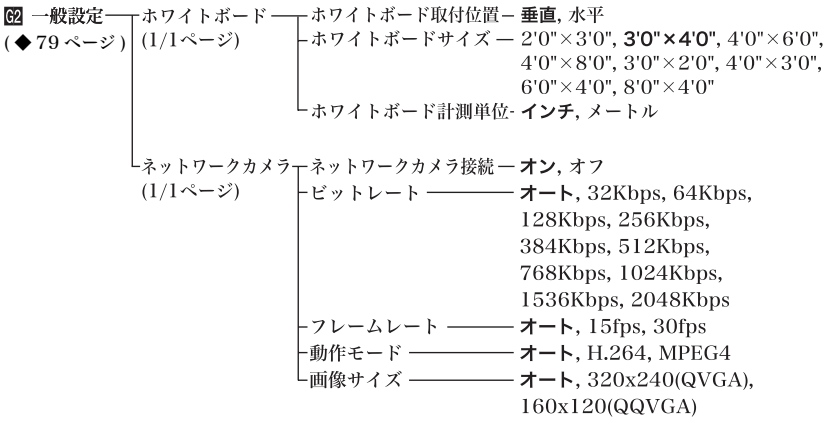


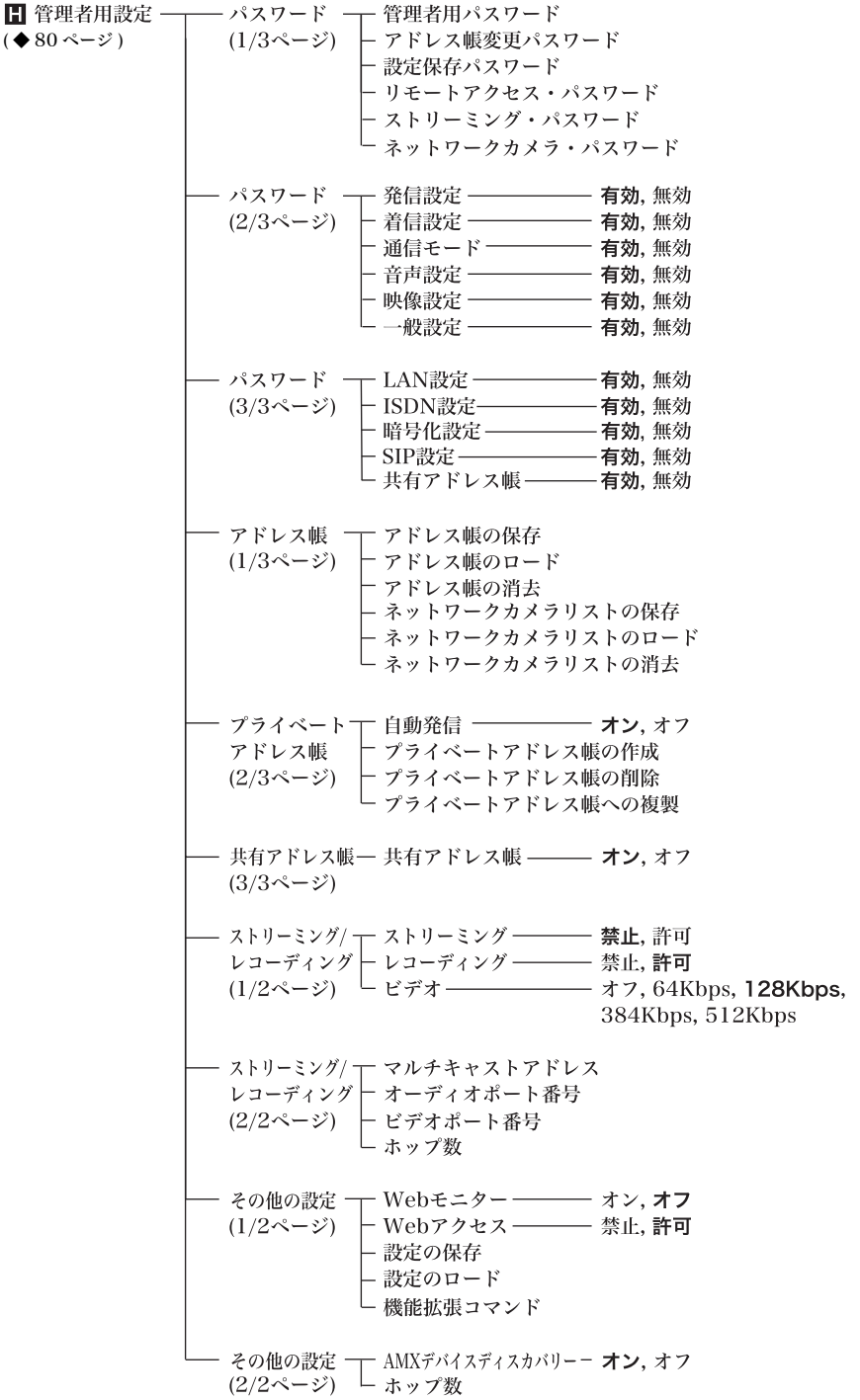
* 多地点会議の際には地点数に応じてConnection A～Eと端末名を表示する。

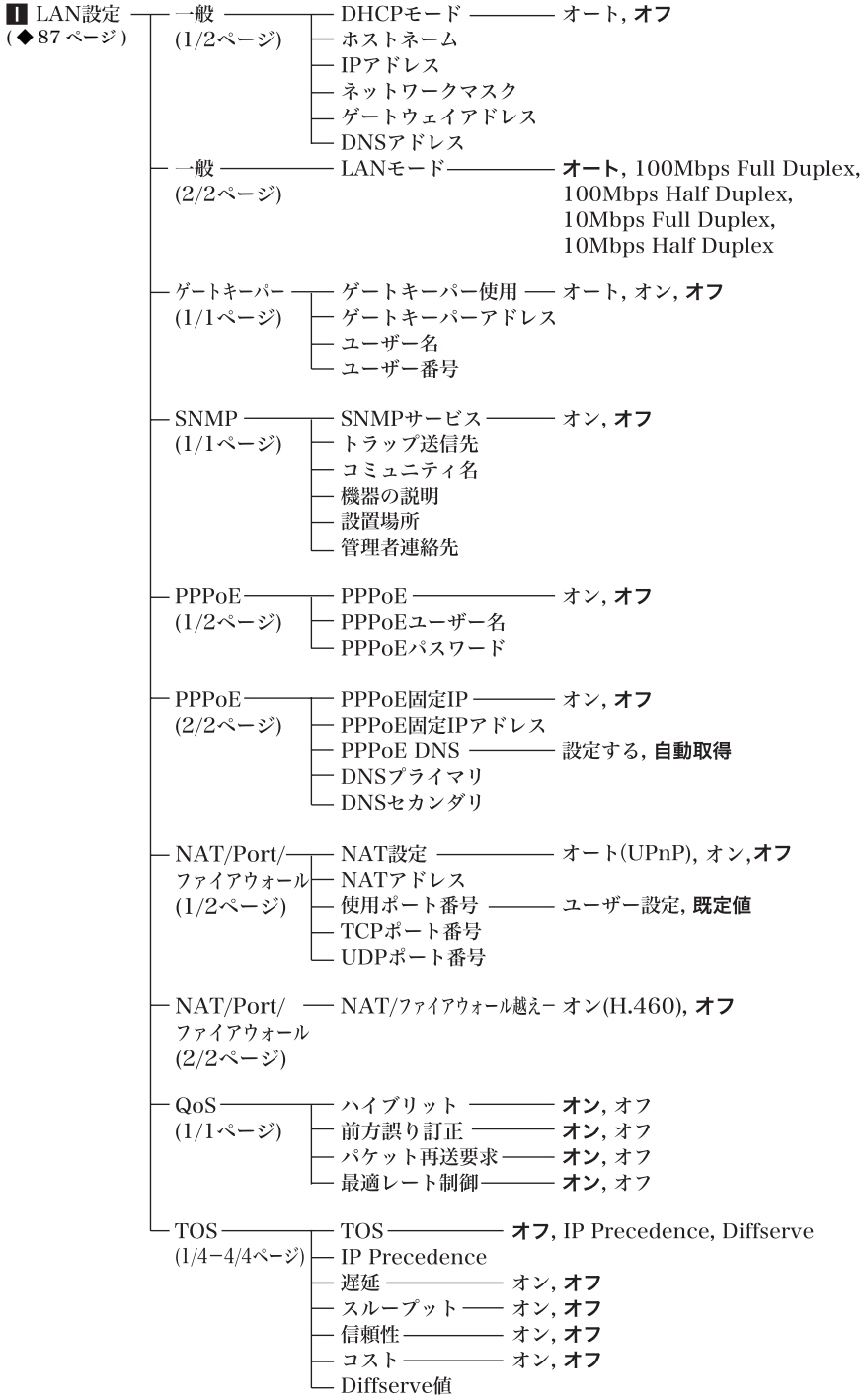

E 音声設定
(◆71 ページ)
(1/2ページ)
入力切替 MIC, AUX, MIC + AUX
マイク選択 MIC, DSB MIC, LINE, EC-MIC
CTE オフ, LINE, DSB AUX IN
エコーキャンセラー オン, オフ
リップシンク オン, オフ
録音ミュート オン, オフ
(2/2ページ)
ビープ音 オン, オフ
効果音 オン, オフ
発信音 オン, オフ
着信音 オン, オフ

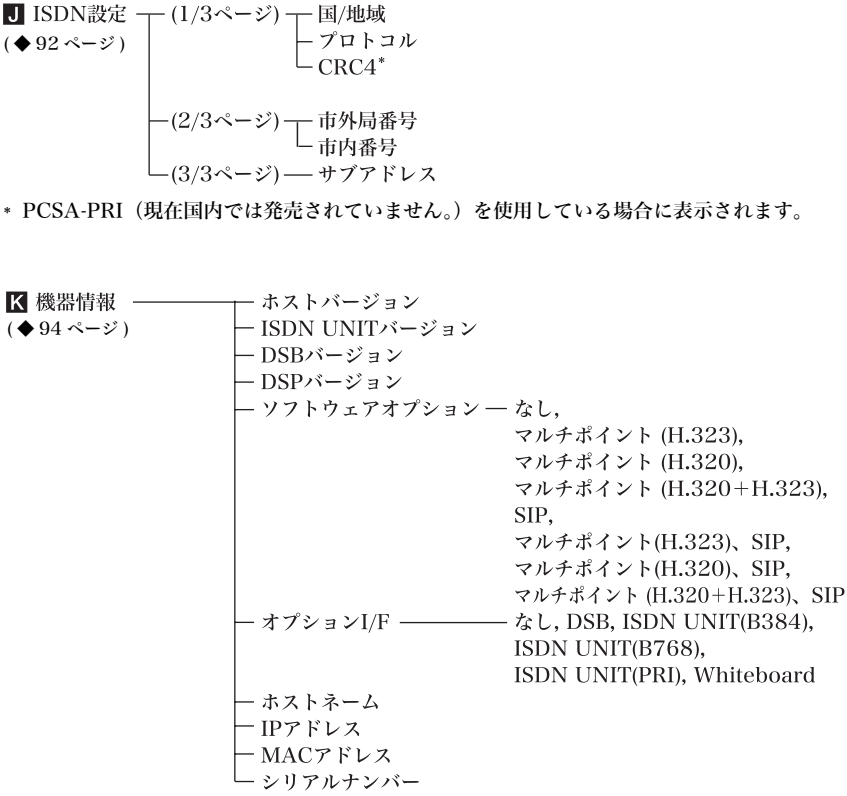

F 映像設定
(◆73 ページ)
ビデオ入力
(1/1ページ)
VIDEO IN CAMERA, IR1, AUX1
ビデオ入力選択名
(1/1ページ)
メインカメラ
IR1
AUX1
モニター出力
(1/1ページ)
使用モニター数 1, 2, 3
モニター接続 VIDEO 1, VIDEO 2, RGB, DSB
モニター メイン, サブ


G1 一般設定
(◆ 74 ページ)
機器設定
(1/2ページ)
端末名
スタンバイモード
オン, オフ
スタンバイ時間
1～99分
会議終了後のリスト登録
オン, オフ
カメラコントロール受信
オン, オフ
機器設定
(2/2ページ)
言語設定/Language
英語/English, フランス語/French,
ドイツ語/German, 日本/Japanese,
スペイン語/Spanish,
イタリア語/Italian,
簡体中国語/Simplified Chinese,
ポルトガル語/PORT,
繁体中国語/Traditional Chinese,
韓国語/Korean, オランダ語/Dutch,
スウェーデン語/Swed, ノルウェー語/Norw.,
デンマーク語/Danish,
フィンランド語/Fin.,
ポーランド語/Polish, ロシア語/Russian,
アラビア語/Arabic, タイ語/Thai,
トルコ語/Turkish, ウェールズ語/Welsh
IRリピーターモード
MODE1, MODE2, MODE3,
MODE4
T.120 PCアドレス
デジタルズーム
オン, オフ
日時設定
(1/1ページ)
SNTP
オン, オフ
時差
サマータイム
オン, オフ
SNTPサーバー
日時設定
メニュー画面
(1/3ページ)
経過時間表示
オン, オフ
端末名表示
オフ, 一定時間表示, 常時表示
文字入力ヘルプ表示
オン, オフ
番号表示
SIP: ユーザー名, SIP: アドレス,
GK: ユーザー名, GK: ユーザー番号,
NAT: アドレス, IP, 表示しない
パケットロスインジケーター
オン, オフ
メニュー画面
(2/3ページ)
アドレス帳ボタン
オン, オフ
詳細ダイヤルボタン
オン, オフ
メニューボタン
オン, オフ
インフォメーションボタン
オン, オフ
履歴ボタン
オン, オフ
メニュー画面
(3/3ページ)
ダイレクトアドレス帳
ボタン
オン, オフ
ダイレクトダイヤル
オン, オフ
ガイダンス表示
オン, オフ
背景
パターン1, パターン2, パターン3,
パターン4

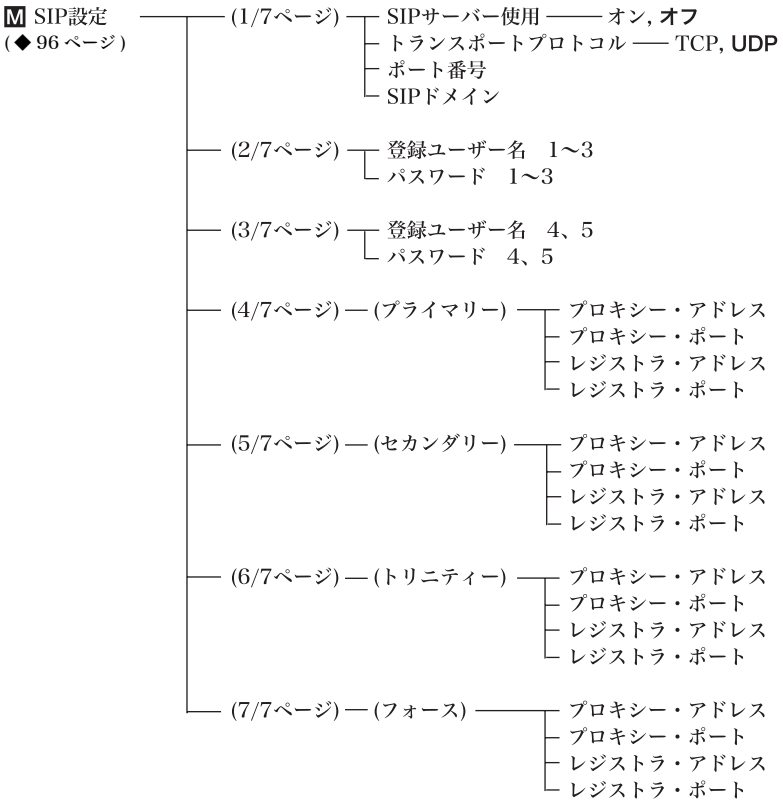

62 一般設定
(◆ 79 ページ)
ホワイトボード
(1/1ページ)
ホワイトボード取付位置
垂直, 水平
ホワイトボードサイズ
2'0"×3'0", 3'0"×4'0", 4'0"×6'0",
4'0"×8'0", 3'0"×2'0", 4'0"×3'0",
6'0"×4'0", 8'0"×4'0"
ホワイトボード計測単位
インチ, メートル
ネットワークカメラ
(1/1ページ)
ネットワークカメラ接続
オン, オフ
ビットレート
オート, 32Kbps, 64Kbps,
128Kbps, 256Kbps,
384Kbps, 512Kbps,
768Kbps, 1024Kbps,
1536Kbps, 2048Kbps
フレームレート
オート, 15fps, 30fps
動作モード
オート, H.264, MPEG4
画像サイズ
オート, 320x240(QVGA),
160x120(QQVGA)

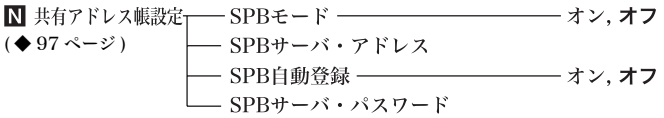

H 管理者用設定
(◆ 80 ページ)
パスワード (1/3ページ)
管理者用パスワード
アドレス帳変更パスワード
設定保存パスワード
リモートアクセス・パスワード
ストリーミング・パスワード
ネットワークカメラ・パスワード
パスワード (2/3ページ)
発信設定 有効, 無効
着信設定 有効, 無効
通信モード 有効, 無効
音声設定 有効, 無効
映像設定 有効, 無効
一般設定 有効, 無効
パスワード (3/3ページ)
LAN設定 有効, 無効
ISDN設定 有効, 無効
暗号化設定 有効, 無効
SIP設定 有効, 無効
共有アドレス帳 有効, 無効
アドレス帳 (1/3ページ)
アドレス帳の保存
アドレス帳のロード
アドレス帳の消去
ネットワークカメラリストの保存
ネットワークカメラリストのロード
ネットワークカメラリストの消去
プライベートアドレス帳 (2/3ページ)
自動発信 オン, オフ
プライベートアドレス帳の作成
プライベートアドレス帳の削除
プライベートアドレス帳への複製
共有アドレス帳 (3/3ページ)
共有アドレス帳 オン, オフ
ストリーミング/レコーディング (1/2ページ)
ストリーミング 禁止, 許可
レコーディング 禁止, 許可
ビデオ オフ, 64Kbps, 128Kbps, 384Kbps, 512Kbps
ストリーミング/レコーディング (2/2ページ)
マルチキャストアドレス
オーディオポート番号
ビデオポート番号
ホップ数
その他の設定 (1/2ページ)
Webモニター オン, オフ
Webアクセス 禁止, 許可
設定の保存
設定のロード
機能拡張コマンド
その他の設定 (2/2ページ)
AMXデバイスディスカバリー オン, オフ
ホップ数


LAN設定
(◆87ページ)
一般
(1/2ページ)
DHCPモード
オート, オフ
ホストネーム
IPアドレス
ネットワークマスク
ゲートウェイアドレス
DNSアドレス
一般
(2/2ページ)
LANモード
オート, 100Mbps Full Duplex,
100Mbps Half Duplex,
10Mbps Full Duplex,
10Mbps Half Duplex
ゲートキーパー
(1/1ページ)
ゲートキーパー使用
オート, オン, オフ
ゲートキーパーアドレス
ユーザー名
ユーザー番号
SNMP
(1/1ページ)
SNMPサービス
オン, オフ
トラップ送信先
コミュニティ名
機器の説明
設置場所
管理者連絡先
PPPoE
(1/2ページ)
PPPoE
オン, オフ
PPPoEユーザー名
PPPoEパスワード
PPPoE
(2/2ページ)
PPPoE固定IP
オン, オフ
PPPoE固定IPアドレス
PPPoE DNS
設定する, 自動取得
DNSプライマリ
DNSセカンダリ
NAT/Port/
ファイアウォール
(1/2ページ)
NAT設定
オート(UPnP), オン, オフ
NATアドレス
使用ポート番号
ユーザー設定, 既定値
TCPポート番号
UDPポート番号
NAT/Port/
ファイアウォール
(2/2ページ)
NAT/ファイアウォール越え
オン(H.460), オフ
QoS
(1/1ページ)
ハイブリット
オン, オフ
前方誤り訂正
オン, オフ
パケット再送要求
オン, オフ
最適レート制御
オン, オフ
TOS
(1/4−4/4ページ)
TOS
オフ, IP Precedence, Diffserve
IP Precedence
遅延
オン, オフ
スループット
オン, オフ
信頼性
オン, オフ
コスト
オン, オフ
Diffserve値



* PCSA-PRI（現在国内では発売されていません。）を使用している場合に表示されます。


M SIP設定
(◆ 96 ページ)
(1/7ページ)
SIPサーバー使用 ―― オン, オフ
トランスポートプロトコル ―― TCP, UDP
ポート番号
SIPドメイン
(2/7ページ)
登録ユーザー名　1～3
パスワード　1～3
(3/7ページ)
登録ユーザー名　4、5
パスワード　4、5
(4/7ページ) ― (プライマリー)
プロキシー・アドレス
プロキシー・ポート
レジストラ・アドレス
レジストラ・ポート
(5/7ページ) ― (セカンダリー)
プロキシー・アドレス
プロキシー・ポート
レジストラ・アドレス
レジストラ・ポート
(6/7ページ) ― (トリニティー)
プロキシー・アドレス
プロキシー・ポート
レジストラ・アドレス
レジストラ・ポート
(7/7ページ) ― (フォース)
プロキシー・アドレス
プロキシー・ポート
レジストラ・アドレス
レジストラ・ポート


N 共有アドレス帳設定
(◆ 97 ページ)
SPBモード ―― オン, オフ
SPBサーバ・アドレス
SPB自動登録 ―― オン, オフ
SPBサーバ・パスワード

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/